

宇和島市男女共同参画社会に関する市民アンケート
報 告 書

平成 19 年 9 月

目 次

調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査項目	1
3. 調査の設計.....	1
4. 回収結果	1
5. 報告書の見方	1
6. 回答者の属性.....	2
調査結果まとめ	7
調査結果	13
1. 男女平等に関する問題について	13
2. 男女の人権に関する問題について	43
3. 就労や職業生活について	94
4. 地域活動への参加について	120
5. 男女の役割分担意識や家庭における男女共同参画について	134
6. 男女共同参画社会の実現について	174

調査の概要

1. 調査の目的

男女共同参画社会の実現をめざして、市民の意識や実態を総合的に把握し、今後の施策を検討するうえでの基礎資料とする。

2. 調査項目

- (1) 男女平等に関する問題について
- (2) 男女の人権に関する問題について
- (3) 就労や職業生活について
- (4) 地域活動への参加について
- (5) 男女の役割分担意識や家庭における男女共同参画について
- (6) 男女共同参画社会の実現について

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 宇和島市全域
- (2) 調査対象 市内に在住する20歳以上の男女2,000人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳より無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (5) 調査期間 平成19年7月25日～平成19年8月10日

4. 回収結果

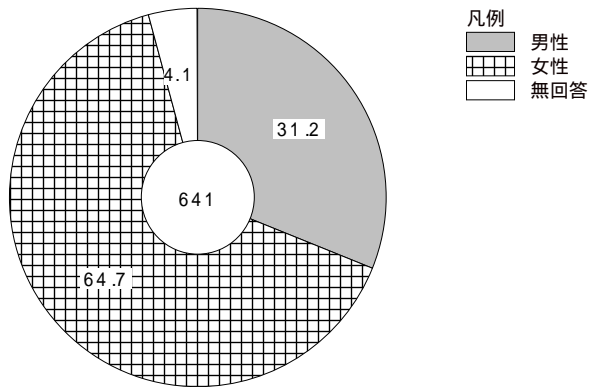
- (1) 標本数 2,000 (100.0%)
- (2) 回収数 641 (32.1%)

5. 報告書の見方

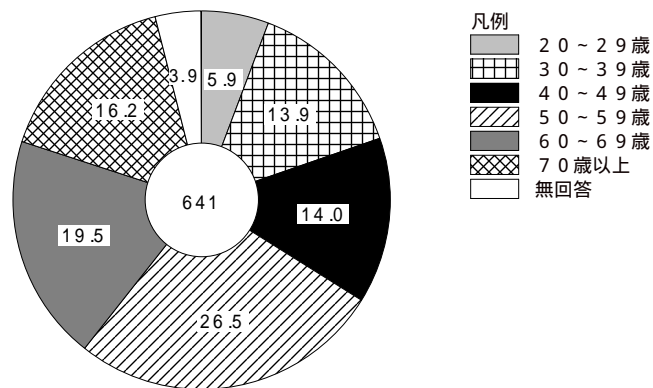
- (1) 集計結果は全て、小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 複数回答の質問では、%の合計が100.0%を超えることがある。
- (3) 回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。
- (4) グラフにおいて、回答比率の低いものは数値を省略している場合がある。

6. 回答者の属性

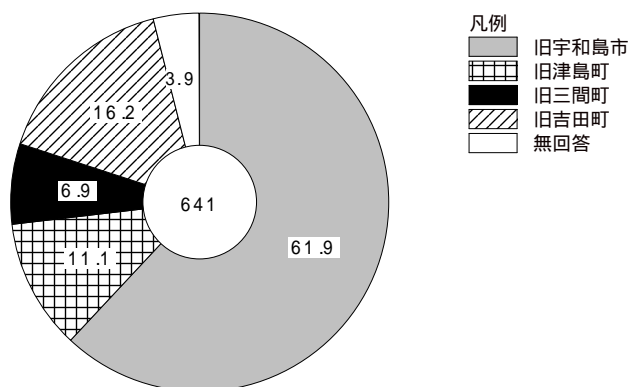
(1) 性別



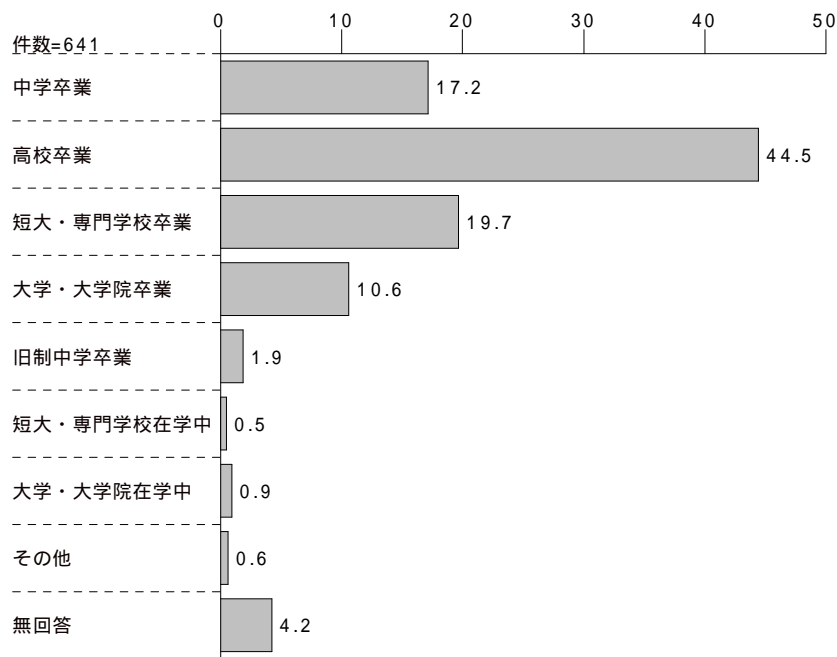
(2) 年齢



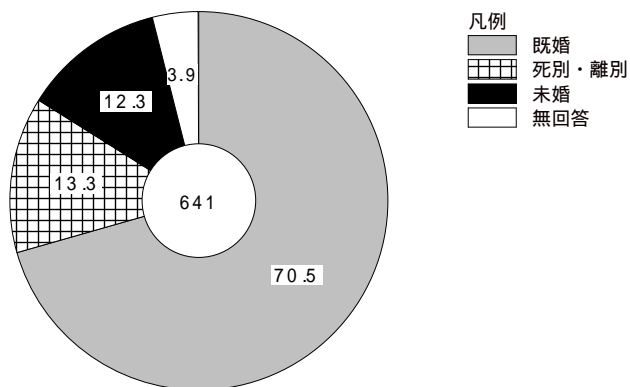
(3) 居住地域



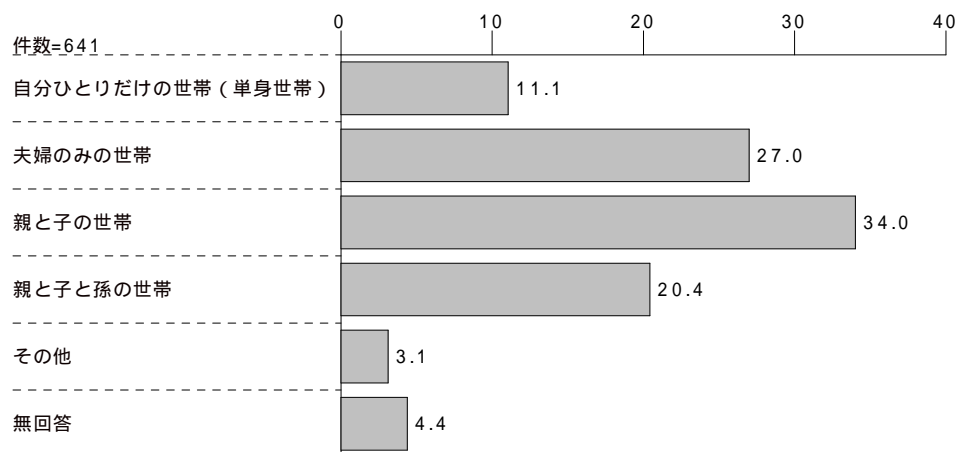
(4) 最終学歴



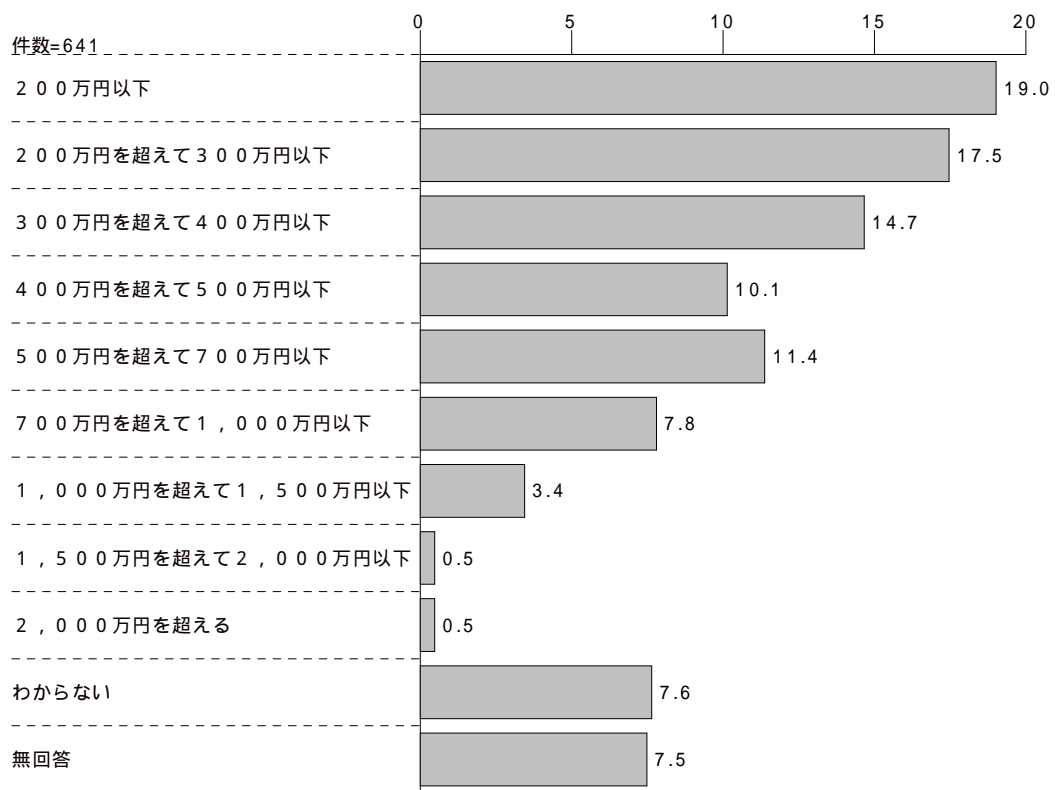
(5) 結婚の有無



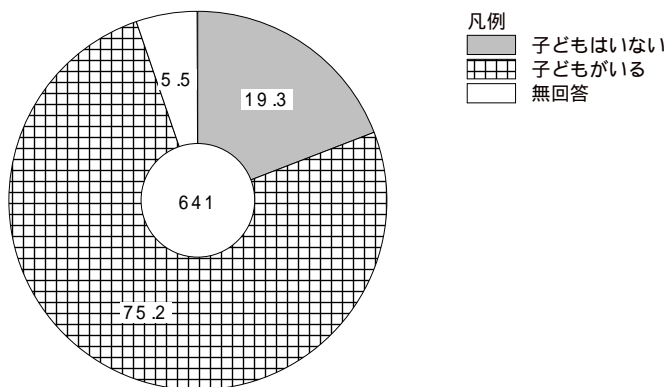
(6) 世帯構成



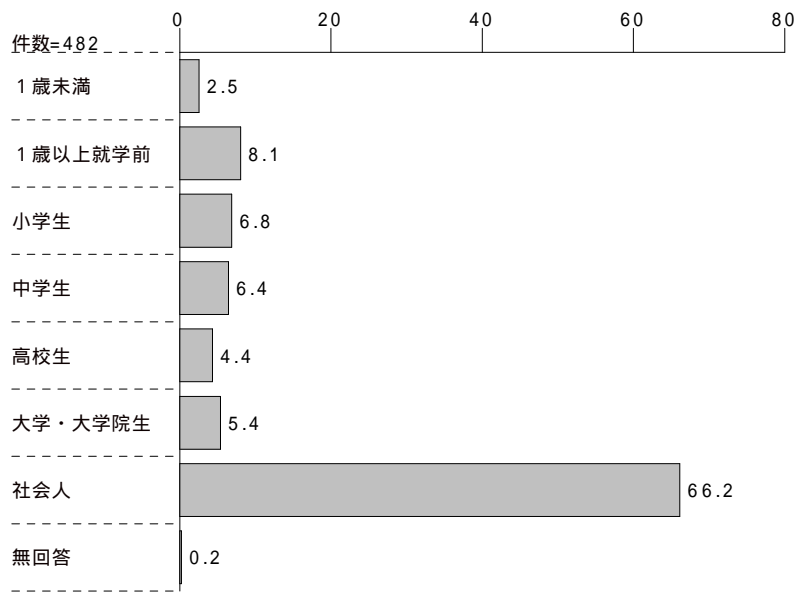
(7) 世帯収入



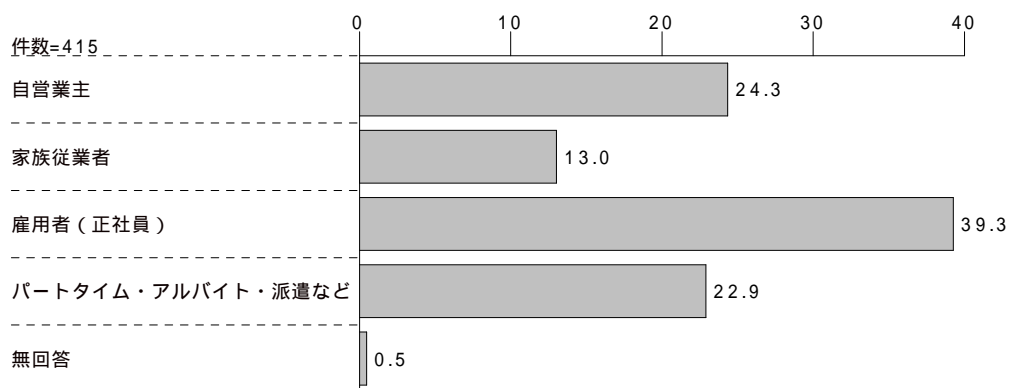
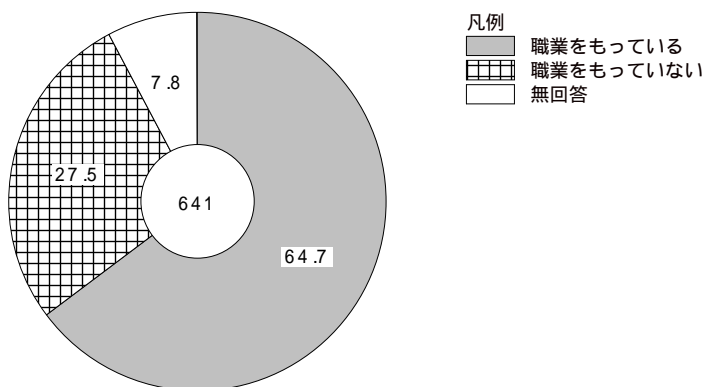
(8) - 1 子どもの有無



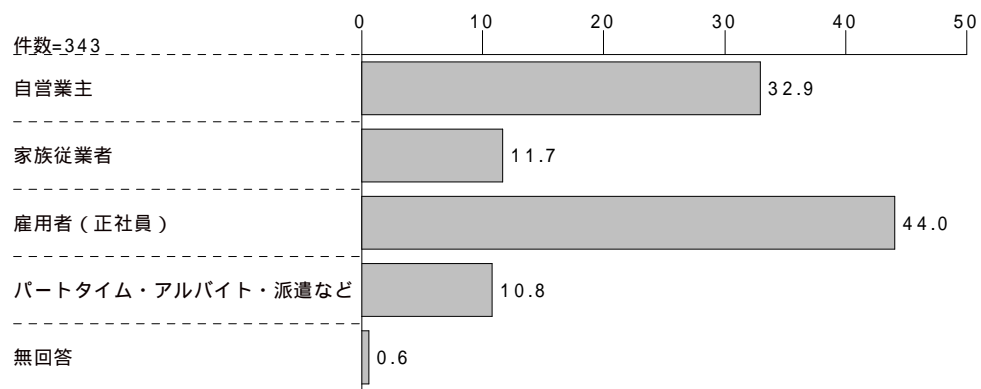
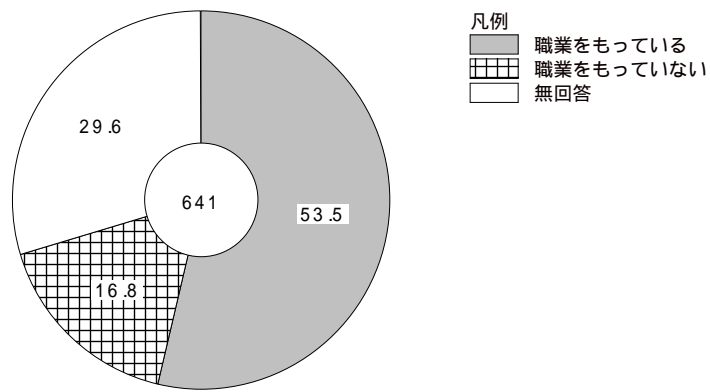
(8) - 2 子どもの年代



(9) - 1 回答者の職業



(9) - 2 配偶者の職業



調査結果まとめ

1. 男女平等に関する問題について

(1) 男女の地位の平等

“家庭生活”、“職場”、“地域社会”、“学校教育の場”、“政治の場”、“法律や制度”、“社会通念・慣習・しきたり”、“社会全体”の8分野について、男女の地位の平等感をたずねたところ、「平等になっている」と感じている人が多いのは“学校教育の場”のみで、他の7分野はすべて「男性優遇である」と感じている人の方が多くなっている。とくに、“社会通念・慣習・しきたり”では、「男性優遇である」と感じている人が79.6%にのぼっている。

この傾向は、性別にみても同じで、“学校教育の場”と“法律や制度”を除く6つの分野すべてで、男女とも「男性優遇である」と感じている人の方が多くなっている。ただし、「男性優遇である」の回答率は、女性の方が男性よりさらに高い傾向がある。

(2) 男女間で不平等が生じる原因

(1)のように男女間で不平等が生じる原因として、「男女の役割についての固定観念」や「社会の慣習やしきたり」が影響していると考える人が多く、社会の中で性別役割分担意識はまだまだ根強く残っている現状があることが考えられる。

(3) 子どもに対する教育

自分の子どもに受けさせたい教育について、男の子の場合と女の子の場合それぞれについてたずねたところ、男の子の方により高い学歴を望む傾向があることがわかった。

(4) 男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために必要なこと

男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために必要なことは、「さまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」と答えた人が最も多く、男女とも同じ結果となった。一方、「女性の就業、社会参加を支援するサービスの充実をはかること」の回答率は女性が男性を上回る傾向にあり、女性の意見として、女性に対する就業支援や社会参加の支援への要望があることがわかった。

2. 男女の人権に関する問題について

(1) メディアにおける性・暴力表現について

メディアにおける性・暴力表現に対する考えについてたずねたところ、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」との意見が男女とも50%を超えて最も多くなっている。

(2) 男女間の暴力について

男女間の暴力についてたずねたところ、身体的暴力、精神的暴力、経済的暴力などいずれも「したこともされたこともない」という人が大多数となっているが、身体的な暴力のうち“命の危険を感じるほどの暴力”を「相手からされたことがある」という人は、女性で5.5%、男性でも1.5%という結果となっている。

“大声でどなる”や“女(男)のくせに”“女(男)だから”と差別的な言い方を”では、

「自分がしたことがある」、「相手からされたことがある」、「したこともされたこともどちらもある」のそれぞれの回答についてすべて、他の暴力に比べて回答率が高くなっている。

また、「安月給」や「甲斐性なし」などとののしる”を除くすべての暴力で、「相手からされたことがある」の回答率は女性が男性を上回る傾向にある。

さらに、暴力性の認識について、身体的な暴力については「どんな場合でも暴力になると思う」と回答した人が多くなっているものの、精神的な暴力については男女とも「暴力にあたる場合もあたらぬ場合もあると思う」との回答が多く、暴力性の認識は低くなっている。また、ある暴力について自分がしたことがある場合、その暴力については暴力性の認識が低い傾向があった。

(3) セクシュアル・ハラスメントについて

セクシュアル・ハラスメントに対する問題意識について、問題意識は「浸透している」と回答した人は男性では55.5%となっているが、女性では38.6%で、16.9ポイントの差がある。

セクシュアル・ハラスメントだと思ふものについて、「地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること」や「さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること」、「性的な内容の電話をしたり、手紙、メール等を送ったりすること」は、回答率が70%を超えて多くなっている。一方、「結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと」や「性別に着目した言葉で服装、髪型などについて賞賛すること」、「女性に対して「女の子」「おばさん」などと呼ぶこと」については、回答率が20%以下と少なくなっている。

(4) 女性に対する暴力をなくすために必要なこと

女性に対する暴力をなくすために必要なことについてたずねたところ、「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」、「犯罪の取締りを強化する」、「法律・制度の制定や見直しを行う」、「捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする」など、相談体制の充実や法規制の強化についての意見が多くなっている。

3. 就労や職業生活について

(1) 女性が職業をもつことについて

女性が職業をもつことについては、男女とも「子どもができたらやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」または「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と考える人が多くなっている。

(2) 離職した理由

これまでに、離職したことがある場合の離職理由をたずねたところ、全体では「他の仕事をするため」が最も多くなっているが、性別で見ると、「家事や子育てに専念したかったため」、「家事や子育てとの両立が困難だったため」、「職場内に結婚や出産による退職慣行があったため」といった理由は、女性だけの回答となっていた。

(3) 今後の就労意向

今後の就労意向についてたずねたところ、男女とも「現在の仕事を続けたい」と答えた人が最も多くなっている。女性では、「子どもがある程度手が離れたら、パートや派遣等で短時間働きたい」や「子どもがある程度手が離れたら、フルタイムで働きたい」との回答があった。

(4) 女性の就労継続や再就職のために必要なこと

女性の就労継続や再就職のために必要なこととしては、「家族や配偶者の理解や同意」(57.4%)、「育児・介護のための休暇・休業を取りやすい職場環境」(55.9%)、「家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力」(54.6%)と答えた人が50%を超えて多くなっている。

今後、子どもがある程度手が離れたら働きたいという希望をもっている女性では、「育児・介護のための休暇・休業を取りやすい職場環境」、「保育施設やサービスの充実」、「結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及」などの回答が多かった。

(5) 育児休業制度・介護休業制度の利用について

育児休業制度の利用について、「利用したことがあり、また必要があれば利用したい」と答えた人が男性3.5%、女性10.4%となっている。また、介護休業制度の利用について、「利用したことがあり、また必要があれば利用したい」と答えた人が男性2.5%、女性1.9%となっている。

さらに、育児休業制度、介護休業制度とも「利用したことはないが、必要があれば利用したい」と答えた人は男女とも50%を超えており、必要があれば利用したいと積極的な意見をもつ男女が多くなっている。

一方、育児休業制度や介護休業制度を利用する上で障害となると考えられることは、「他の職員の負担が増える」との回答が最も多く、男性ではさらに「休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい」や「即戦力となる代替要因の確保が難しい」という回答が多く、育児休業制度や介護休業制度の利用に関する職場の対応策が必要となっている。

(6) 休暇・休業の取得について

家庭をもっている労働者が取得できる休暇・休業として望ましいものとして、「冠婚葬祭」「高齢両親等の短期的な介護」「風邪等のために保育施設や学校に通えない子どもの世話」「子どもの授業参観、入学式、卒業式」などの回答が多くなっている。

(7) 第一次産業を営んでいる場合の報酬について

第一次産業を家族で営む場合の家族各人の報酬の受け取り方について、全体では「家族各人が定期的に、定額の報酬を受け取るべき」または「家族各人が収益に応じて一定割合で報酬を受け取るべき」と答えた人が多くなっている。

農林漁業従事者の回答では、「家族各人が定期的に、定額の報酬を受け取るべき」または「家族の話し合いにより、必要なときに報酬を各人が受け取るべき」との考えが多くなっている。

(8) 農山漁村の女性に対する支援策

農山漁村の女性に対する支援策としては、「夫や家族による家事・育児の分担」の回答率が 60% 以上あり、農山漁村の家庭における男女共同参画の推進について引き続き啓発を行う必要がある。

また、「家事・育児・介護ヘルパーの設置」や「出産・育児期における女性のための新たな休暇制度の創設」などの具体的な意見も 30% を超えて多くなっている。

4 . 地域活動への参加について

(1) 現在参加している活動・今後参加したい活動

現在参加している活動は、「趣味・学習・スポーツ活動」と「町内会・PTA・子ども会活動」が多く、参加したくない活動としては「政治活動や宗教活動」が圧倒的に多くなっている。また、今後参加したい活動としては、「ボランティア活動・福祉活動」や「環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動」と答えた人が多かった。

(2) 地域活動における男女共同参画

地域活動では、「代表者は男性から選ばれる慣例がある」や「行事などの企画は主に男性が決定している」、「女性は責任のある役を引き受けたがらない」、「お茶入れや食事の準備などは女性がすることになっている」などが実態として多くあることがわかった。

(3) 社会活動に参加する上で支障となること

社会活動に参加する上で支障となることは、男女とも「仕事が忙しい」と答えた人が最も多く、「健康や体力に自信がない」、「社会活動に関する情報が少ない」、「活動する仲間や場所が少ない」、「グループの人間関係がわずらわしい」などが続いて多くなっている。

5 . 男女の役割分担意識や家庭における男女共同参画について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、全体では「賛成する」と答えた人が 28.8%、「どちらともいえない」が 30.9%、「賛成しない」が 38.4% と、意見が分かれている。年齢が上がるほど「賛成する」の回答率が高い傾向がある。

(2) 家庭での役割分担について

家庭での理想の役割分担について、男女とも「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」と答えた人が最も多かった。一方、実際の役割分担は、「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」との回答が多かった。

(3) 家庭における家事等の役割分担

家庭における家事等の役割分担について、具体的にみると、“生活費を稼ぐ”と“町内会・自治会等地域活動”を除くすべての項目（掃除、洗濯、食事のしたく、食事の片付け、ゴミ出し、風呂の掃除、トイレ掃除、日常の買い物、日々の家計の管理、預貯金等の資産の運用、乳幼児の世話、授業参観への参加、家族の介護）で、男女とも「妻が主に担当している」と答えた人が多くなって

いる。

就労状況別にみても、共働きか共働きでないかに関わらず、“生活費を稼ぐ”と“町内会・自治会等地域活動”を除き、「妻が主に担当している」と答えた人が多い。

(4) 男女が共に家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

男女が共に家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこととしては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と答えた人が63.8%で最も多く、「男性が家事に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(53.7%)や「社会の中で、男性の家事等への参加についても評価を高めること」(40.2%)などが続いて多くなっている。

6. 男女共同参画社会の実現について

(1) 市政への市民意見の反映

市政に対する市民意見の反映について、「市民の意見はほとんど(まったく)反映されていない」と答えた人が27.3%、「あらゆる市民の意見がある程度反映されている」と答えた人が14.0%となっている。「わからない」と答えた人が43.5%で最も多かった。

(2) 政策・方針決定の過程に女性があまり進出していない理由

政策・方針決定の過程に女性があまり進出していない理由として、「男性優位の組織運営になっているから」と考える人が最も多くなっている。

(3) 男女共同参画社会を実現するため行政が力を入れるべきこと

男女共同参画社会を実現するため行政が力を入れるべきこととして、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と答えた人が40.1%で最も多く、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」(30.3%)、「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」(29.0%)、「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う」(24.3%)、「女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実したりする」(23.9%)などが続いて多くなっている。

調査結果

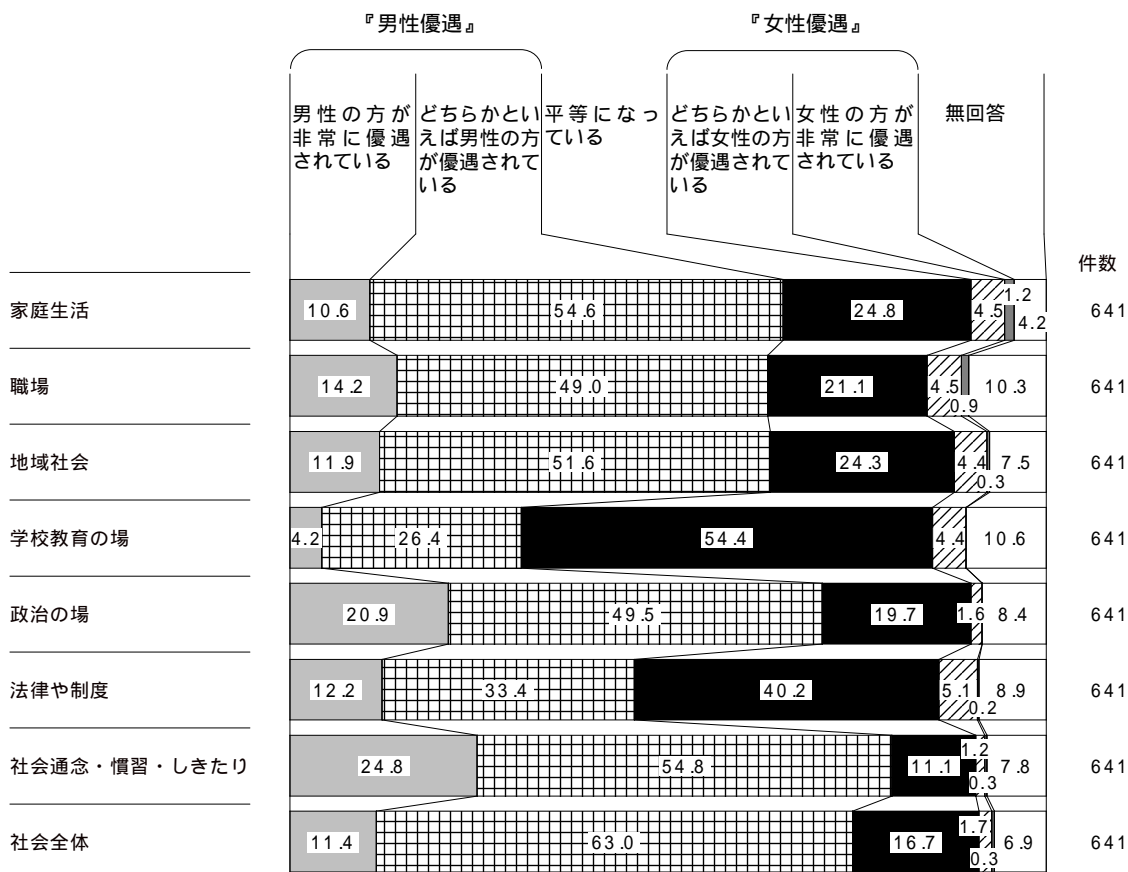
1. 男女平等に関する問題について

問1 あなたは、次の(1)～(8)の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたのお気持ちに最も近いものをそれぞれお答えください。【はそれぞれ1つずつ】

男女の地位の平等について、“学校教育の場”、“法律や制度”を除く項目で『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合）が60%を超え、男性優遇を感じている人が多くなっている。また、“社会通念・慣習・しきたり”では、『男性優遇』の回答が79.6%にのぼっている。

一方、“学校教育の場”についてのみ、「平等になっている」の回答が50%を超えている。

【問1 男女の地位の平等】

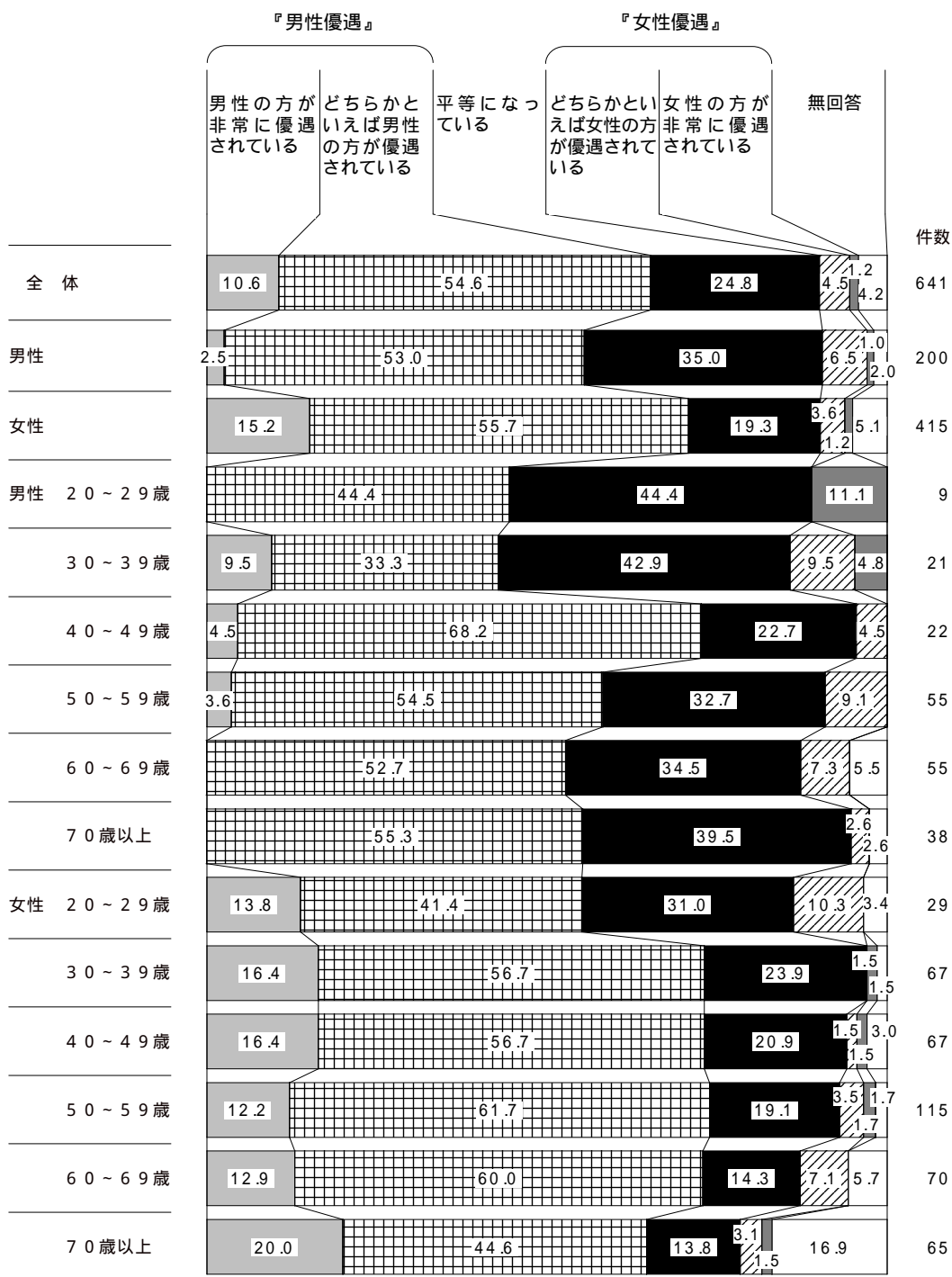


(1) 家庭生活で

家庭生活での男女の地位の平等について、性別で見ると、『男性優遇』の回答が、男性 55.5%、女性 70.9%となっており、女性が男性を 15.4 ポイント上回っている。反対に「平等になっている」の回答は、男性が 35.0%、女性が 19.3%となっており、男性が女性を 15.7 ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、男性の 20 代、30 代を除き『男性優遇』の回答が多く、とくに男性の 40 代、女性の 30~60 代で 70%を超えている。

【問 1(1) 男女の地位の平等 家庭生活で】

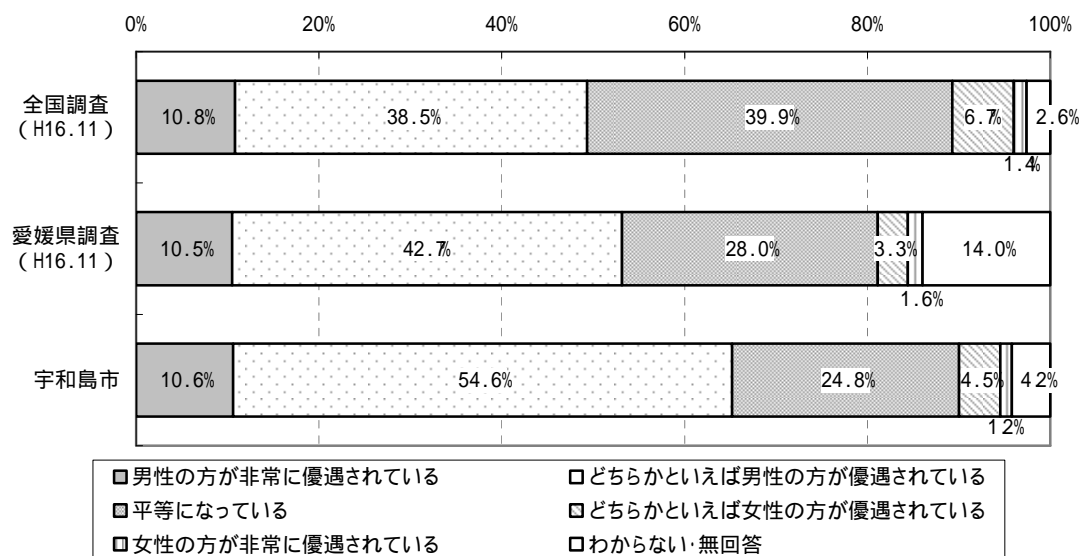


【参考】

全国調査（H16.11実施）および愛媛県調査（H16.11実施）結果比較

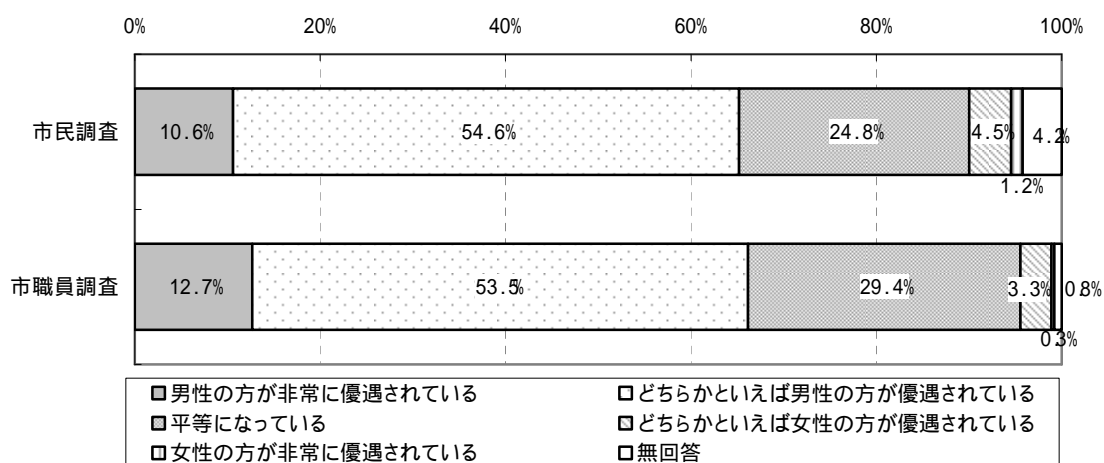
全国調査および愛媛県調査結果と比較してみると、家庭の中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が全国で49.3%、愛媛県で53.2%に対し、宇和島市では65.2%となっており、宇和島市が全国を15.9ポイント、愛媛県を10.0ポイントと大きく上回っている。

反対に「平等になっている」の回答は、全国で39.9%、愛媛県で28.0%に対し、宇和島市では24.8%となっており、全国に比べ15.1ポイント下回っている。



宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、家庭の中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が市民で65.2%、市職員で66.2%と、大きな違いはみられない。一方、「平等になっている」の回答は、市民で24.8%に対し、市職員では29.4%となっており、市職員が市民を4.6ポイント上回っている。

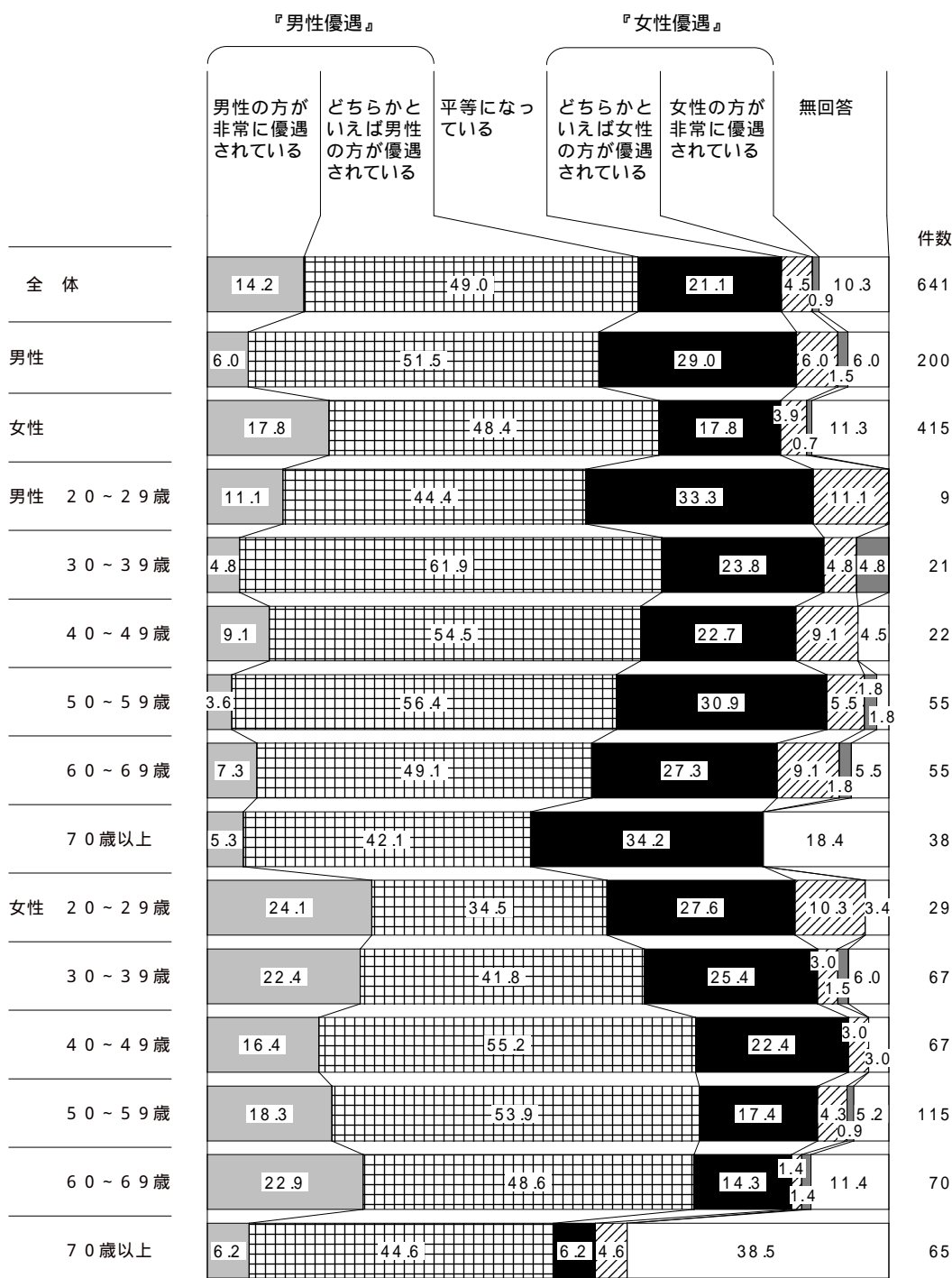


(2) 職場で

職場での男女の地位の平等について、性別で見ると、『男性優遇』の回答が、男性 57.5%、女性 66.2% となっており、女性が男性を上回っている。反対に「平等になっている」の回答は、男性が 29.0%、女性が 17.8%で、男性が女性を 11.2 ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、男性では 30 代で『男性優遇』の回答率が最も高く、年齢が上がるにつれて低くなる傾向がある。女性では 40 代、50 代、60 代で『男性優遇』の回答が 70% を超えており、年齢にかかわらず一定の割合を占めている。また、女性では 20～60 代のすべての年齢層で、「男性の方が非常に優遇されている」の回答が 20% 前後を占めている。

【問 1(2) 男女の地位の平等 職場で】

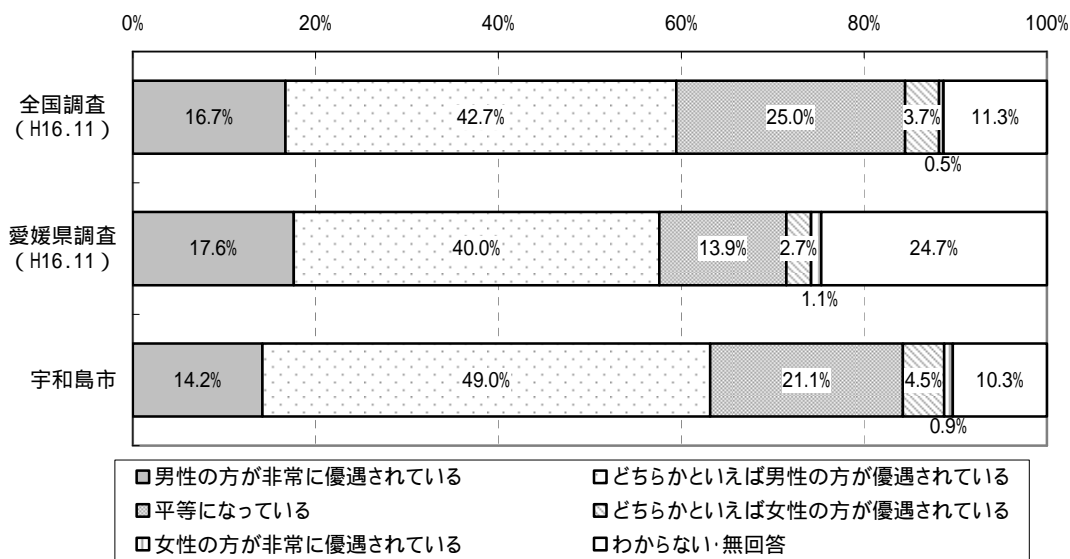


【参考】

全国調査（H16.11実施）および愛媛県調査（H16.11実施）結果比較

全国調査および愛媛県調査結果と比較してみると、職場の中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が全国で59.4%、愛媛県で57.6%に対し、宇和島市では63.2%となっており、宇和島市が全国を3.8ポイント、愛媛県を5.6ポイントとやや上回っている。

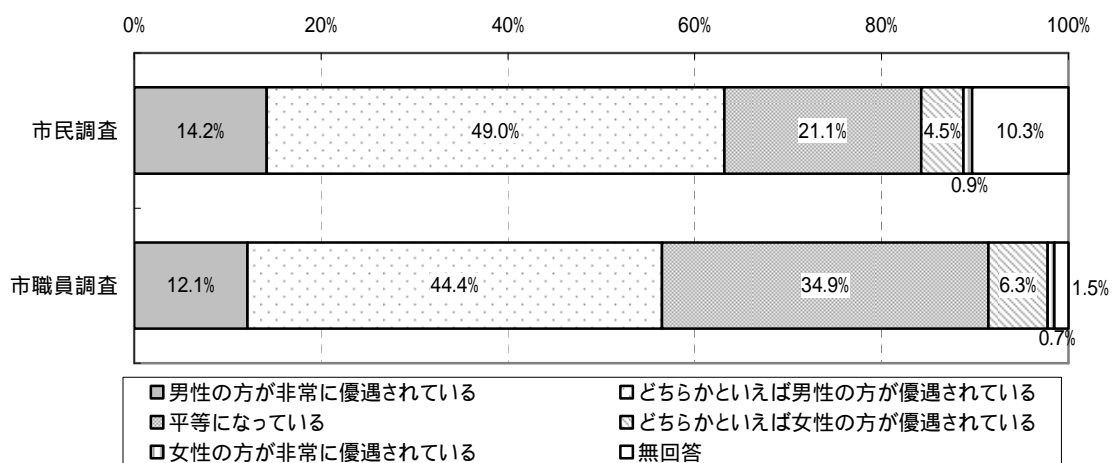
反対に「平等になっている」の回答は、全国で25.0%、愛媛県で13.9%に対し、宇和島市では21.1%となっており、愛媛県を7.2ポイント上回っているものの全国に比べると3.9ポイント下回っている。



宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、職場の中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が、市民で63.2%、市職員で56.5%となっており、市民が市職員を6.7ポイント上回っている。

一方、「平等になっている」の回答は、市職員で34.9%に対し、市民では21.1%となっており、13.8ポイント下回る結果となっている。

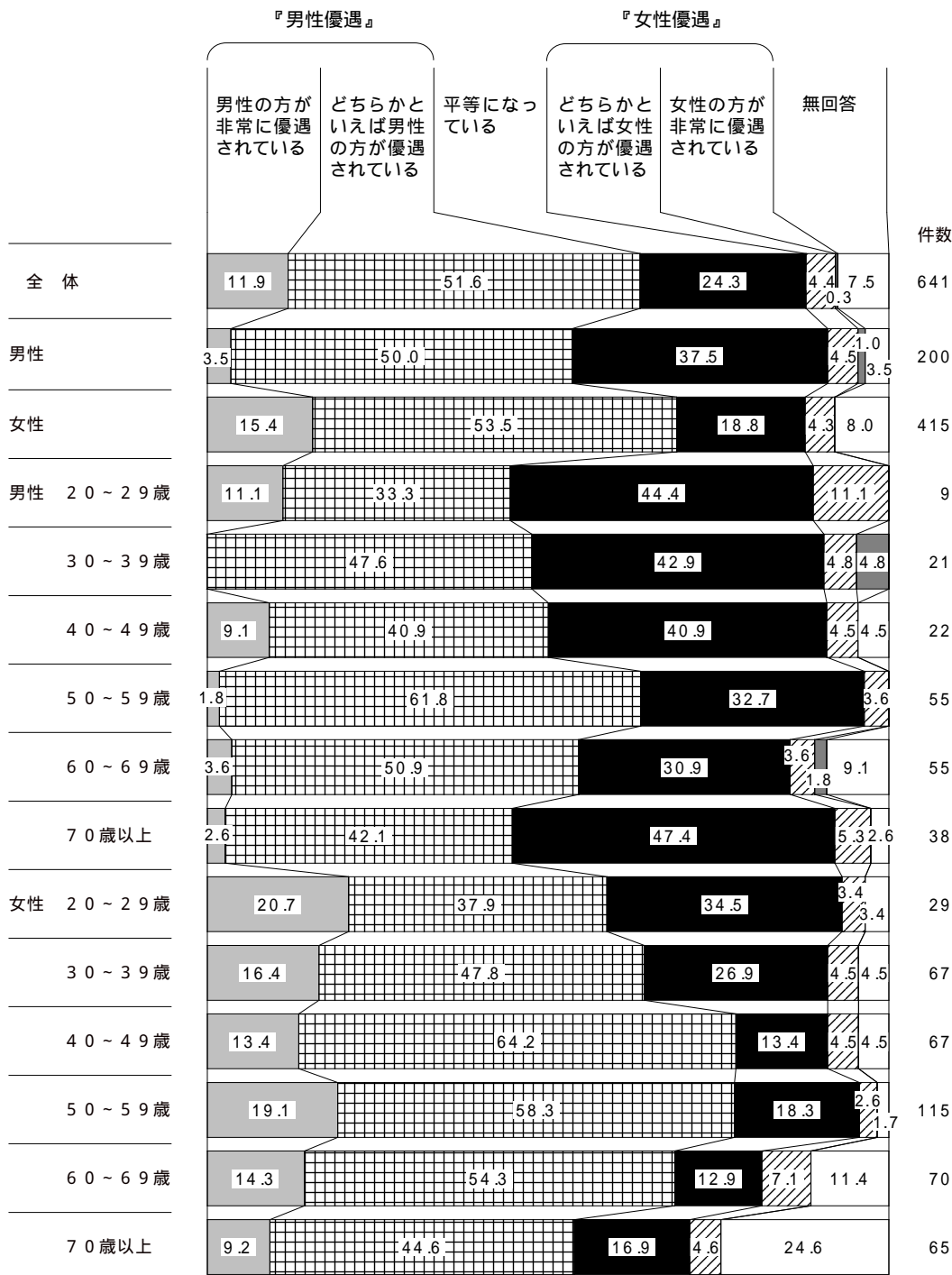


(3) 地域生活で

地域生活での男女の地位の平等について、性別で見ると、『男性優遇』の回答が、男性 53.5%、女性 68.9%となっており、女性が男性を 15.4 ポイント上回っている。反対に「平等になっている」の回答は、男性が 37.5%、女性が 18.8%で、男性が女性を 18.7 ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、女性 40 代、50 代では、『男性優遇』の回答が多く 77%を超えている。また、女性 20～60 代のすべての年齢層で、「男性の方が非常に優遇されている」の回答が 20%前後を占めている。

【問 1(3) 男女の地位の平等 地域生活で】

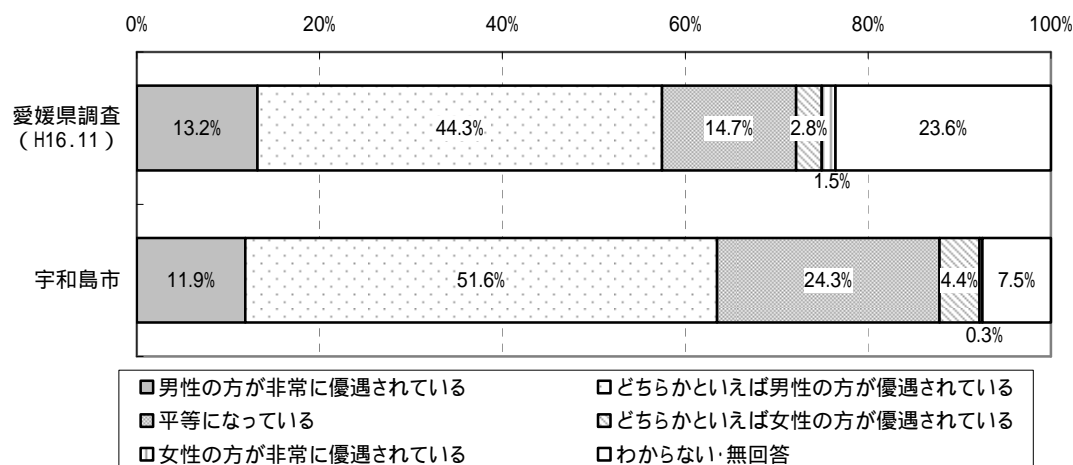


【参考】

愛媛県調査（H16.11実施）結果比較

愛媛県調査結果と比較してみると、地域生活の中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が愛媛県で57.5%に対し、宇和島市では63.5%となっており、6.0ポイント上回っている。

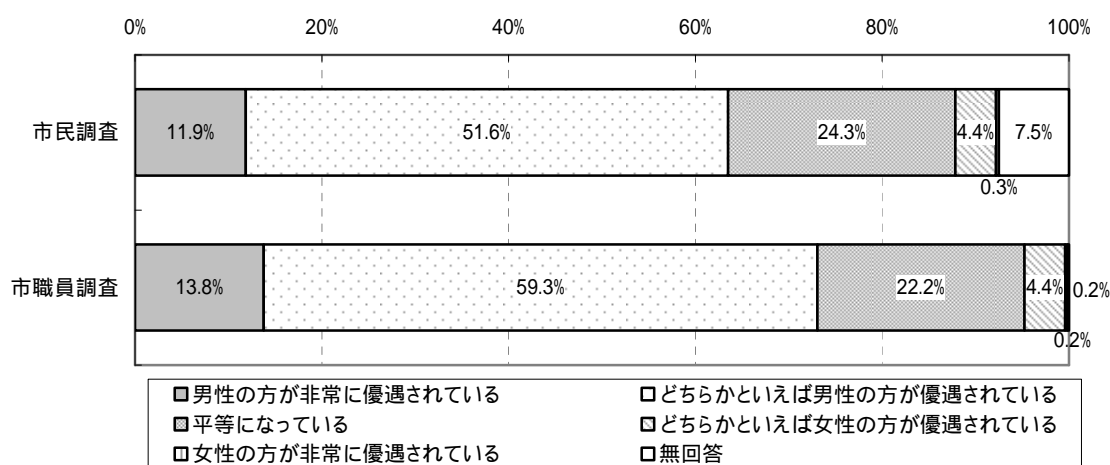
反対に「平等になっている」の回答は、愛媛県で14.7%に対し、宇和島市では24.3%となっており、愛媛県を9.6ポイント上回っている。



宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、地域生活の中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が、市民で63.5%、市職員で73.1%となっており、市職員が市民を9.6ポイント上回る結果となっている。

一方、「平等になっている」の回答は、市民で24.3%、市職員で22.2%と、大きな違いはみられない。

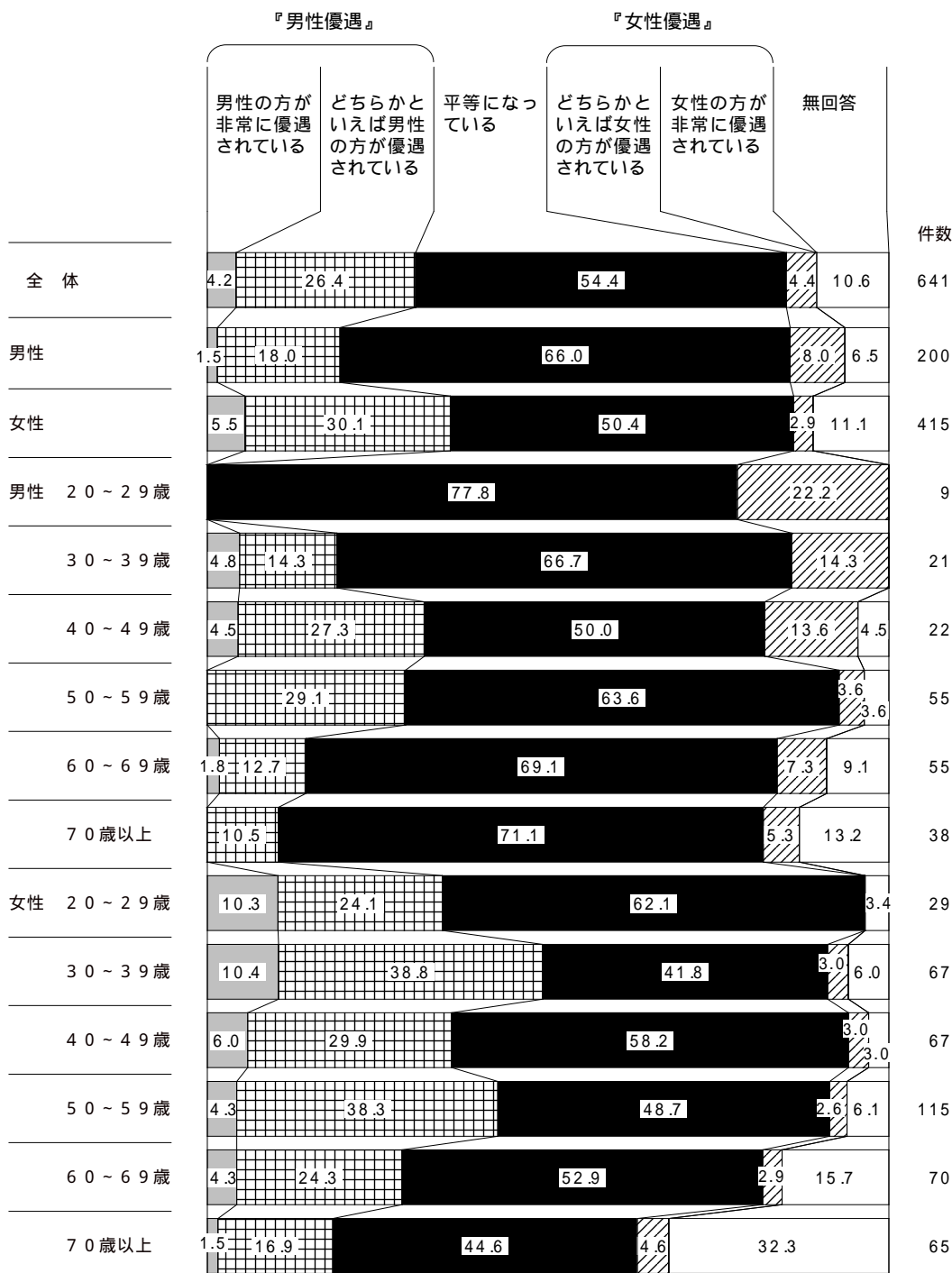


(4) 学校教育の場で

学校教育の場での男女の地位の平等について、性別で見ると、男女ともに「平等になっている」の回答が50%を超えている。しかし、一方では『男性優遇』の回答も多く、男性19.5%、女性35.6%となっており、女性が男性を16.1ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢層で「平等になっている」の回答が最も多くなっている。『男性優遇』との回答も女性では多く、30代や50代で40%を超えている。

【問1(4) 男女の地位の平等 学校教育の場で】

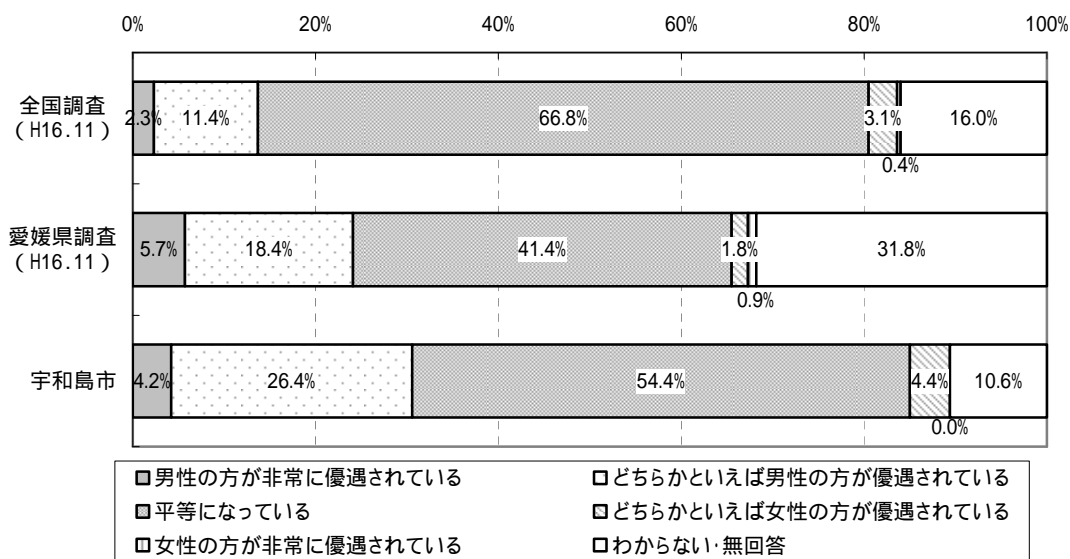


【参考】

全国調査（H16.11実施）および愛媛県調査（H16.11実施）結果比較

全国調査および愛媛県調査結果と比較してみると、学校教育の場の中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が全国で13.7%、愛媛県で24.1%に対し、宇和島市では30.6%となっており、宇和島市が全国を16.9ポイント、愛媛県を6.5ポイント上回っている。

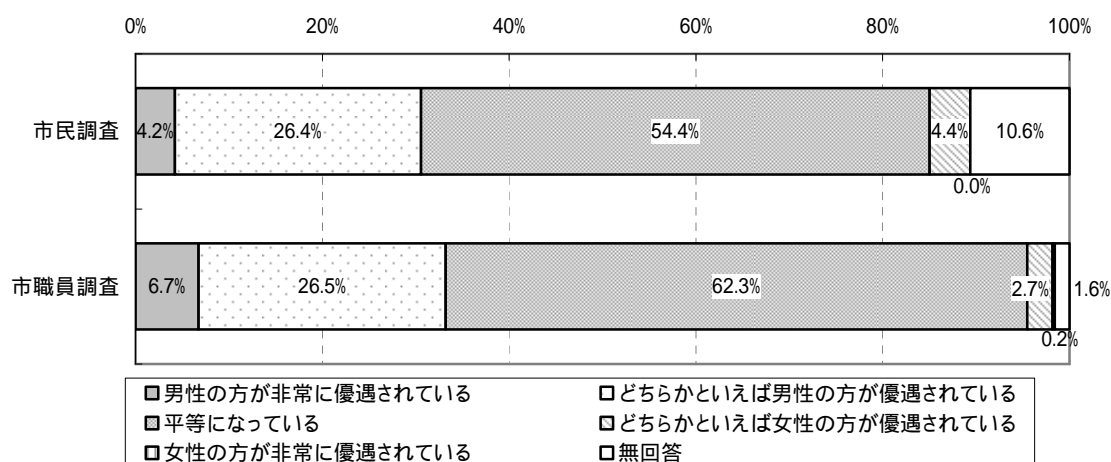
反対に「平等になっている」の回答は、全国で66.8%、愛媛県で41.4%に対し、宇和島市では54.4%となっており、愛媛県を13.0ポイント上回っているものの全国に比べると12.4ポイント下回っている。



宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、学校教育の場の中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が、市民で30.6%、市職員で33.2%と、大きな違いはみられない。

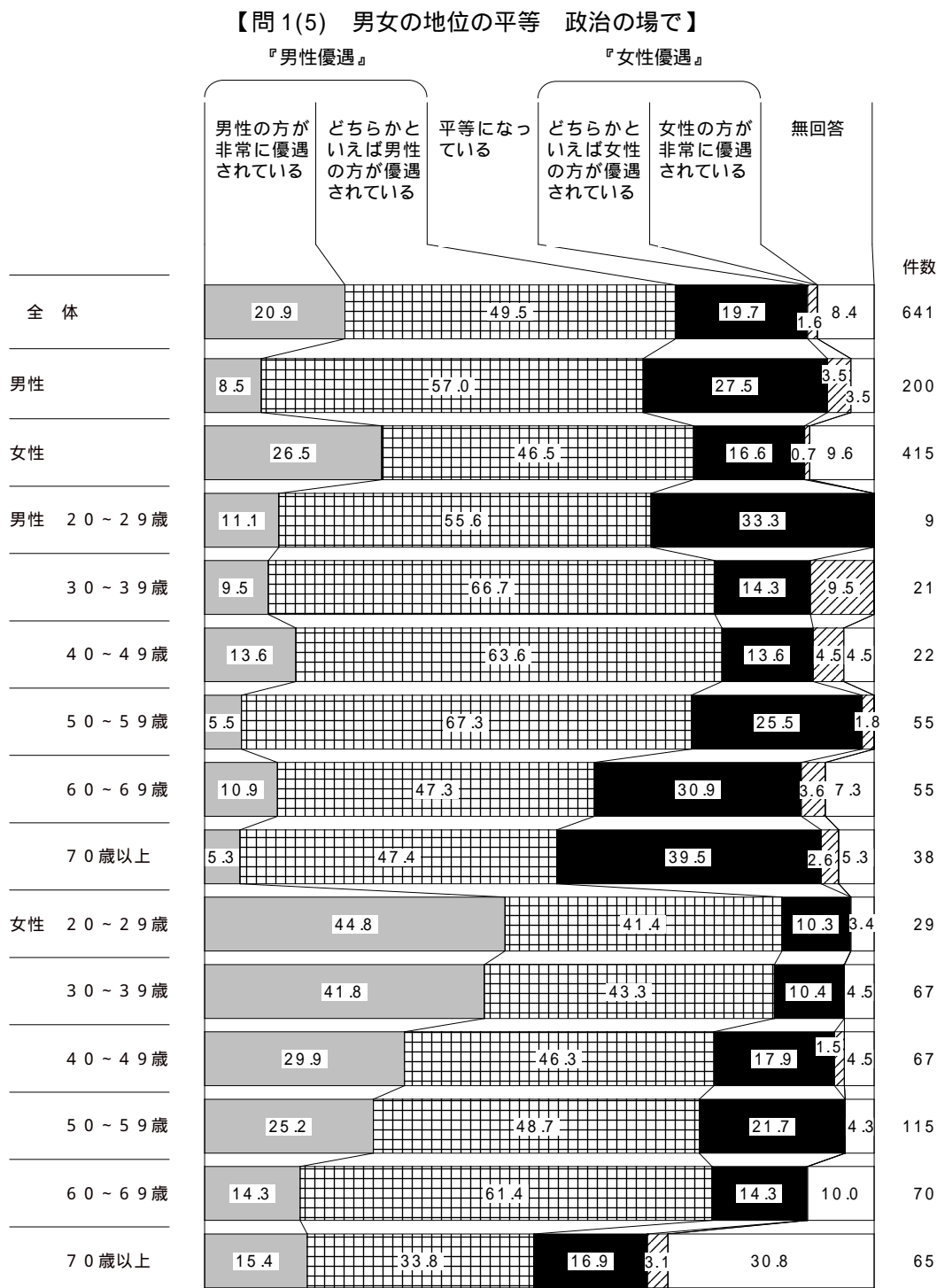
一方、「平等になっている」の回答は、市民で54.4%に対し、市職員で62.3%と、市職員を7.9ポイント下回る結果となっている。



(5) 政治の場で

政治での男女の地位の平等について、性別で見ると、『男性優遇』の回答が、男性 65.5%、女性 73.0%で、男女とも男性優遇を感じている人が多くなっている。

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢層で『男性優遇』の回答が多く、女性 20 代、30 代では 80%を超えている。また、とくに女性では「男性の方が非常に優遇されている」の回答率が男性に比べて高くなっている。

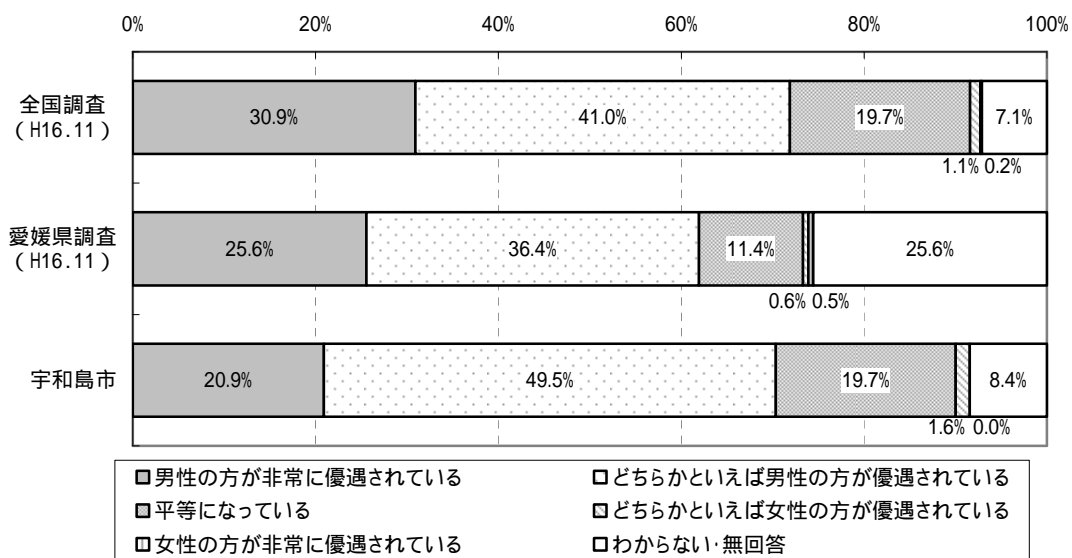


【参考】

全国調査（H16.11実施）および愛媛県調査（H16.11実施）結果比較

全国調査および愛媛県調査結果と比較してみると、政治の場の中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が全国で71.9%、愛媛県で62.0%に対し、宇和島市では70.4%となっており、全国とは大きな違いはみられないが、愛媛県に比べると8.4ポイント上回っている。

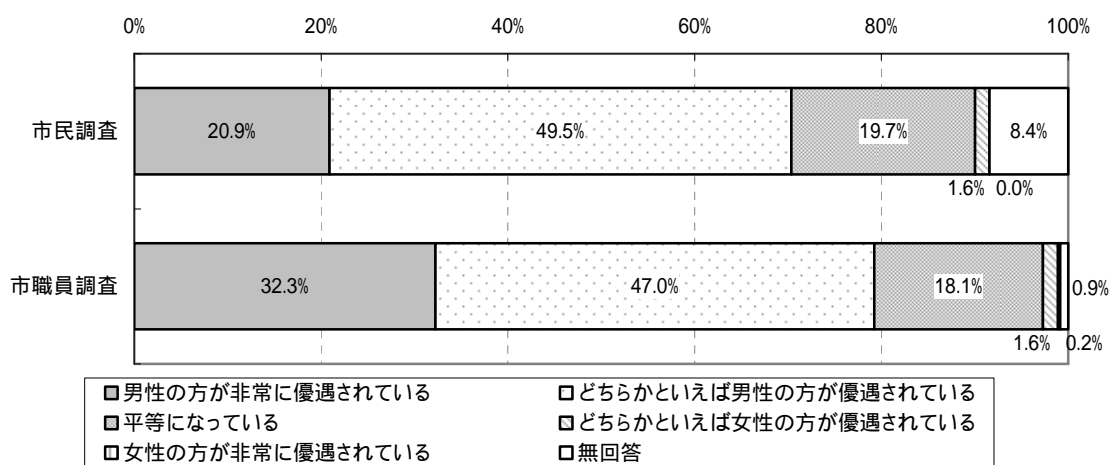
反対に「平等になっている」の回答は、全国で19.7%、愛媛県で11.4%に対し、宇和島市では19.7%となっており、愛媛県を8.3ポイント上回っている。



宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、政治の場の場の中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が、市民で70.4%に対し、市職員で79.3%と8.9ポイント上回っている。

一方、「平等になっている」の回答は、市民で19.7%、市職員で18.1%と、大きな違いはみられない。

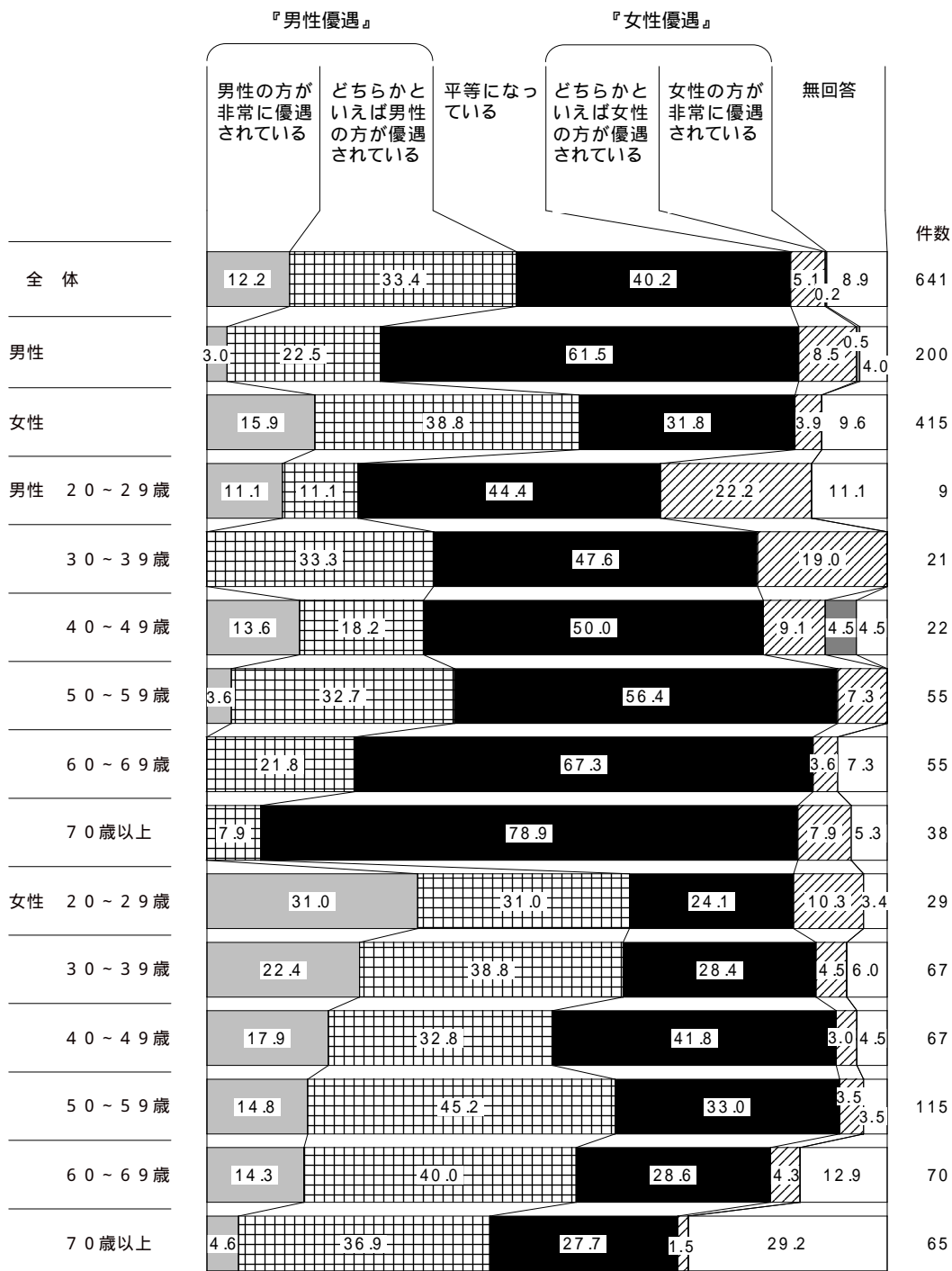


(6) 法律や制度の上で

法律や制度の上での男女の地位の平等について、性別で見ると、男性では「平等になっている」の回答が60%を超えているが、女性では31.8%と約2倍の差がある結果となっている。女性では『男性優遇』との回答が50%を超えている。

性・年齢別で見ると、男性ではすべての年齢層で「平等になっている」の回答が最も多くなっている。一方女性では、70歳以上を除き『男性優遇』との回答が50%を超えている。

【問1(6) 男女の地位の平等 法律や制度の上で】

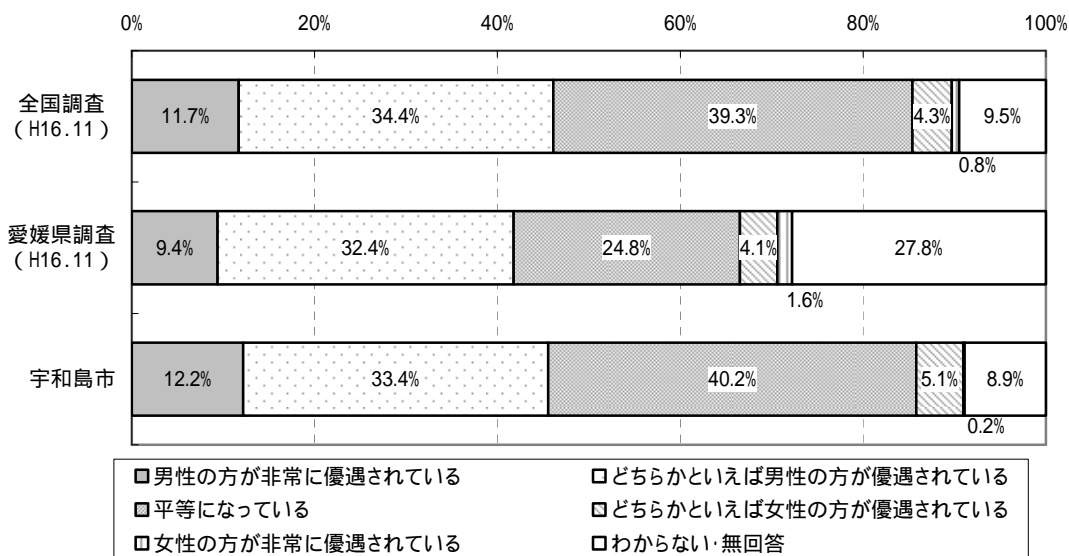


【参考】

全国調査（H16.11実施）および愛媛県調査（H16.11実施）結果比較

全国調査および愛媛県調査結果と比較してみると、法律や制度の中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が全国で46.1%、愛媛県で41.8%に対し、宇和島市では45.6%となっており、大きな違いはみられない。

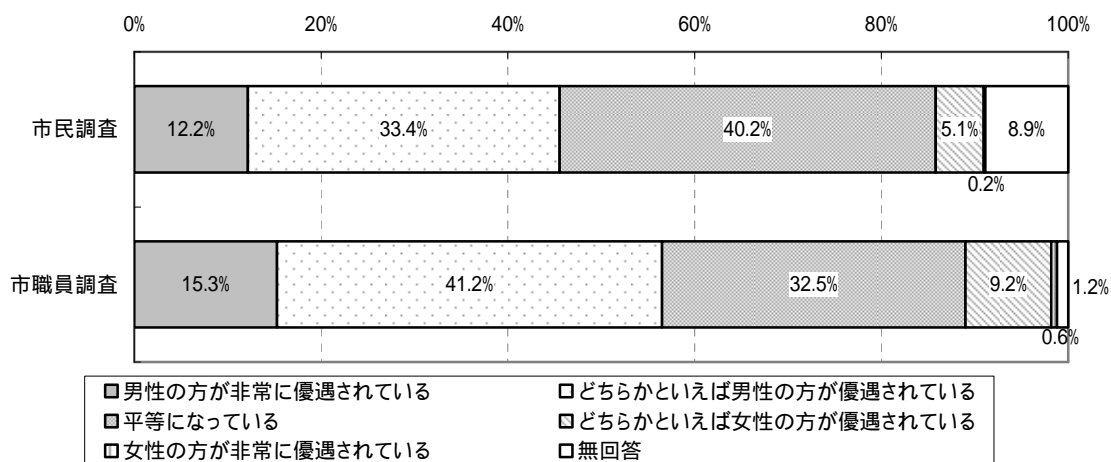
反対に「平等になっている」の回答は、全国で39.3%、愛媛県で24.8%に対し、宇和島市では40.2%と最も高く、愛媛県に比べると15.4ポイント上回っている。



宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、法律や制度の中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が、市民で45.6%に対し、市職員で56.5%と10.9ポイント上回っている。

一方、「平等になっている」の回答は、市民で40.2%に対し、市職員で32.5%と、市民が7.7ポイント上回っている。

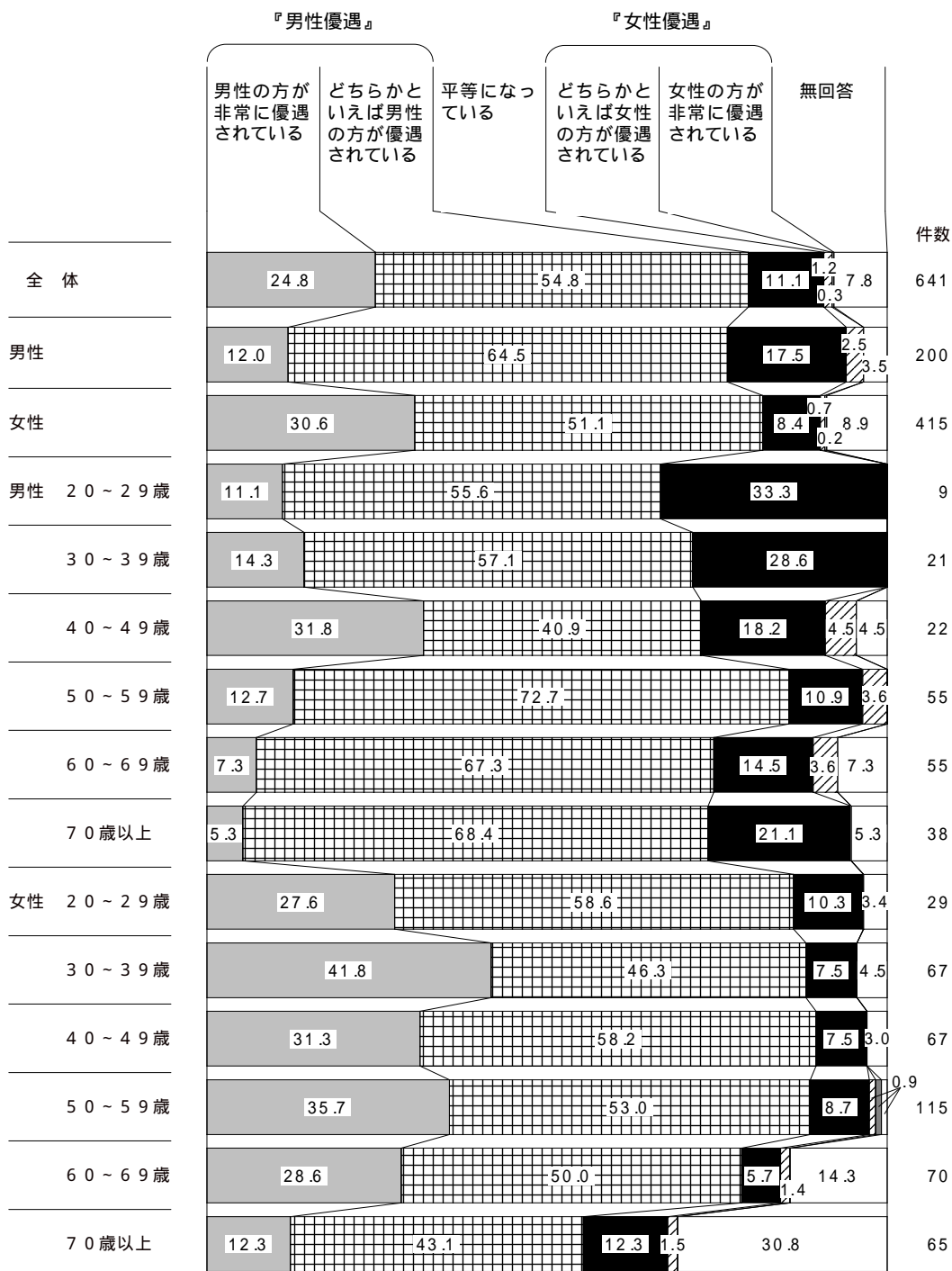


(7) 社会通念・慣習・しきたりで

社会通念・慣習・しきたりでの男女の地位の平等について、性別で見ると、男女とも『男性優遇』との回答が約80%で多くなっている。

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢層で『男性優遇』との回答が多く、とくに女性では「男性の方が非常に優遇されている」の回答率が高い傾向にあり、女性20代から50代まで『男性優遇』の回答が85%を超えている。

【問1(7) 男女の地位の平等 社会通念・慣習・しきたりで】

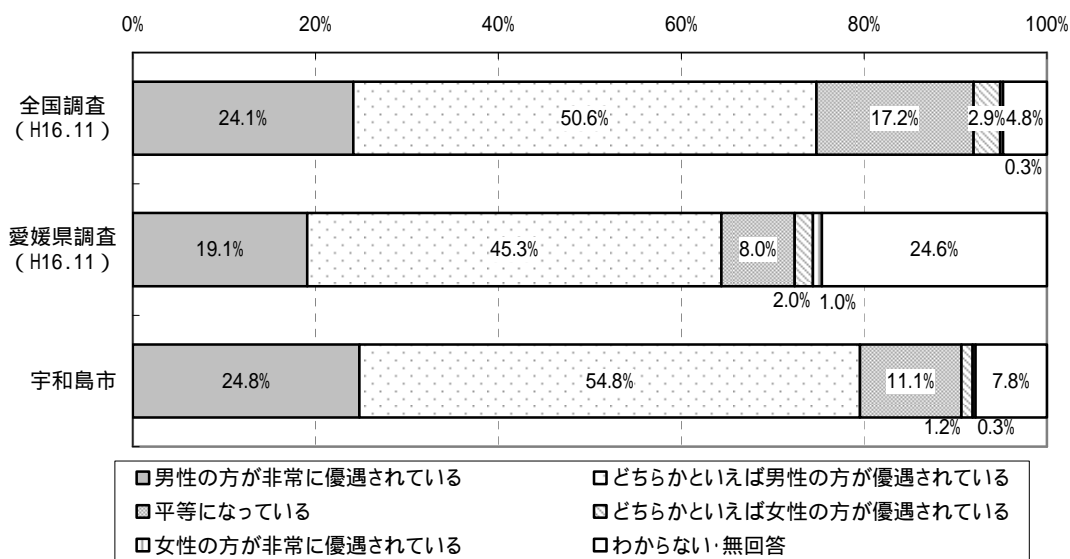


【参考】

全国調査（H16.11実施）および愛媛県調査（H16.11実施）結果比較

全国調査および愛媛県調査結果と比較してみると、社会通念・慣習・しきたりの中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が全国で74.7%、愛媛県で64.4%に対し、宇和島市では79.6%となっており、全国とは大きな違いはみられないが、愛媛県に比べると15.2ポイント上回っている。

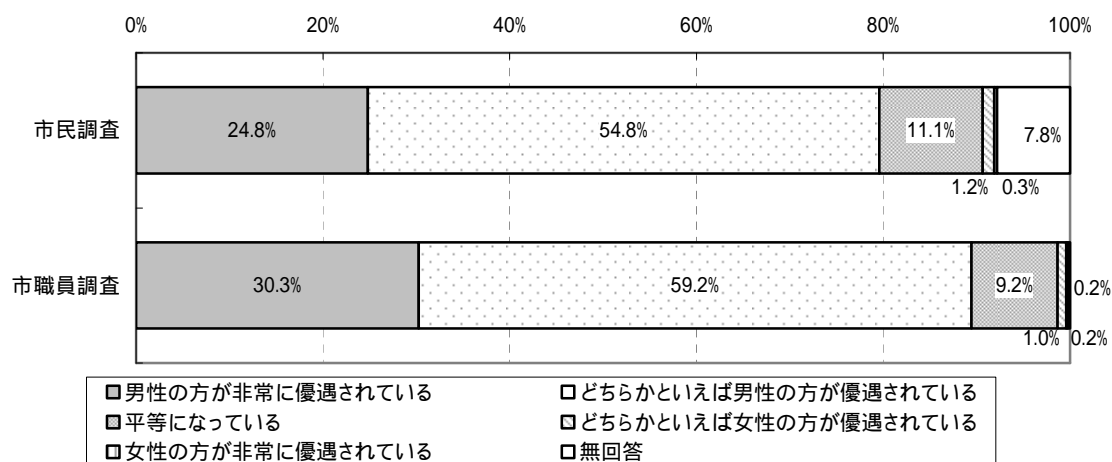
反対に「平等になっている」の回答は、全国で17.2%、愛媛県で8.0%に対し、宇和島市では11.1%となっており、愛媛県は上回っているものの全国に比べると6.1ポイント下回っている。



宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、社会通念・慣習・しきたりの中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が、市民で79.6%に対し、市職員で89.5%と9.9ポイント上回っている。

一方、「平等になっている」の回答は、市民で11.1%、市職員で9.2%と、大きな違いはみられない。

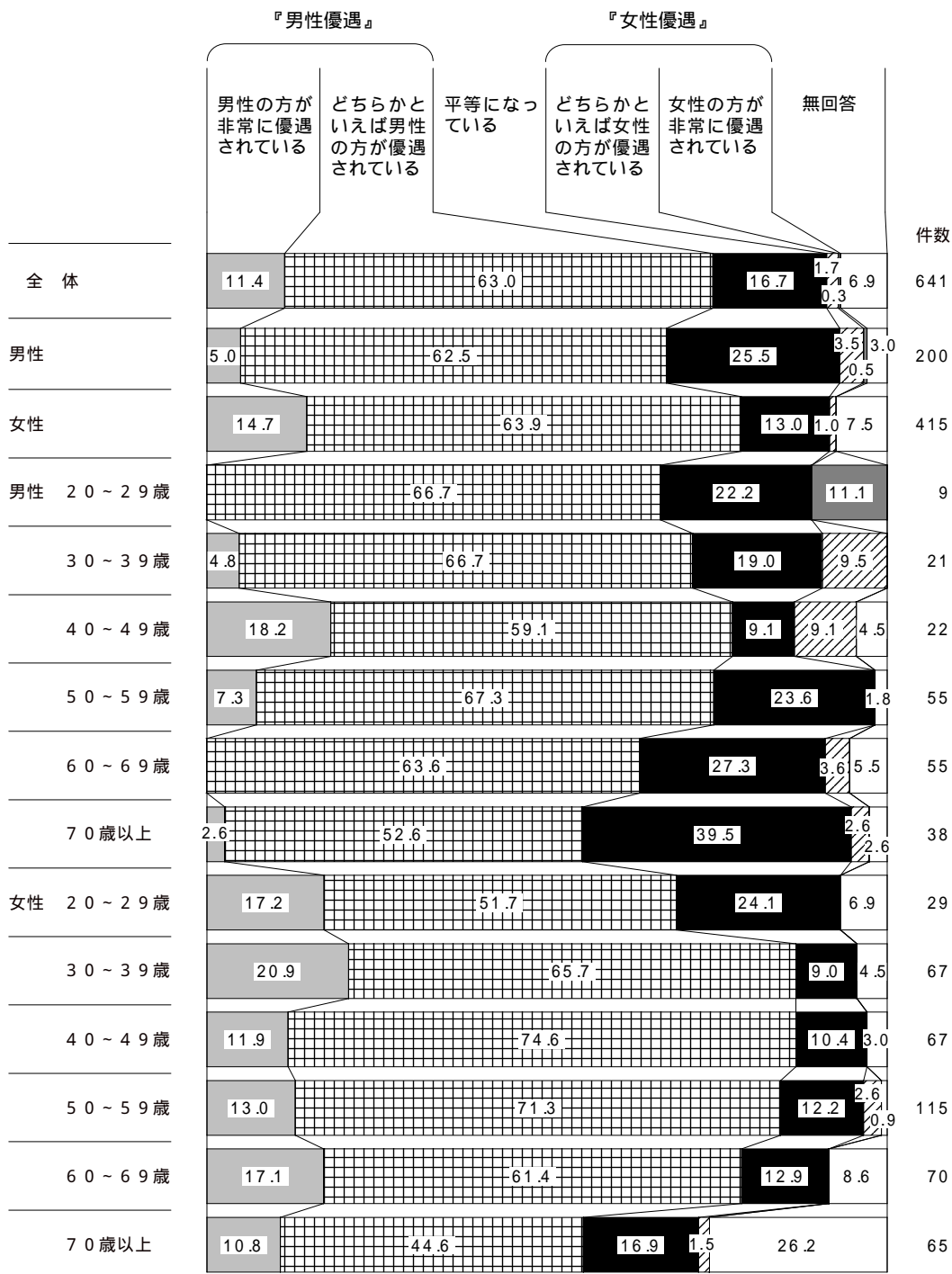


(8) 社会全体で

社会全体での男女の地位の平等について、性別で見ると、『男性優遇』の回答が、男性 67.5%、女性 78.6%で、男女とも男性優遇を感じている人が多くなっている。

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢層で『男性優遇』との回答が多く、とくに女性 30 代から 50 代では 80%を超えている。

【問 1(8) 男女の地位の平等 社会全体で】

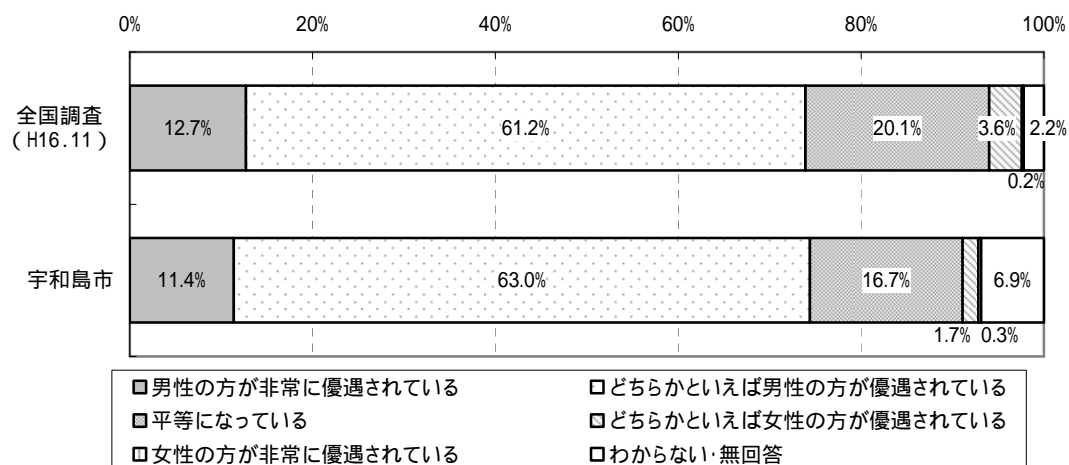


【参考】

全国調査（H16.11実施）結果比較

全国調査と比較してみると、社会全体の中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が全国で73.9%、宇和島市では74.4となっており、大きな違いはみられない。

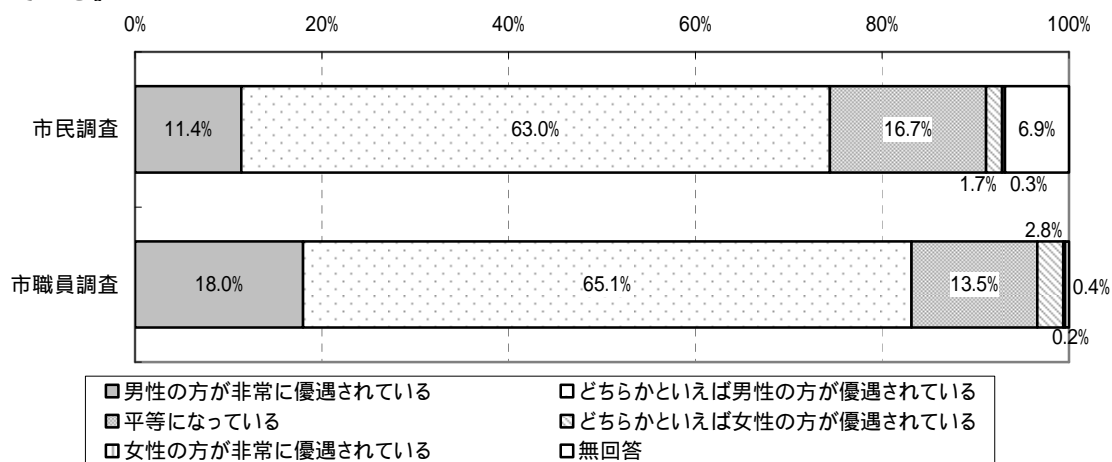
反対に「平等になっている」の回答は、全国で20.1%に対し、宇和島市では16.7%となっており、全国に比べると3.4ポイント下回っている。



宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、社会全体の中での男女の平等感については『男性優遇』の回答が、市民で74.4%に対し、市職員で83.1%と8.7ポイント上回っている。

一方、「平等になっている」の回答は、市民で16.7%、市職員で13.5%と、市民が市職員をやや上回っている。



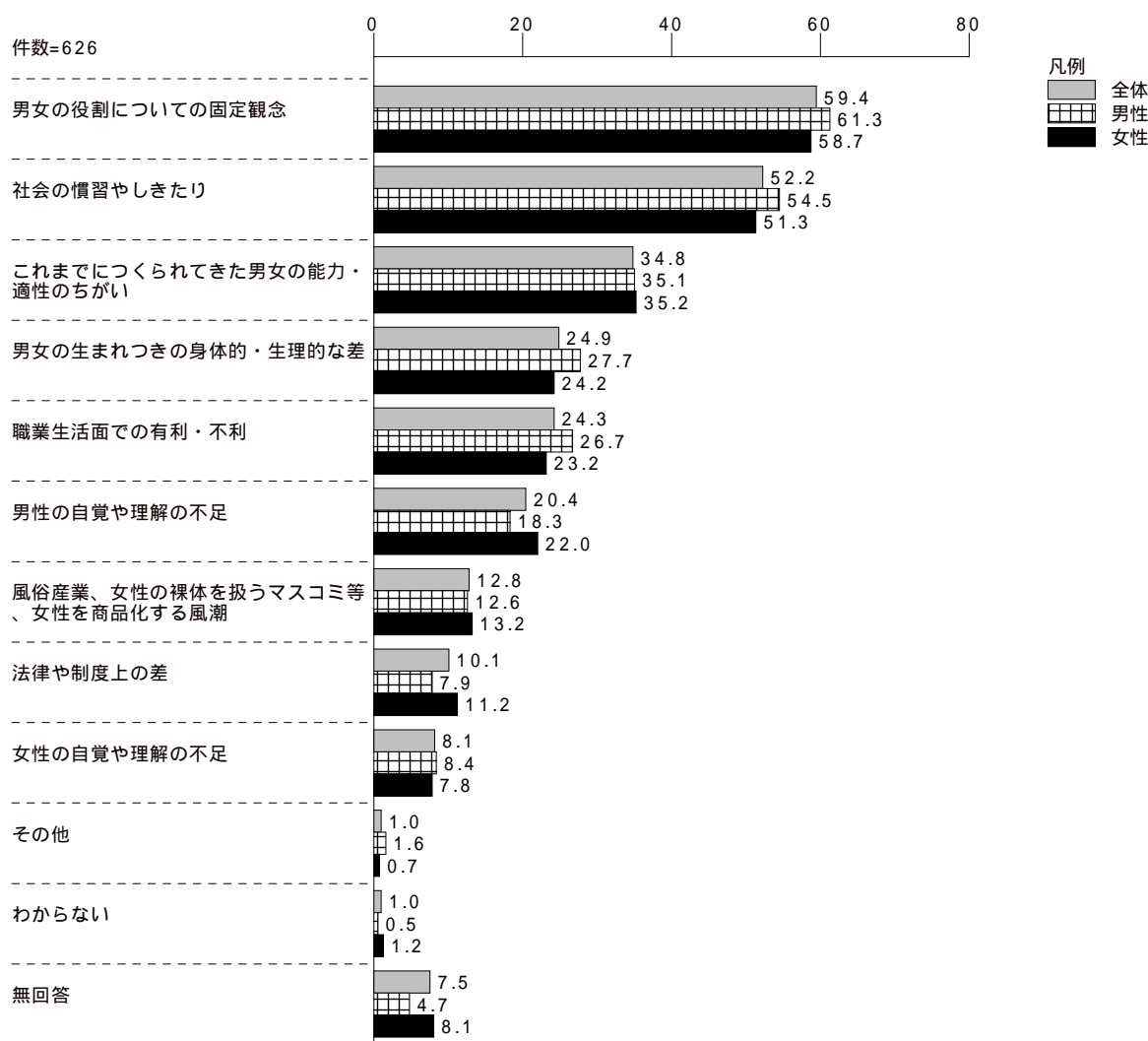
問1で、「男女平等になっていない」と感じている分野があった方におたずねします。

問2 男女間で不平等が生じる原因は、どこにあると思いますか。 【は3つ以内】

問1で「男女平等になっていない」と感じている分野があった場合、その不平等の原因についてたずねたところ、全体では「男女の役割についての固定観念」(59.4%)が最も多く、次いで「社会の慣習やしきたり」(52.2%)が50%を超え、「これまでにつくられてきた男女の能力・適性の違い」(34.8%)、「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」(24.9%)、「職業生活面での有利・不利」(24.3%)、「男性の自覚や理解の不足」(20.4%)などの順で続いている。

性別でみると、回答が多かった項目は男女とも同じで、回答内容の傾向に大きな違いはみられない。

【問2 男女間で不平等が生じる原因】

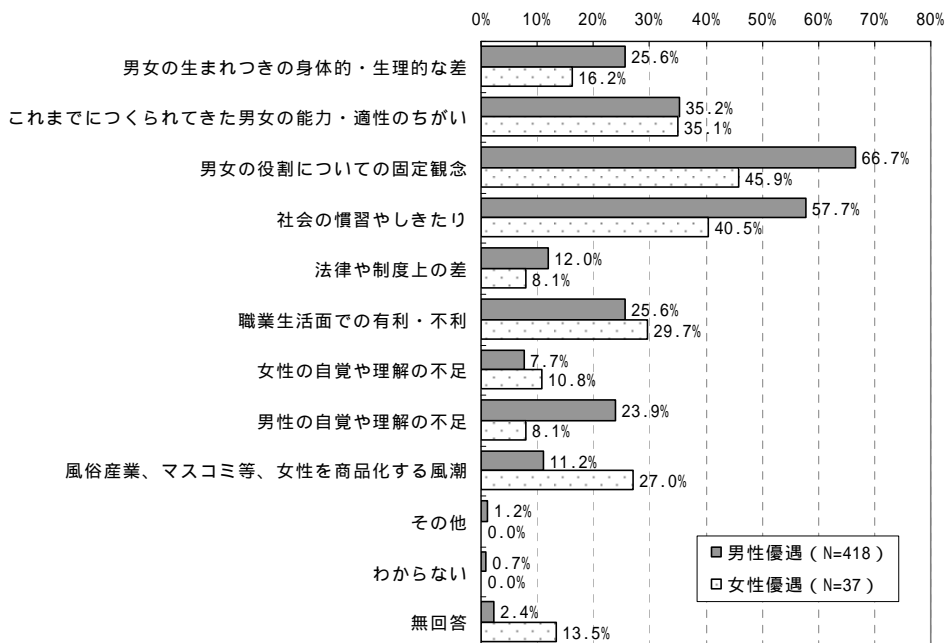


< 不平等が生じる原因 >

問1の(1)～(8)の各分野について、不平等が生じる原因を把握するため、問1と問2のクロス集計を行った。

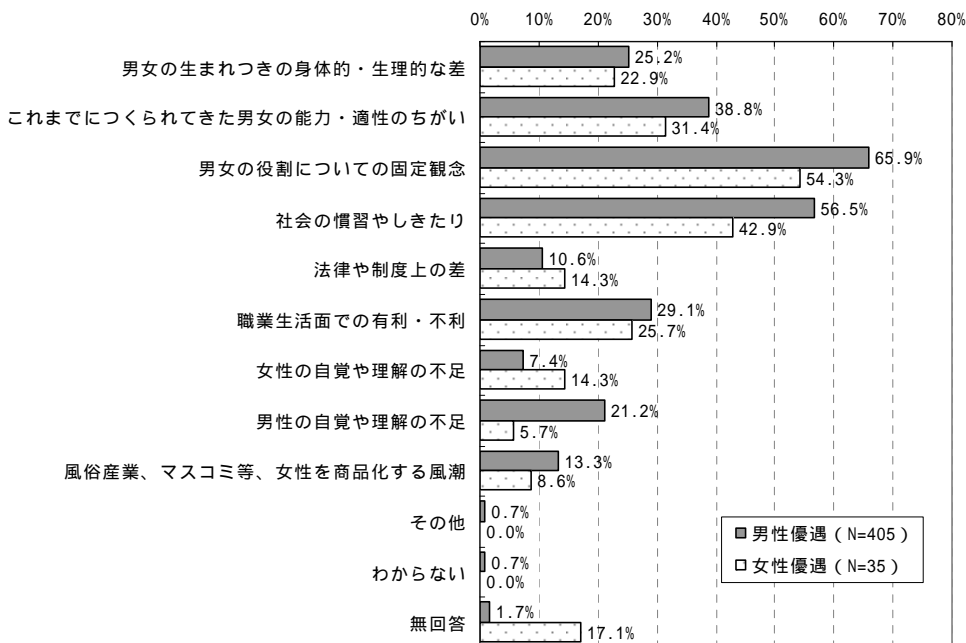
(1) 家庭生活上で『男性優遇』と回答した人のうち、不平等が生じる原因としては「男女の役割についての固定観念」(66.7%)や「社会の慣習やしきたり」(57.7%)との回答が多くなっている。

【(1) 男女間で不平等が生じる原因 家庭生活】



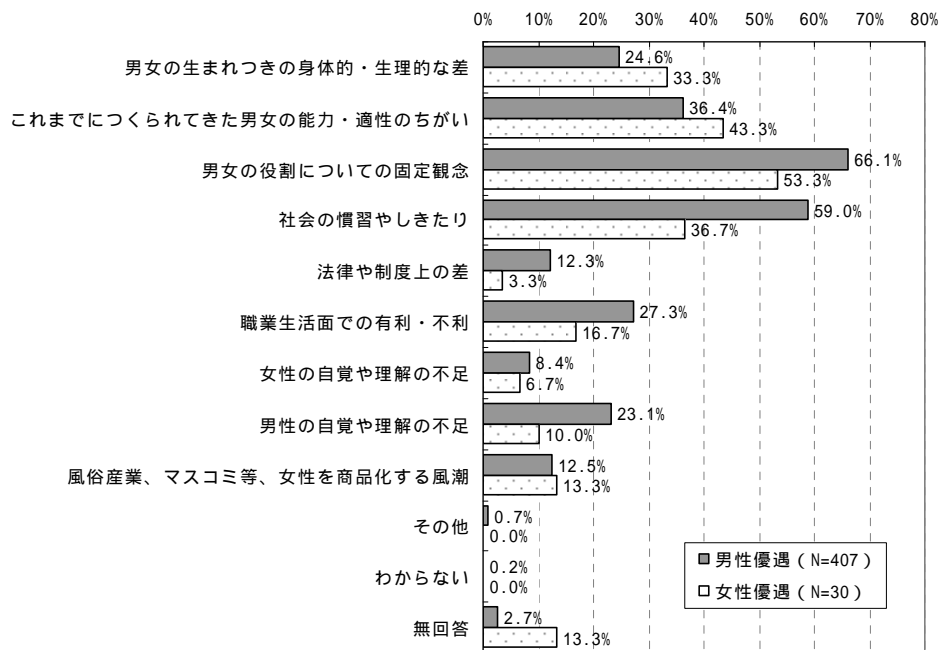
(2) 職場で『男性優遇』と回答した人のうち、不平等が生じる原因としては「男女の役割についての固定観念」(65.9%)や「社会の慣習やしきたり」(56.5%)との回答が多くなっている。

【(2) 男女間で不平等が生じる原因 職場】



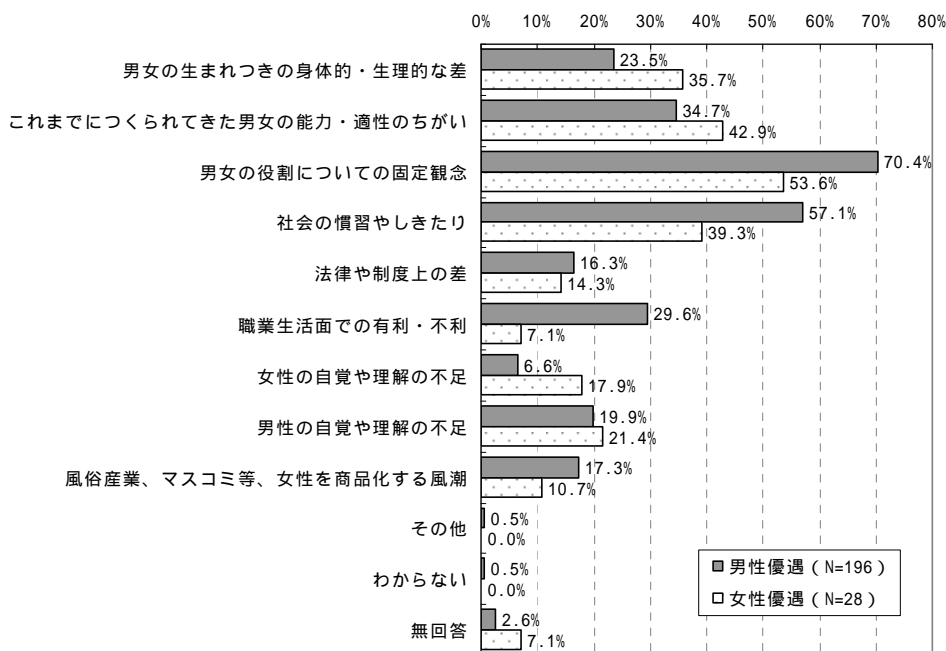
(3) 地域社会で『男性優遇』と回答した人のうち、不平等が生じる原因としては「男女の役割についての固定観念」(66.1%)や「社会の慣習やしきたり」(59.0%)との回答が多くなっている。

【(3) 男女間で不平等が生じる原因 地域社会】



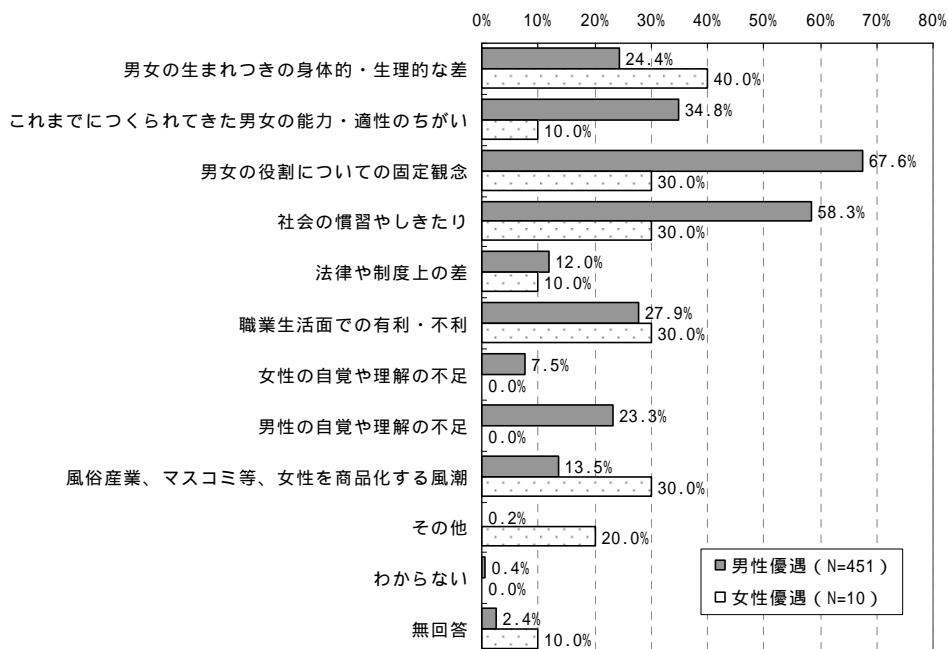
(4) 学校教育の場で『男性優遇』と回答した人のうち、不平等が生じる原因としては「男女の役割についての固定観念」(70.4%)や「社会の慣習やしきたり」(57.1%)との回答が多くなっている。

【(4) 男女間で不平等が生じる原因 学校教育の場】



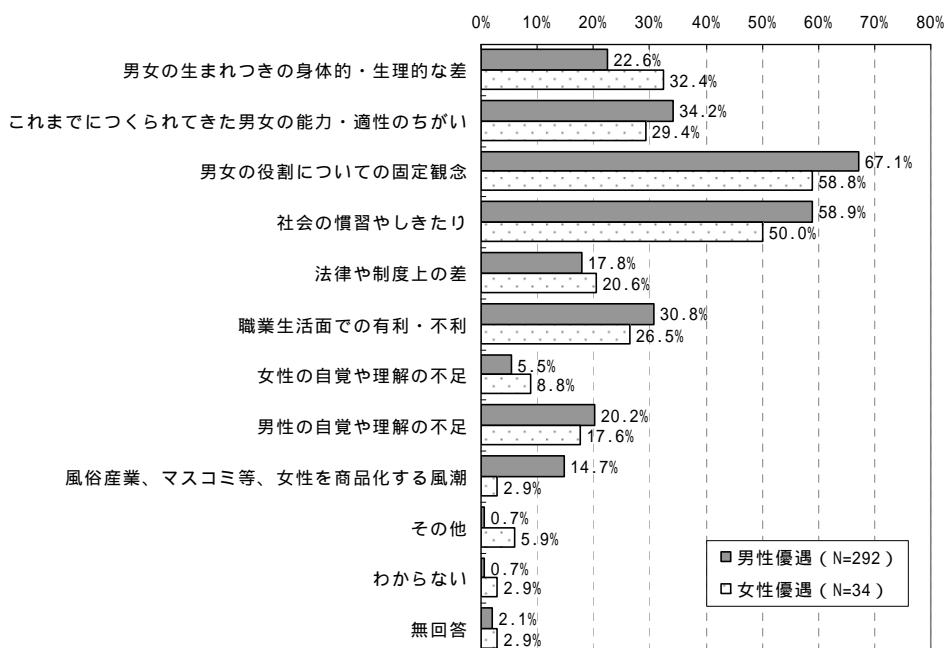
(5) 政治の場で『男性優遇』と回答した人のうち、不平等が生じる原因としては「男女の役割についての固定観念」(67.6%)や「社会の慣習やしきたり」(58.3%)との回答が多くなっている。

【(5) 男女間で不平等が生じる原因 政治の場】



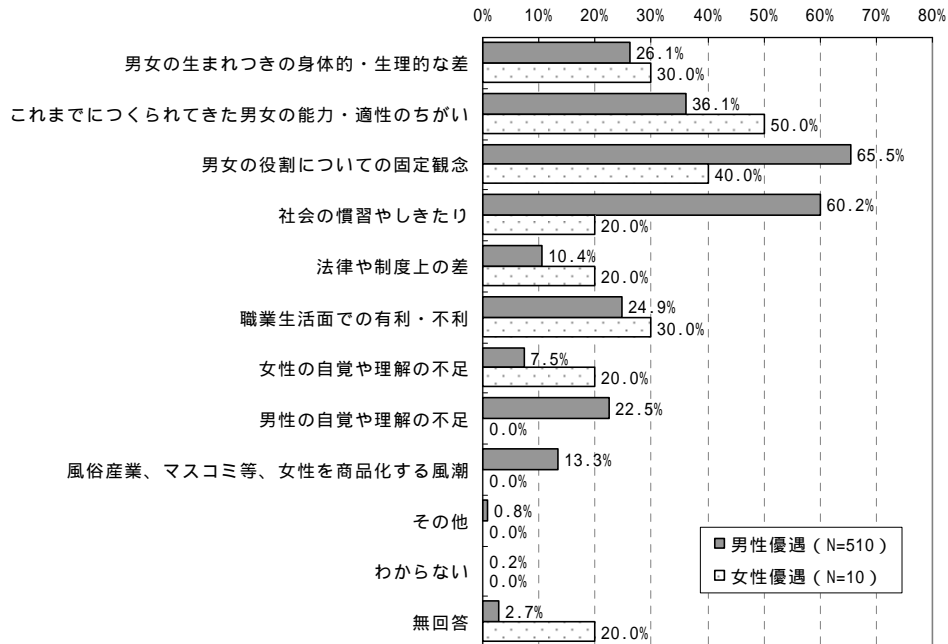
(6) 法律や制度の上で『男性優遇』と回答した人のうち、不平等が生じる原因としては「男女の役割についての固定観念」(67.1%)や「社会の慣習やしきたり」(58.9%)との回答が多くなっている。

【(6) 男女間で不平等が生じる原因 法律や制度】



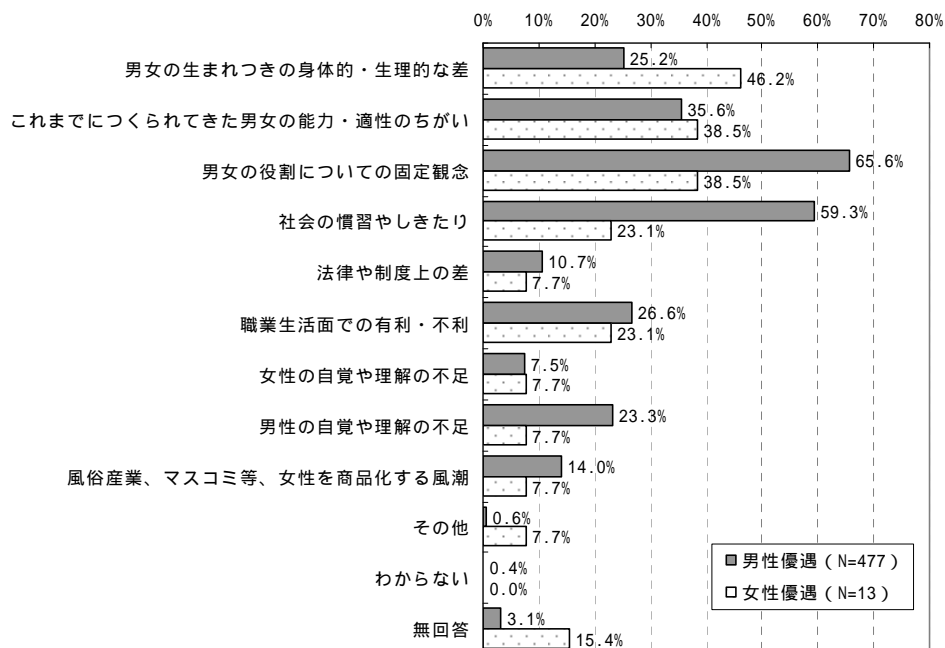
(7) 社会通念・慣習・しきたりで『男性優遇』と回答した人のうち、不平等が生じる原因としては「男女の役割についての固定観念」(65.5%)や「社会の慣習やしきたり」(60.2%)との回答が多くなっている。

【(7) 男女間で不平等が生じる原因 社会通念・慣習・しきたり】



(8) 社会全体で『男性優遇』と回答した人のうち、不平等が生じる原因としては「男女の役割についての固定観念」(65.6%)や「社会の慣習やしきたり」(59.3%)との回答が多くなっている。

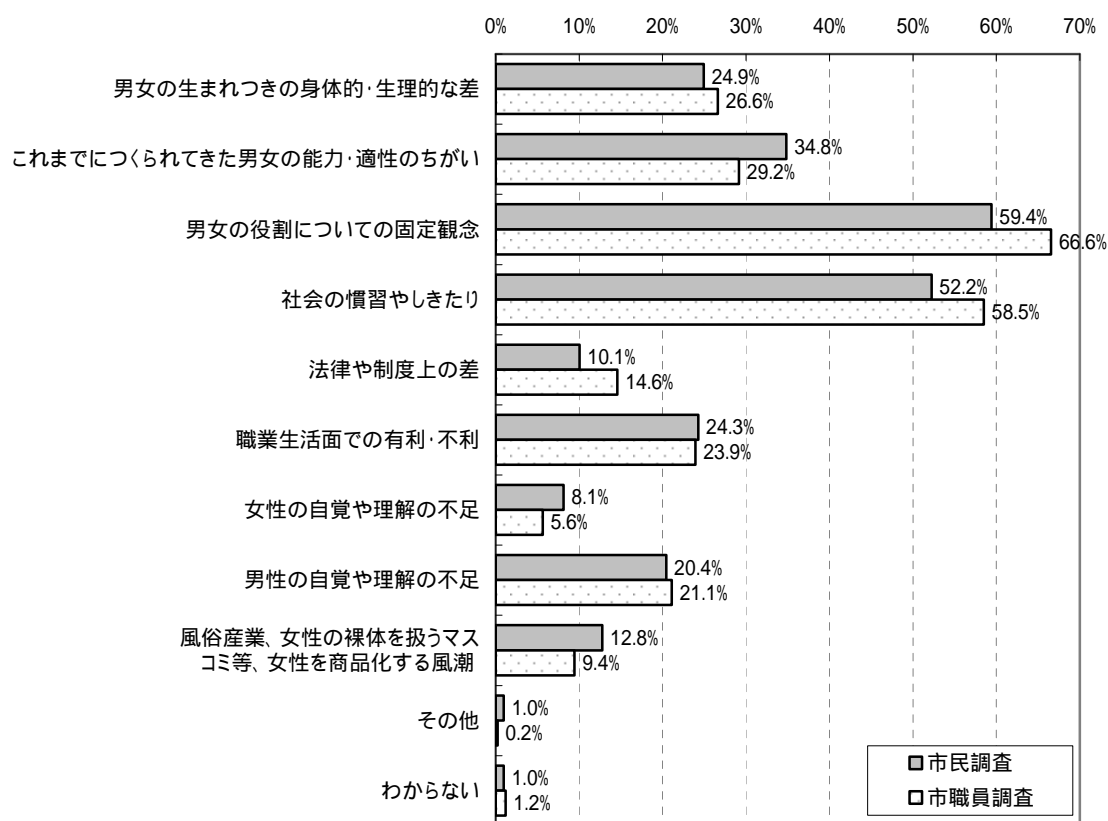
【(8) 男女間で不平等が生じる原因 社会全体】



【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

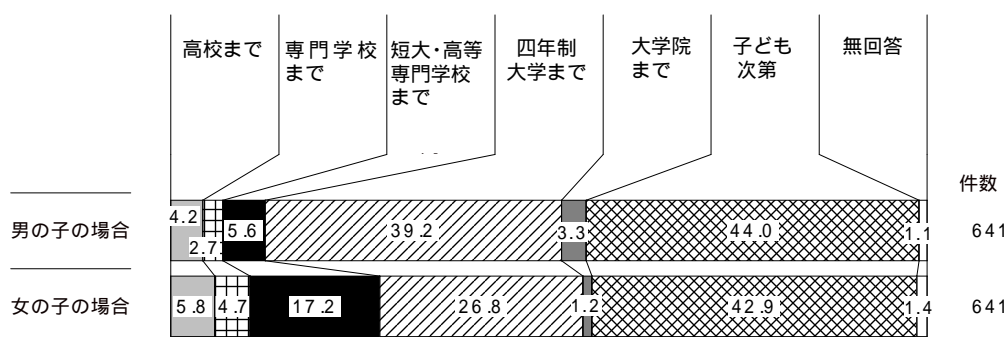
市職員調査結果と比較してみると、回答が多かった項目は男女とも同じで、「男女の役割についての固定観念」(市民：59.4%、市職員：66.6%)が最も多く、次いで「社会の慣習やしきたり」(市民：52.2%、市職員：58.5%)が50%を超え、「これまでにつくられてきた男女の能力・適性の違い」、「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」、「職業生活面での有利・不利」、「男性の自覚や理解の不足」の順で続いている。



問3 あなたは、自分の子どもに対してどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。子どもが男の子の場合と女の子の場合の両方を想定して、それぞれについてお答えください。(子どもがいない方や、既に子どもが社会人になっている方は、仮にこれから教育を受ける子どもがいるとしてお考えください。)
【 はそれぞれ1つずつ】

自分の子どもにどの程度の教育を受けさせたいかについて、男の子の場合、女の子の場合ともに「子ども次第」との回答が最も多く、「四年制大学」(男の子の場合：39.2%、女の子の場合：26.8%)、「短大・高等専門学校まで」(男の子の場合：5.6%、女の子の場合：17.2%)、「高校まで」(男の子の場合：4.2%、女の子の場合：5.8%)の順となっている。男の子の場合の方が女の子の場合に比べ、より高い学歴を望む傾向がある。

【問3 自分の子どもに受けさせたい教育】

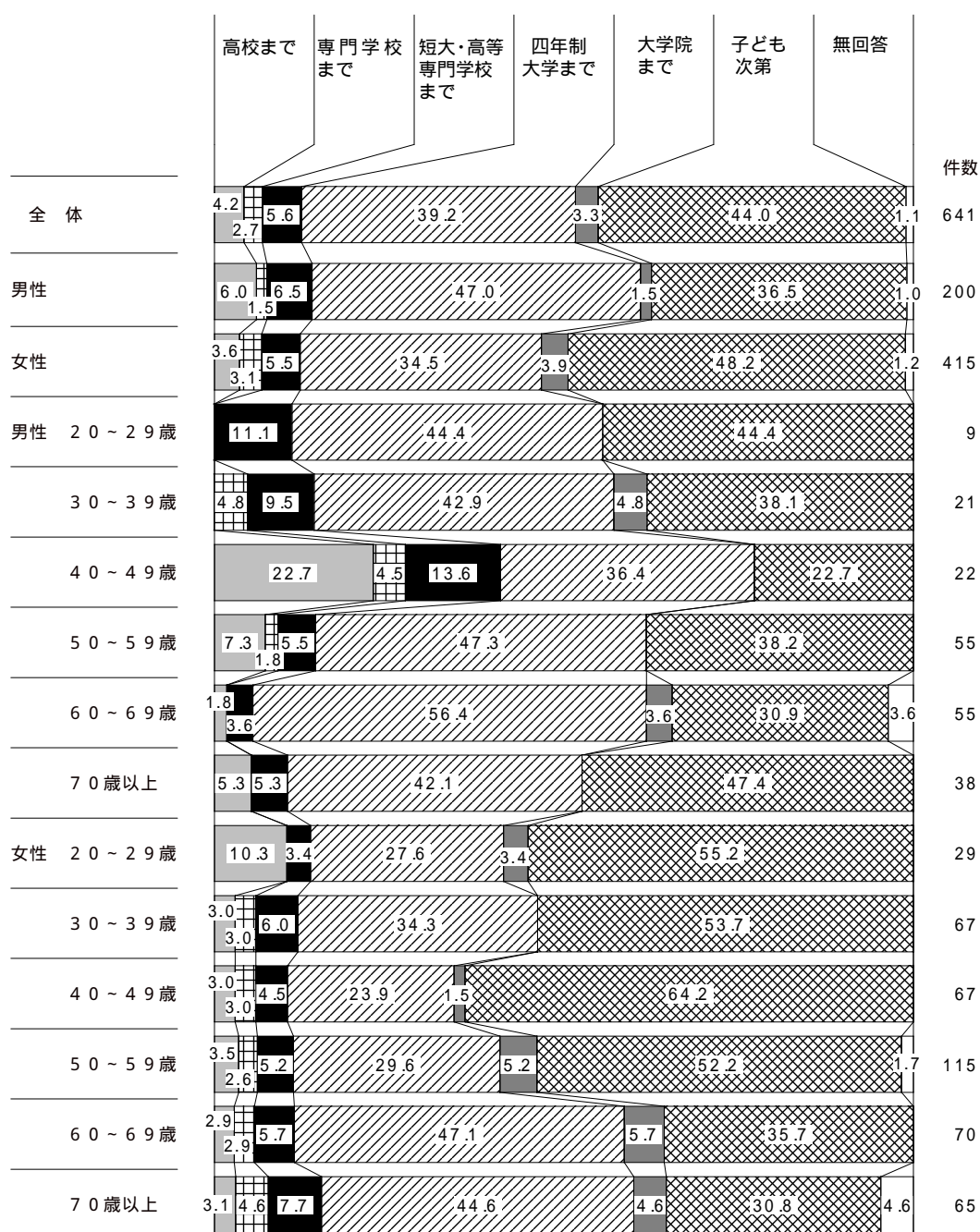


(1) 男の子の場合

自分の子どもが男の子の場合の教育について、性別で見ると男性では「四年制大学まで」が47.0%、女性では「子ども次第」が48.2%で最も多くなっている。

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢層で「四年制大学まで」または「子ども次第」との回答が多くなっている。男性20代から60代では「四年制大学まで」の回答が最も多く、女性20代から50代では「子ども次第」の回答が多くなっている。女性の方が「子ども次第」との回答率が高い傾向にある。

【問3(1) 自分の子どもに受けさせたい教育 男の子の場合】

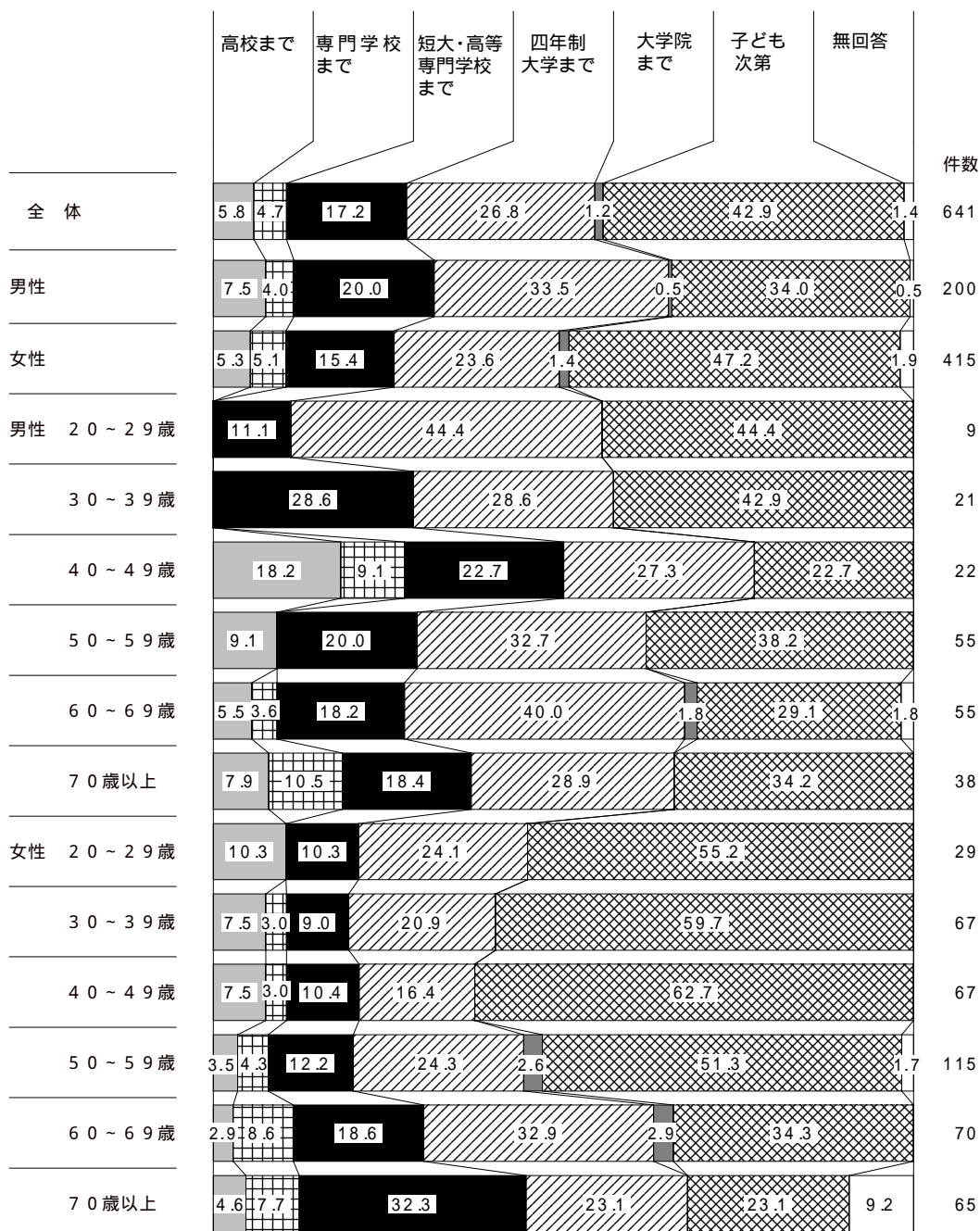


(2) 女の子の場合

自分の子どもが女の子の場合の教育について、性別でみると男女とも「子ども次第」(男性：34.0% 女性：47.2%)が最も多くなっている。

性・年齢別でみると、女性の20代から50代では「子ども次第」との回答が50%を超えている。また、男女ともすべての年齢層で「短大・高等専門学校まで」との回答が10%以上あり、男の子の場合に比べ、低い学歴でもよいと考える人の割合が高い傾向がある。

【問3(2) 自分の子どもに受けさせたい教育 女の子の場合】



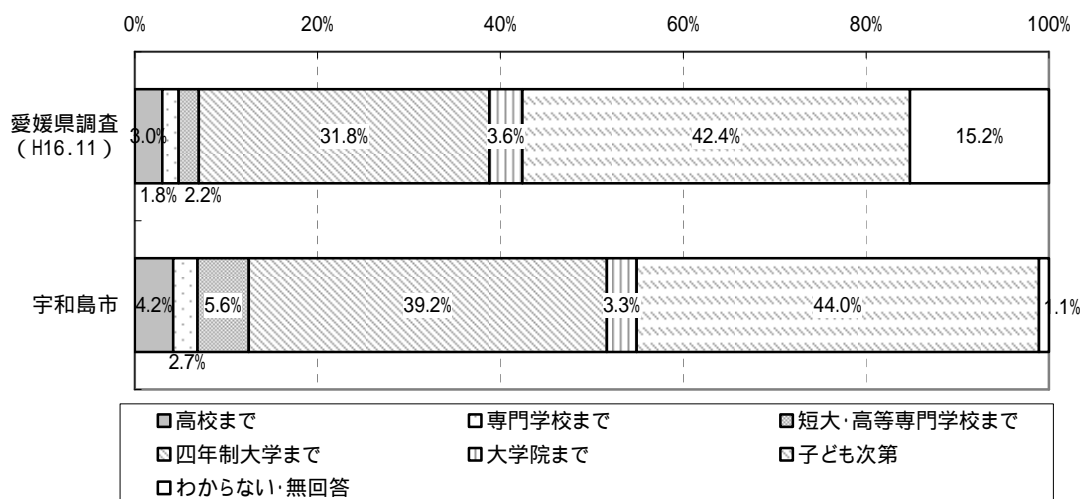
【参考】

愛媛県調査（H16.11実施）結果比較

（1）男の子の場合

自分の子どもが男の子の場合の教育について、「子ども次第」が愛媛県で42.4%、宇和島市で44.0%と最も多くなっており、割合に大きな違いはみられない。

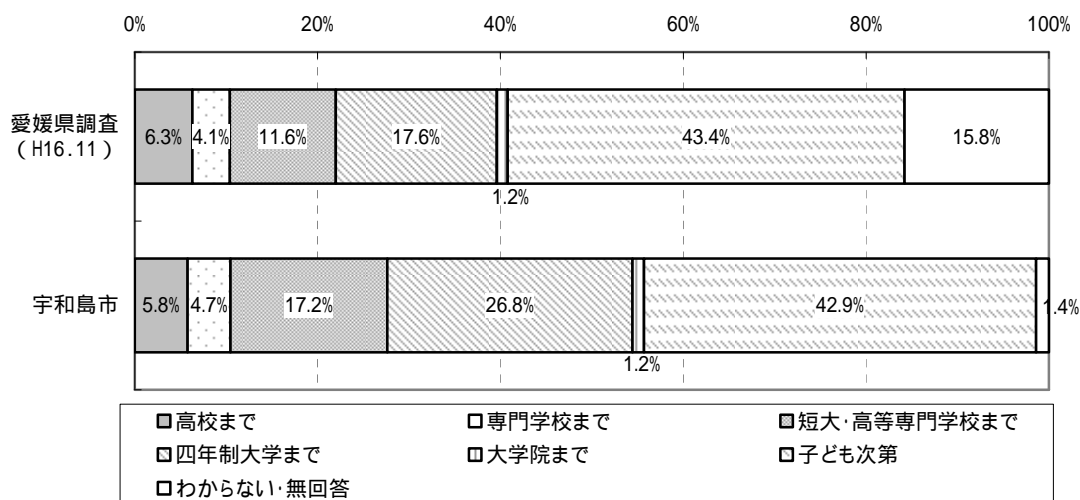
次いで「四年制大学まで」の回答が多く、愛媛県では31.8%に対し宇和島市では39.2%と、7.4ポイント上回っている。



（2）女の子の場合

自分の子どもが女の子の場合の教育について、「子ども次第」が愛媛県で43.4%、宇和島市で42.9%と最も多くなっており、割合に大きな違いはみられない。

次いで「四年制大学まで」の回答が多く、愛媛県では17.6%に対し宇和島市では26.8%と、8.8ポイント上回っている。

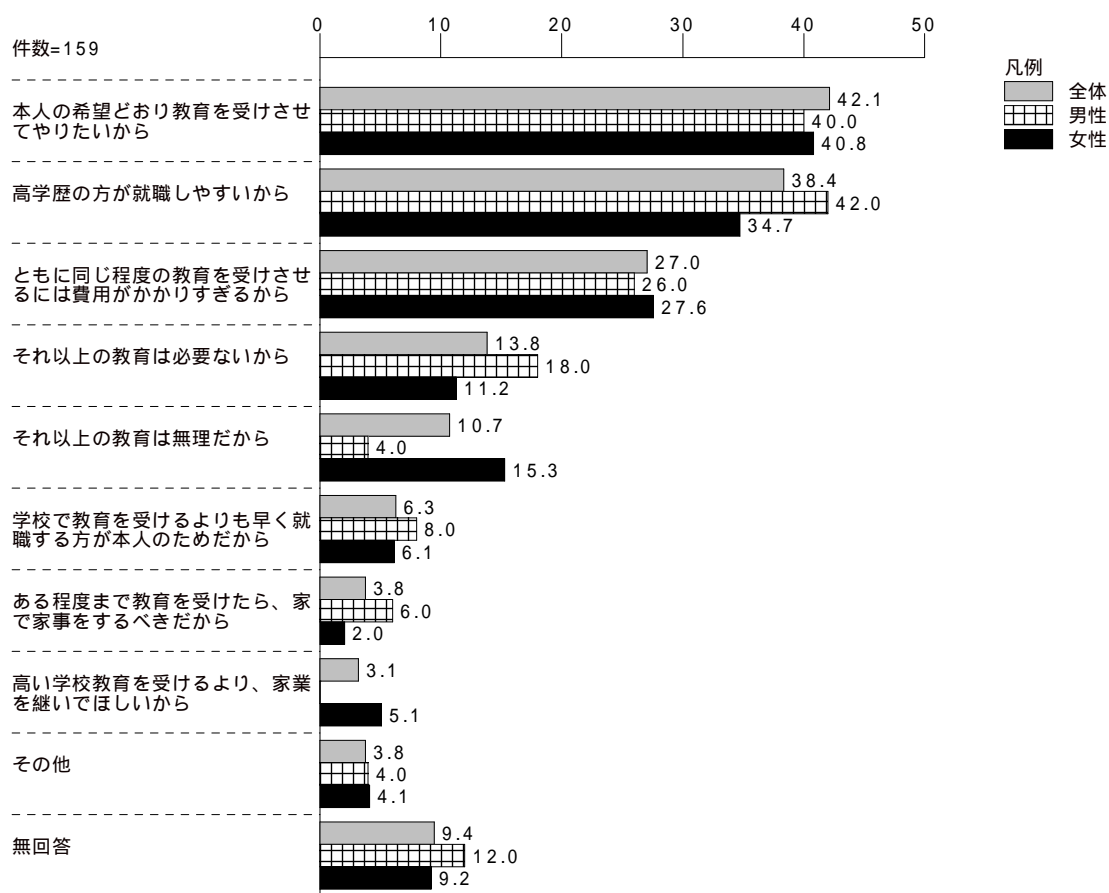


問3で男の子の場合と女の子の場合で希望が異なっていた方におたずねします。

問4 男女で受けさせたい教育の程度が異なっている理由について、あなたのお気持ちに近いものをお選びください。 【は2つ以内】

男女で受けさせたい教育の程度が異なっている人にその理由をたずねたところ、「本人の希望どおり教育を受けさせてやりたいから」が42.1%で最も多く、次いで「高学歴の方が就職しやすいから」が38.4%、「ともに同じ程度の教育を受けさせるには費用がかかりすぎるから」が27.0%となっている。

【問4 男女で受けさせたい教育の程度が異なっている理由】



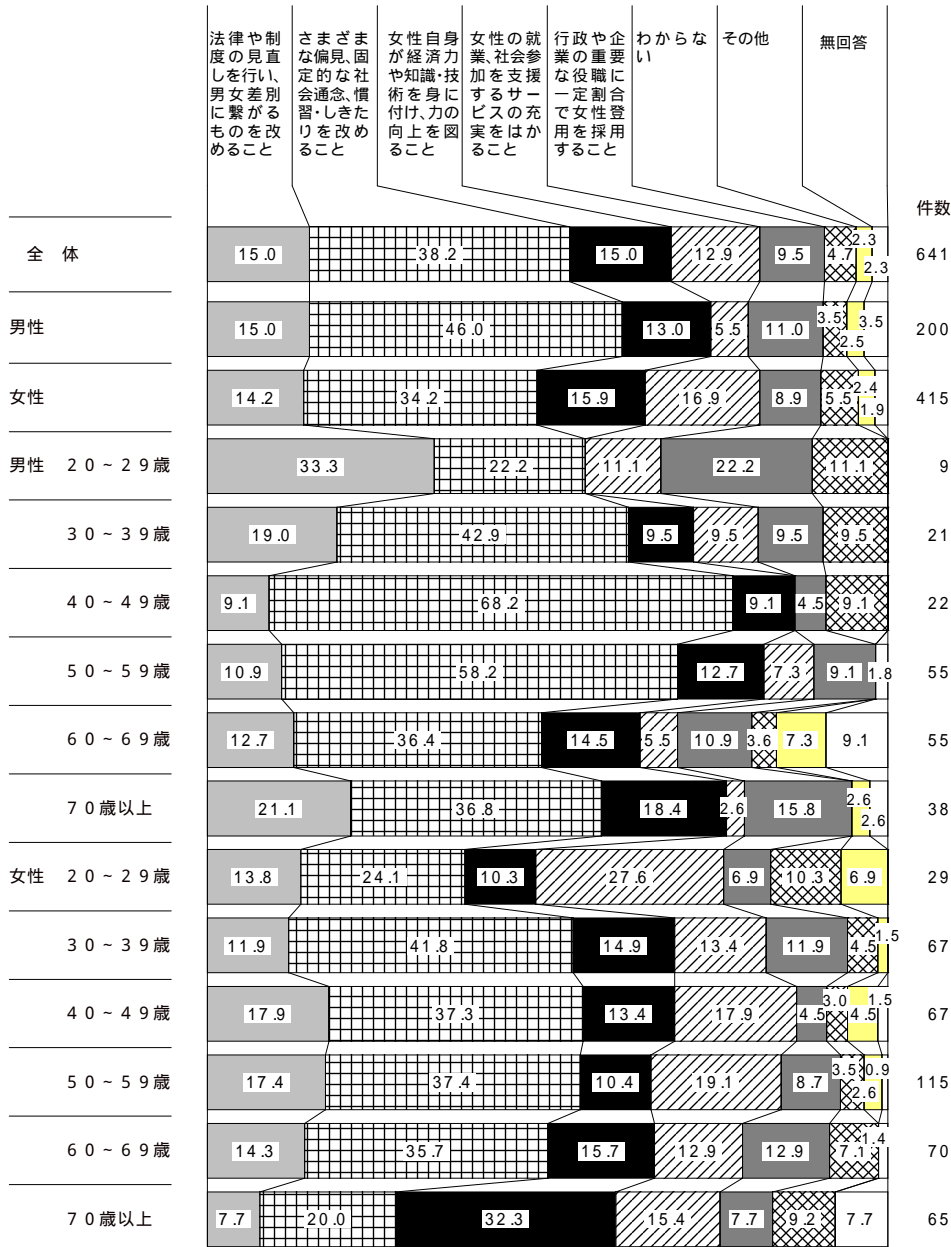
問5 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが最も必要だと思いますか。 【は1つ】

今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために必要なことについて、全体では「さまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」(38.2%)が最も多く、「法律や制度の見直しを行い、男女差別に繋がるものを改めること」(15.0%)、「女性自身が経済力や知識・技術を身につけ力の向上を図ること」(15.0%)、「女性の就業、社会参加を支援するサービスの充実を図ること」(12.9%)、「行政や企業の重要な役職に一定割合で女性登用を採用すること」(9.5%)の順となっている。

性別にみると、女性では「女性の就業、社会参加を支援するサービスの充実を図ること」が16.9%あり男性を11.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、男性では20代を除くすべての年齢層で「さまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」との回答が多くなっているが、女性では「女性の就業、社会参加を支援するサービスの充実を図ること」がすべての年齢層で男性の回答率を上回っている。

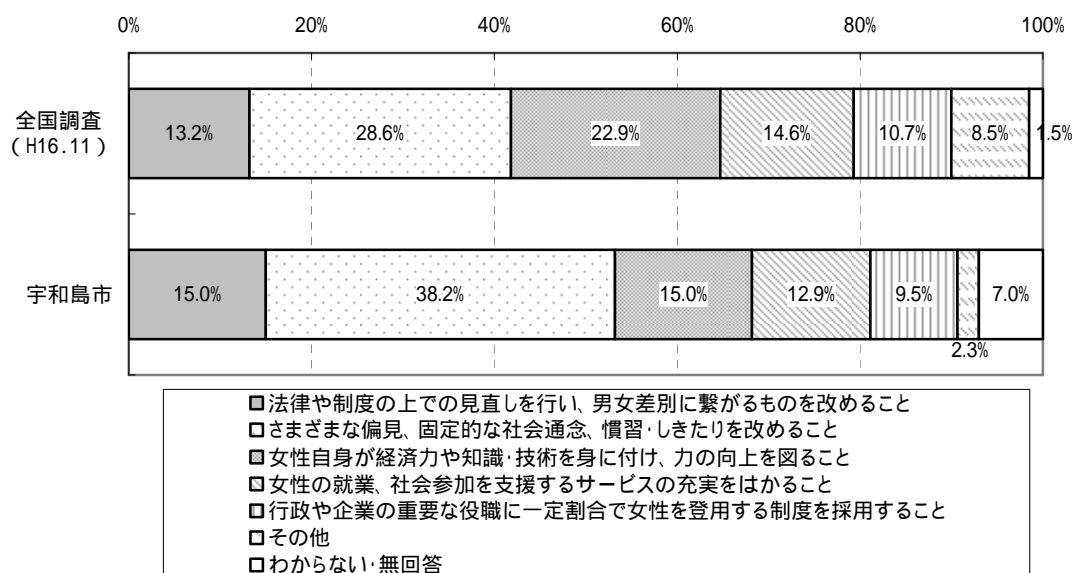
【問5 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために必要なこと】



【参考】

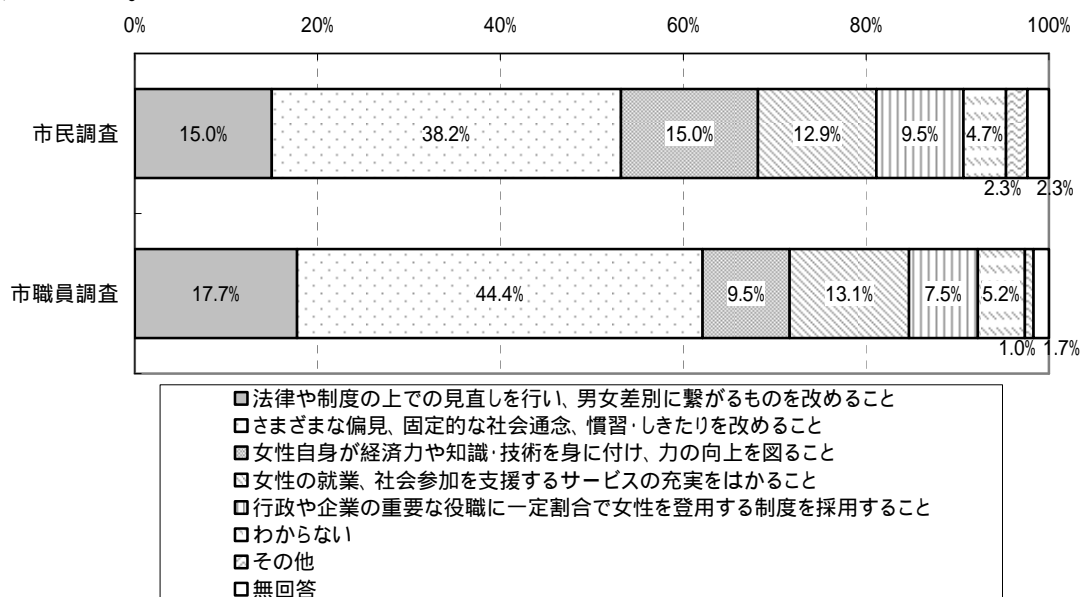
全国調査（H16.11実施）結果比較

全国調査と比較してみると、「さまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」（全国：28.6%、宇和島市：38.2%）が最も多くなっている。次いで「女性自身が経済力や知識・技術を身につけ力の向上を図ること」の回答となっているが、全国が22.9%に対し宇和島市では15.0%と7.9ポイント下回っている。



宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「さまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」（市民：38.2%、市職員：44.4%）が最も多く、次いで「法律や制度の見直しを行い、男女差別に繋がるものを改めること」、「女性自身が経済力や知識・技術を身につけ力の向上を図ること」、「女性の就業、社会参加を支援するサービスの充実を図ること」の回答が多く、あまり大きな違いはみられない。



2. 男女の人権に関する問題について

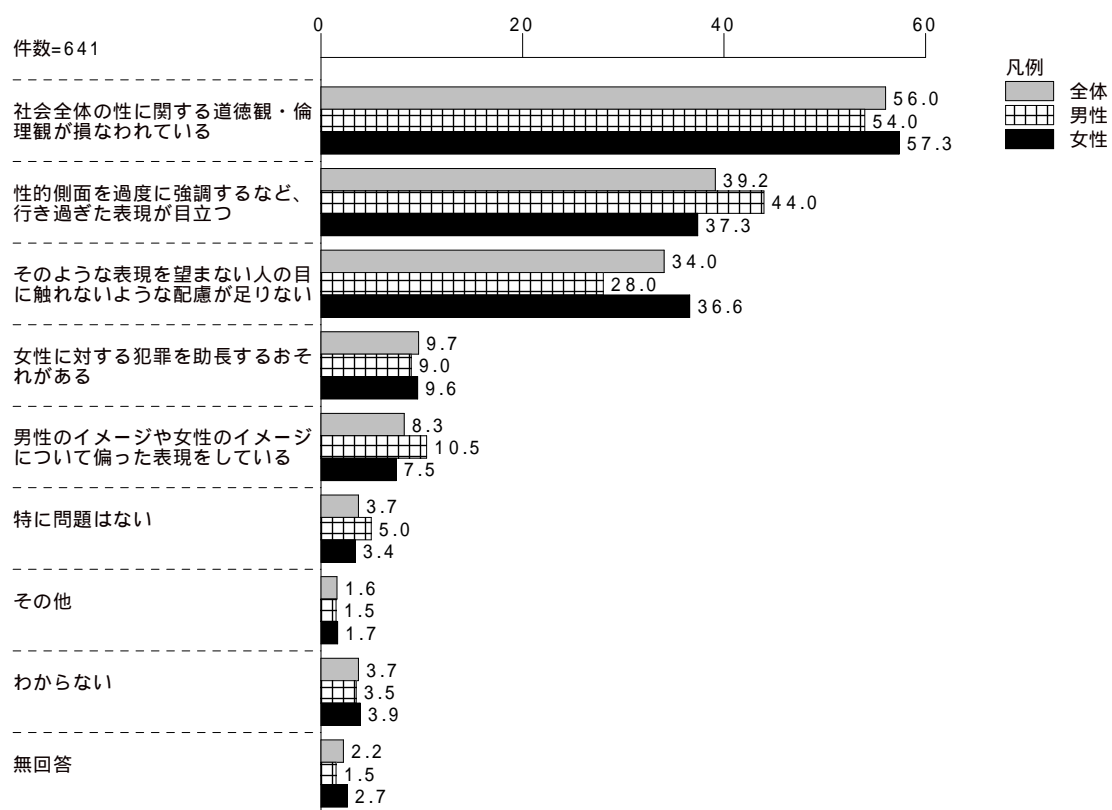
問6 メディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。

【 は2つ以内】

メディアにおける性・暴力表現について、全体では「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が56.0%で最も多く、次いで「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」(39.2%)、「そのような表現を望まない人の目に触れないような配慮が足りない」(34.0%)の順となっている。

性別で見ると、男女とも「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」(男性:54.0% 女性:57.3%)との回答が50%を超えている。

【問6 メディアにおける性・暴力表現について】

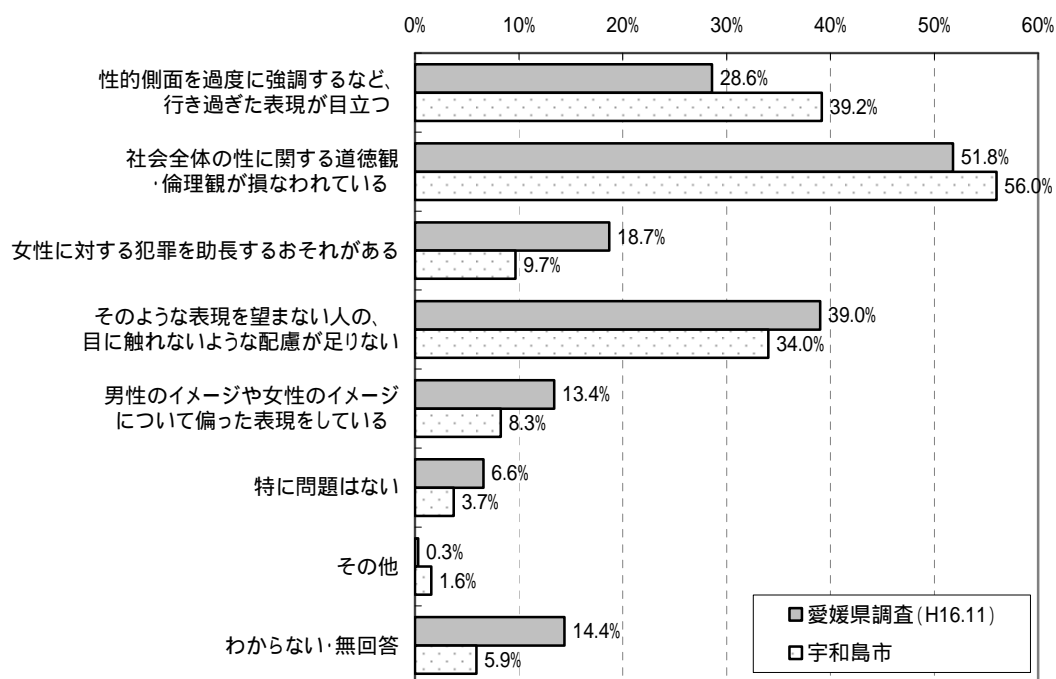


【参考】

愛媛県調査（H16.11実施）結果比較

愛媛県調査と比較してみると、ともに「社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれている」（愛媛県：51.8%、宇和島市：56.0%）が最も多くなっている。次いで宇和島市では「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」の回答が39.2%と、愛媛県の28.6%に比べ突出して多くなっている。

また、「女性に対する犯罪を助長するおそれがある」の回答が愛媛県の18.7%に対し、宇和島市では9.7%と約半分の割合となっている。



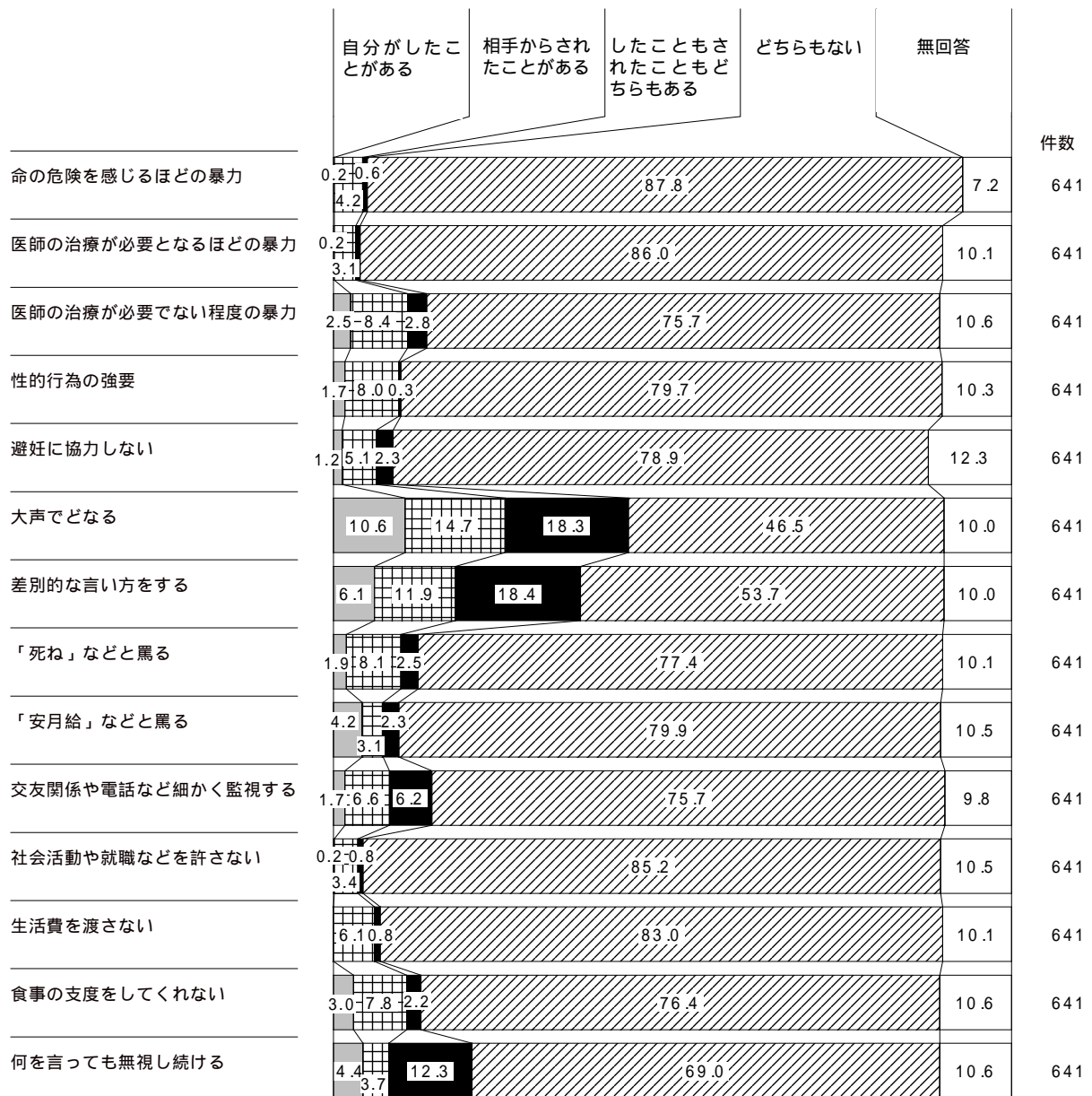
問7 最近、配偶者間や恋人同士などの親しい男女の間で、身体的・心理的・経済的な暴力(ドメスティック・バイオレンス)が問題となっています。

(1) あなたは、次にあげるような行為を配偶者・恋人からされた、あるいはあなたが、配偶者・恋人に対して行ったことがありますか。次の項目ごとにお答えください。

配偶者・恋人からされた、あるいは配偶者・恋人に対して行ったことがある行為について、すべての項目で「相手からされたことがある」や「したこともされたこともある」との回答があった。

“大声でどなる”や“差別的な言い方をする”では、「自分がしたことがある」が約10%、「相手からされたことがある」も約10%、「したこともされたこともどちらもある」が約20%と、他の項目に比べて高い回答率となっている。

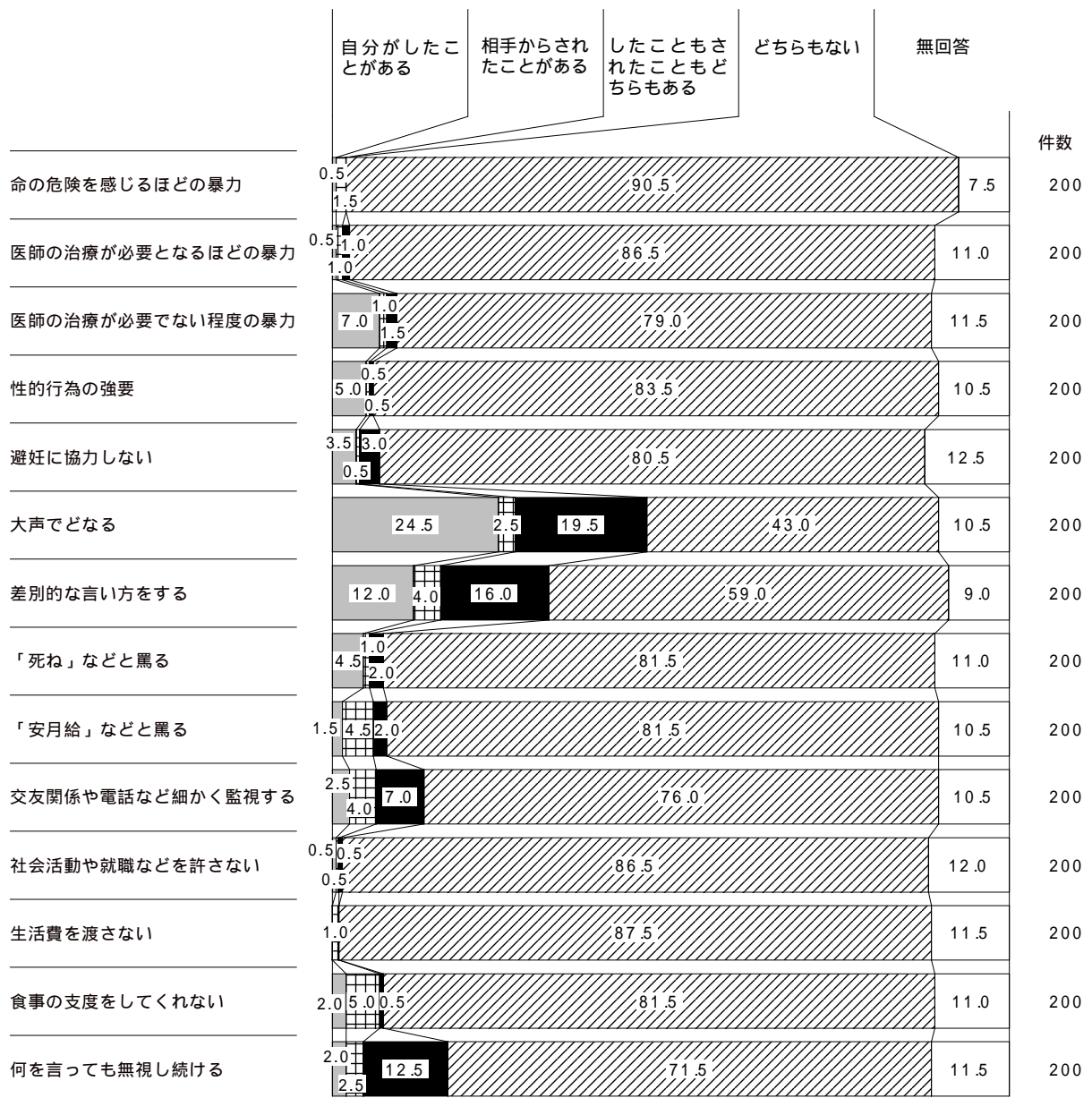
【問7(1) 配偶者・恋人間の暴力】



配偶者・恋人からされた、あるいは配偶者・恋人に対して行ったことがある行為について、男性の回答では、“生活費を渡さない”を除くすべての項目で「自分がしたことがある」との回答があった。

“大声でどなる”や“差別的な言い方をする”では、「自分がしたことがある」、「したこともされたこともどちらもある」の回答率が、他の暴力に比べて高くなっている。

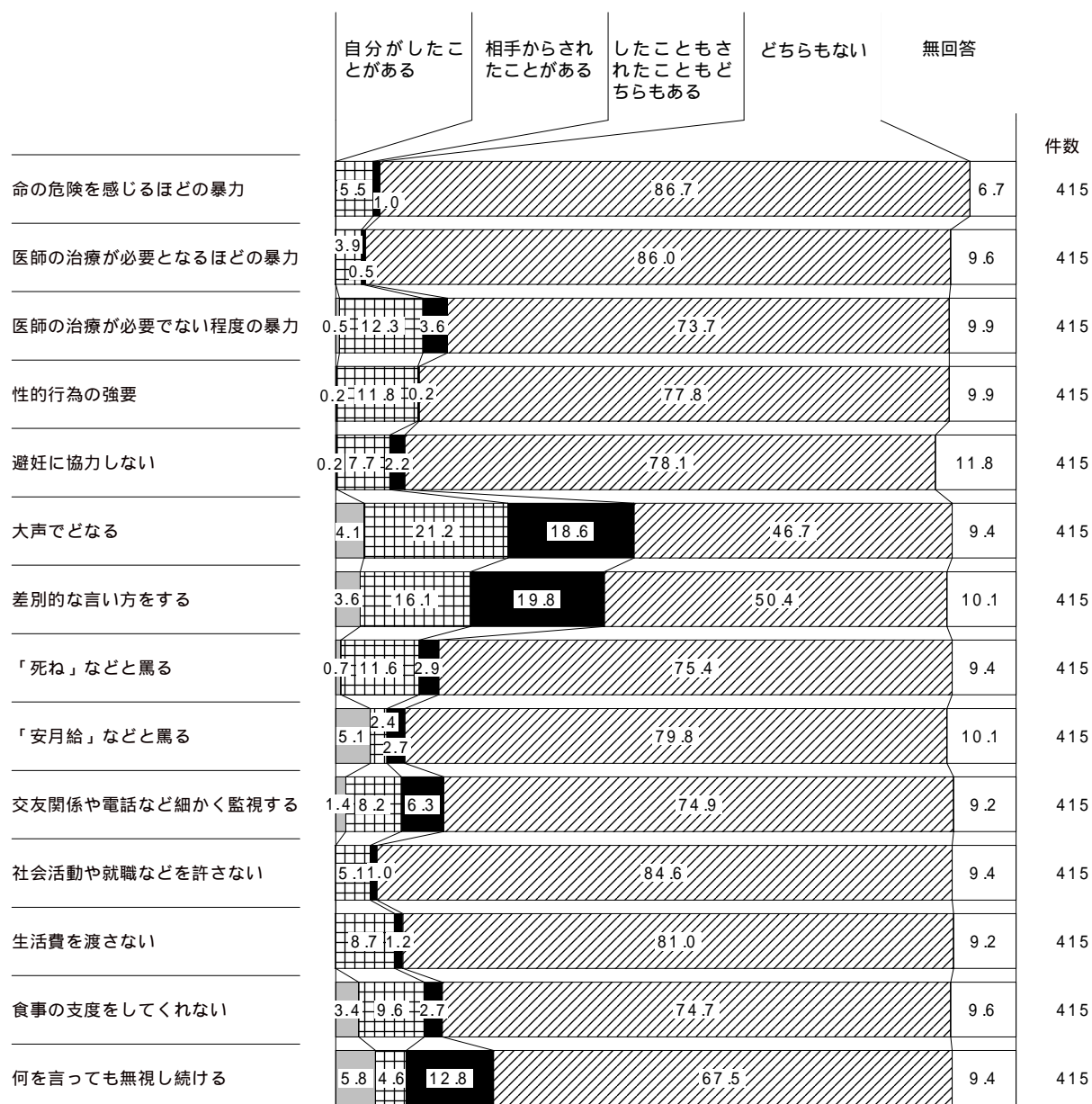
【問7(1) 配偶者・恋人間の暴力(男性)】



配偶者・恋人からされた、あるいは配偶者・恋人に対して行ったことがある行為について、女性の回答では、すべての項目で「相手からされたことがある」との回答があった。

“大声でどなる”や“差別的な言い方をする”では、「相手からされたことがある」、「したこともされたこともどちらもある」の回答率が他の暴力に比べて高くなっている。

【問7(1) 配偶者・恋人間の暴力(女性)】



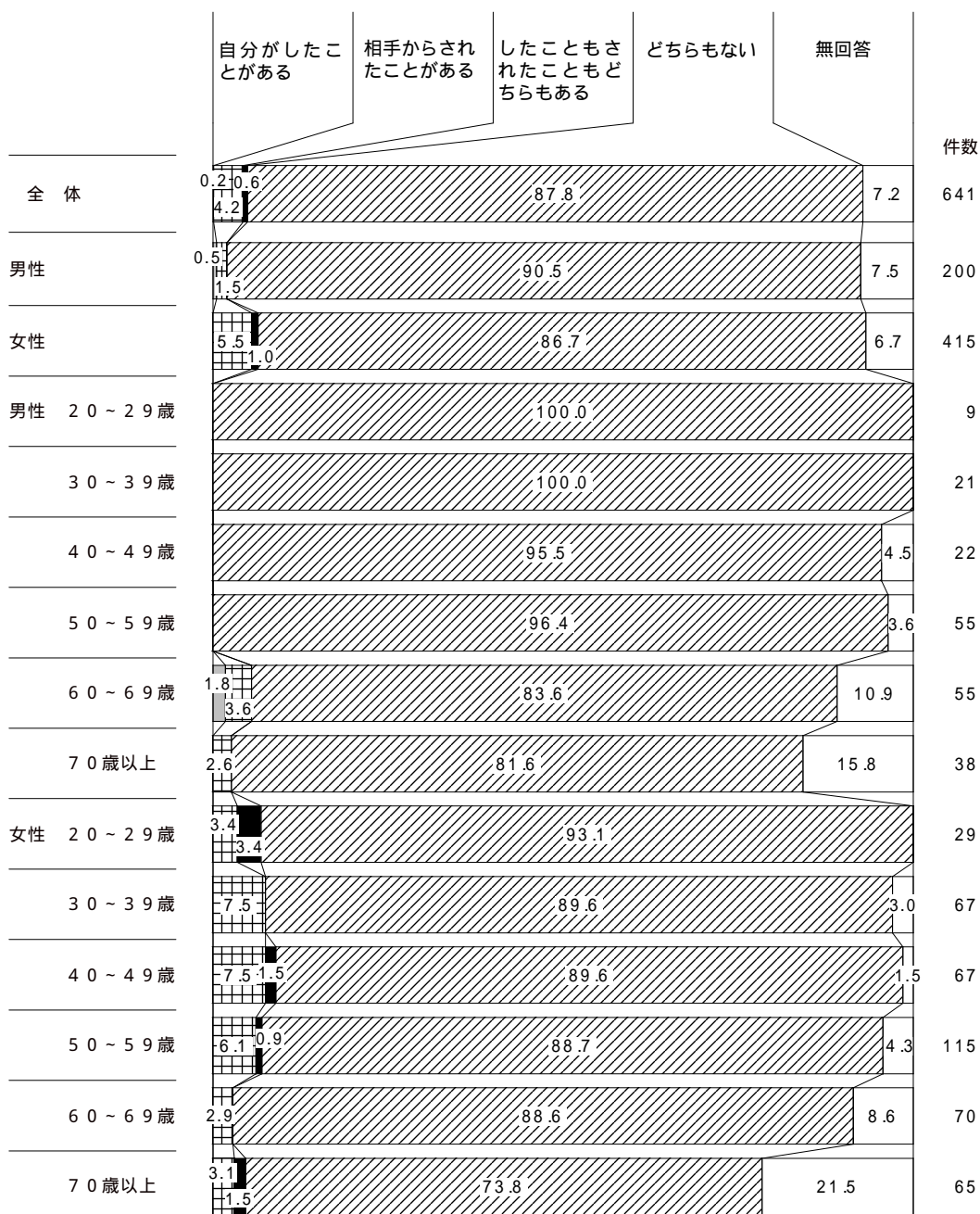
(ア) 命の危険を感じるほどの暴力

“命の危険を感じるほどの暴力”について、全体では「自分がしたことがある」0.2%、「相手からされたことがある」4.2%、「したこともされたこともどちらもある」0.6%となっている。

性別で見ると、女性では「相手からされたことがある」が5.5%となっている。

性・年齢別で見ると、女性のすべての年齢層で「相手からされたことがある」との回答があった。

【問7(1) ア 命の危険を感じるほどの暴力】

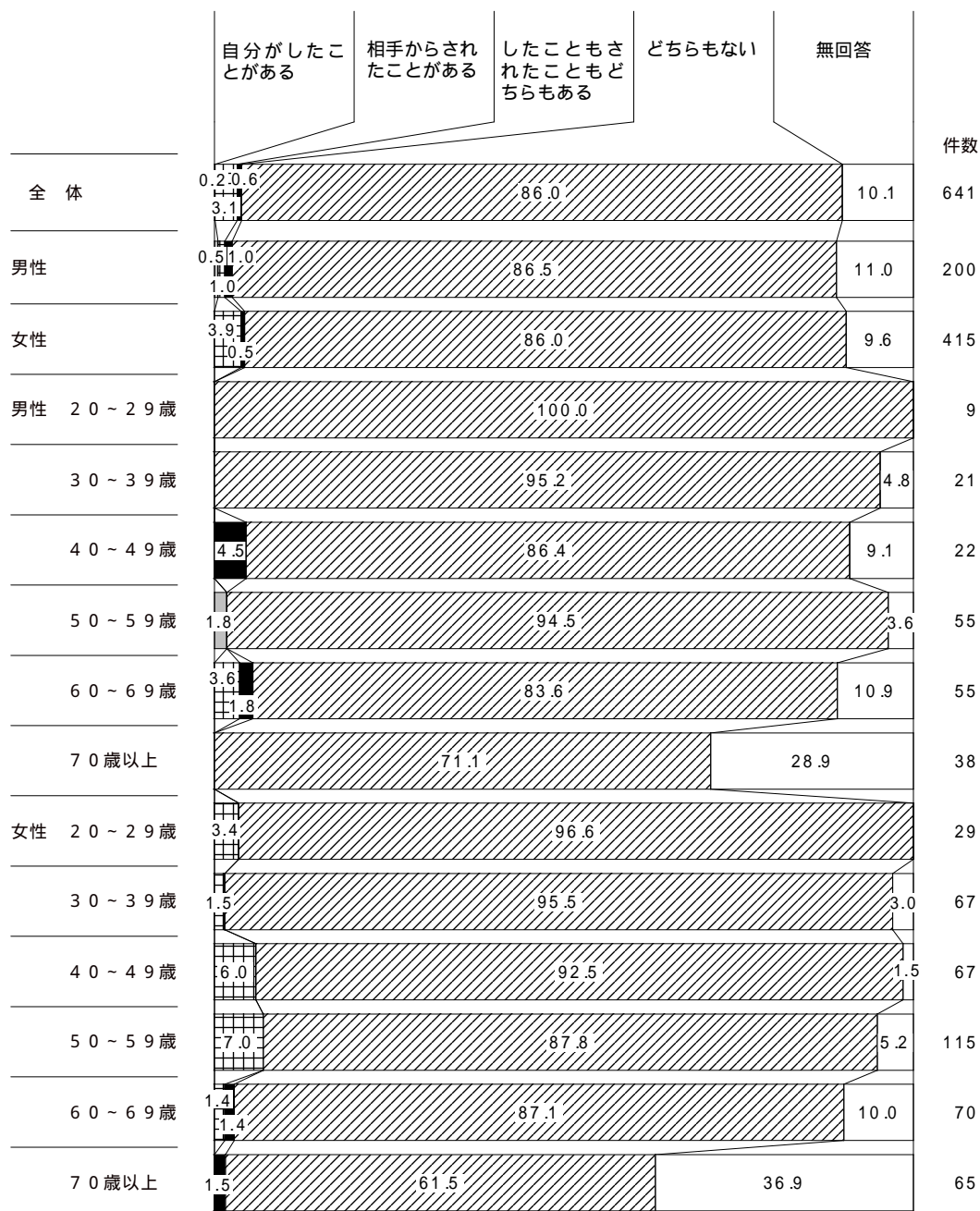


(イ) 医師の治療が必要となるほどの暴力

“ 医師の治療が必要となるほどの暴力 ” について、全体では「自分がしたことがある」0.2%、「相手からされたことがある」3.1%、「したこともされたこともどちらもある」0.6%となっている。

性別で見ると、女性では「相手からされたことがある」が3.9%となっている。

【問7(1) イ 医師の治療が必要となるほどの暴力】



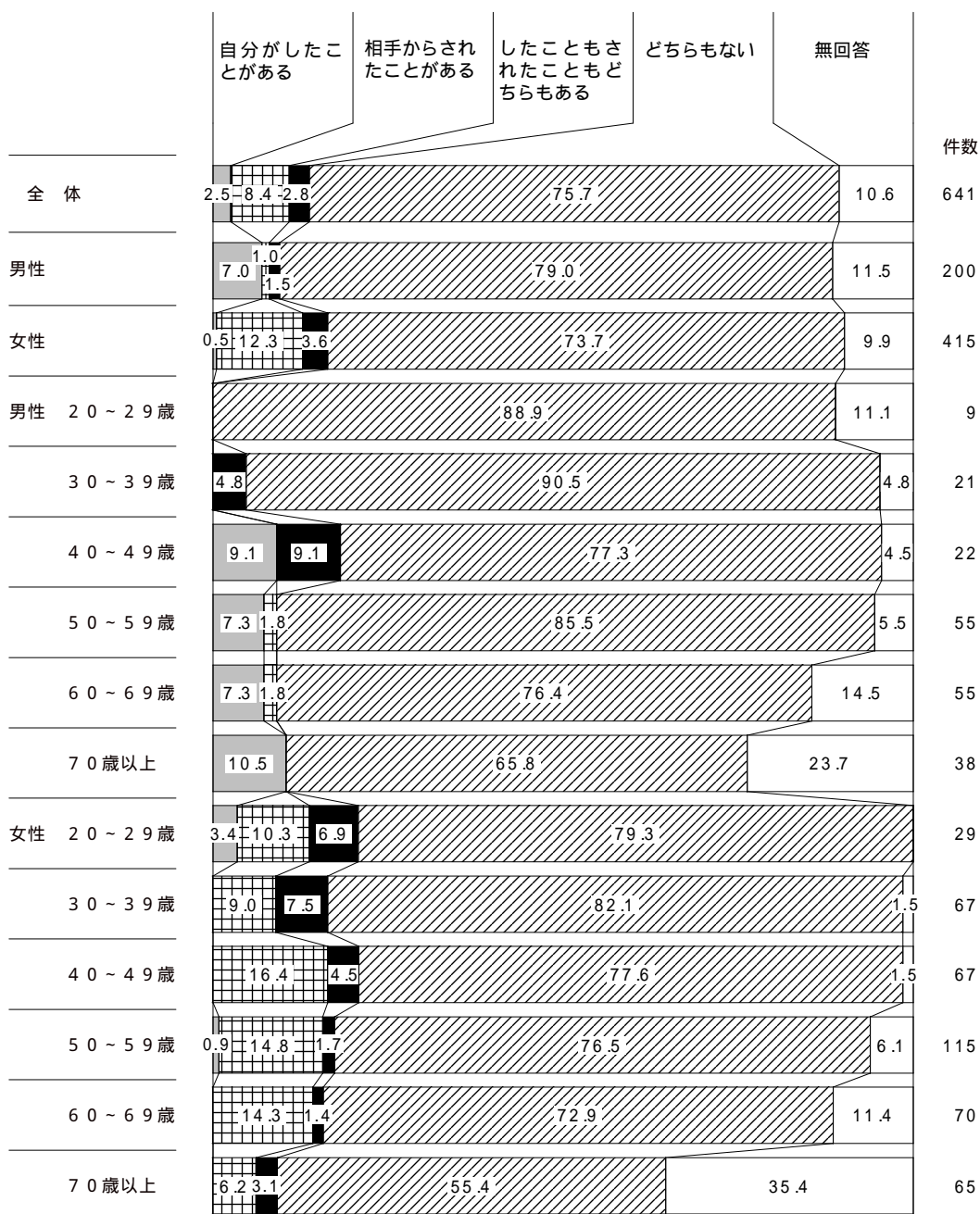
(ウ) 医師の治療が必要とならない程度の暴力

“ 医師の治療が必要とならない程度の暴力 ” について、全体では「自分がしたことがある」2.5%、「相手からされたことがある」8.4%、「したこともされたこともどちらもある」2.8%となっている。

性別で見ると、男性では「自分がしたことがある」が7.0%、女性では「相手からされたことがある」が12.3%となっている。

性・年齢別で見ると、40代以上の男性で「自分がしたことがある」との回答が約10%あり、女性ではすべての年齢層で「相手からされたことがある」との回答があった。

【問7(1) ウ 医師の治療が必要とならない程度の暴力】



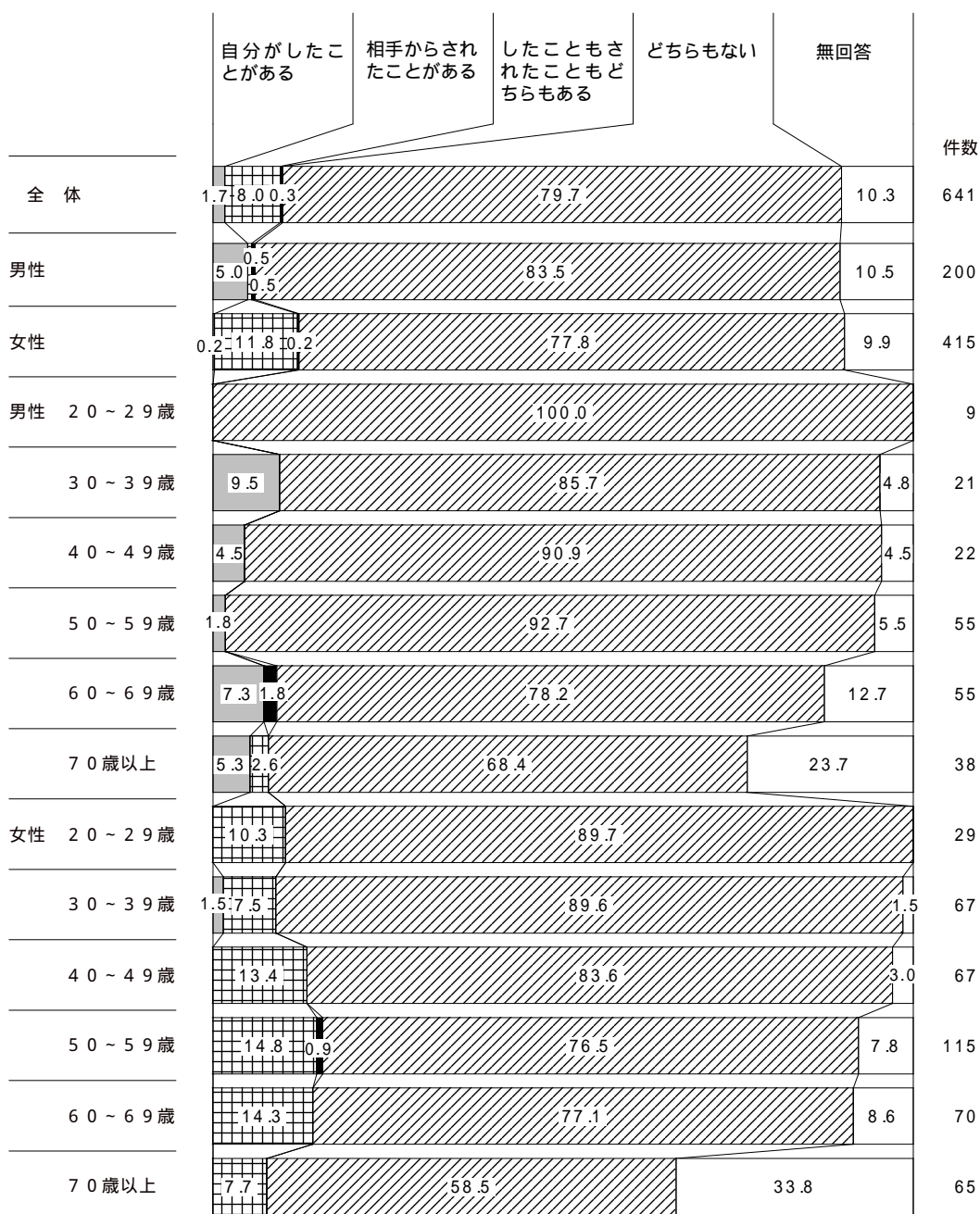
(エ) いやがっているのに性的行為を強要する

“いやがっているのに性的行為を強要する”について、全体では「自分がしたことがある」1.7%、「相手からされたことがある」8.0%、「したこともされたこともどちらもある」0.3%となっている。

性別で見ると、男性では「自分がしたことがある」が5.0%、女性では「相手からされたことがある」が11.8%となっている。

性・年齢別で見ると、30代以上の男性で「自分がしたことがある」との回答があり、女性ではすべての年齢層で「相手からされたことがある」との回答があった。

【問7(1) エ いやがっているのに性的行為を強要する】



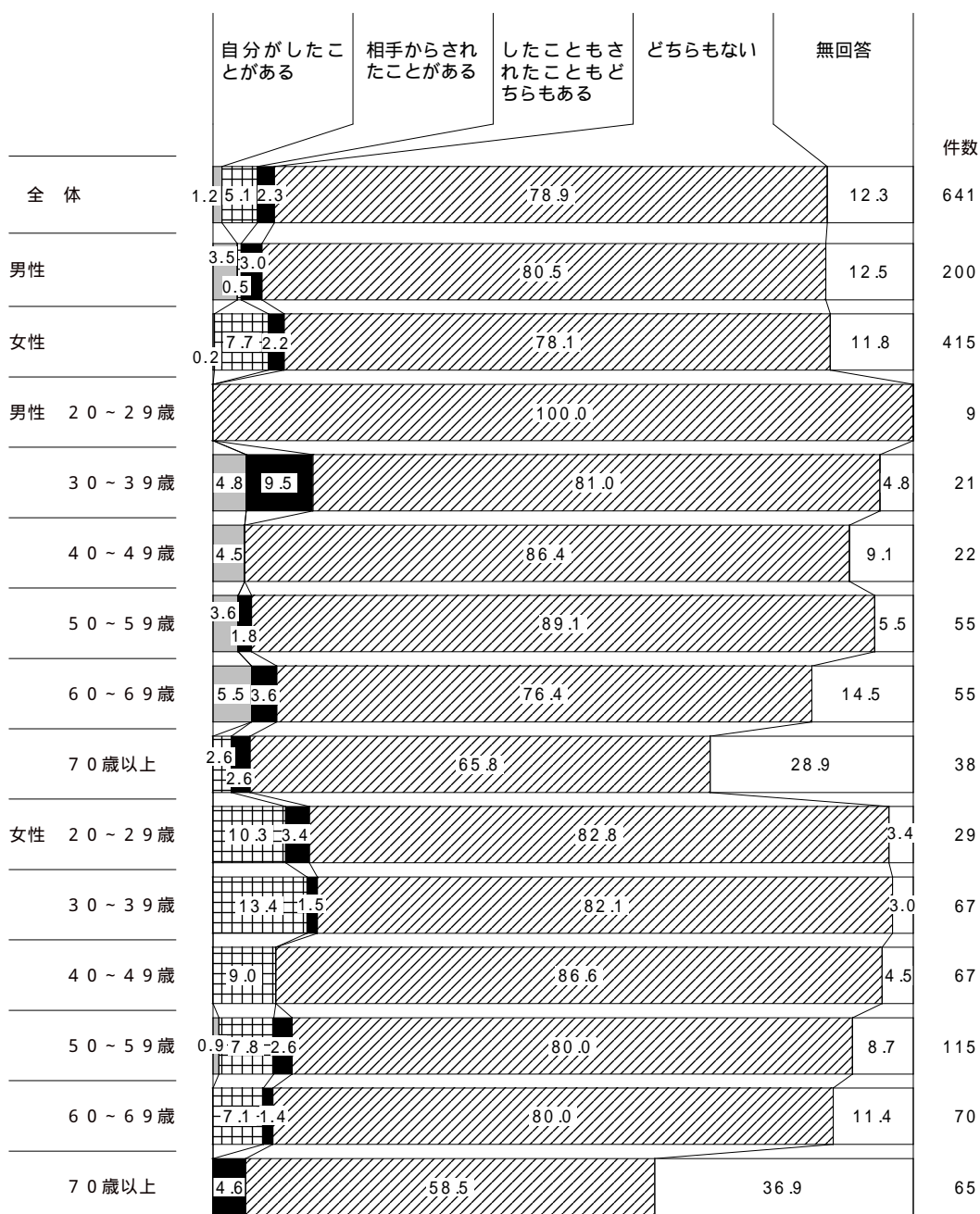
(オ) 避妊に協力しない

“避妊に協力しない”について、全体では「自分がしたことがある」1.2%、「相手からされたことがある」5.1%、「したこともされたこともどちらもある」2.3%となっている。

性別で見ると、男性では「自分がしたことがある」が3.5%、女性では「相手からされたことがある」が7.7%となっている。

性・年齢別で見ると、30代から60代の男性で「自分がしたことがある」との回答が約5%あり、女性では70歳以上を除きすべての年齢層で「相手からされたことがある」との回答が約10%あった。

【問7(1) オ 避妊に協力しない】



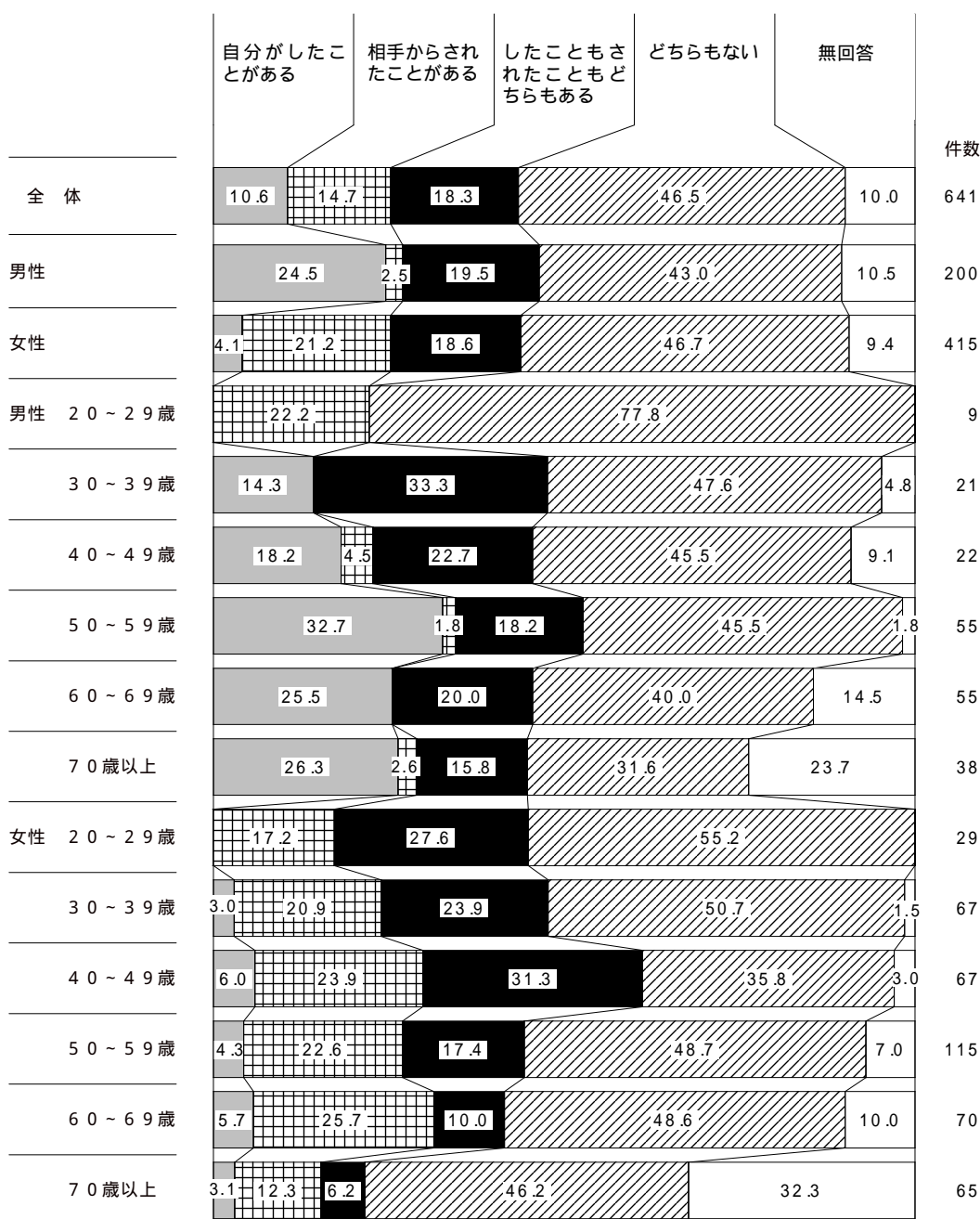
(カ) 大声でどなる

“ 大声でどなる ” について、全体では「自分がしたことがある」10.6%、「相手からされたことがある」14.7%、「したこともされたこともどちらもある」18.3%となっている。

性別で見ると、男性では「自分がしたことがある」が5.0%、女性では「相手からされたことがある」が11.8%となっている。

性・年齢別で見ると、30代以上の男性で「自分がしたことがある」の回答率が女性に比べて高く、女性ではすべての年齢層で「相手からされたことがある」の回答率が男性に比べて高くなっている。また、「したこともされたこともどちらもある」との回答は、男女とも約10~30%ある。

【問7(1) カ 大声でどなる】



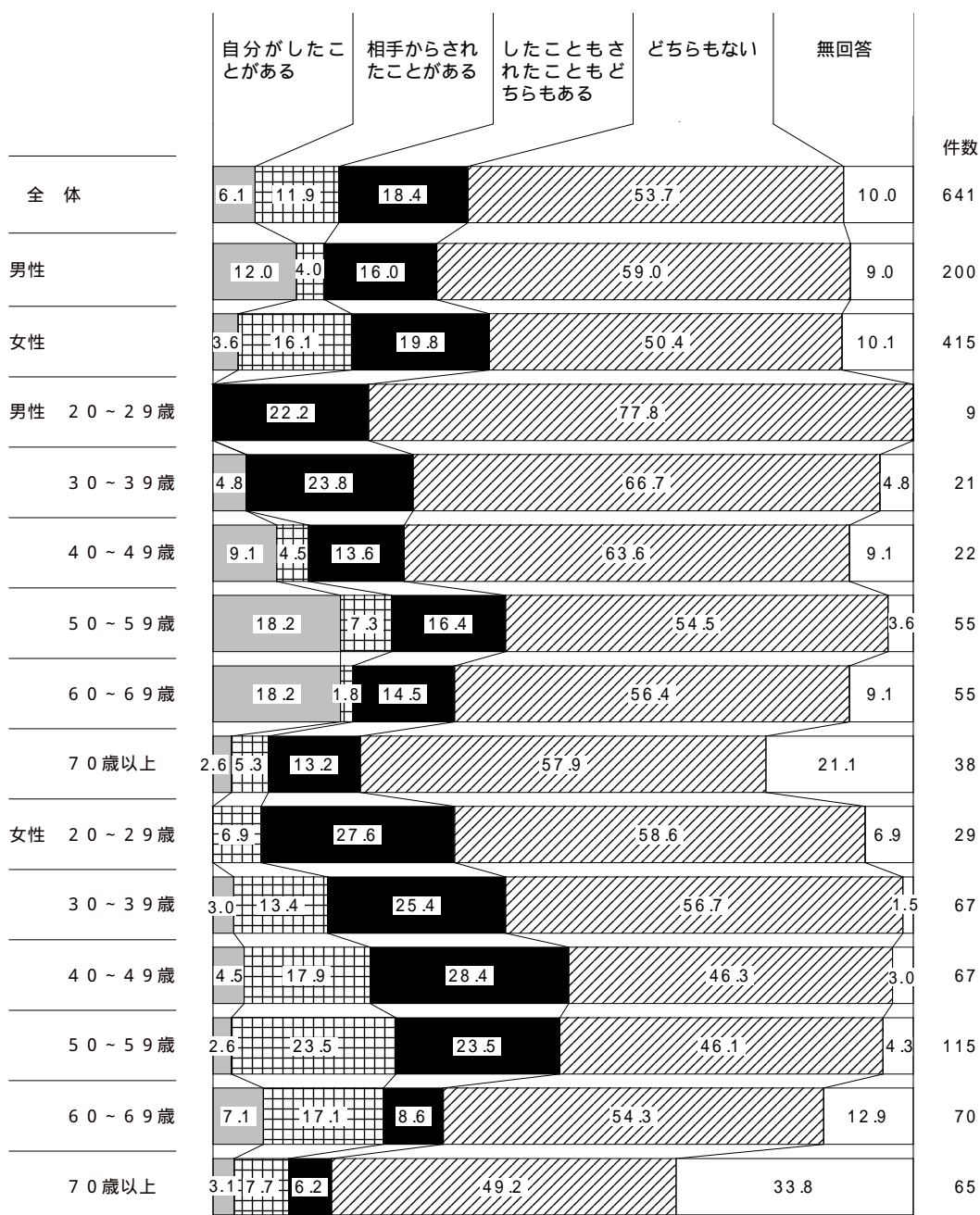
(キ)「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をする

“「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をする”について、全体では「自分がしたことがある」6.1%、「相手からされたことがある」11.9%、「したこともされたこともどちらもある」18.4%となっている。

性別で見ると、男性では「したこともされたこともどちらもある」16.0%、「自分がしたことがある」12.0%、女性では「したこともされたこともどちらもある」19.8%、「相手からされたことがある」16.1%となっている。

性・年齢別で見ると、男性ではすべての年齢層で「したこともされたこともどちらもある」が10~20%、50代、60代の男性で「自分がしたことがある」が約20%となっている。女性ではすべての年齢層で「相手からされたことがある」が10~20%、20代から50代の女性で「したこともされたこともどちらもある」との回答が20%以上あった。

【問7(1) キ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をする】



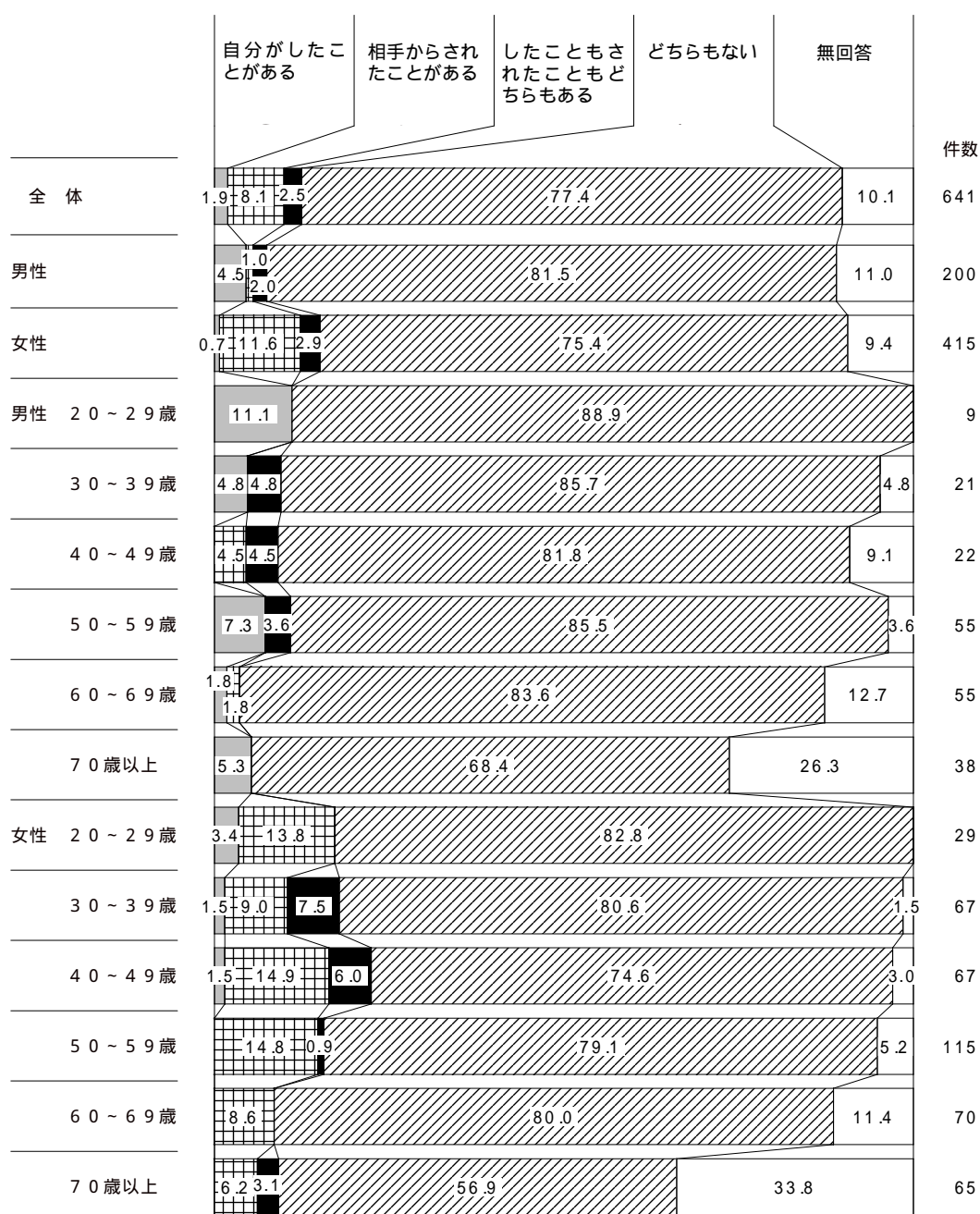
(ク)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「死ね」などとののしる

“「誰のおかげで生活できるんだ」とか「死ね」などとののしる”について、全体では「自分がしたことがある」1.9%、「相手からされたことがある」8.1%、「したこともされたこともどちらもある」2.5%となっている。

性別でみると、男性では「自分がしたことがある」が4.5%、女性では「相手からされたことがある」が11.6%となっている。

性・年齢別でみると、30代から50代の男性で「したこともされたこともどちらもある」が約5%、30代、40代の女性で「したこともされたこともどちらもある」が約10%となっている。また、女性ではすべての年齢層で「相手からされたことがある」との回答があった。

【問7(1) ク 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「死ね」などとののしる】



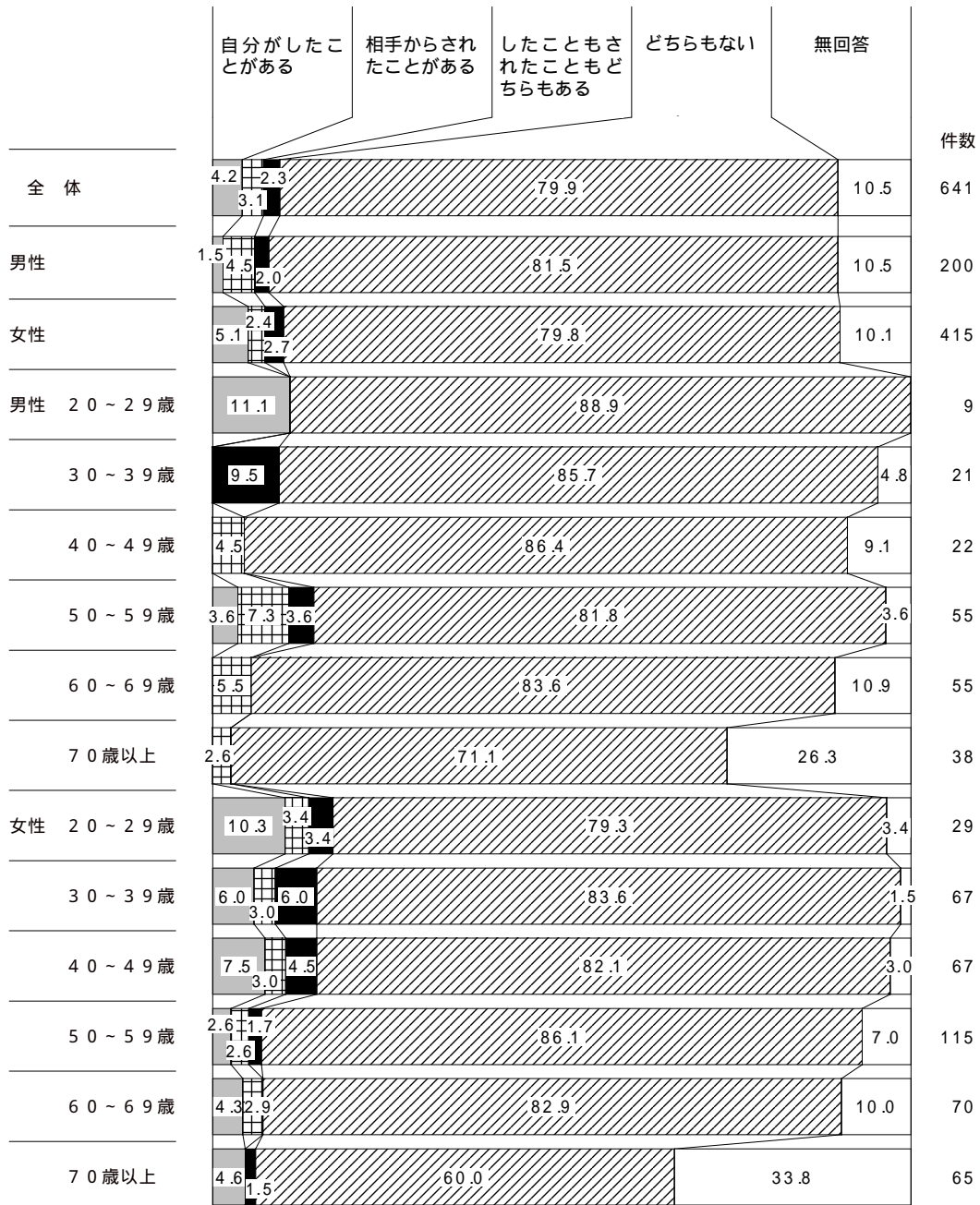
(ケ)「安月給」や「甲斐性なし」などとののしる

“「安月給」や「甲斐性なし」などとののしる”について、全体では「自分がしたことがある」4.2%、「相手からされたことがある」3.1%、「したこともされたこともどちらもある」2.3%となっている。

性別で見ると、男性では「相手からされたことがある」が4.5%、女性では「自分がしたことがある」が5.1%となっている。

性・年齢別で見ると、女性ではすべての年齢層で「自分がしたことがある」との回答があった。

【問7(1) ケ 「安月給」や「甲斐性なし」などとののしる】



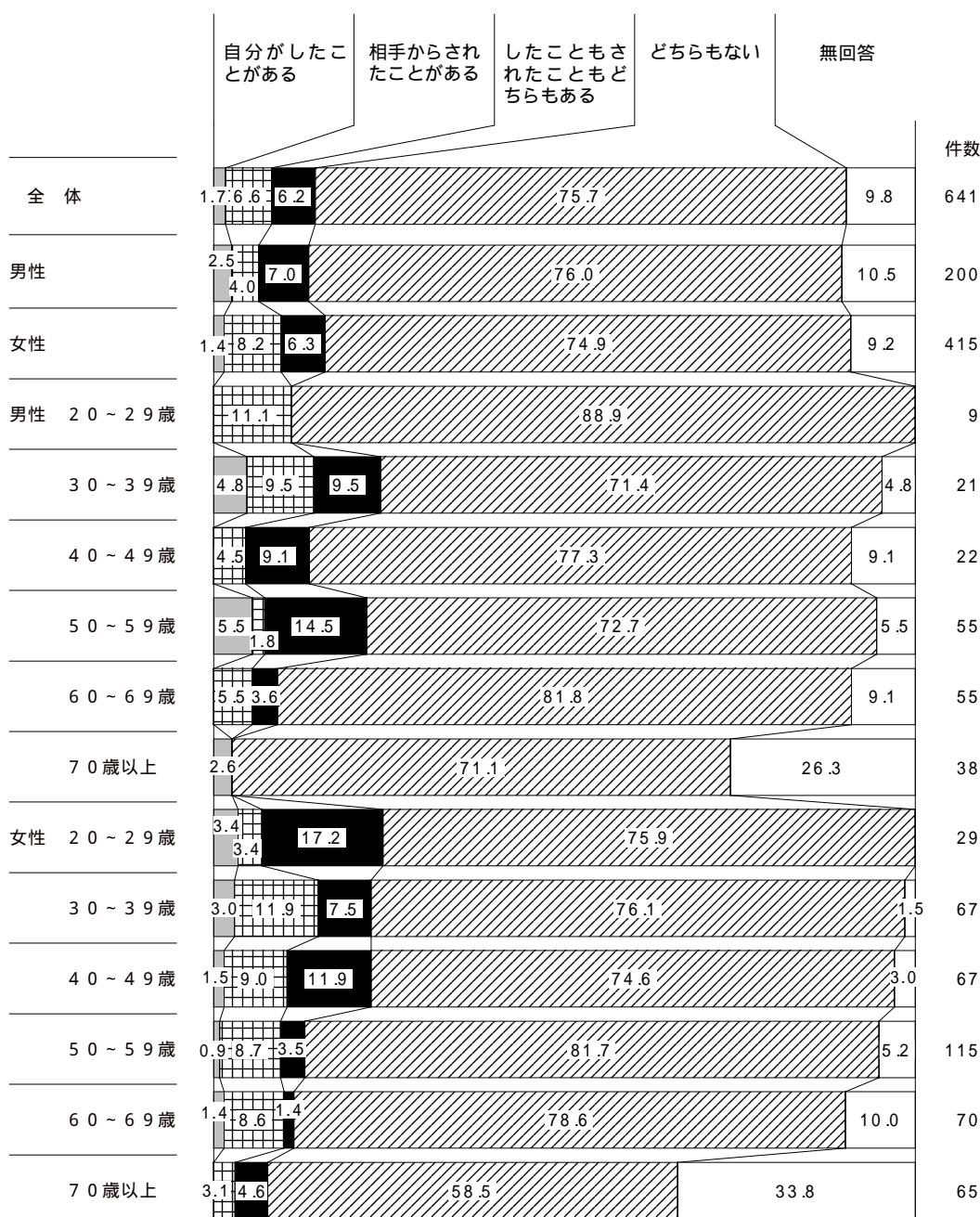
(コ) 交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する

“交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する”について、全体では「自分がしたことがある」1.7%、「相手からされたことがある」6.6%、「したこともされたこともどちらもある」6.2%となっている。

性別で見ると、男性では「相手からされたことがある」4.0%、「したこともされたこともどちらもある」7.0%、女性では「相手からされたことがある」8.2%、「したこともされたこともどちらもある」6.3%となっている。

性・年齢別で見ると、女性では70歳以上を除くすべての年齢層で「自分がしたことがある」との回答があった。

【問7(1) コ 交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する】



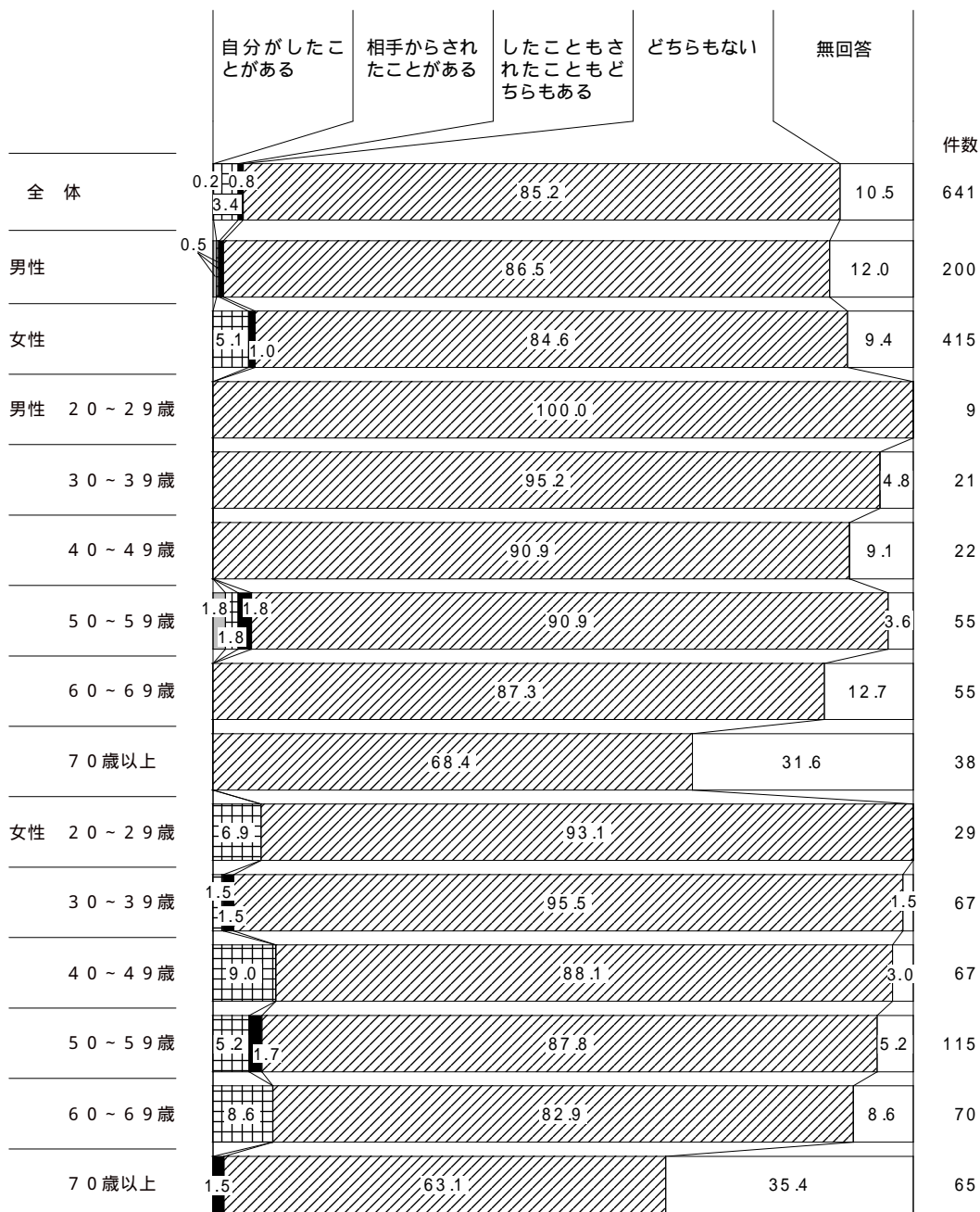
(サ) 社会活動や就職などを許さない

“社会活動や就職などを許さない”について、全体では「自分がしたことがある」0.2%、「相手からされたことがある」3.4%、「したこともされたこともどちらもある」85.2%となっている。

性別で見ると、女性では「相手からされたことがある」が5.1%となっている。

性・年齢別で見ると、20代、40代、50代、60代の女性で「相手からされたことがある」との回答が約10%あった。

【問7(1) サ 社会活動や就職などを許さない】



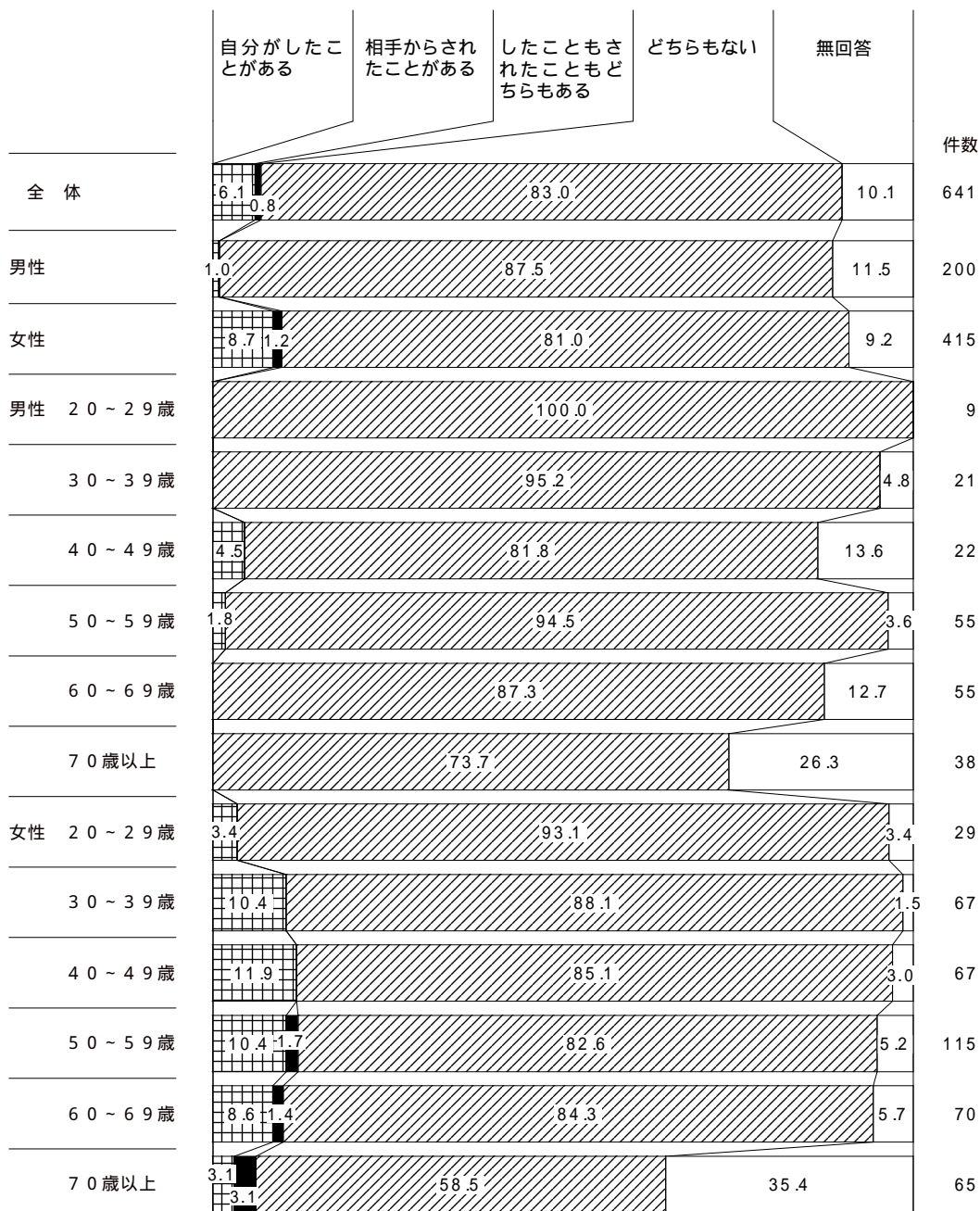
(シ) 生活費を渡さない

“生活費を渡さない”について、全体では「相手からされたことがある」6.1%、「したこともされたこともどちらもある」0.8%となっている。

性別でみると、女性では「相手からされたことがある」が8.7%となっている。

性・年齢別でみると、すべての年齢層の女性で「相手からされたことがある」との回答があった。

【問7(1) シ 生活費を渡さない】



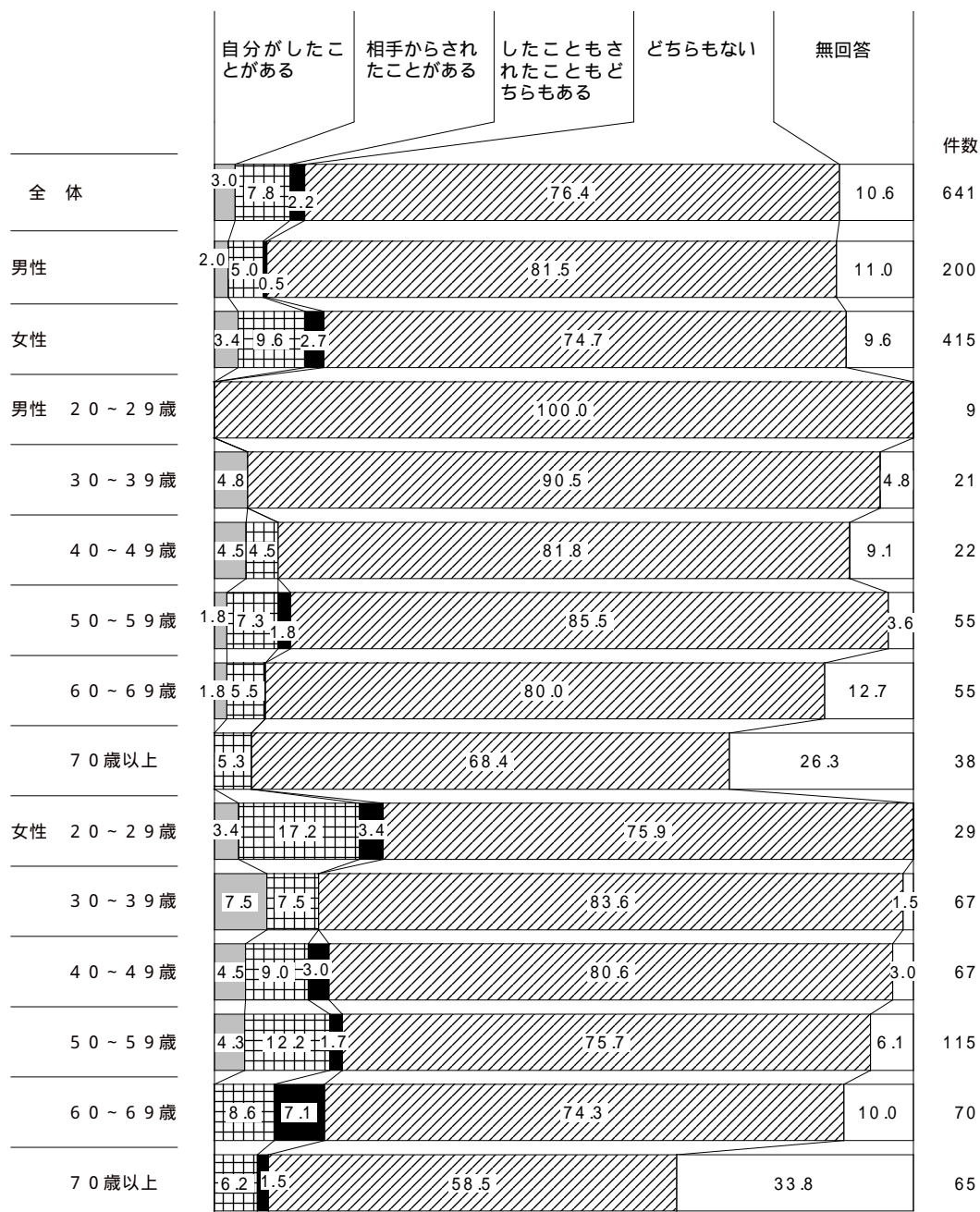
(ス) 食事の支度をしてくれない

“食事の支度をしてくれない”について、全体では「自分がしたことがある」3.0%、「相手からされたことがある」7.8%、「したこともされたこともどちらもある」2.2%となっている。

性別で見ると、女性では「相手からされたことがある」が8.7%となっている。

性・年齢別で見ると、男性の30代から60代、女性の20代から50代で「自分がしたことがある」との回答があった。

【問7(1) ス 食事の支度をしてくれない】



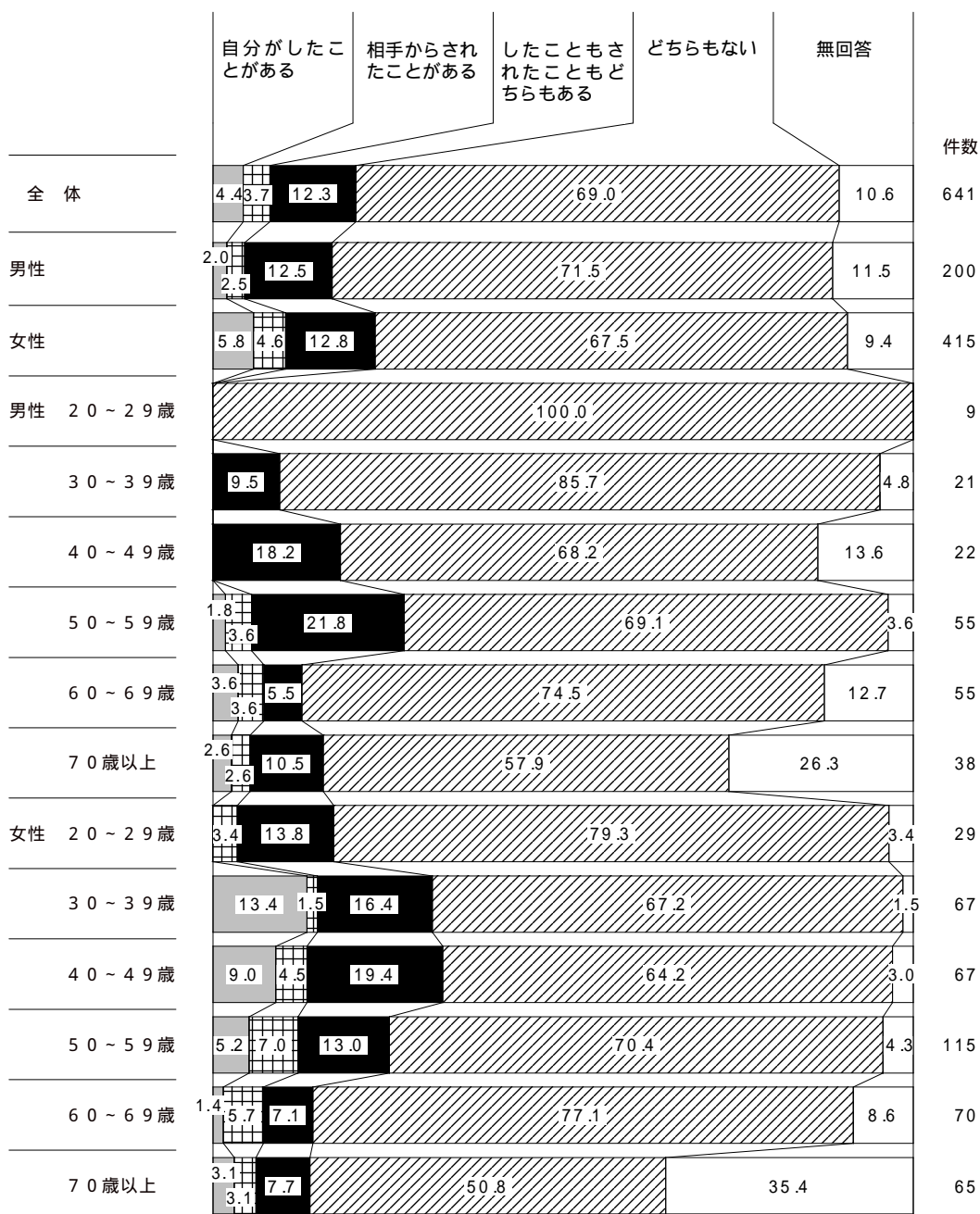
(セ) 何を言っても、無視し続ける

“何を言っても無視し続ける”について、全体では「自分がしたことがある」4.4%、「相手からされたことがある」3.7%、「したこともされたこともどちらもある」12.3%となっている。

性別で見ると、男女とも「したこともされたこともどちらもある」が約13%となっている。

性・年齢別で見ると、男性の40代、50代、女性の30代、40代で「したこともされたこともどちらもある」との回答が約20%あった。

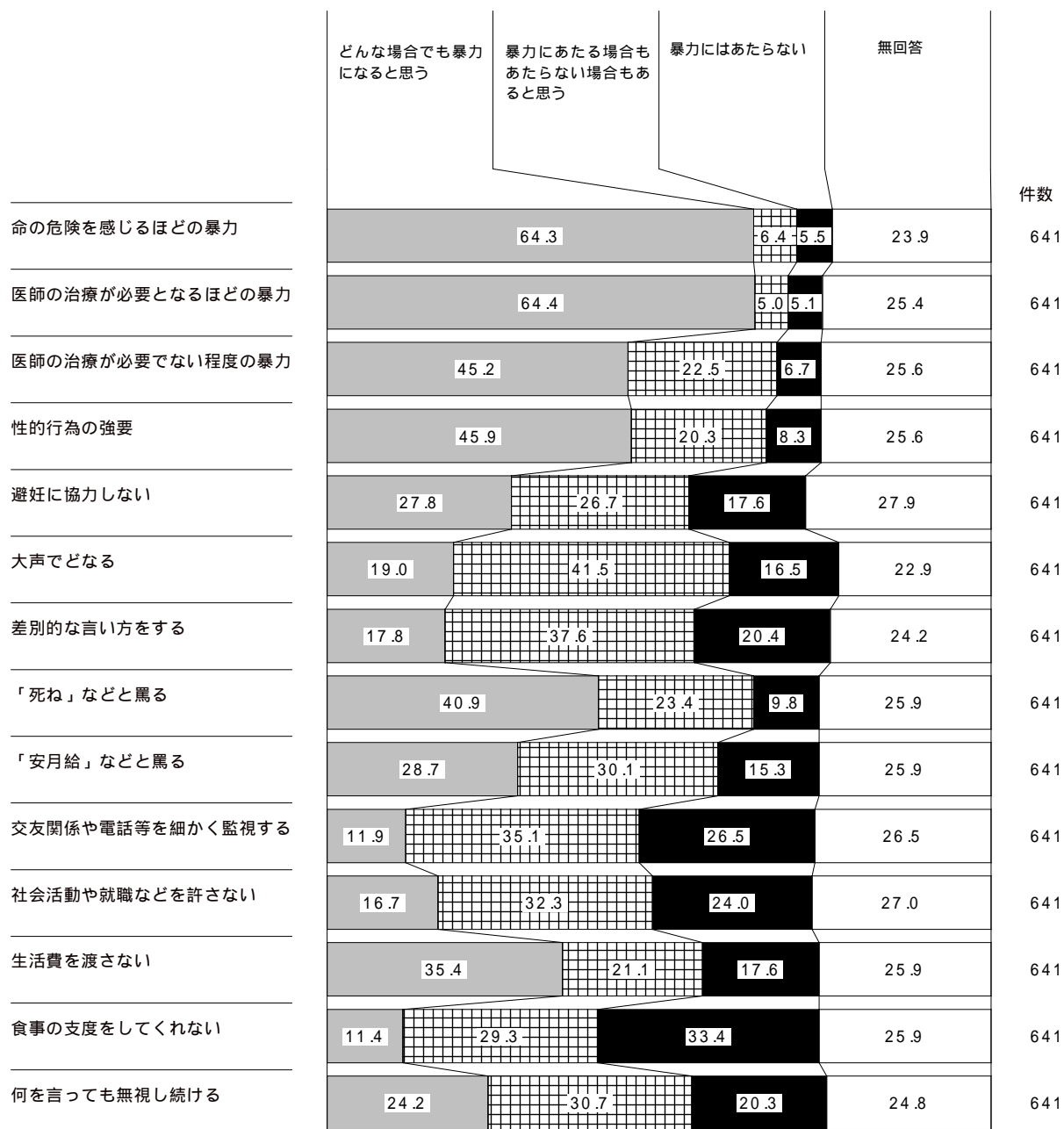
【問7(1) セ 何を言っても、無視し続ける】



(2) それで、暴力にあたるとお考えになるかどうかについても、お答えください。

“命の危険を感じるほどの暴力”や“医師の治療が必要となるほどの暴力”など身体的暴力では「どんな場合でも暴力になると思う」との回答が60%を超えて多くなっている。“食事の支度をしてくれない”、“交友関係や電話等を細かく監視する”、“社会活動や就職などを許さない”などは「暴力にはあたらない」と思う人が多くなっている。

【問7(2) 暴力にあたるかどうか】



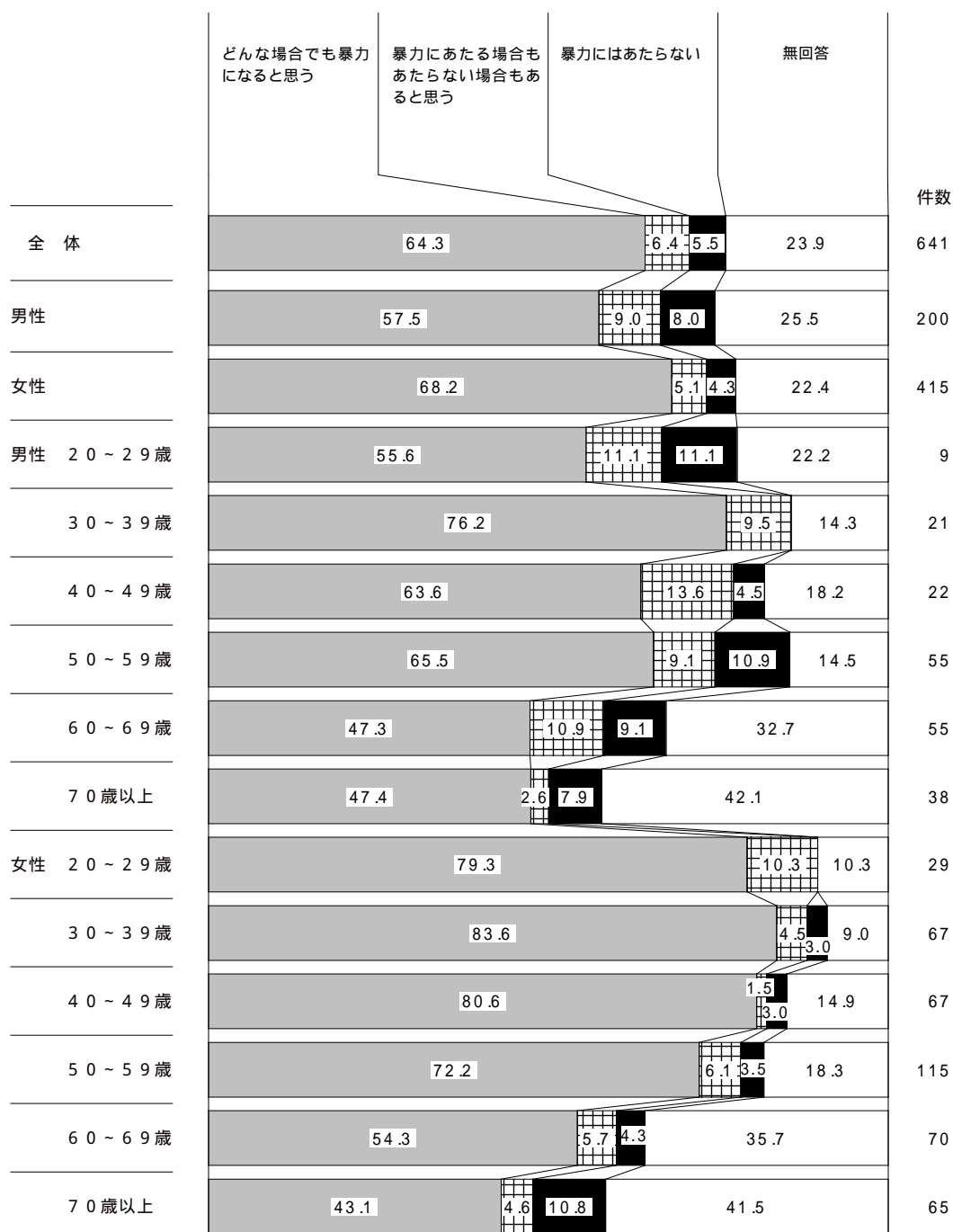
(ア) 命の危険を感じるほどの暴力

“ 命の危険を感じるほどの暴力 ”について、全体では「どんな場合でも暴力になると思う」64.3%、「暴力にあたる場合もあたらぬ場合もあると思う」6.4%、「暴力にはあたらぬ」5.5%となっている。

性別でみると、「どんな場合でも暴力になると思う」との回答が男性 57.5%、女性 68.2%で女性が10.7ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、70歳以上を除くすべての年齢層で「どんな場合でも暴力になると思う」の回答率について、女性が男性を上回っている。

【問7(2) ア 命の危険を感じるほどの暴力】



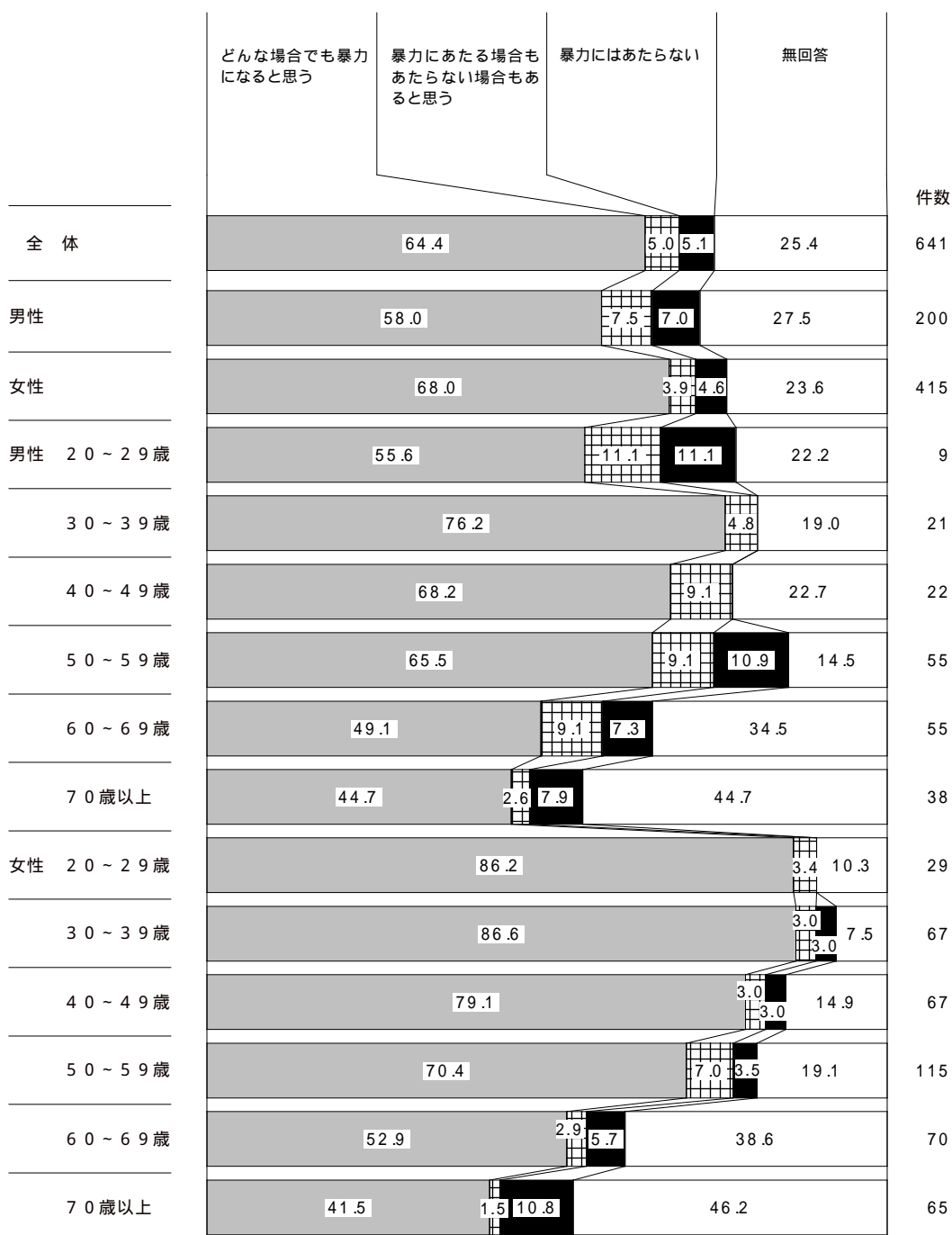
(イ) 医師の治療が必要となるほどの暴力

“ 医師の治療が必要となるほどの暴力 ” について、全体では「どんな場合でも暴力になると思う」64.4%、「暴力にあたる場合もあたらない場合もあると思う」5.0%、「暴力にはあたらない」5.1%となっている。

性別でみると、「どんな場合でも暴力になると思う」との回答が男性 58.0%、女性 68.0%で女性が10.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、70歳以上を除くすべての年齢層で「どんな場合でも暴力になると思う」の回答率について、女性が男性を上回っている。

【問7(2) イ 医師の治療が必要となるほどの暴力】



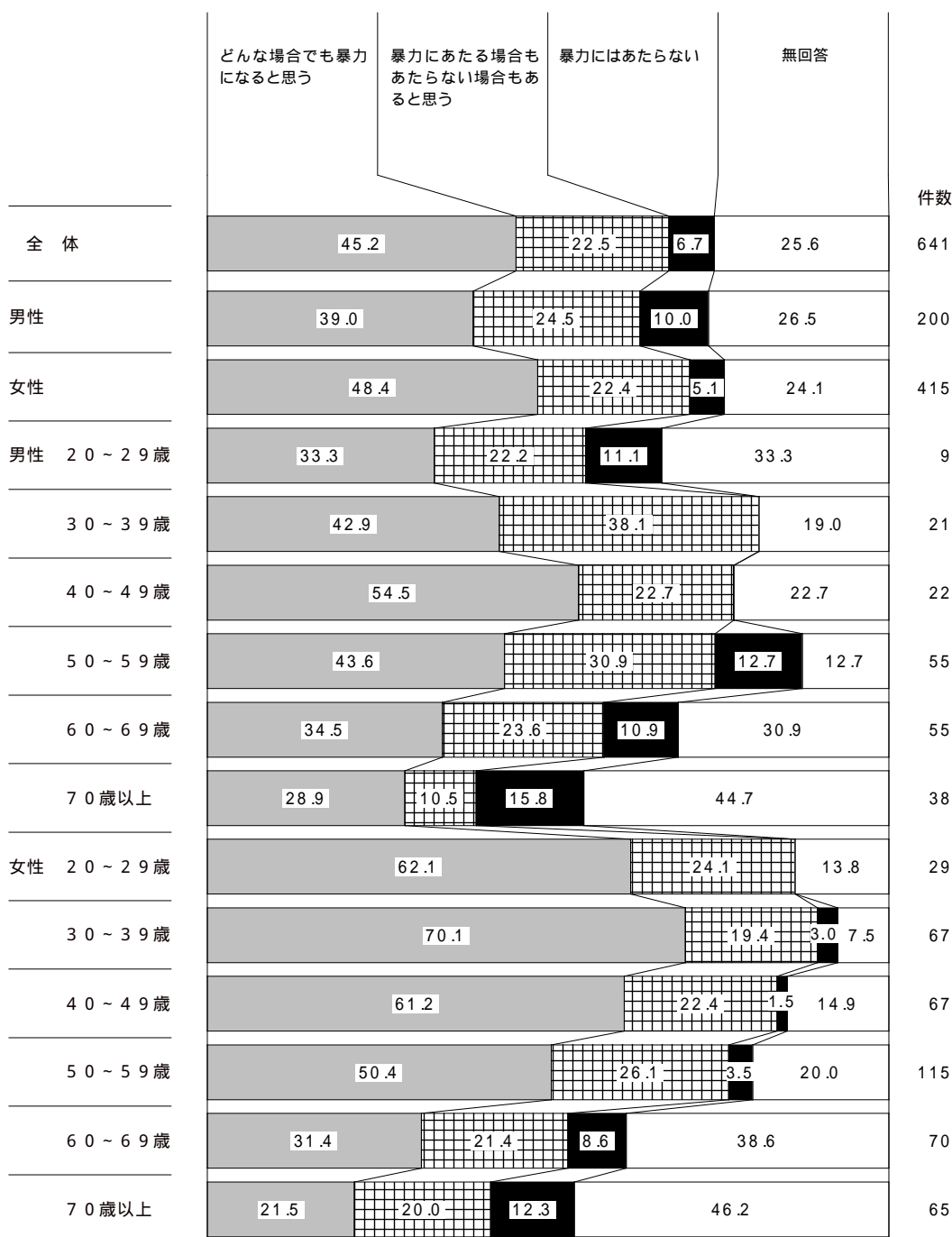
(ウ) 医師の治療が必要とならない程度の暴力

“ 医師の治療が必要とならない程度の暴力 ” について、全体では「どんな場合でも暴力になると思う」45.2%、「暴力にあたる場合もあたらない場合もあると思う」22.5%、「暴力にはあたらない」6.7%となっている。

性別でみると、「どんな場合でも暴力になると思う」との回答が男性 39.0%、女性 48.4%となっている。

性・年齢別でみると、20代から50代では「どんな場合でも暴力になると思う」の回答率について、女性が男性を上回っている。

【問7(2) ウ 医師の治療が必要とならない程度の暴力】



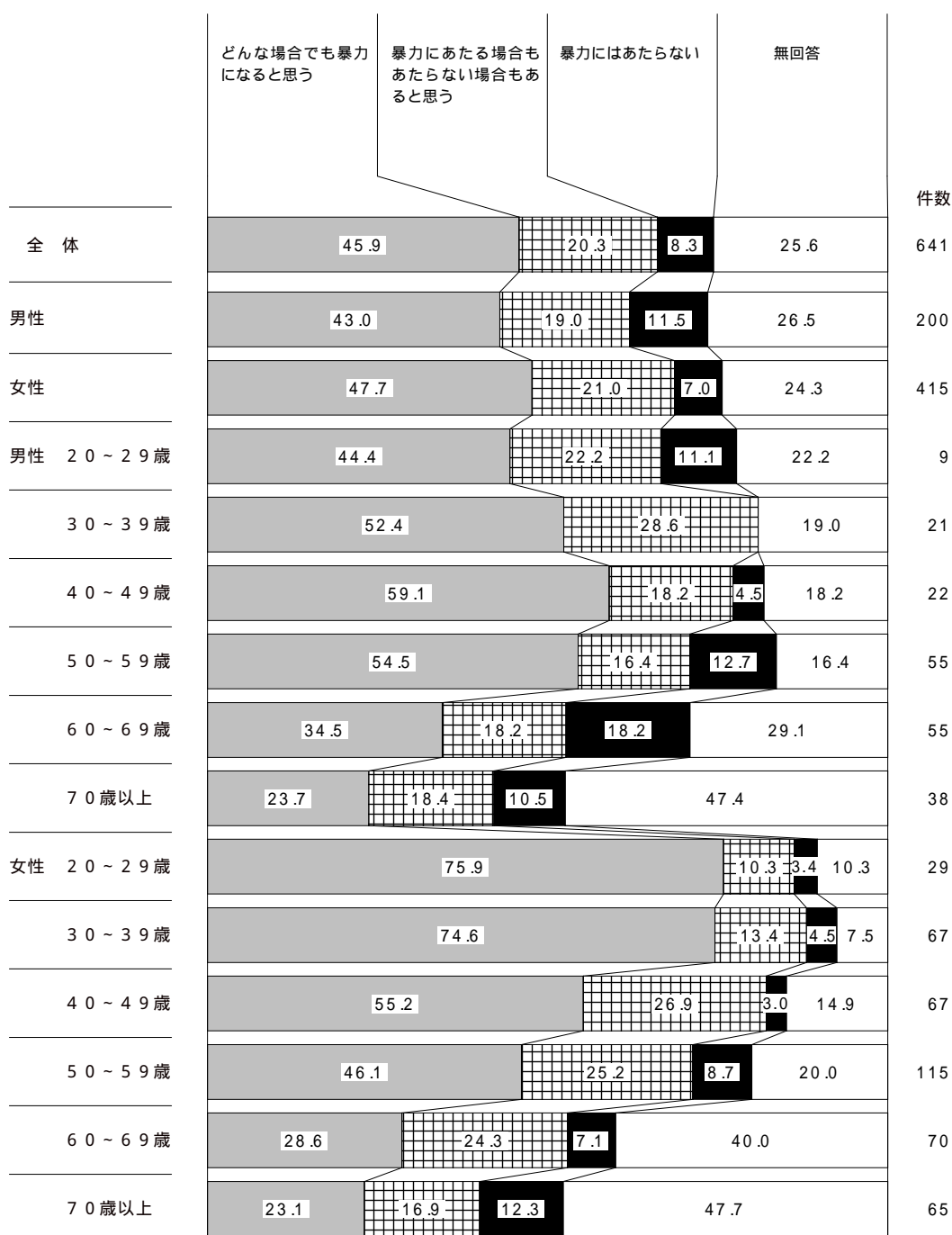
(エ) いやがっているのに性的行為を強要する

“いやがっているのに性的行為を強要する”について、全体では「どんな場合でも暴力になると思う」45.9%、「暴力にあたる場合もあたらぬ場合もあると思う」20.3%、「暴力にはあたらぬ」8.3%となっている。

性別でみると、「どんな場合でも暴力になると思う」との回答が男性43.0%、女性47.7%となっている。男女による回答の大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、20代、30代の女性では「どんな場合でも暴力になると思う」との回答が70%を超えている。

【問7(2) エ いやがっているのに性的行為を強要する】



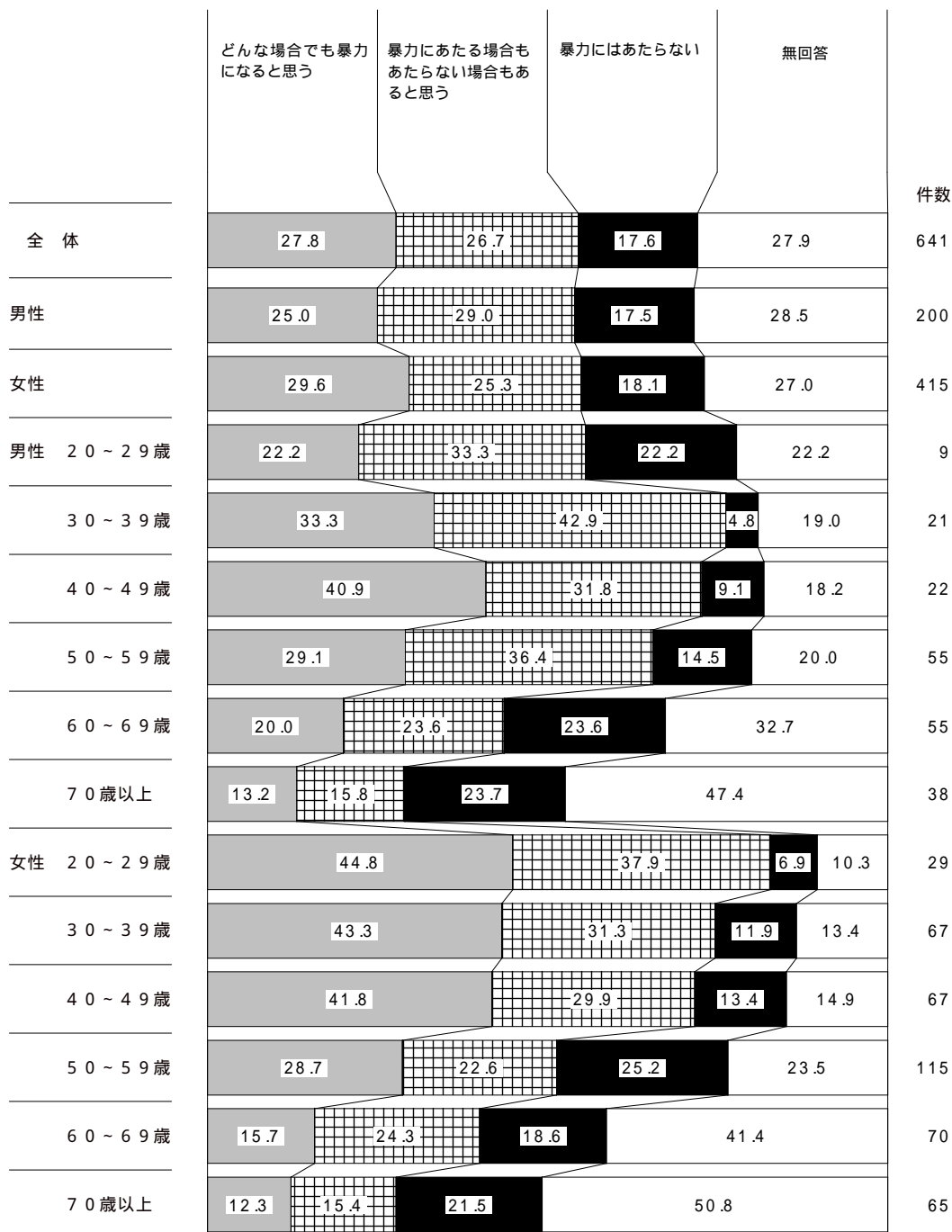
(オ) 避妊に協力しない

“避妊に協力しない”について、全体では「どんな場合でも暴力になると思う」27.8%、「暴力にあたる場合もあたらぬ場合もあると思う」26.7%、「暴力にはあたらぬ」17.6%となっている。

性別でみると、「どんな場合でも暴力になると思う」との回答が男性25.0%、女性29.6%となっている。男女による回答の大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、20代から40代の女性では「どんな場合でも暴力になると思う」との回答が40%を超えている。

【問7(2) オ 避妊に協力しない】

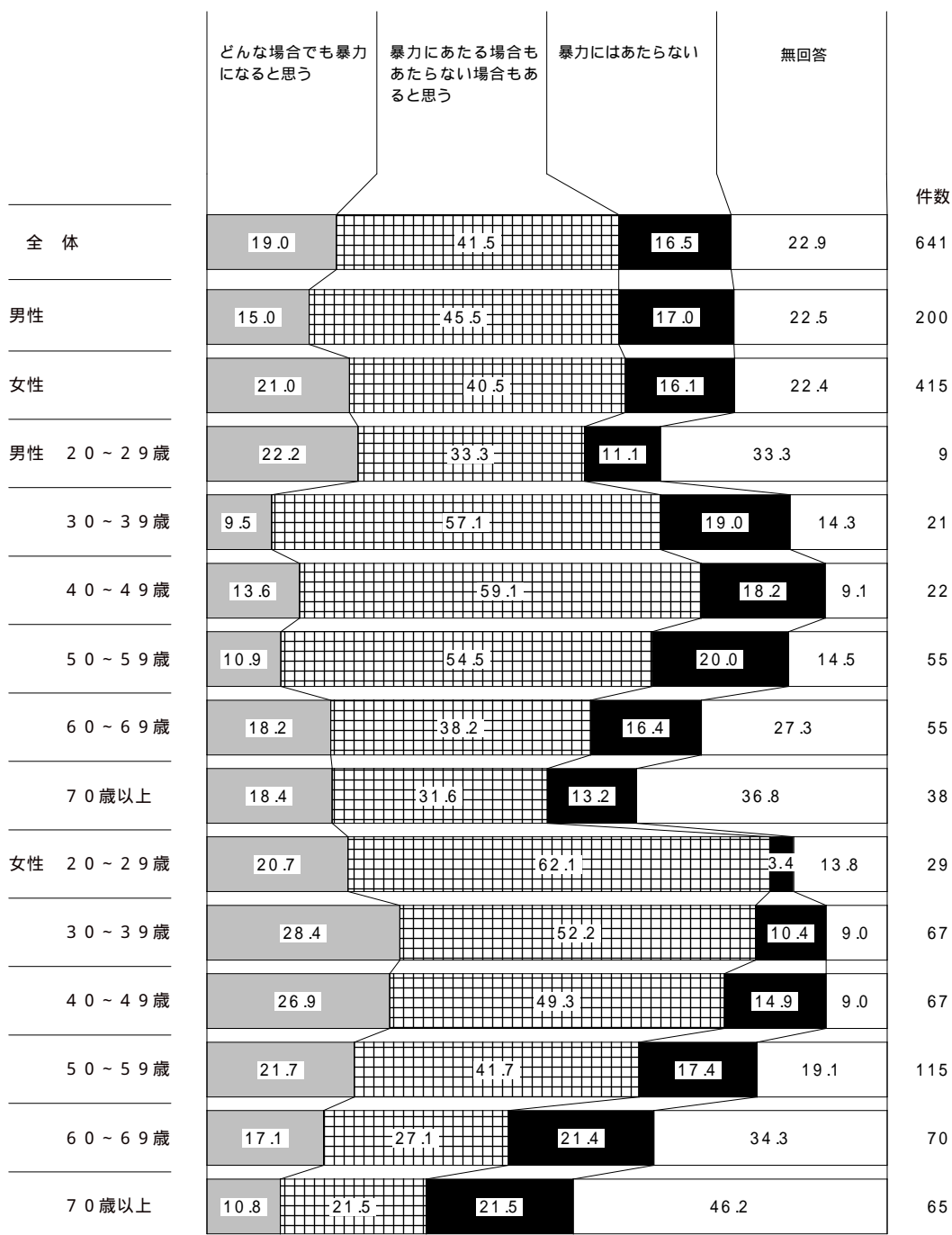


(カ) 大声でどなる

“ 大声でどなる ” について、全体では「どんな場合でも暴力になると思う」19.0%、「暴力にあたる場合もあたらぬ場合もあると思う」41.5%、「暴力にはあたらぬ」16.5%となっている。

性別で見ると、「どんな場合でも暴力になると思う」との回答が男性 15.0%、女性 21.0%となっている。男女による回答の大きな違いはみられない。

【問 7(2) カ 大声でどなる】

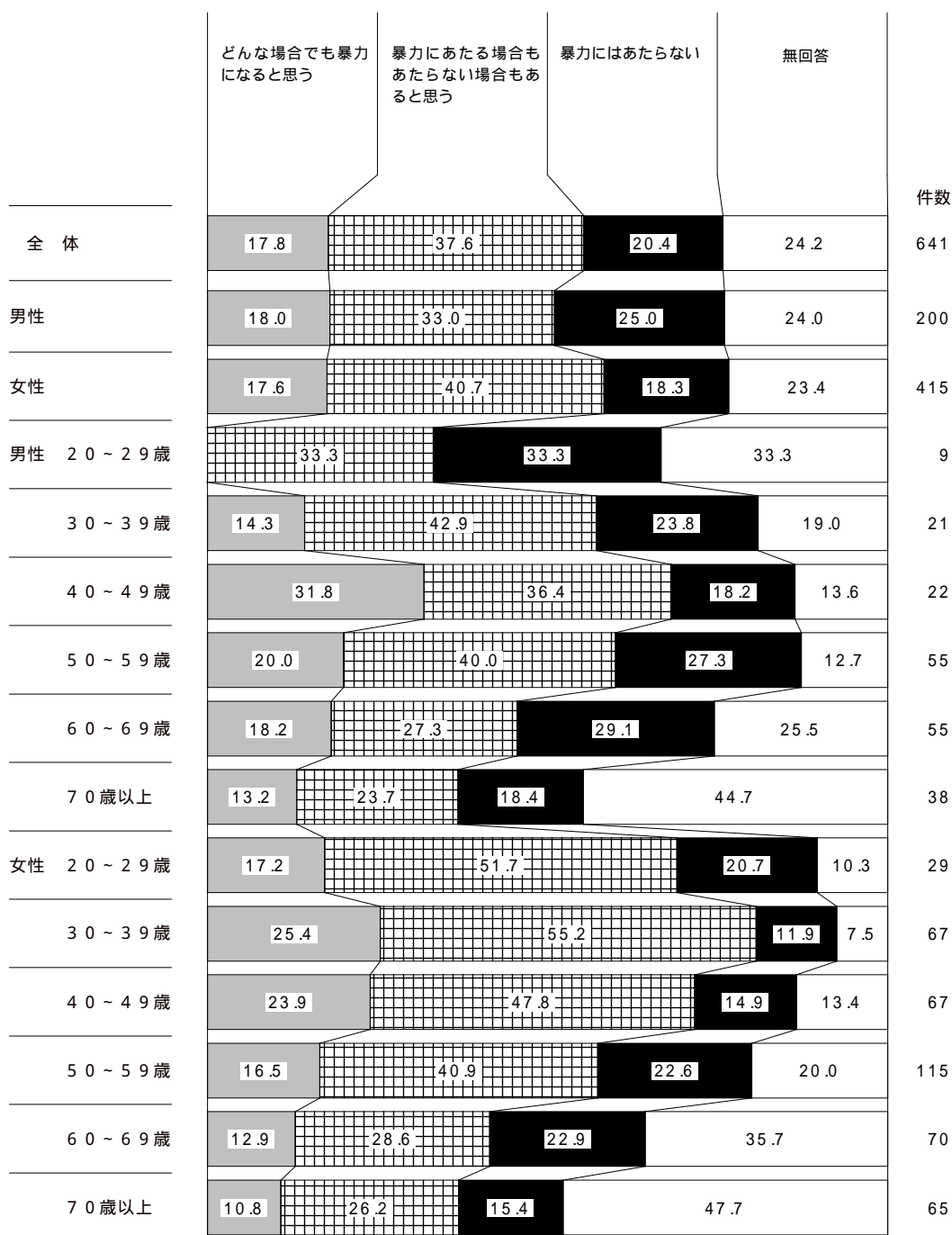


(キ)「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をする

“「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をする”について、全体では「どんな場合でも暴力になると思う」17.8%、「暴力にあたる場合もあたらない場合もあると思う」37.6%、「暴力にはあたらない」20.4%となっている。

性別でみると、「暴力にはあたらない」との回答が男性 25.0%、女性 18.3%となっている。

【問7(2) キ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をする】



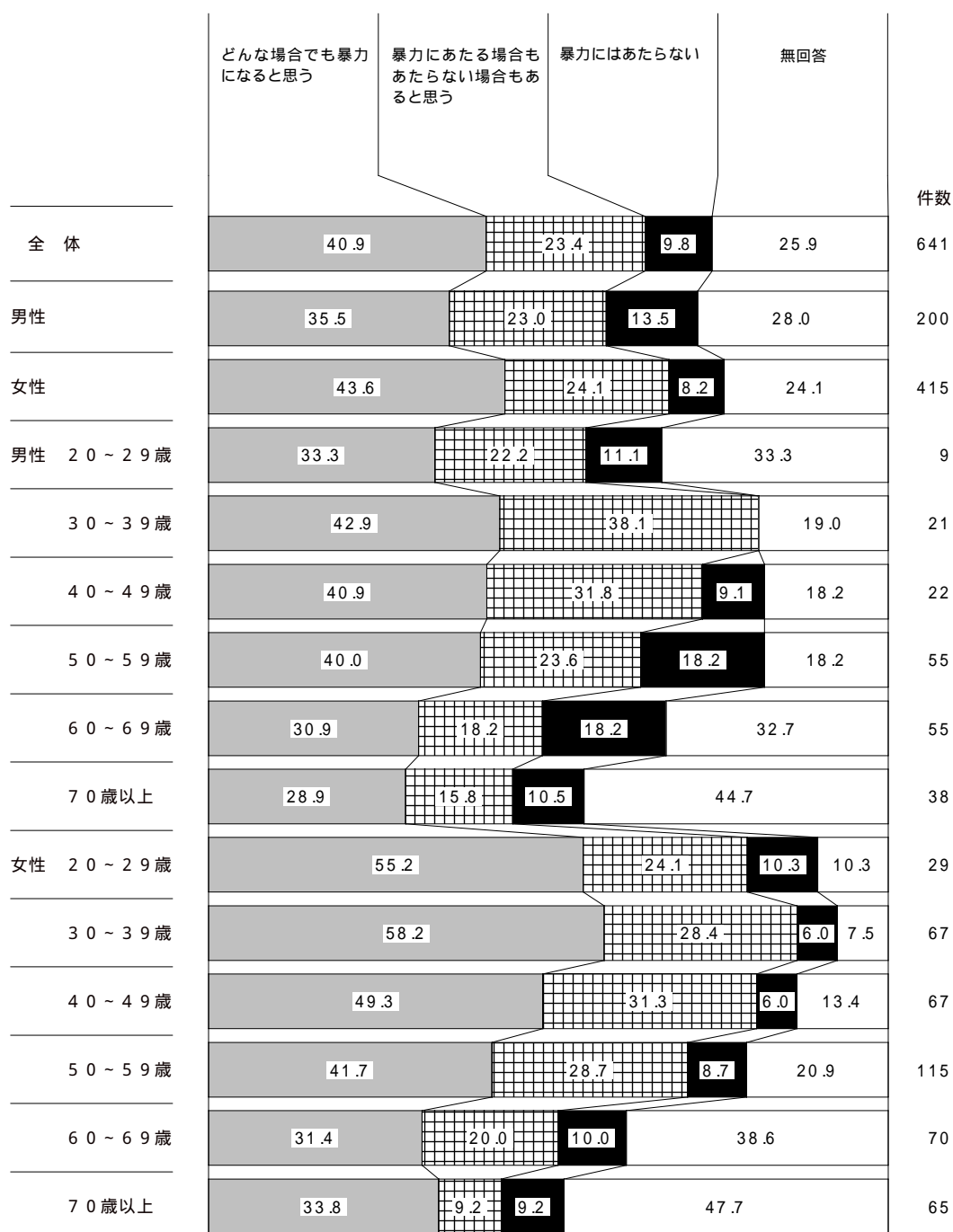
(ク)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「死ね」などとののしる

“「誰のおかげで生活できるんだ」とか「死ね」などとののしる”について、全体では「どんな場合でも暴力になると思う」40.9%、「暴力にあたる場合もあたらない場合もあると思う」23.4%、「暴力にはあたらない」9.8%となっている。

性別でみると、「どんな場合でも暴力になると思う」との回答が男性 35.5%、女性 43.6%となっている。

性・年齢別でみると、20代、30代の女性では「どんな場合でも暴力になると思う」との回答が50%を超えている。

【問7(2) ク 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「死ね」などとののしる】



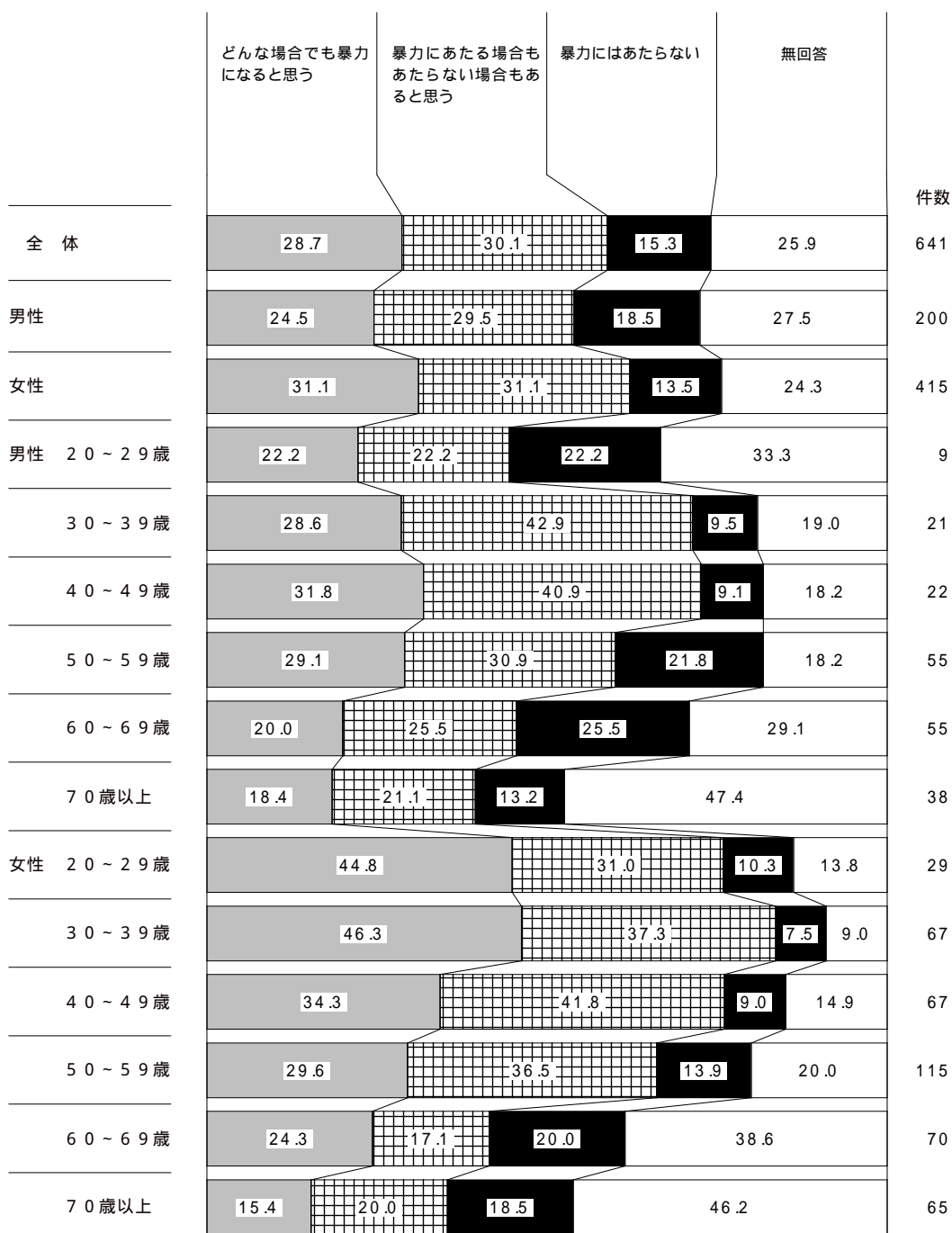
(ケ)「安月給」や「甲斐性なし」などとののしる

“「安月給」とか「甲斐性なし」などとののしる”について、全体では「どんな場合でも暴力になると思う」28.7%、「暴力にあたる場合もあたらぬ場合もあると思う」30.1%、「暴力にはあたらぬ」15.3%となっている。

性別でみると、「どんな場合でも暴力になると思う」との回答が男性24.5%、女性31.1%となっている。

性・年齢別でみると、20代、30代の女性では「どんな場合でも暴力になると思う」との回答が40%を超えている。

【問7(2) ケ 「安月給」や「甲斐性なし」などとののしる】



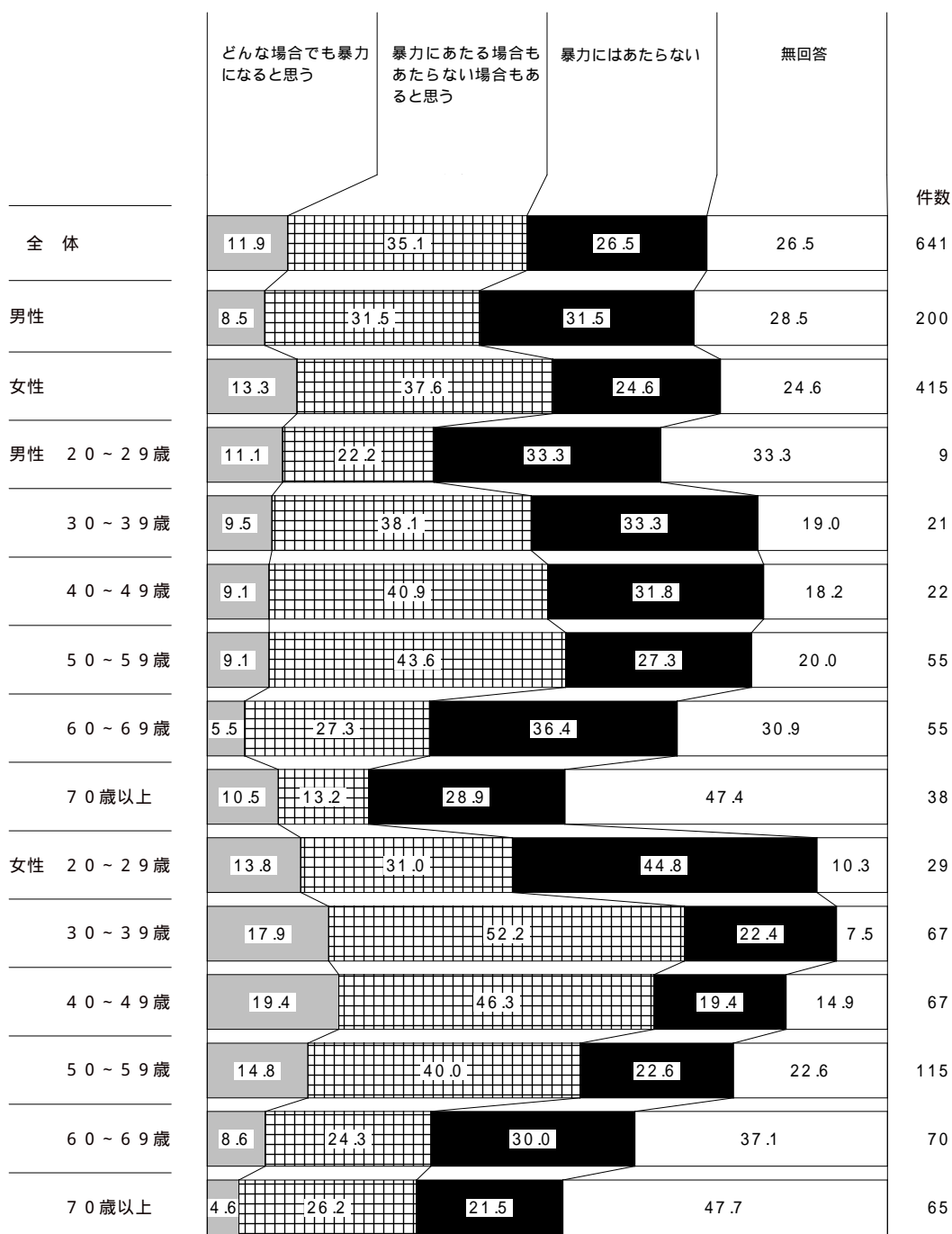
(コ) 交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する

“交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する”について、全体では「どんな場合でも暴力になると思う」11.9%、「暴力にあたる場合もあたらぬ場合もあると思う」35.1%、「暴力にはあたらぬ」26.5%となっている。

性別でみると、「暴力にはあたらぬ」との回答が男性31.5%、女性24.6%となっている。

性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力になると思う」の回答率について、70歳以上を除くすべての年齢層で女性が男性を上回っている。

【問7(2) コ 交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する】

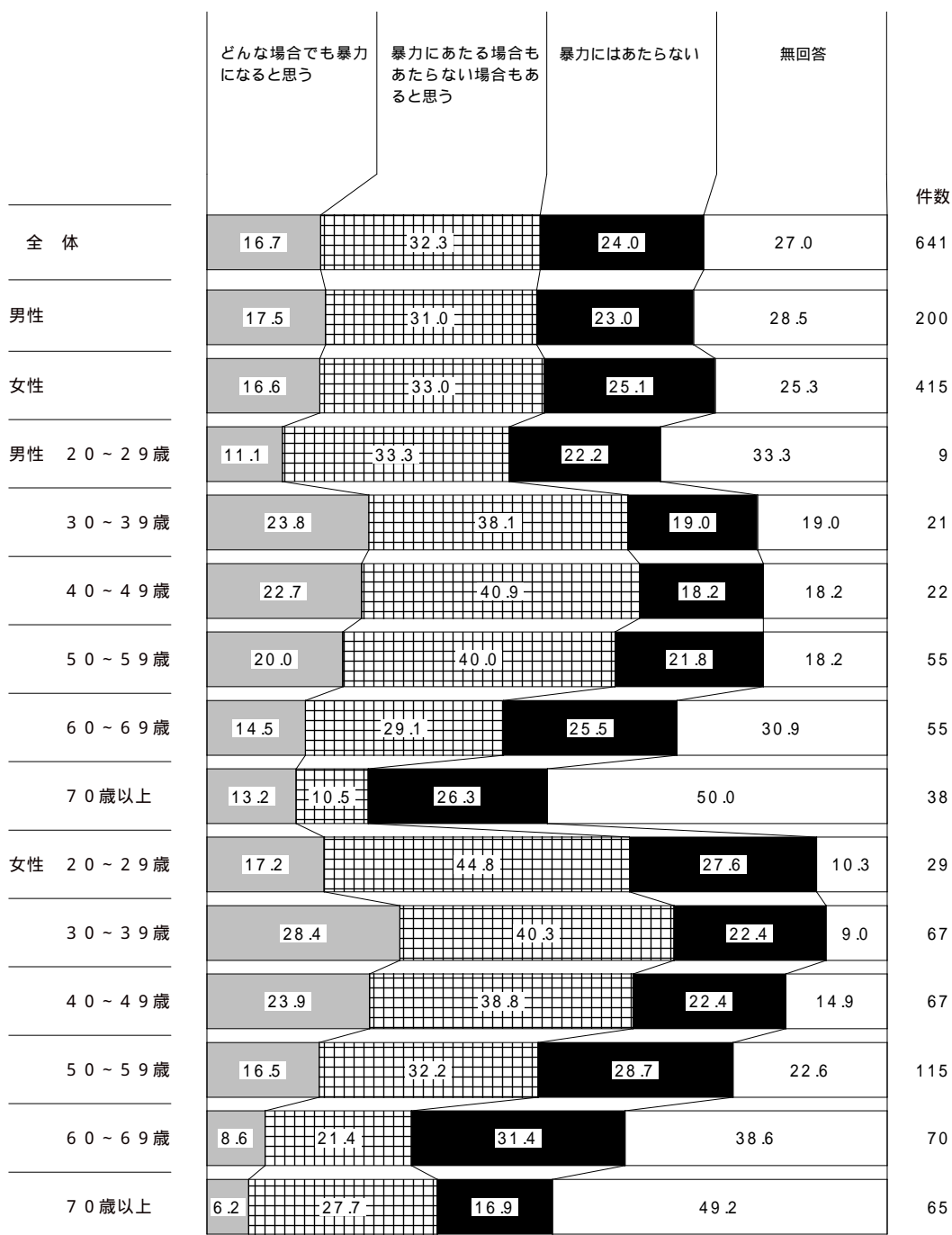


(サ) 社会活動や就職などを許さない

“社会活動や就職などを許さない”について、全体では「どんな場合でも暴力になると思う」16.7%、「暴力にあたる場合もあたらぬ場合もあると思う」32.3%、「暴力にはあたらぬ」24.0%となっている。

性別でみると、「暴力にはあたらぬ」との回答が男性 31.5%、女性 24.6%となっている。

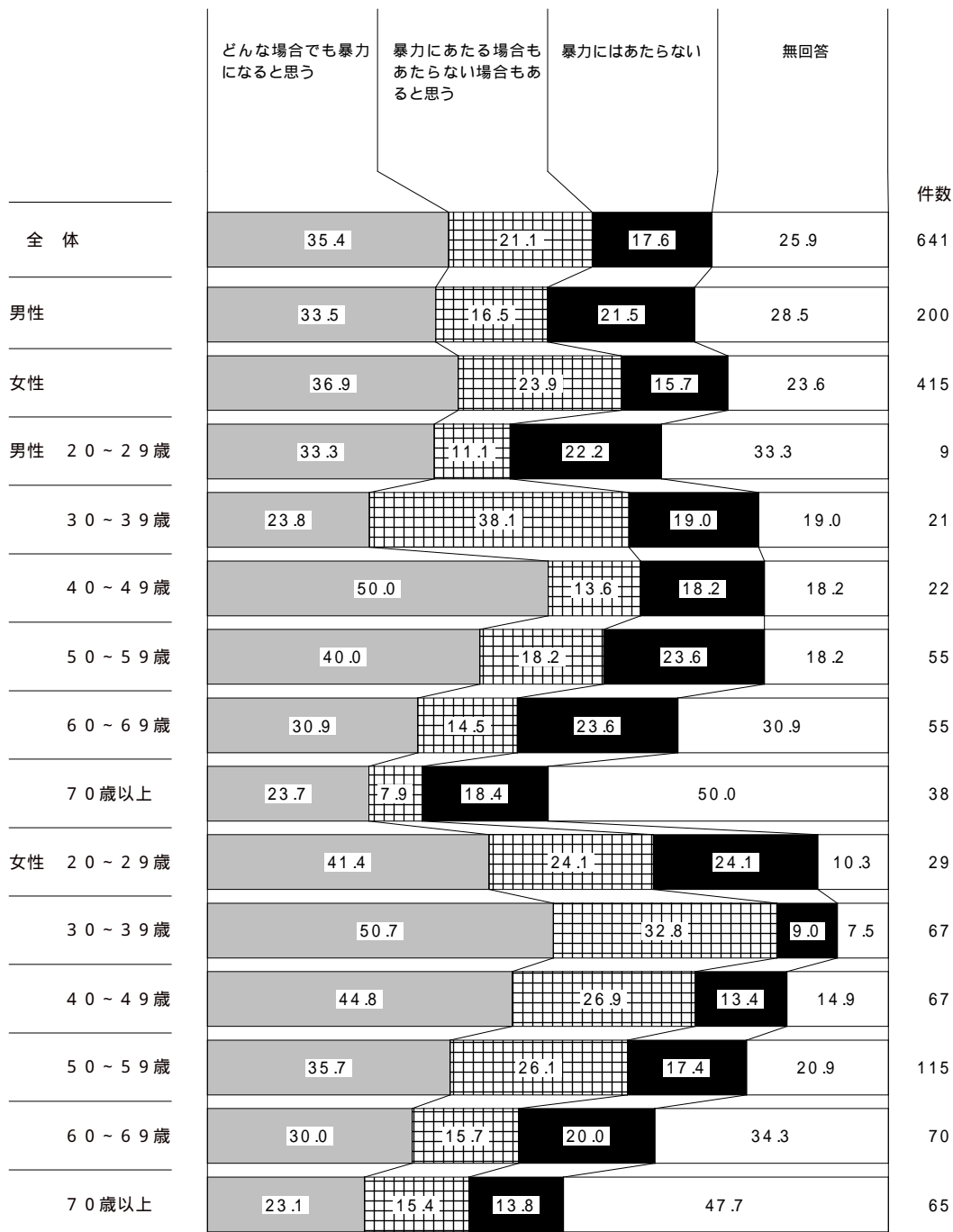
【問7(2) サ 社会活動や就職などを許さない】



(シ) 生活費を渡さない

“生活費を渡さない”について、全体では「どんな場合でも暴力になると思う」35.4%、「暴力にあたる場合もあたらない場合もあると思う」21.1%、「暴力にはあたらない」17.6%となっている。性別で見ると、「暴力にはあたらない」との回答が男性21.5%、女性15.7%となっている。

【問7(2) シ 生活費を渡さない】

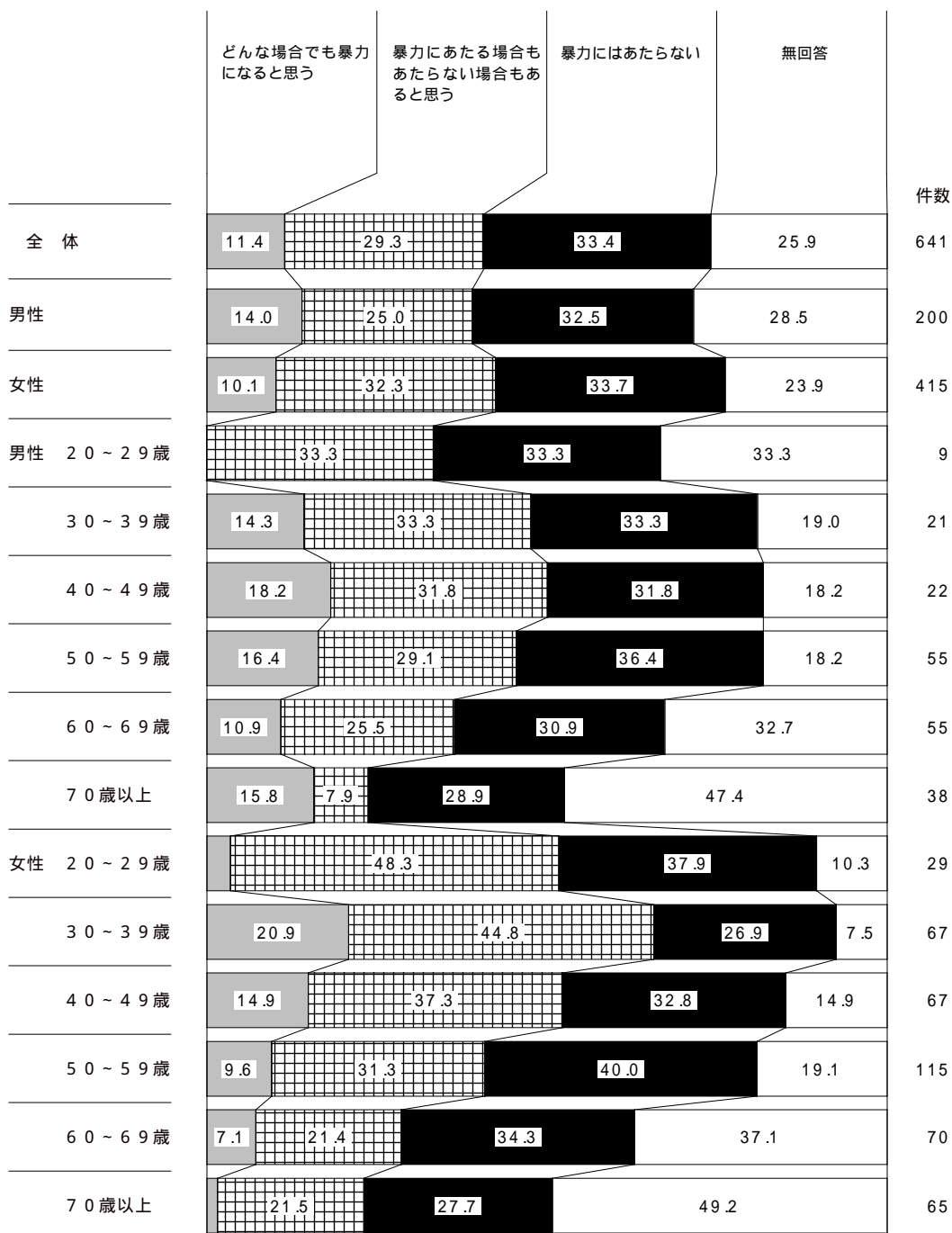


(ス) 食事の支度をしてくれない

“食事の支度をしてくれない”について、全体では「どんな場合でも暴力になると思う」11.4%、「暴力にあたる場合もあたらぬ場合もあると思う」29.3%、「暴力にはあたらぬ」33.4%となっている。

性別でみると、男女による大きな違いはみられない。

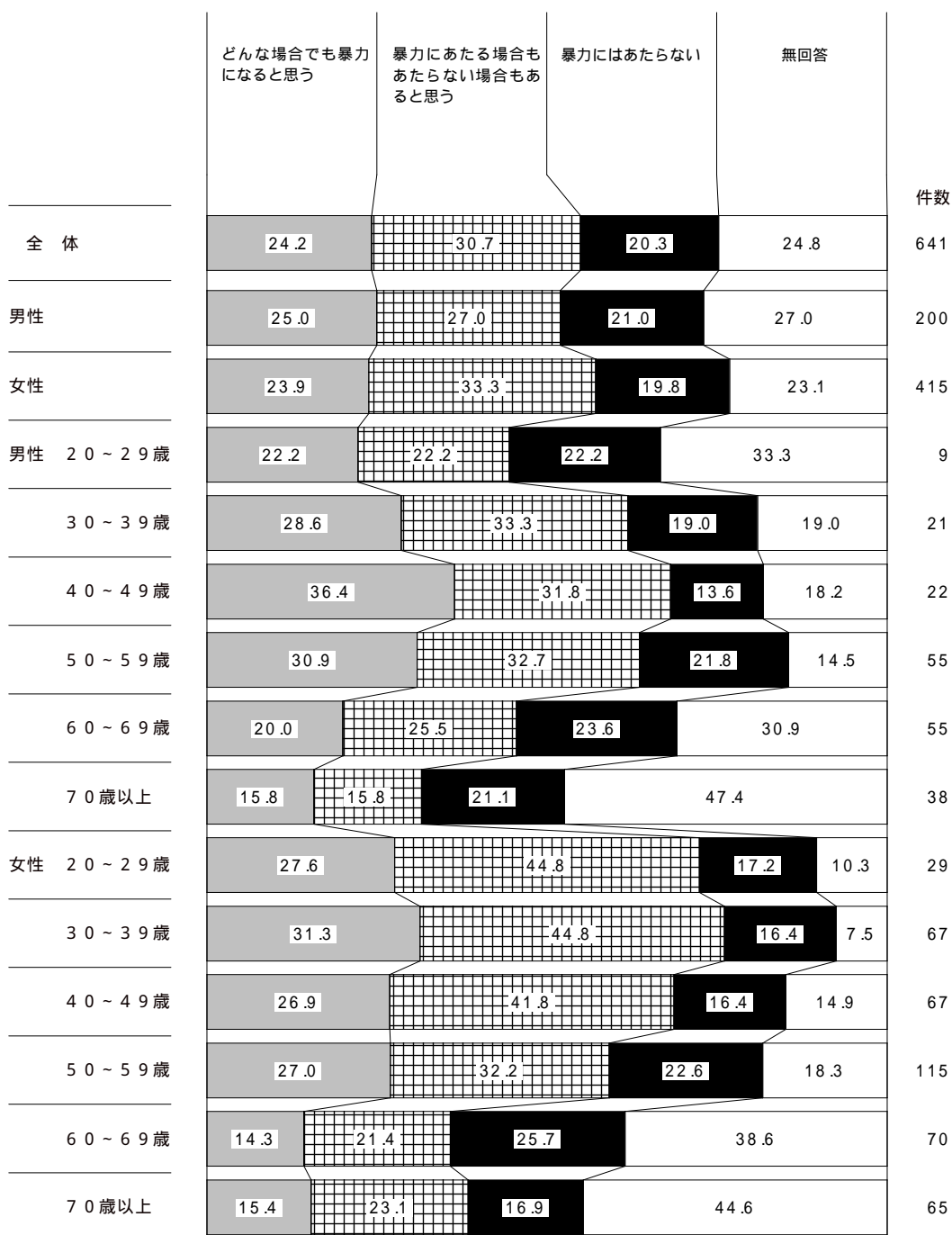
【問7(2) ス 食事の支度をしてくれない】



(セ) 何を言っても、無視し続ける

“何を言っても無視し続ける”について、全体では「どんな場合でも暴力になると思う」24.2%、「暴力にあたる場合もあたらぬ場合もあると思う」30.7%、「暴力にはあたらぬ」20.3%となっている。

性別でみると、男女による大きな違いはみられない。



< 暴力の経験と暴力の認識について >

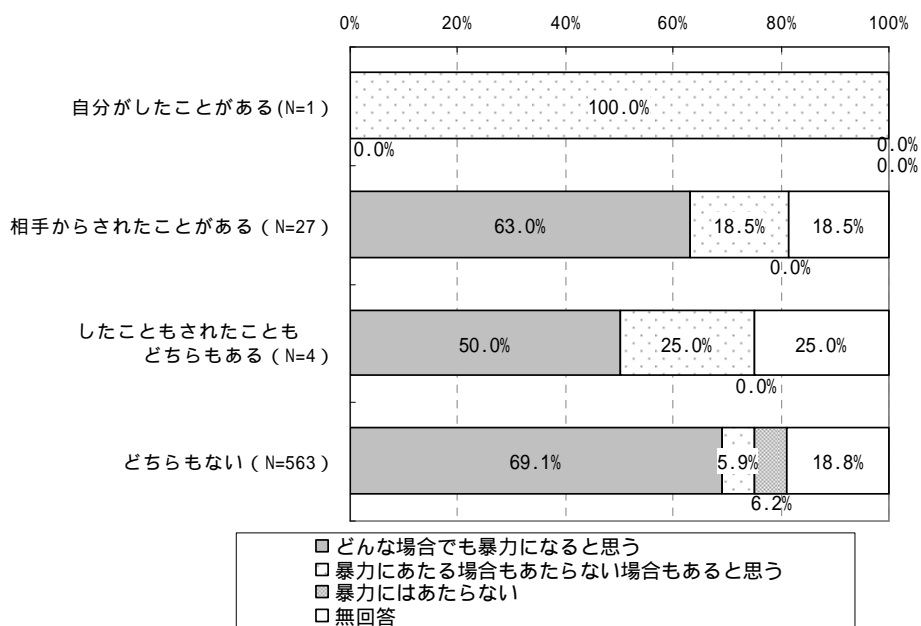
問7のア～セの暴力について、(1)の暴力の経験と(2)暴力の認識についてクロス集計を行った。

(ア) 命の危険を感じるほどの暴力

命の危険を感じるほどの暴力について、“自分がしたことがある”と回答した人は一人で、「暴力にあたる場合もあたらぬ場合もあると思う」と回答している。

“相手からされたことがある”“したこともされたこともある”“どちらもない”と回答した人では、「どんな場合でも暴力になると思う」の回答率が高くなっている。

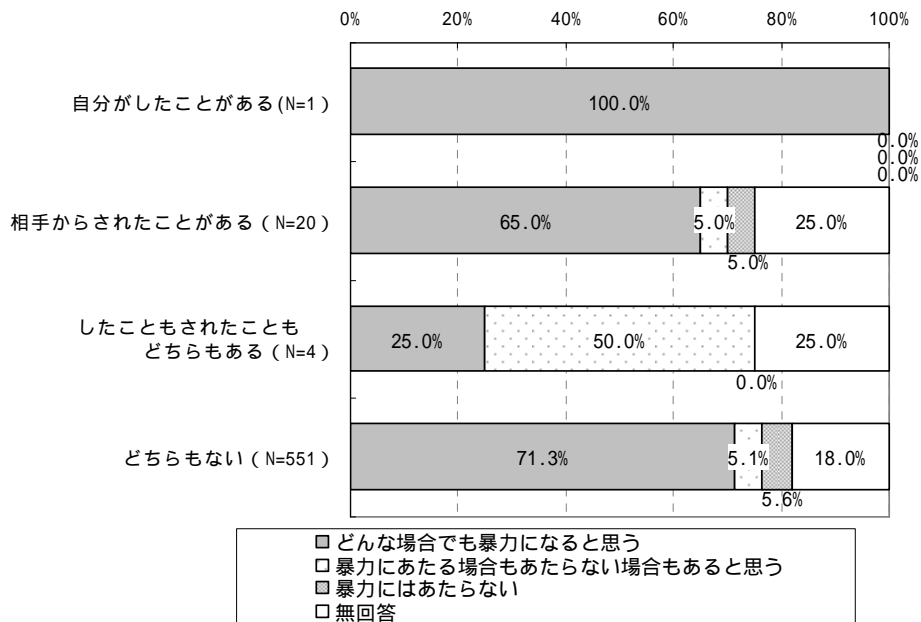
【(ア) 命の危険を感じるほどの暴力 暴力の認識】



(イ) 医師の治療が必要となるほどの暴力

医師の治療が必要となるほどの暴力について、「自分がしたことがある」と回答した人は1人で、「どんな場合でも暴力になると思う」と回答している。
 “相手からされたことがある”“どちらもない”と回答した人では、「どんな場合でも暴力になると思う」の回答率が高くなっている。

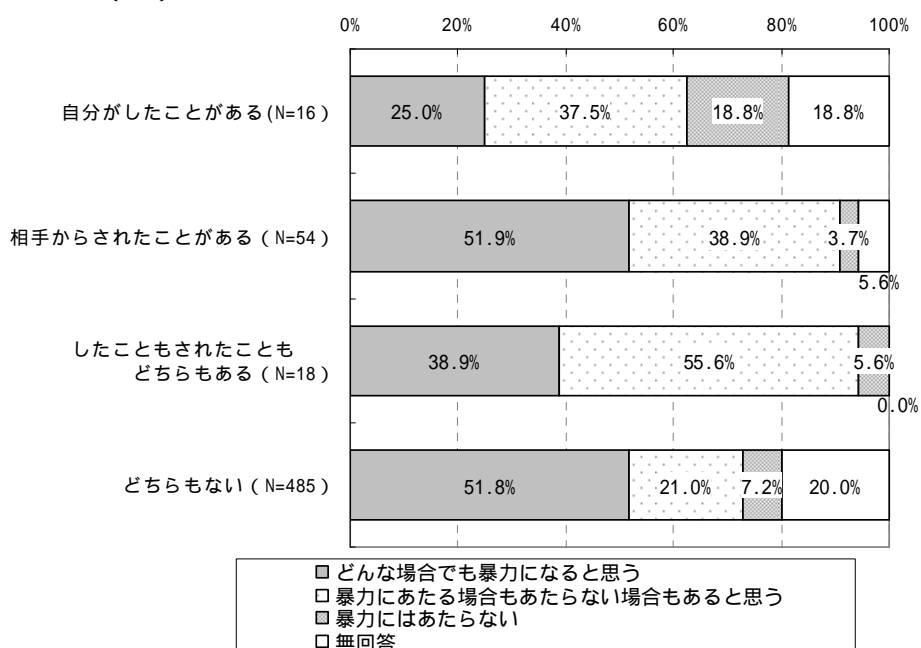
【(イ) 医師の治療が必要となるほどの暴力 暴力の認識】



(ウ) 医師の治療が必要とならない程度の暴力

医師の治療が必要とならない程度の暴力について、「自分がしたことがある」と回答した人は16人で、「暴力にはあたらぬ」との回答した人が3人いる。
 “相手からされたことがある”“どちらもない”と回答した人では、「どんな場合でも暴力になると思う」が50%を超えている。

【(ウ) 医師の治療が必要とならない程度の暴力 暴力の認識】

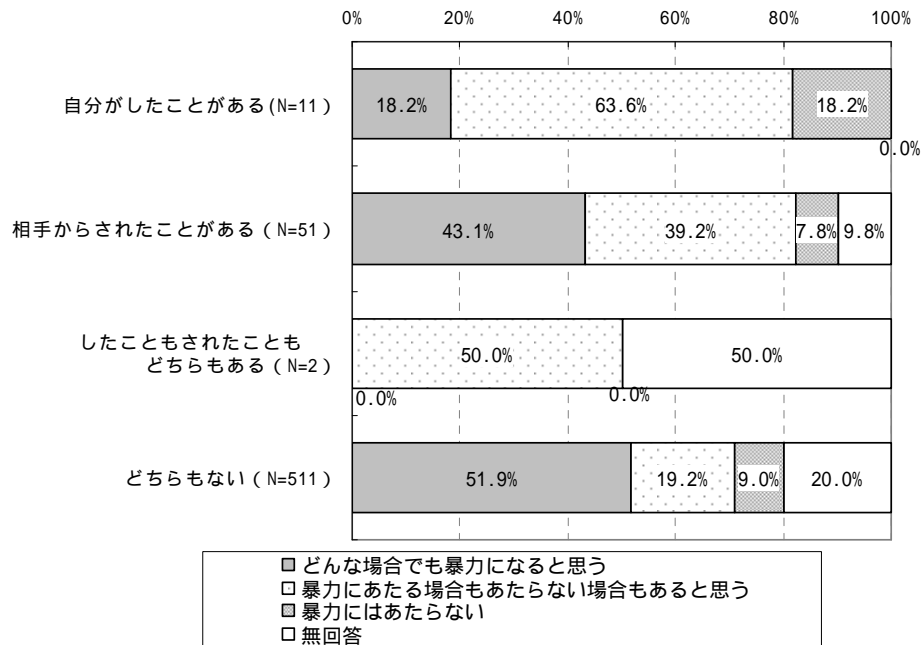


(エ) いやがっているのに性的行為を強要する

いやがっているのに性的行為を強要するについて、“自分がしたことがある”と回答した人は11人で、「暴力にはあたらない」との回答した人が2人いる。

“相手からされたことがある”“どちらもない”と回答した人では、「どんな場合でも暴力になると思う」の回答率が高くなっている。

【(エ) いやがっているのに性的行為を強要する 暴力の認識】

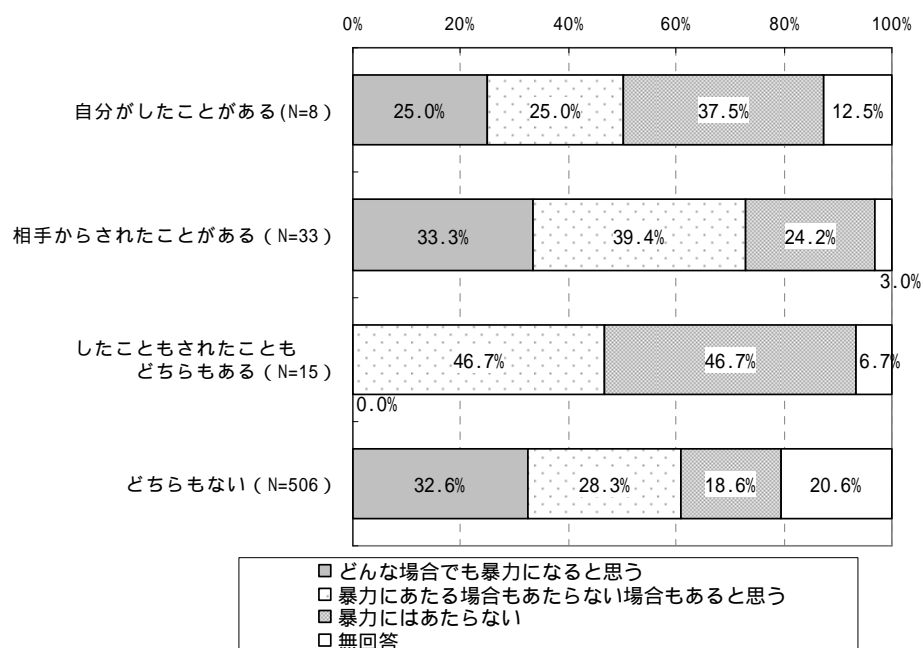


(オ) 避妊に協力しない

避妊に協力しないについて、“自分がしたことがある”と回答した人は8人で、「暴力にはあたらない」との回答した人が3人いる。

“相手からされたことがある”“どちらもない”と回答した人では、「どんな場合でも暴力になると思う」が30%を超えているが、「暴力にはあたらない」と回答した人も約20%で多くなっている。

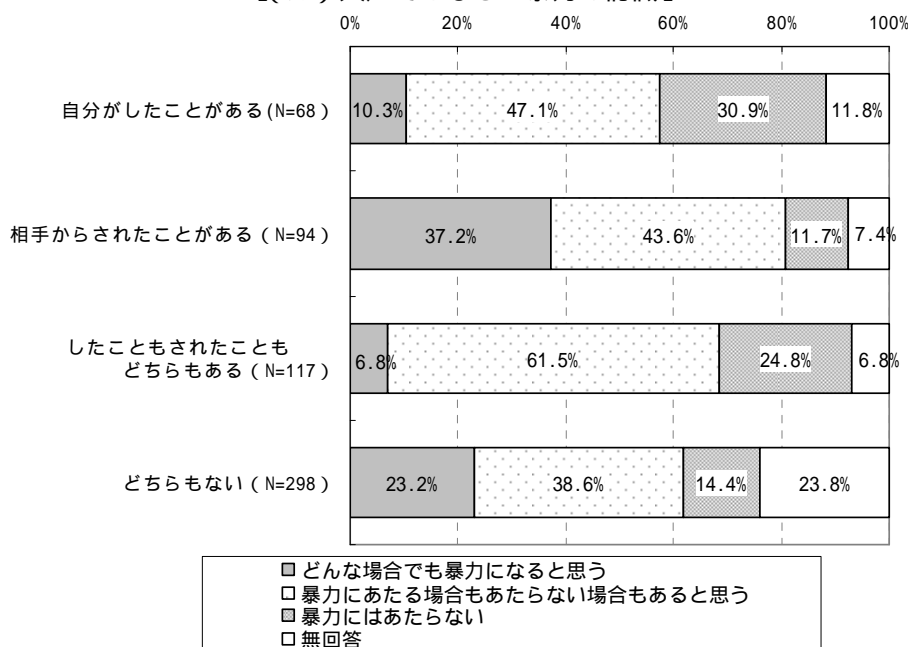
【(オ) 避妊に協力しない 暴力の認識】



(カ) 大声でどなる

大声でどなるについて、いずれの場合も「暴力にはあたらない」との回答があり、“自分がしたことがある” 場合では、回答率が 30.9%で最も高くなっている。“相手からされたことがある” 場合では、「どんな場合でも暴力になると思う」の回答率が他の場合に比べ、37.2%で高くなっている。また、いずれの場合も「暴力にあたる場合もあたらない場合もあると思う」の回答率が最も高くなっている。

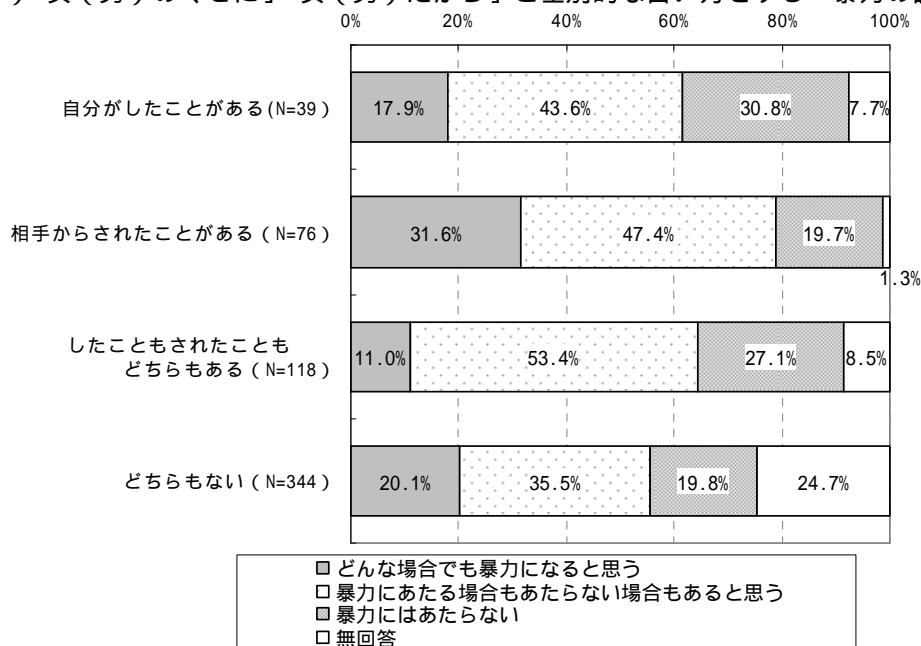
【(カ) 大声でどなる 暴力の認識】



(キ) 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をする

「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をするについて、いずれの場合も「暴力にはあたらない」との回答があり、“自分がしたことがある” 場合では、回答率が 30.8%で最も高くなっている。“相手からされたことがある” 場合では、「どんな場合でも暴力になると思う」の回答率が 31.6%で他の場合に比べ、高くなっている。また、いずれの場合も「暴力にあたる場合もあたらない場合もあると思う」の回答率が最も高くなっている。

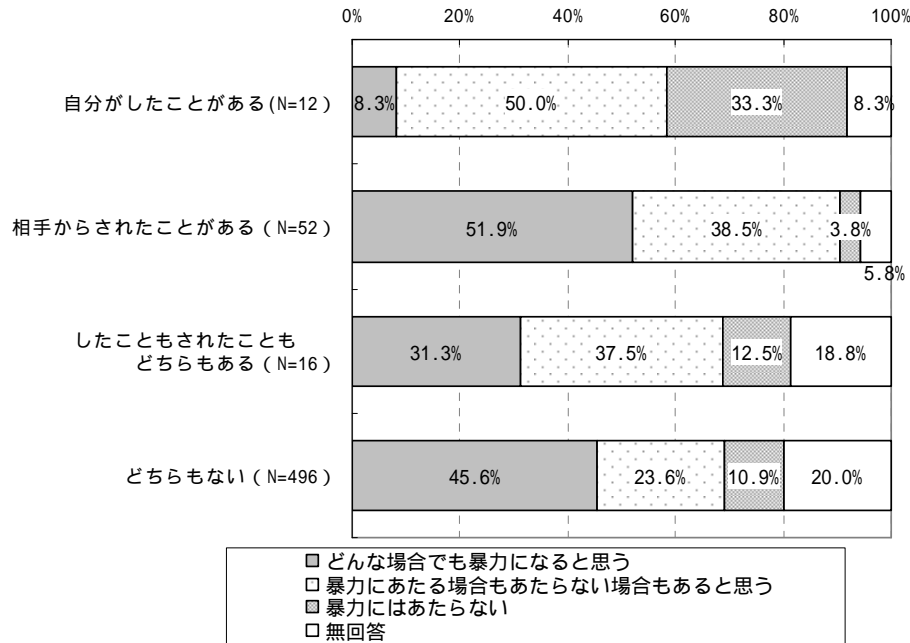
【(キ) 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をする 暴力の認識】



(ク)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「死ね」などとののしる

「誰のおかげで生活できるんだ」とか「死ね」などとののしるについて、いずれの場合も「暴力にはあたらない」との回答がある。“自分がしたことがある”という人は12人で「暴力にはあたらない」と回答した人が4人となっている。“相手からされたことがある”や“どちらもない”場合では、「どんな場合でも暴力になると思う」の回答率が高くなっている。

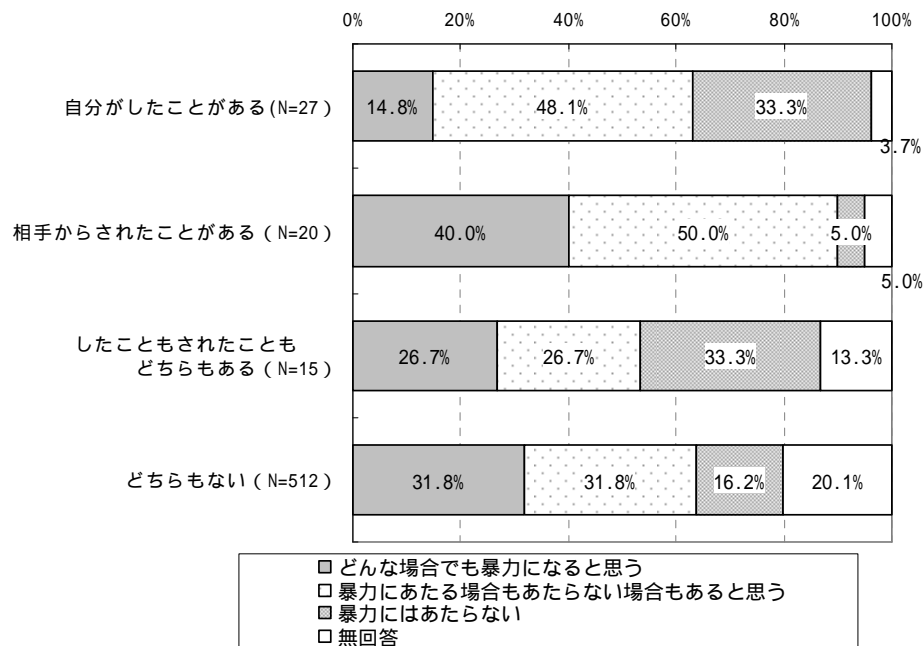
【(ク)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「死ね」などとののしる 暴力の認識】



(ケ)「安月給」や「甲斐性なし」などとののしる

「安月給」や「甲斐性なし」などとののしるについて、いずれの場合も「暴力にはあたらない」との回答がある。“相手からされたことがある”や“どちらもない”場合では、「どんな場合でも暴力になると思う」の回答率が他の場合に比べて高くなっている。

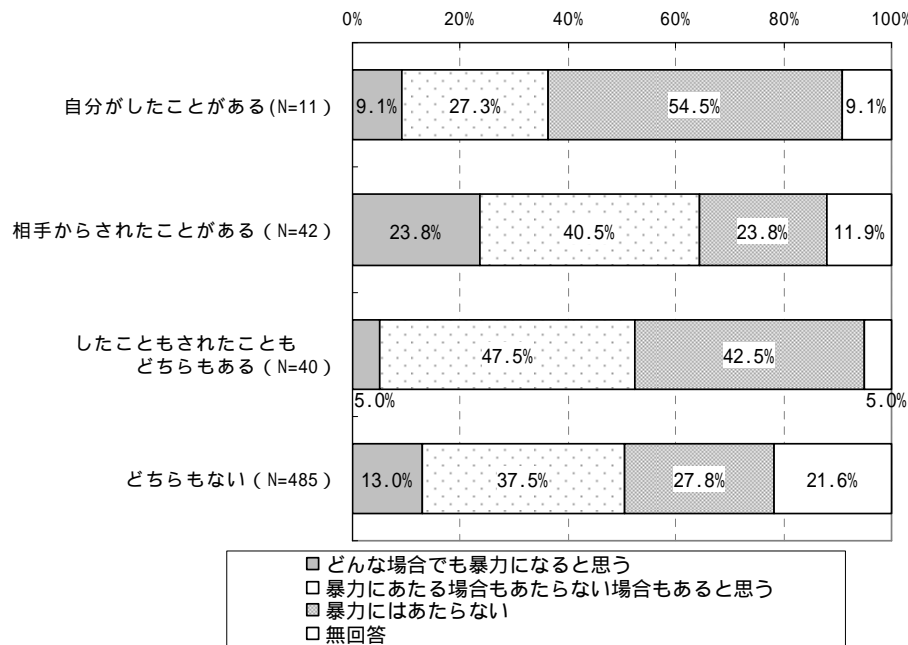
【(ケ)「安月給」や「甲斐性なし」などとののしる 暴力の認識】



(コ) 交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する

交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視するについて、いずれの場合も「暴力にはあたらない」との回答がある。“自分がしたことがある”という人は11人で「暴力にはあたらない」と回答した人が6人となっている。“相手からされたことがある”場合には、「どんな場合でも暴力になると思う」の回答率が他の場合に比べて高くなっている。

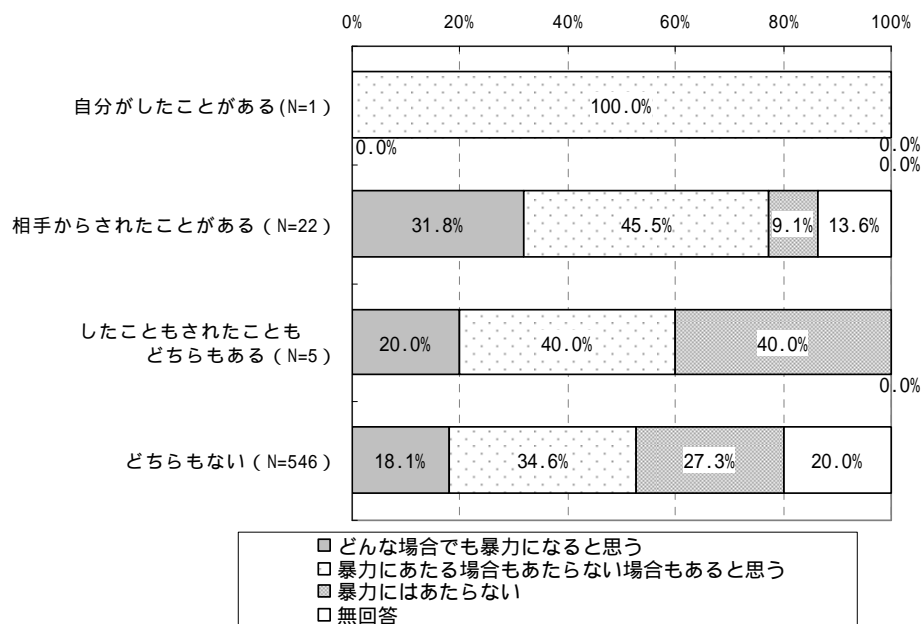
【(コ) 交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する 暴力の認識】



(サ) 社会活動や就職などを許さない

社会活動や就職などを許さないについて、いずれの場合も「暴力にあたる場合もあたらない場合もあると思う」の回答率が最も高くなっている。

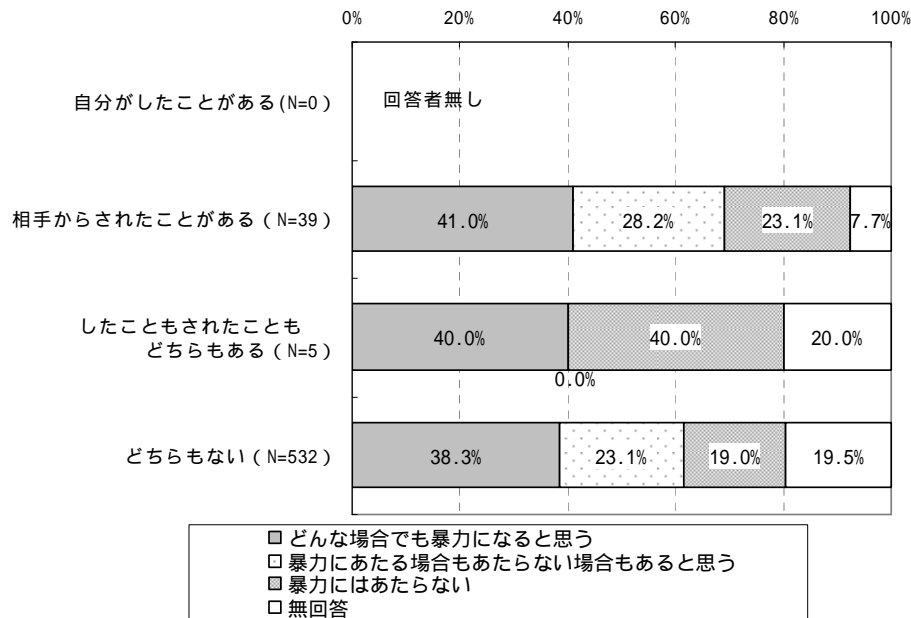
【(サ) 社会活動や就職などを許さない 暴力の認識】



(シ) 生活費を渡さない

生活費を渡さないについて、いずれの場合も「どんな場合でも暴力になると思う」の回答率が約40%で最も高くなっている。

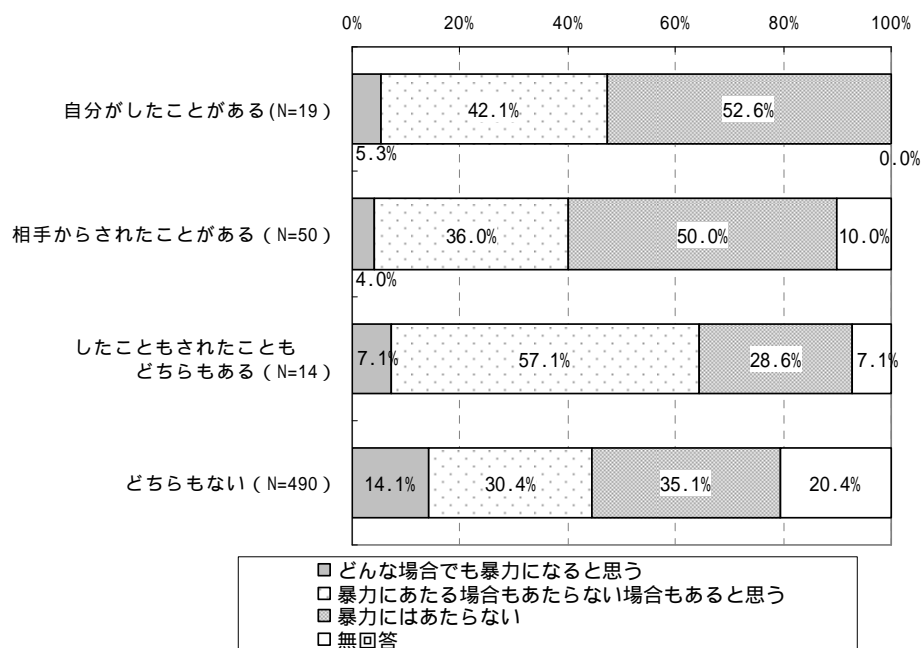
【(シ) 生活費を渡さない 暴力の認識】



(ス) 食事の支度をしてくれない

食事の支度をしてくれないについて、“自分がしたことがある”“相手からされたことがある”場合には「暴力にはあたらぬ」の回答率が50%を超えている。

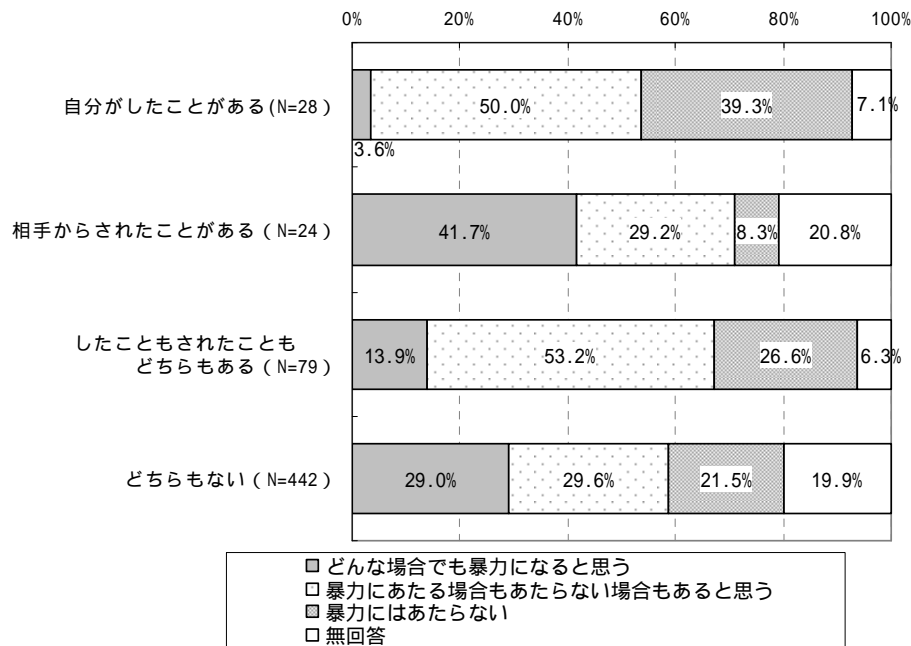
【(ス) 食事の支度をしてくれない 暴力の認識】



(セ) 何を言っても、無視し続ける

何を言っても、無視し続けるについて、“自分がしたことがある”“したこともされたこともどちらもある” 場合では「暴力にはあたる場合もあたらない場合もあると思う」の回答率が約 50% となっている。“相手からされたことがある” 場合では、「どんな場合でも暴力になると思う」の回答率が高くなっている。

【(セ) 何を言っても、無視し続ける 暴力の認識】

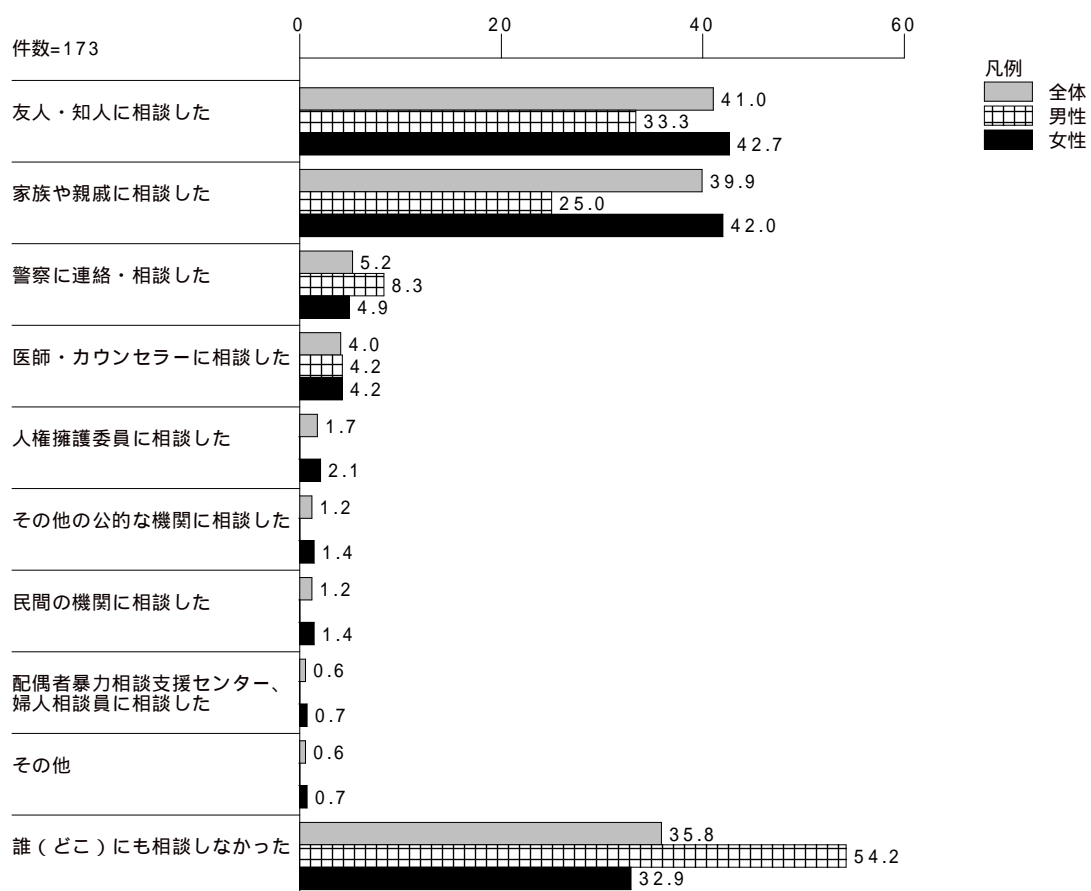


問7の「ア」～「セ」のうち、あなたが暴力と思う行為について「されたことがある」と答えた方におたずねします

問8 あなたは、これまでに問7であげたような配偶者・パートナーからの行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。 【はいくつでも】

配偶者・パートナーからの行為に対する相談の有無について、「友人・知人に相談した」が41.0%で最も多く、次いで「家族や親戚に相談した」39.9%、「誰（どこ）にも相談しなかった」35.8%となっている。公的機関や専門家への相談は少なくなっている。

【問8 配偶者・パートナーからの行為に対する相談】

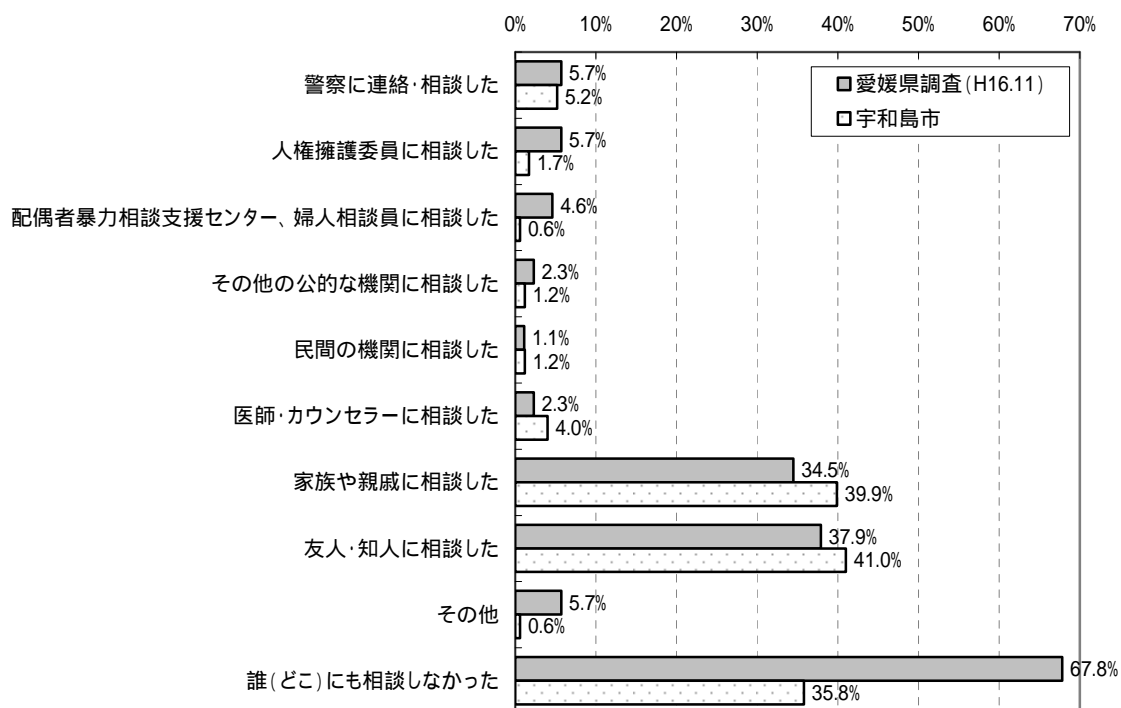


【参考】

愛媛県調査（H16.11実施）結果比較

愛媛県調査と比較してみると、具体的な相談相手としてはともに「友人・知人に相談した」（愛媛県 37.9%、宇和島市 41.0%）が最も多く、次いで「家族や親戚に相談した」（愛媛県 34.5%、宇和島市：39.9%）が多く、公的機関や専門家への相談は少なくなっており、大きな違いはみられない。

反対に、「誰（どこ）にも相談しなかった」の回答が愛媛県では 67.8%と突出して多くを占めているのに対し、宇和島市では 35.8%と、愛媛県に比べると宇和島市では相談率が高いことが分かる。



問9 セクシュアル・ハラスメント（異性間・同性間での性的いやがらせ）についてお聞きします。

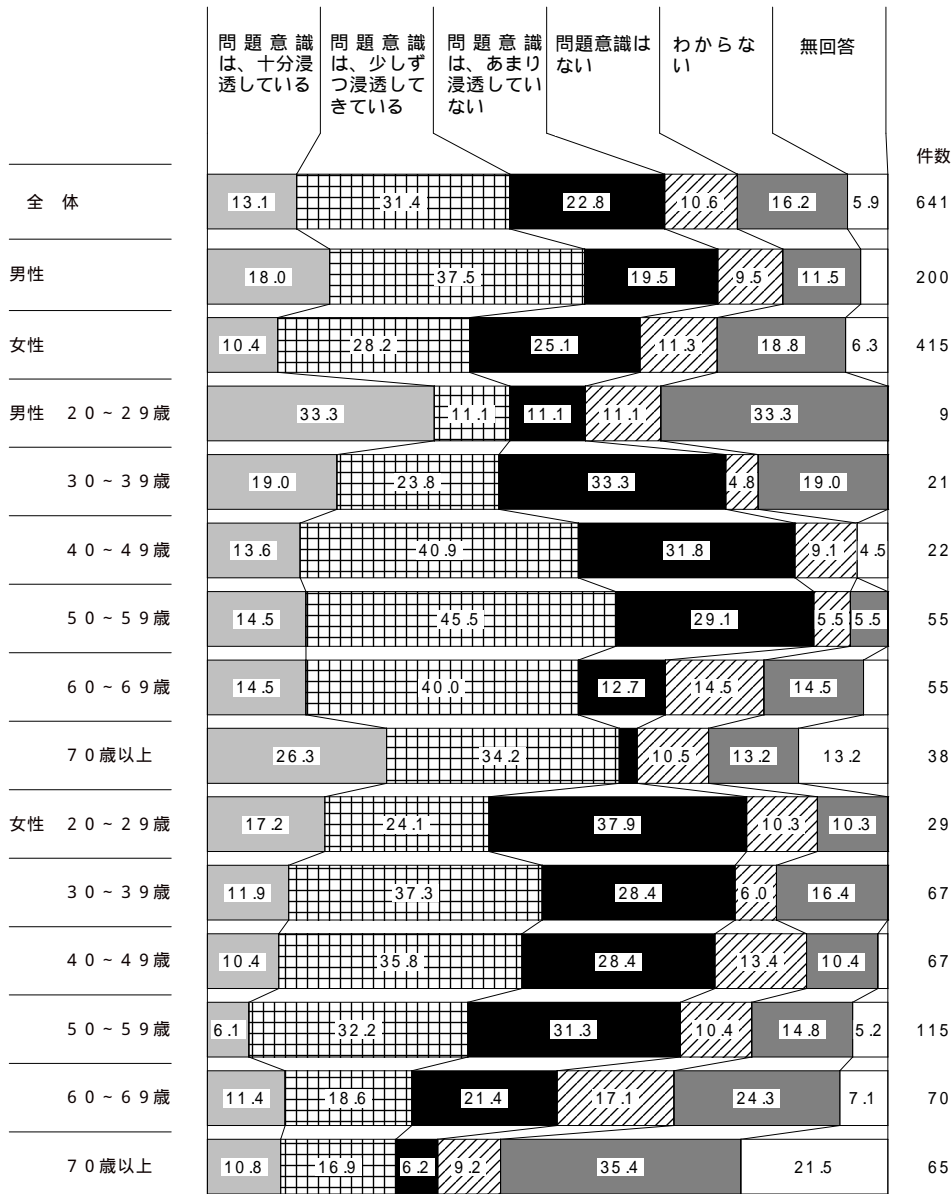
（1）あなたの周囲のセクシュアル・ハラスメントに対する問題意識はどうか。【 は1つ】

周囲のセクシュアル・ハラスメントに対する問題意識について、「問題意識は、少しずつ浸透してきている」との回答が31.4%で最も多いが、「問題意識は、あまり浸透していない」22.8%、「わからない」16.2%、「問題意識は、十分浸透している」13.1%、「問題意識はない」10.6%という結果で、意見がそれぞれに分かれている。

性別で見ると、『浸透している』（「問題意識は、十分浸透している」と「問題意識は、少しずつ浸透してきている」を合わせた割合）との回答が男性で55.5%、女性で38.6%と男性が女性を16.9ポイント上回っている。

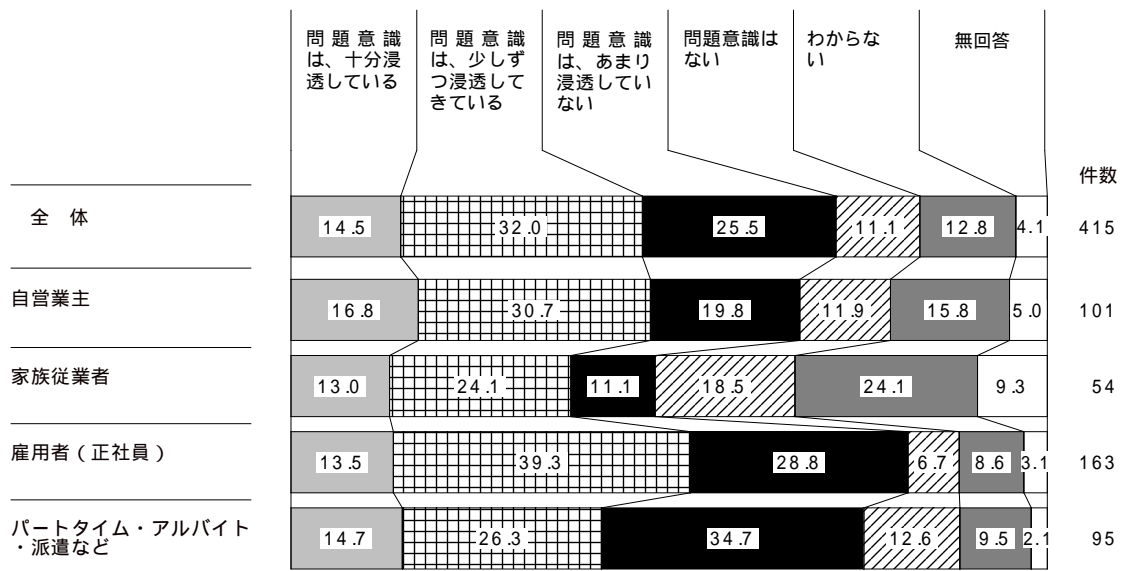
性・年齢別で見ると、40代以上の男性では『浸透している』との回答が50%を超えているが、女性ではすべての年齢層で50%未満となっている。

【問9(1) セクシュアル・ハラスメントに対する問題意識】



職業別でみると、雇用者（正社員）では『浸透している』（「問題意識は、十分浸透している」と「問題意識は、少しずつ浸透してきている」を合わせた割合）が50%を超え、他の職業に比べて高くなっている。雇用者（正社員）やパートタイム・アルバイト・派遣などの場合には、「問題意識はあまり浸透していない」の回答率も30%を超えている。一方、家族従業者では「問題意識はない」や「わからない」の回答率が他の職業に比べて高くなっている。

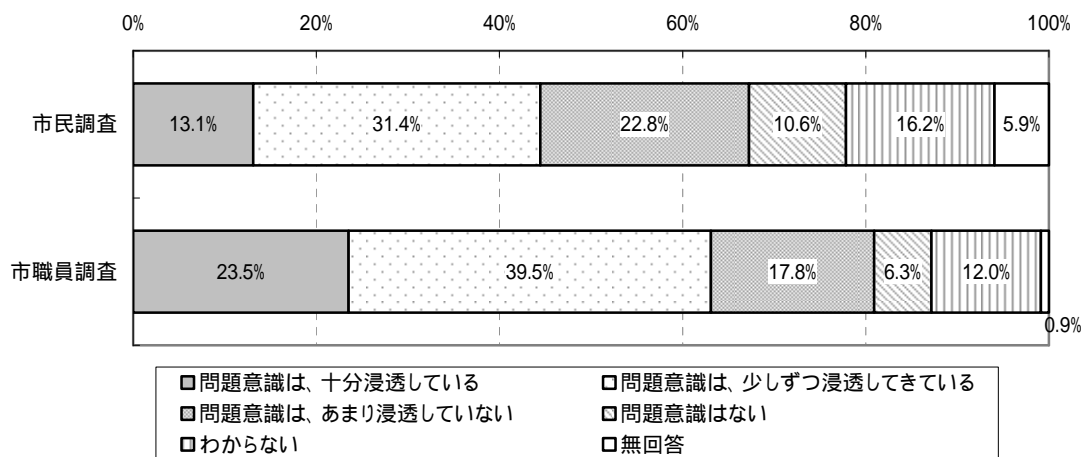
【問9(1) 職業別 セクシュアル・ハラスメントに対する問題意識】



【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「問題意識は、少しずつ浸透してきている」（市民：31.4%、市職員：39.5%）との回答が最も多くなっているものの、市民では「問題意識は、十分浸透している」を含めた『問題意識は、浸透している』が44.5%と、市職員の63.0%に比べて18.5ポイント下回っている。

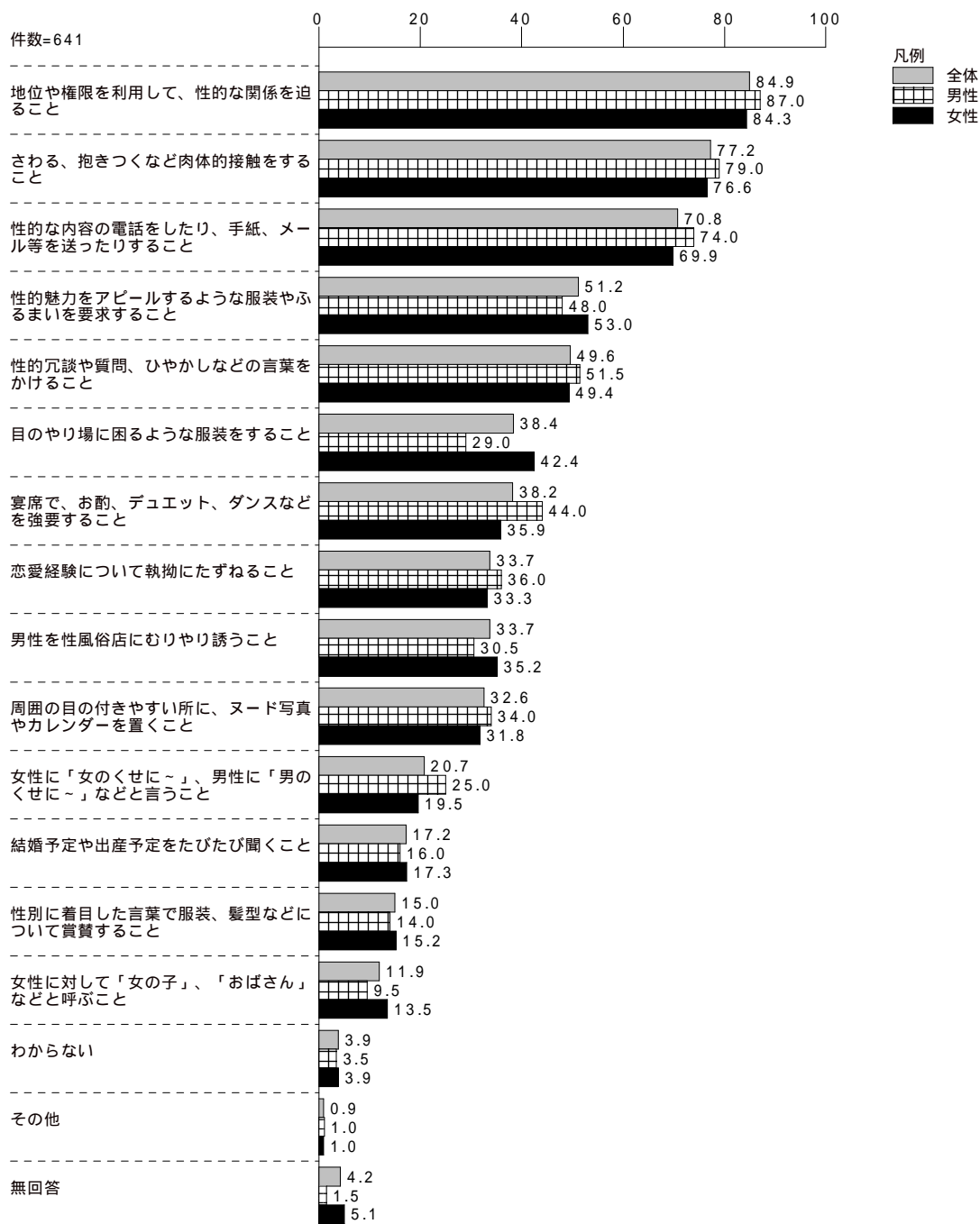


(2) あなたが、セクシュアル・ハラスメントだと思うものはどれですか。【 はいいくつでも】

セクシュアル・ハラスメントだと思うものについて、「地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること」が84.9%で最も多く、次いで「さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること」77.2%、「性的な内容の電話をしたり、手紙、メール等を送ったりすること」70.8%、「性的魅力をアピールするような服装やふるまいを要求すること」51.2%、「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること」49.6%の順となっている。

性別でみると、男女による回答率の傾向に大きな違いはないが、「目のやり場に困るような服装をすること」では男性で29.0%、女性で42.4%と女性が男性を13.4ポイント上回っている。反対に「宴席で、お酌、デュエット、ダンスなどを強要すること」では、男性が44.0%、女性が35.9%と男性が女性を8.1ポイント上回っている。

【問9(2) セクシュアル・ハラスメントだと思うもの】

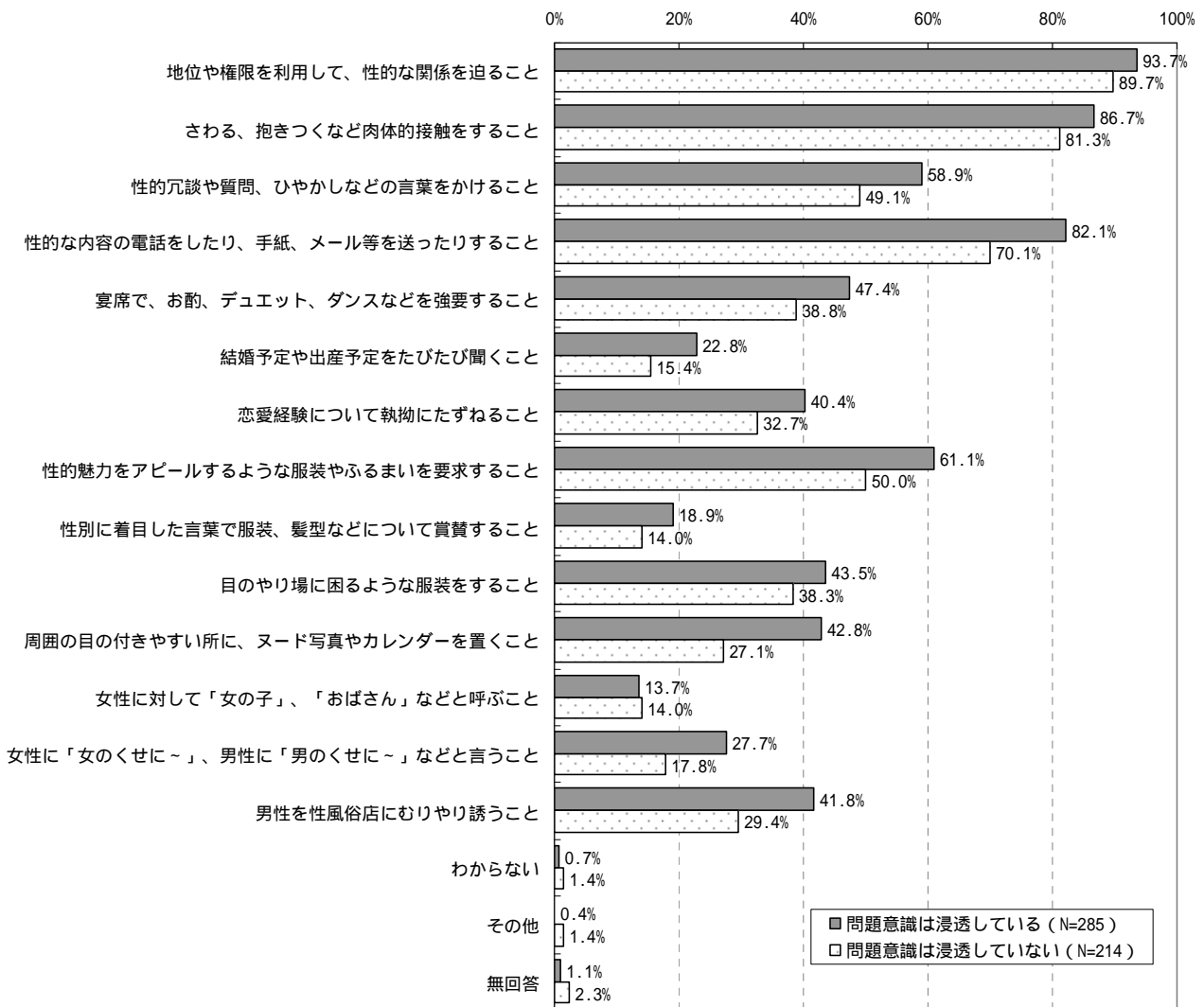


< セクシュアル・ハラスメントへの問題意識とセクシュアル・ハラスメントの内容について >

問9(1)のセクシュアル・ハラスメントへの問題意識と(2)セクシュアル・ハラスメントの内容について、クロス集計を行った。

セクシュアル・ハラスメントの問題意識が“浸透している”“浸透していない”の回答に関わらず、セクシュアル・ハラスメントの内容については、いずれも回答が多くなっているが、セクシュアル・ハラスメントの問題意識が“浸透している”と回答した場合の方が、より高い回答率を示している。

【問9 セクシュアル・ハラスメントへの問題意識と内容】



問題意識は浸透している：問9(1)の「問題意識は、十分浸透している」と「問題意識は、少しずつ浸透してきている」を合わせた割合。

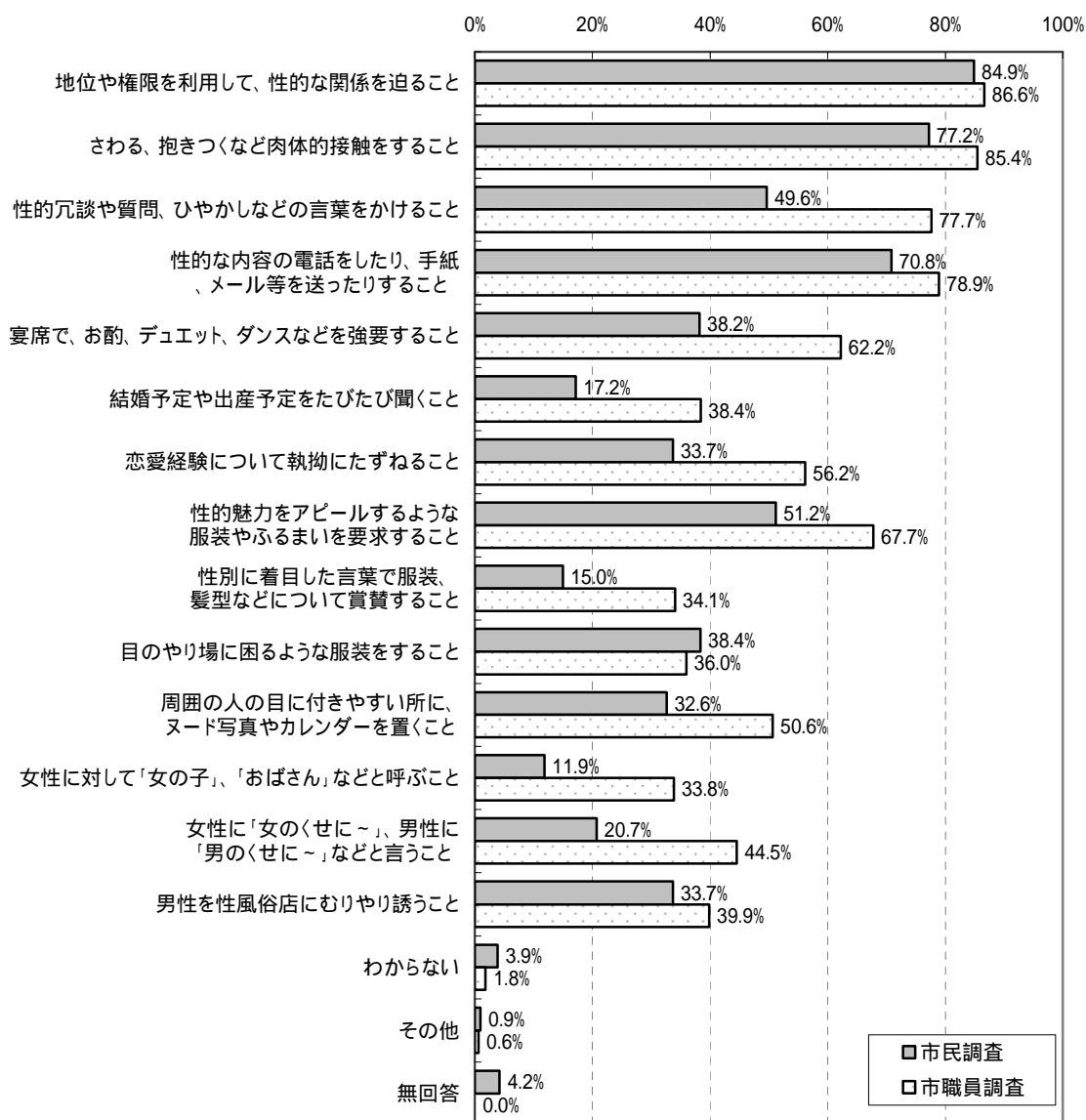
問題意識は浸透していない：問9(1)の「問題意識は、あまり浸透していない」と「問題意識はない」を合わせた割合。

【参考】

宇和島市職員調査（H19.08 実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること」（市民：84.9%、市職員 86.6%）が最も多く、次いで「さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること」77.2%、「性的な内容の電話をしたり、手紙、メール等を送ったりすること」、「性的魅力をアピールするような服装やふるまいを要求すること」、「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること」などの回答が多くなっている。

全体的に、市職員に比べ市民の回答率は低く、市民のセクシュアル・ハラスメント意識は市職員に比べると低いことが分かる。

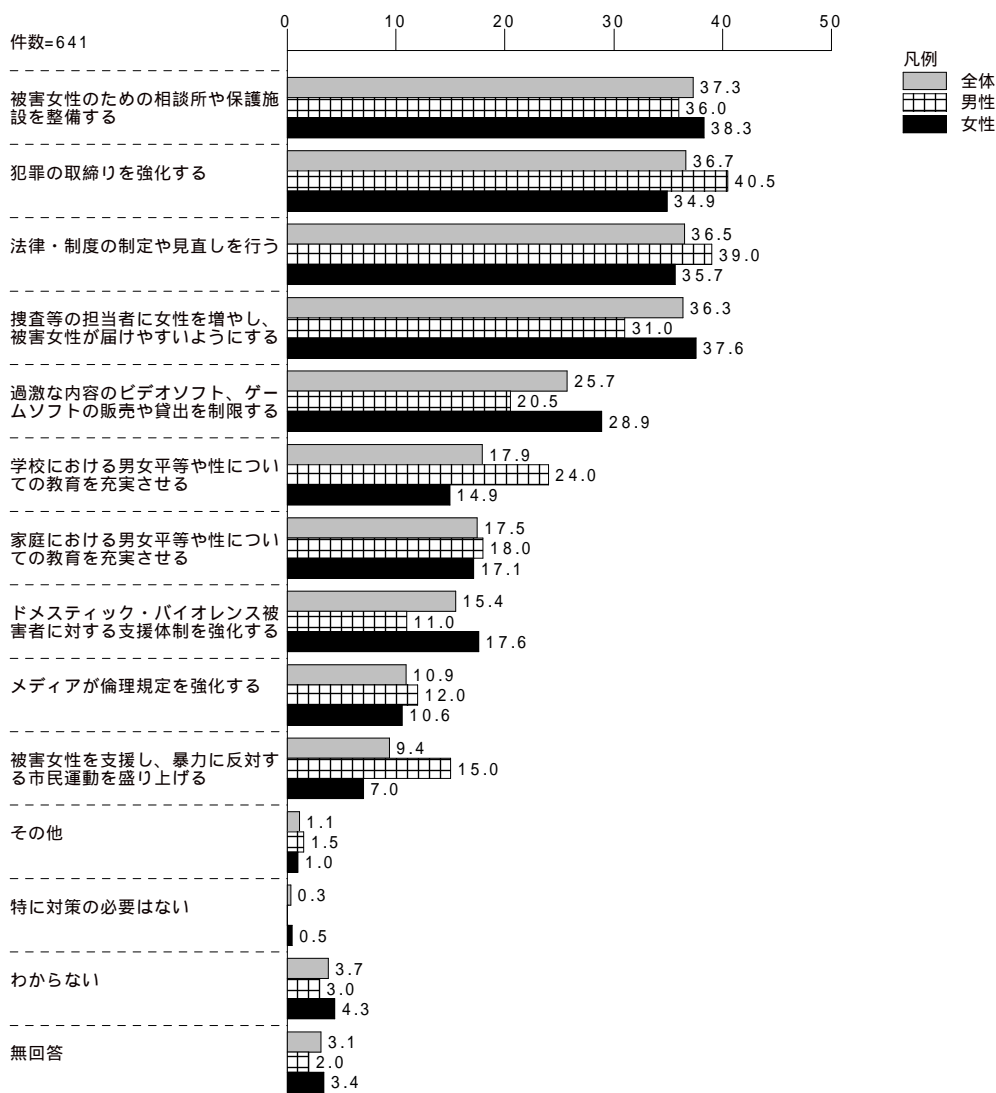


問 10 今日、家庭内暴力、性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント等、女性に対する暴力が社会問題として注目されています。あなたは、女性に対する暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。 【 は3つ以内】

女性に対する暴力をなくすために必要なことについて、「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」が37.3%で最も多く、「犯罪の取締りを強化する」36.7%、「法律・制度の制定や見直しを行う」36.5%、「捜査等の担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする」36.3%などが続いている。

性別でみると、男性では「犯罪の取締りを強化する」、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」、「被害女性を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる」などが女性の回答率を上回り、女性では「捜査等の担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする」、「過激な内容のビデオソフト、ゲームの販売や貸出を制限する」、「ドメスティック・バイオレンス被害者に対する支援体制を強化する」などが男性の回答率を上回っている。

【問 10 女性に対する暴力をなくすために必要なこと】

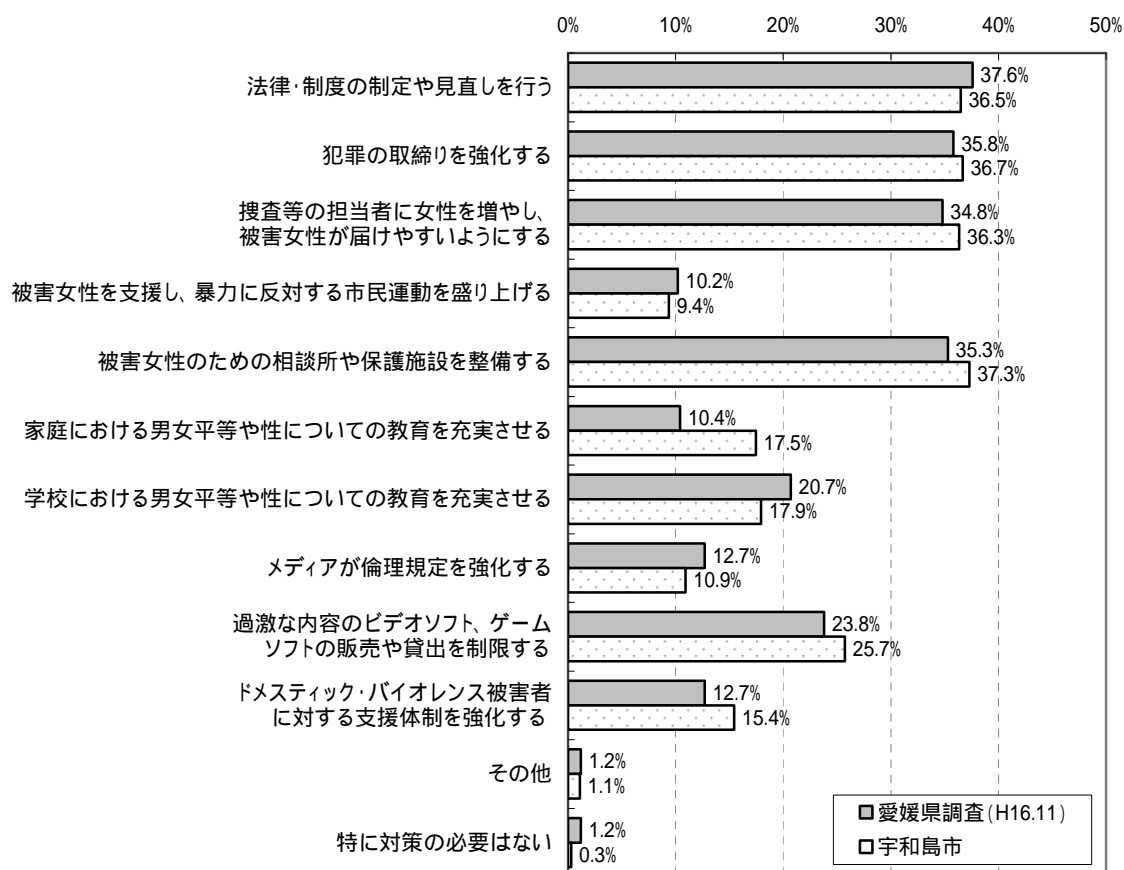


【参考】

愛媛県調査（H16.11実施）結果比較

愛媛県調査結果と比較してみると、ともに「法律・制度の制定や見直しを行う」、「犯罪の取締りを強化する」、「捜査等の担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする」、「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」などの回答が多く、あまり大きな違いはみられない。

一方、「家庭における男女平等や性についての教育を充実させる」との回答が愛媛県では10.4%に対し、宇和島市では17.5%と7.1ポイント上回っている。



3. 就労や職業生活について

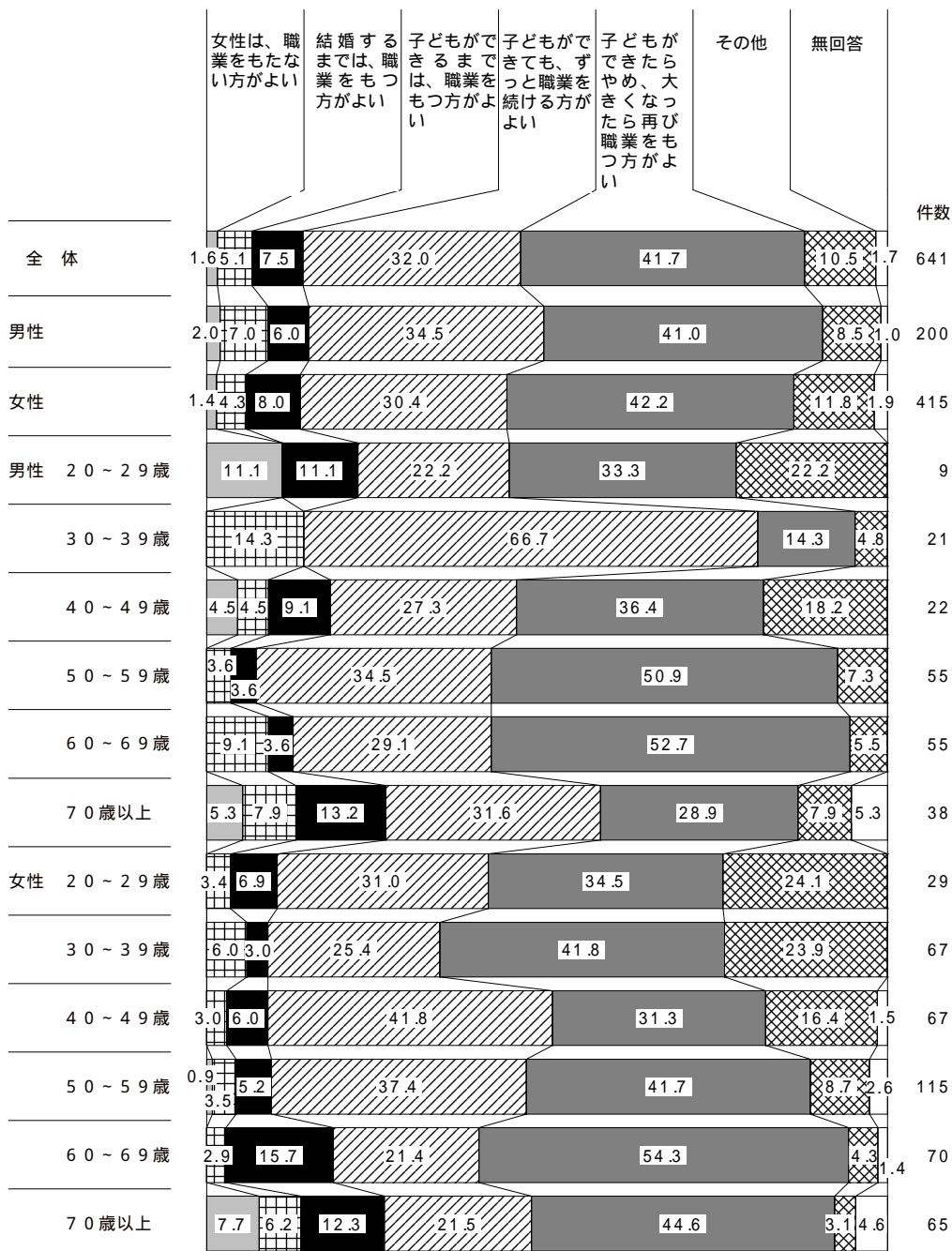
問 11 あなたは、一般的に女性が職業をもつことについて、どのようにお考えですか。

【 は1つ】

一般的に女性が職業をもつことについて、「子どもができたならやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」との回答が41.7%で最も多く、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」も32.0%となっている。また、性別による大きな違いはみられない。

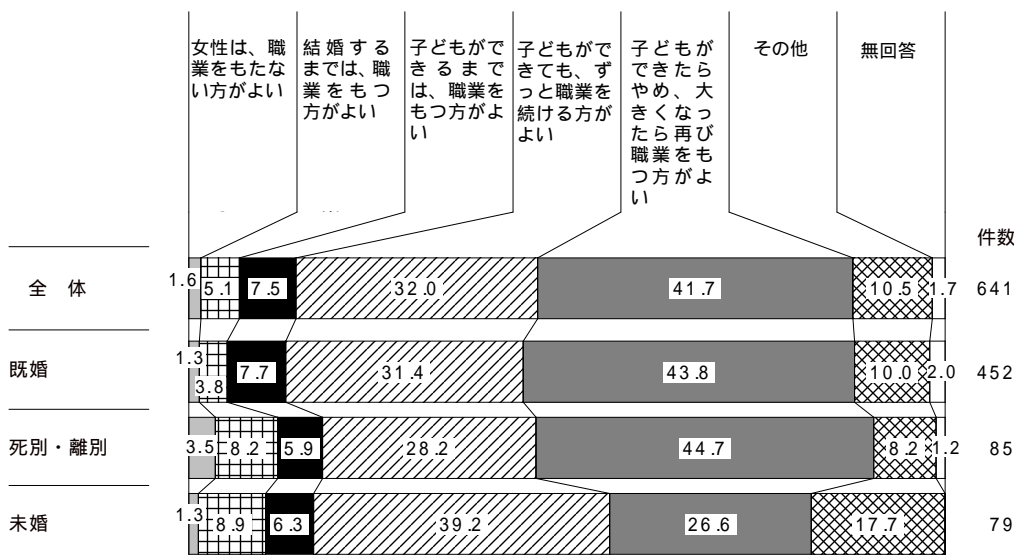
性・年齢別でみると、50代、60代の男性や60代の女性では「子どもができたならやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」との回答が50%を超えている。一方、30代の男性と40代の女性では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の回答率が最も高くなっている。

【問 11 女性が職業をもつこと】



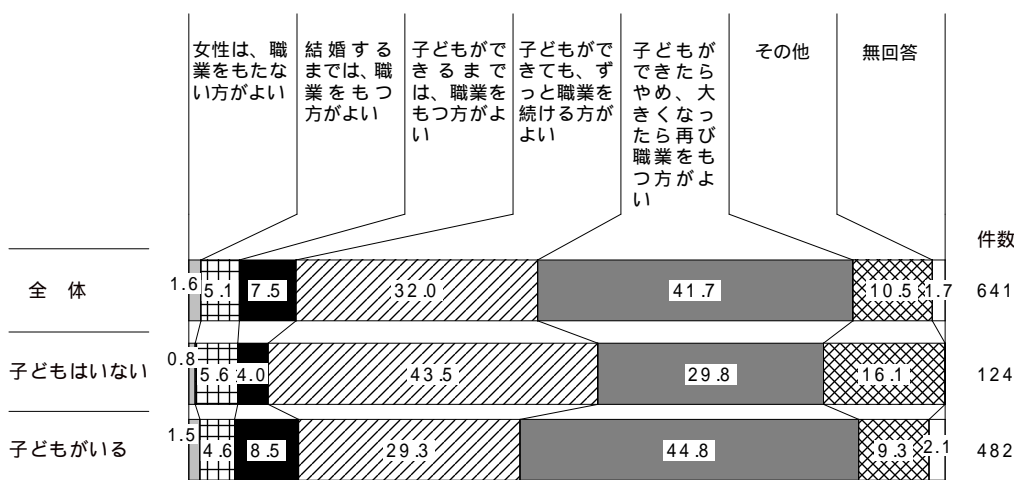
結婚の状況別でみると、既婚者や死別・離別の場合では、「子どもができたならやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の回答率が40%を超え最も高くなっている。一方、未婚者では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の回答率が39.2%で「子どもができたならやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の26.6%を上回っている。

【問 11 結婚の状況別 女性が職業をもつこと】



子ども有無別でみると、子どもがいる場合では、「子どもができたならやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の回答率が40%を超え最も高くなっている。一方、子どもがいない場合では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の回答率が43.5%で「子どもができたならやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の29.8%を上回っている。

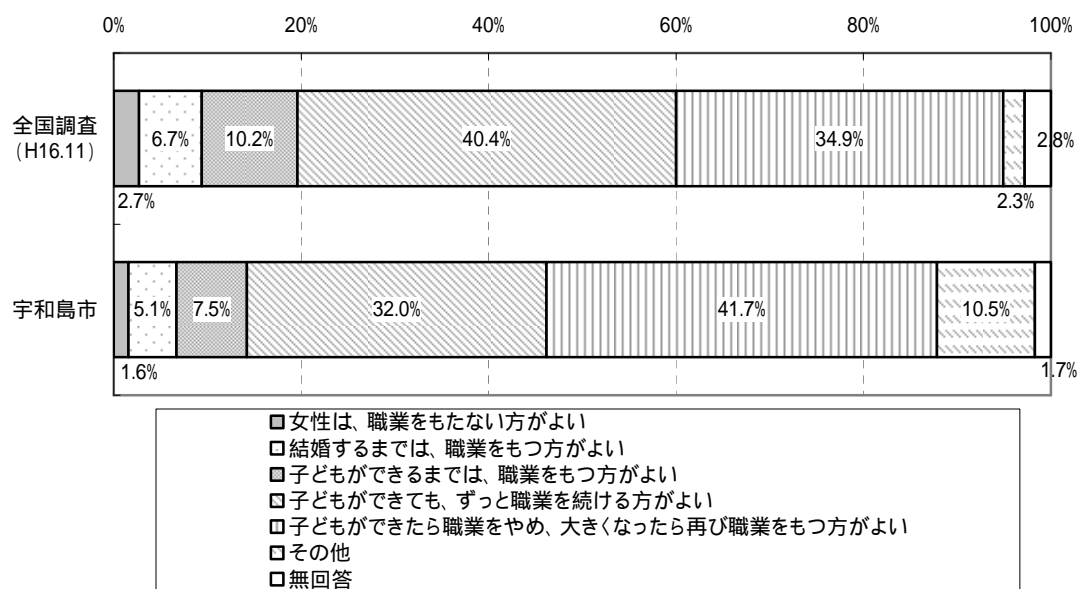
【問 11 子どもの有無別 女性が職業をもつこと】



【参考】

全国調査（H16.11実施）結果比較

全国調査結果と比較してみると、全国では「子どもができてずっと職業を続ける方がよい」との回答が40.4%と最も多いのに対し、宇和島市では「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」との回答が41.7%と全国の34.9%を6.8ポイント上回り、最も多くなっている。



これまでに、離職したことがある方におたずねします。

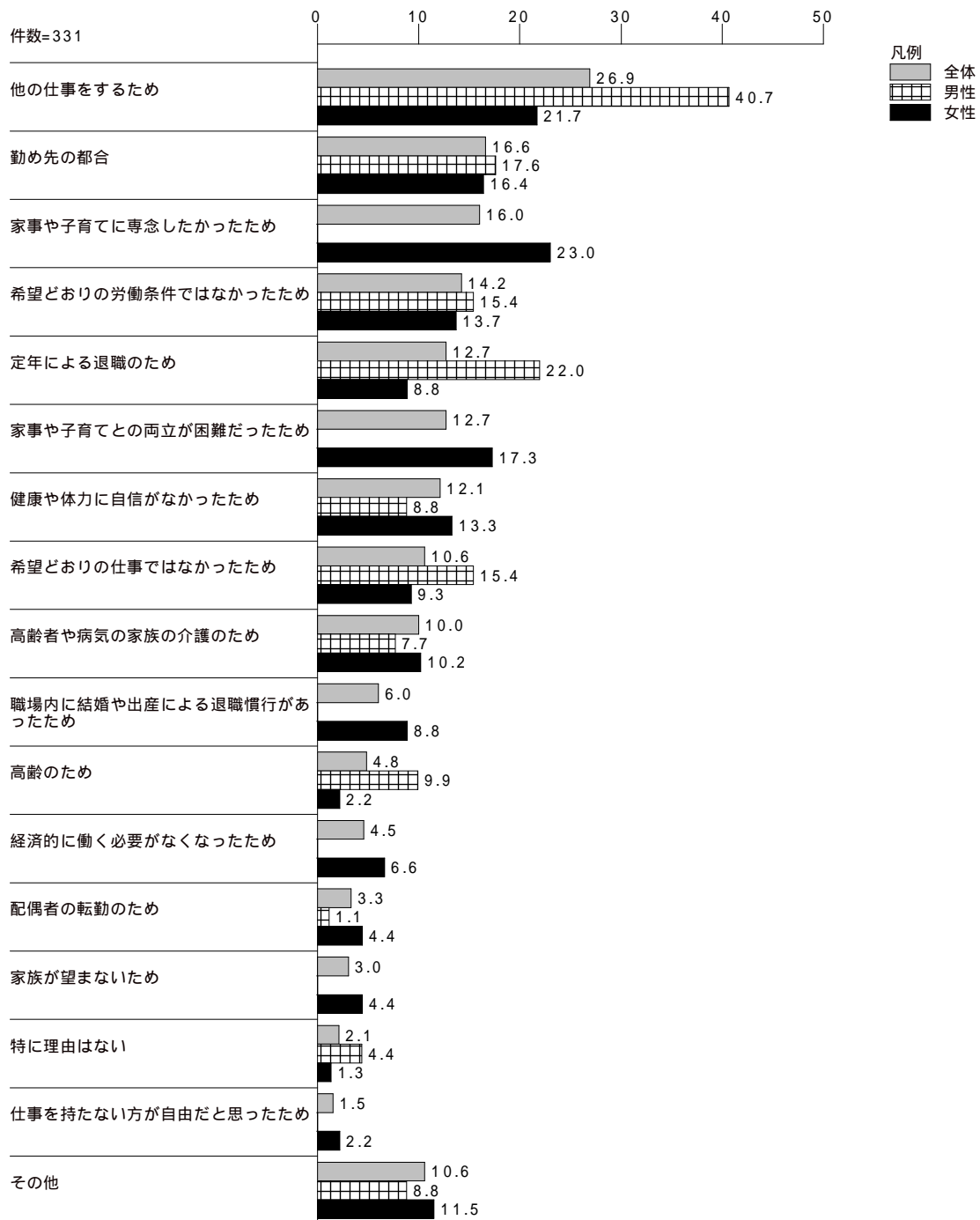
問 12 あなたが離職した理由は何ですか。

【 はいくつでも 】

離職した理由について、「他の仕事をするため」が26.9%で最も多く、次いで「勤め先の都合」16.6%、「家事や子育てに専念したかったため」16.0%、「希望どおりの労働条件ではなかったため」14.2%、「定年による退職のため」12.7%、「家事や子育てとの両立が困難だったため」12.7%の順となっている。

性別でみると、「家事や子育てに専念したかったため」、「家事や子育てとの両立が困難だったため」、「職場内に結婚や出産による退職慣行があったため」などが女性のみの回答となっている。

【問 12 離職した理由】



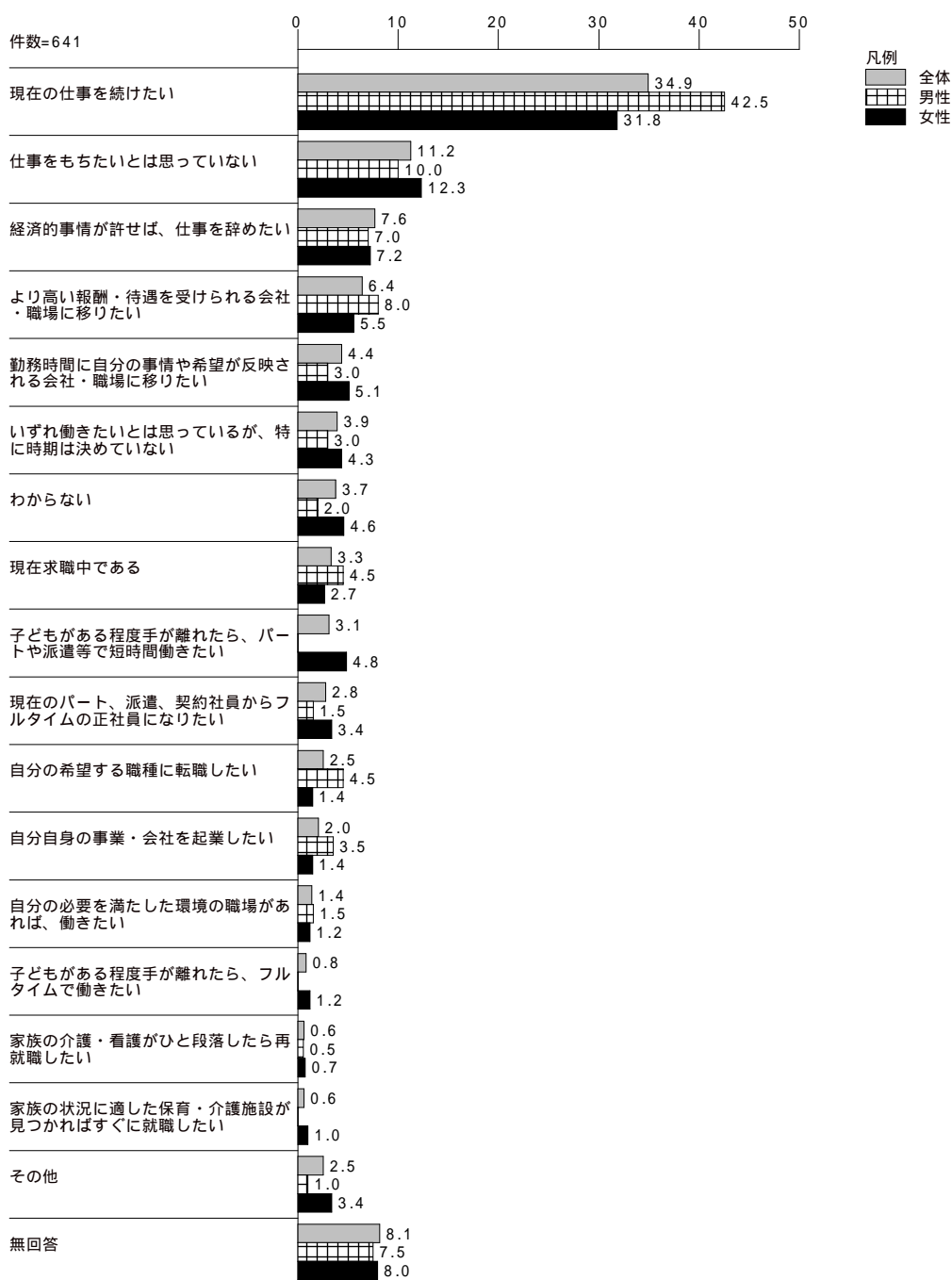
学生を除く、すべての方におたずねします。

問 13 あなたは、今後のご自身の就業についてどのようにお考えですか。あなたのお考えに最も近いものをお選びください。 【は1つ】

今後の就業について、「現在の仕事を続けたい」が34.9%で最も多く、次いで「仕事をもちたいとは思っていない」11.2%、「経済的事情が許せば、仕事を辞めたい」7.6%、「より高い報酬・待遇を受けられる会社・職場に移りたい」6.4%、「勤務時間に自分の事情や希望が反映される会社・職場に移りたい」4.4%の順となっている。

性別で見ると、男女とも「現在の仕事を続けたい」との回答が最も多く、「子どもがある程度手が離れたら、パートや派遣等で短時間働きたい」や「子どもがある程度手が離れたら、フルタイムで働きたい」など女性だけの回答もあった。

【問 13 今後の就業について】



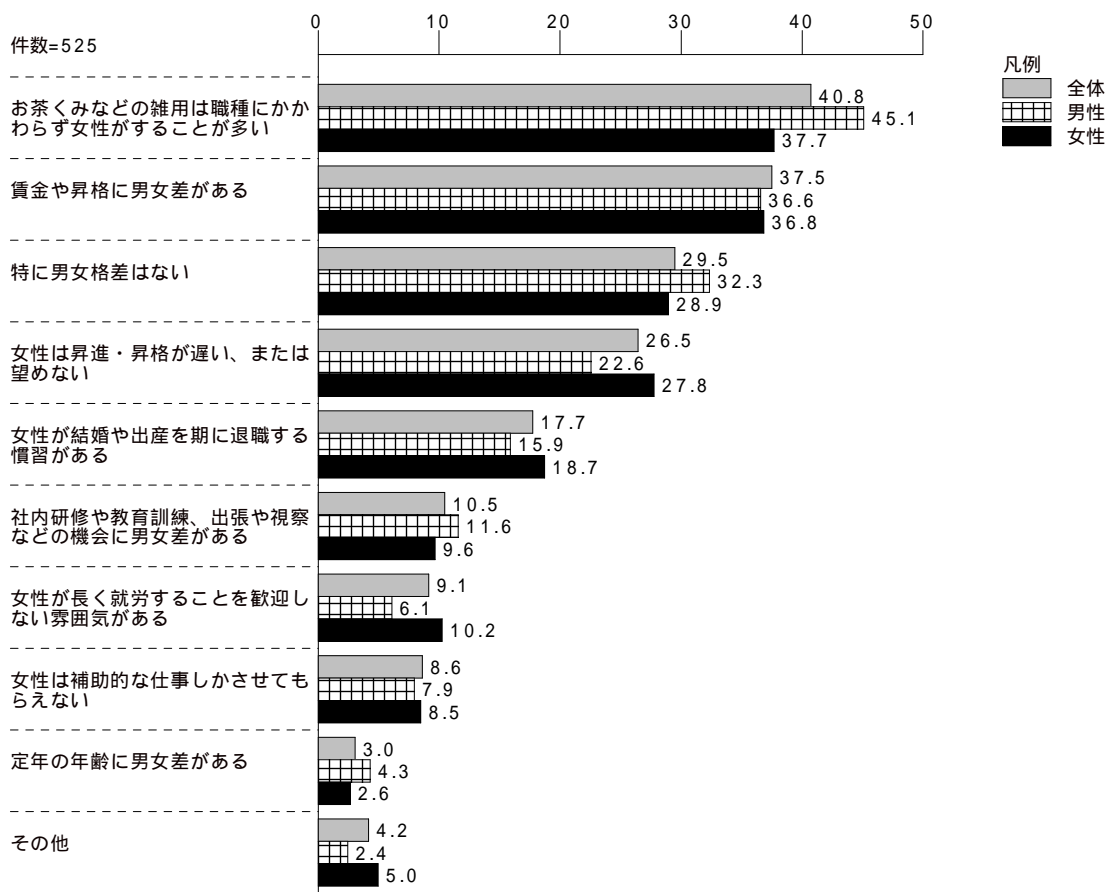
これまでに、就労経験のある方におたずねします。

問 14 あなたの職場で、次のようなことがありましたか。

【 はいいくつでも】

職場での男女格差について、「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」が40.8%で最も多く、次いで「賃金や昇格に男女差がある」37.5%、「特に男女格差はない」29.5%、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」26.5%、「女性が結婚や出産を期に退職する慣習がある」17.7%の順となっている。

【問 14 職場での男女格差】



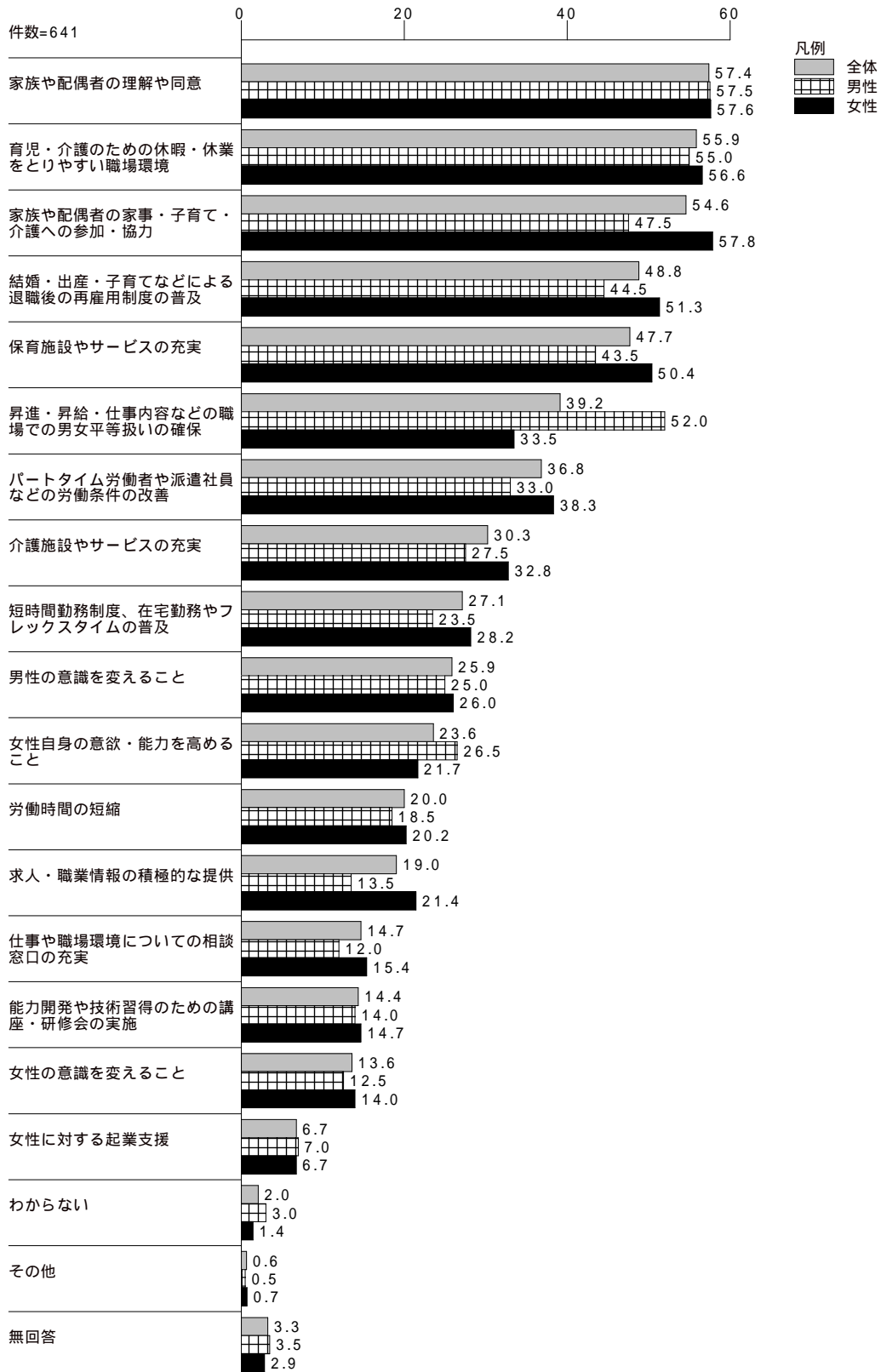
問 15 あなたは、働く意欲のある女性が働き続けたり、再就職したりするためには、どのようなことが必要だと思いますか。 【はいくつでも】

女性の就労継続や、再就職のために必要なことについて、「家族や配偶者の理解や同意」が 57.4%で最も多く、「育児・介護のための休暇・休業を取りやすい職場環境」(55.9%)、「家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力」(54.6%)も50%を超えて多くなっている。

性別でみると、男性ではとくに「昇進・昇給・仕事内容などの職場での男女平等扱いの確保」との回答が50%を超え、女性の回答率を18.5ポイント上回っている。また、女性では「家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力」や「結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及」、「保育施設やサービスの充実」、「求人・職業情報の積極的な提供」などの回答率が男性に比べて高くなっている。

就労継続を希望していたり就労意欲のある女性が望んでいる就労支援策を把握するため、問13と問15のクロス集計を行った。“現在の仕事を続けたい”と回答した人では、「家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力」の回答率が64.4%で最も高く、「家族や配偶者の理解や同意」(62.9%)、「保育施設やサービスの充実」(58.3%)が続いている。“現在のパート、派遣、契約社員からフルタイムの正社員になりたい”と回答した人では、「保育施設やサービスの充実」や「パートタイム労働者や派遣社員などの労働条件の改善」が約80%で高い回答率となっている。また、“子どもがある程度手が離れたら、パートや派遣等で短時間働きたい”と回答した人では、「育児・介護のための休暇・休業を取りやすい職場環境」の回答率が80.0%で最も高く、「家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力」、「保育施設やサービスの充実」、「結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及」も50%を超えている。

【問 15 女性が働き続けたり再就職したりするために必要なこと】



【女性が望む就労支援策】

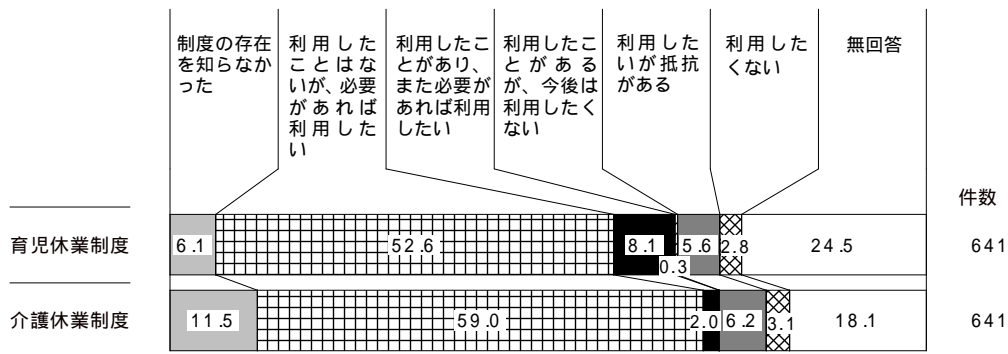
区 分	1 番回答が多かったもの	2 番目	3 番目
現在の仕事を続けたい (N=132)	家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力 (64.4%)	家族や配偶者の理解や同意 (62.9%)	保育施設やサービスの充実 (58.3%)
より高い報酬・待遇を受けられる会社・職場に移りたい(N=23)	昇進・昇格・仕事内容などの職場での男女平等扱いの確保 (73.9%)	家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力 (69.6%)	育児・介護のための休暇・休業をとりやすい職場環境 (52.2%) 結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及 (52.2%)
勤務時間に自分の事情や希望が反映される会社・職場に移りたい(N=21)	家族や配偶者の理解や同意 (71.4%)	育児・介護のための休暇・休業をとりやすい職場環境 (66.7%)	家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力 (61.9%)
自分の希望する職種に転職したい(N=6)	家族や配偶者の理解や同意(83.3%) 育児・介護のための休暇・休業をとりやすい職場環境(83.3%) 結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及(83.3%)		
自分自身の事業・会社を起業したい(N=6)	保育施設やサービスの充実 (83.3%)	家族や配偶者の理解や同意(66.7%) 家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力(66.7%) 介護サービスの充実(66.7%) 育児・介護のための休暇・休業をとりやすい職場環境 (66.7%)	
現在のパート、派遣、契約社員からフルタイムの正社員になりたい(N=14)	保育施設やサービスの充実(78.6%) パートタイム労働者や派遣社員などの労働条件の改善 (78.6%)		育児・介護のための休暇・休業をとりやすい職場環境 (71.4%)
子どもがある程度手が離れたら、パートや派遣等で短時間働きたい(N=20)	育児・介護のための休暇・休業をとりやすい職場環境 (80.0%)	家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力(55.0%) 保育施設やサービスの充実(55.0%) 結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及 (55.0%)	
子どもがある程度手が離れたら、フルタイムで働きたい(N=5)	保育施設やサービスの充実(80.0%) 家族や配偶者の理解や同意(80.0%) 結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及(80.0%)		
いずれ働きたいとは思っているが、特に時期は決めていない(N=18)	家族や配偶者の理解や同意(66.7%) 家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力(66.7%)		結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及 (61.1%)
現在求職中である(N=11)	家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力(63.6%) 育児・介護のための休暇・休業をとりやすい職場環境(63.6%) 結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及(63.6%)		

問 16 あなたは、次にあげる制度を利用したことはありますか。また、今後利用したいと思
いますか。 【 はそれぞれ1つ】

育児休業制度の利用について、「利用したことはないが、必要があれば利用したい」が50%を超えて
いる。「利用したことがあり、また必要があれば利用したい」が8.1%、「制度の存在を知らなかった」
6.1%、「利用したいが抵抗がある」5.6%となっている。

介護休業制度の利用についても、「利用したことはないが、必要があれば利用したい」が50%を超え
ている。「制度の存在を知らなかった」との回答が11.5%ある。

【問 16 制度の利用について】

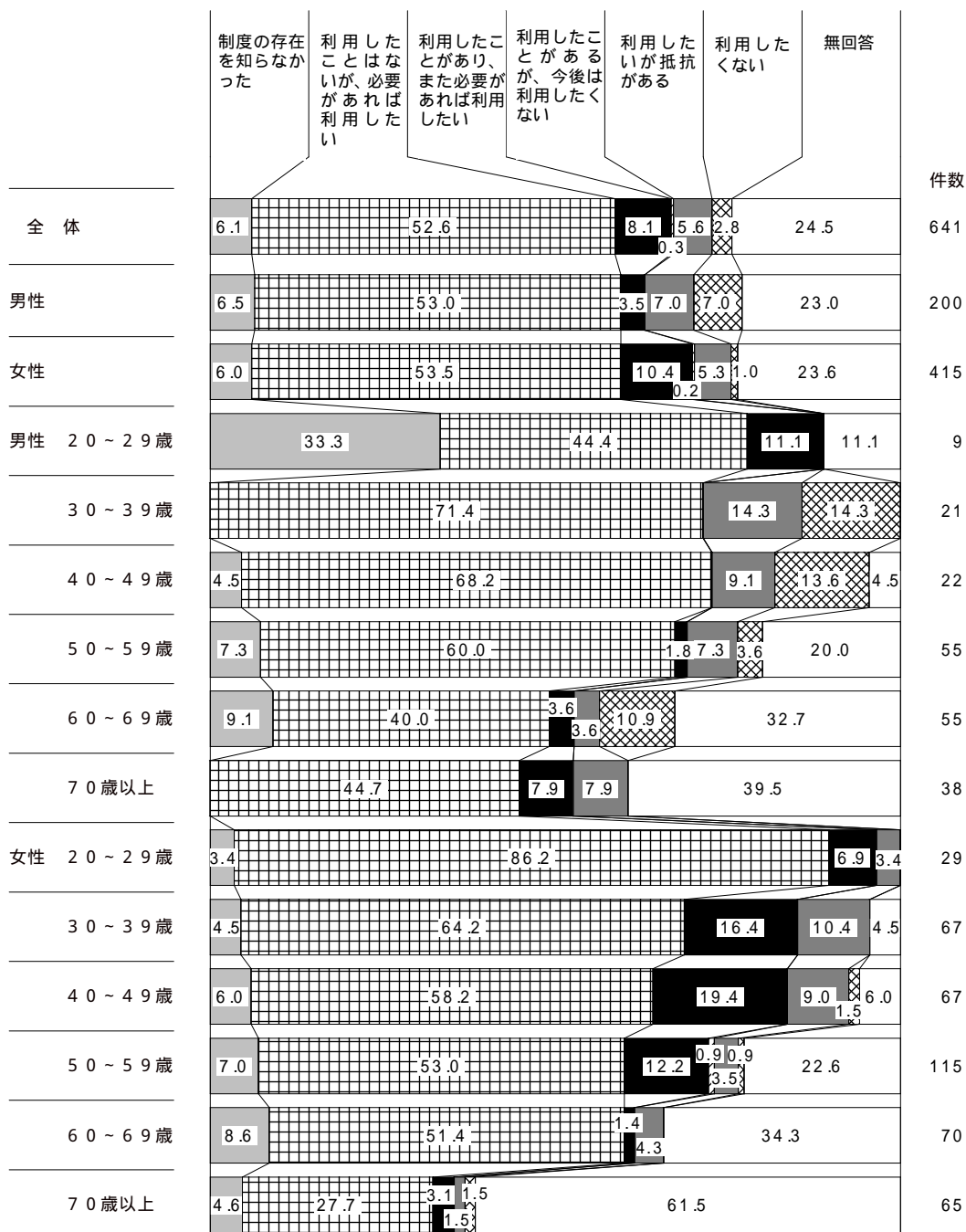


育児休業制度

育児休業制度の利用について、性別で見ると、「利用したことがあり、また必要があれば利用したい」が男性で3.5%、女性で10.4%となっている。

性・年齢別で見ると、30代、40代の男性では「利用したことはないが、必要があれば利用したい」の回答率が約70%で高くなっている。30代、40代の女性では「利用したことがあり、また必要があれば利用したい」の回答率が約20%で他の年齢層に比べて高くなっている。

【問 16 制度の利用について 育児休業制度】

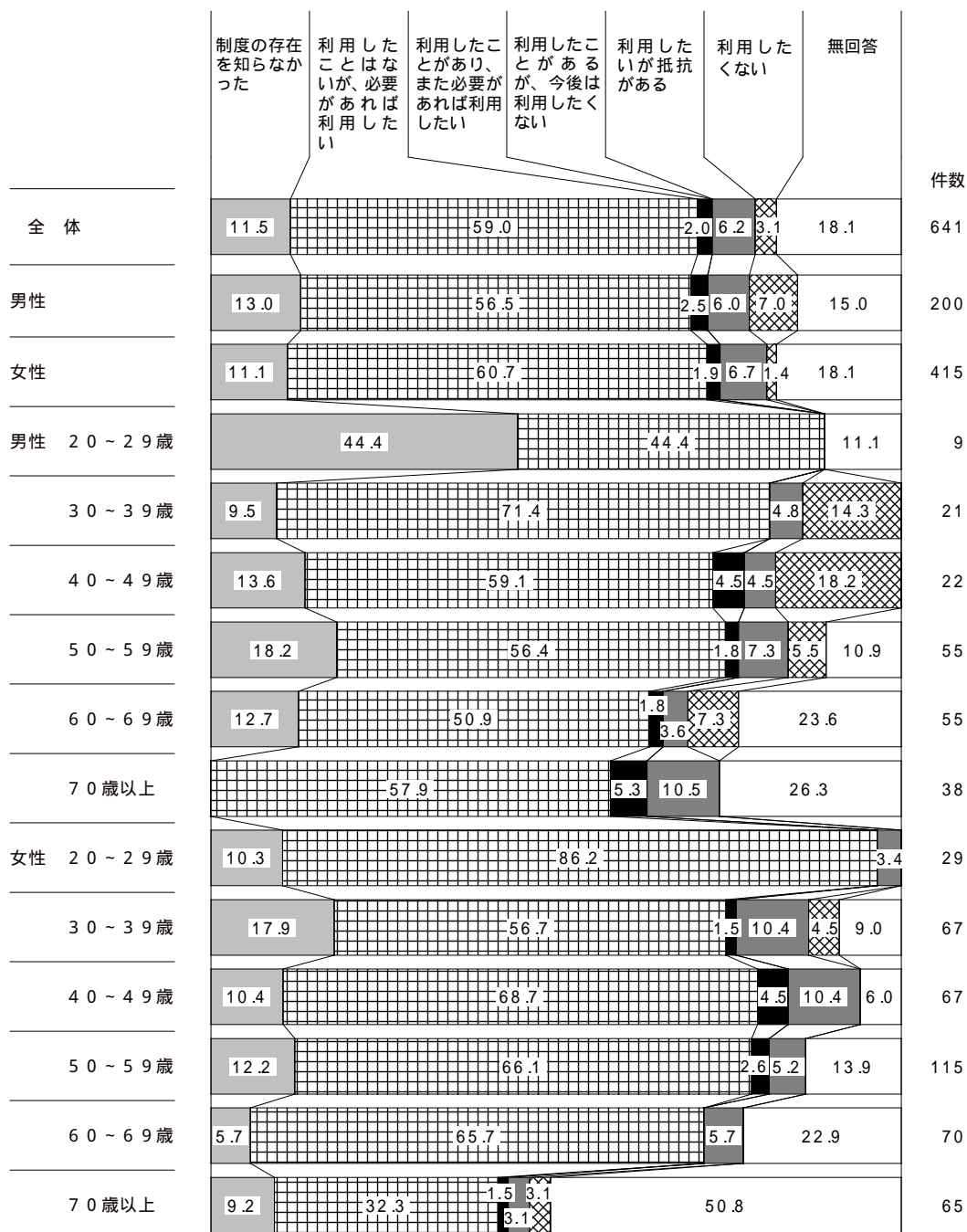


介護休業制度

介護休業制度の利用について、性別で見ると、男女とも「利用したことはないが、必要があれば利用したい」が約60%で多くなっている。

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢層で「利用したことはないが、必要があれば利用したい」の回答率が最も高くなっている。また、20代の男性を除き、「利用したいが抵抗がある」との回答がそれぞれ約10%ある。

【問 16 制度の利用について 介護休業制度】

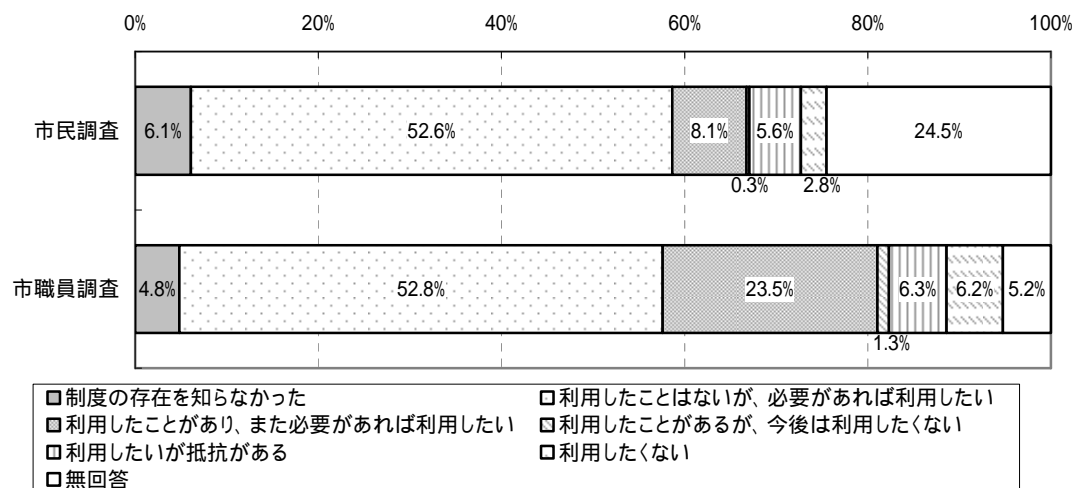


【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

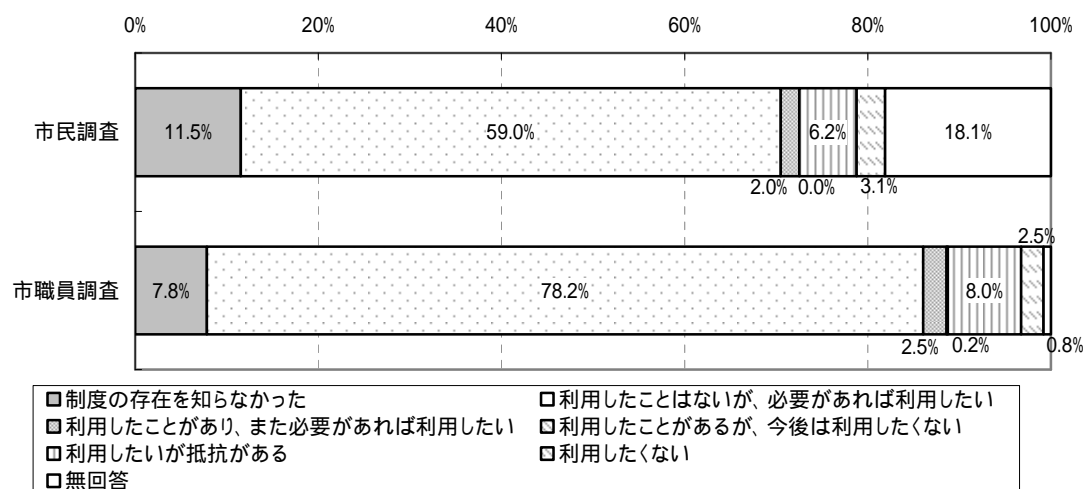
育児休業制度

育児休業制度の利用について、「利用したことはないが、必要があれば利用したい」の回答が市民で52.6%、市職員では52.8%と最も多くなっている。一方で、「利用したことがあり、また必要があれば利用したい」が市民では8.1%に対し、市職員では23.5%と、市民の利用率は市職員の約3分の1の割合となっている。



介護休業制度

育児休業制度の利用について、「利用したことはないが、必要があれば利用したい」の回答が市民で59.0%、市職員では78.2%と最も多くなっている。一方で、「制度の存在を知らなかった」が市職員では7.8%に対し、市民では11.5%と3.7ポイント上回り、市民の制度周知率は低くなっている。

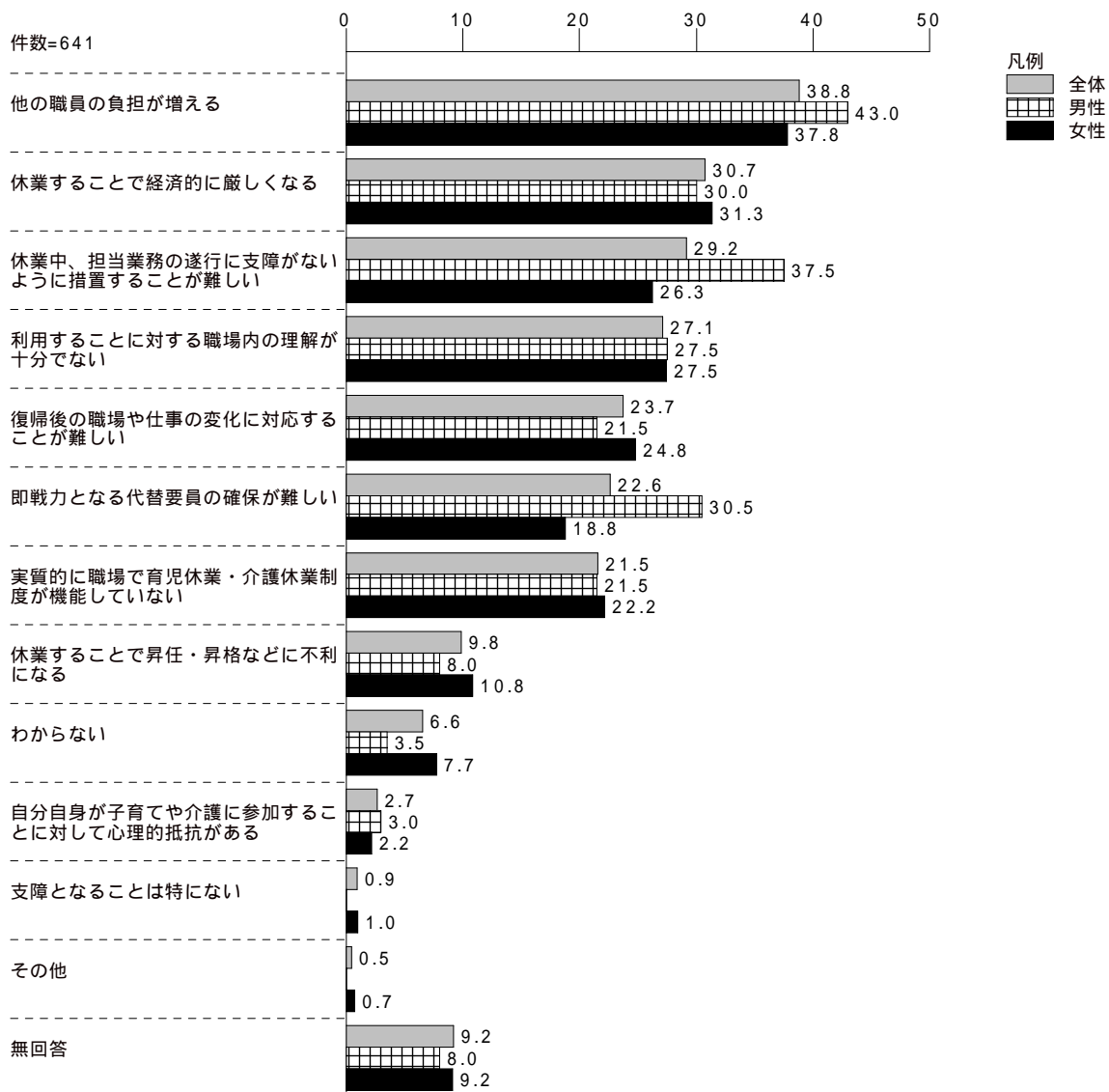


問 17 育児休業・介護休業制度を利用する上で、障害となることはどのようなことだと思いますか。 【は3つ以内】

育児休業・介護休業制度を利用する上で、障害となることについて、「他の職員の負担が増える」が38.8%で最も多く、次いで「休業することで経済的に厳しくなる」(30.7%)、「休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい」(29.2%)、「利用することに対する職場内の理解が十分でない」(27.1%)、「復帰後の職場や仕事の変化に対応することが難しい」(23.7%)、「即戦力となる代替要因の確保が難しい」(22.6%)、「実質的に職場で育児休業・介護休業制度が機能していない」(21.5%)の順となっている。

性別でみると、とくに男性では「即戦力となる代替要因の確保が難しい」や「休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい」との回答率が高くなっている。

【問 17 育児休業・介護休業制度を利用する上で障害となること】



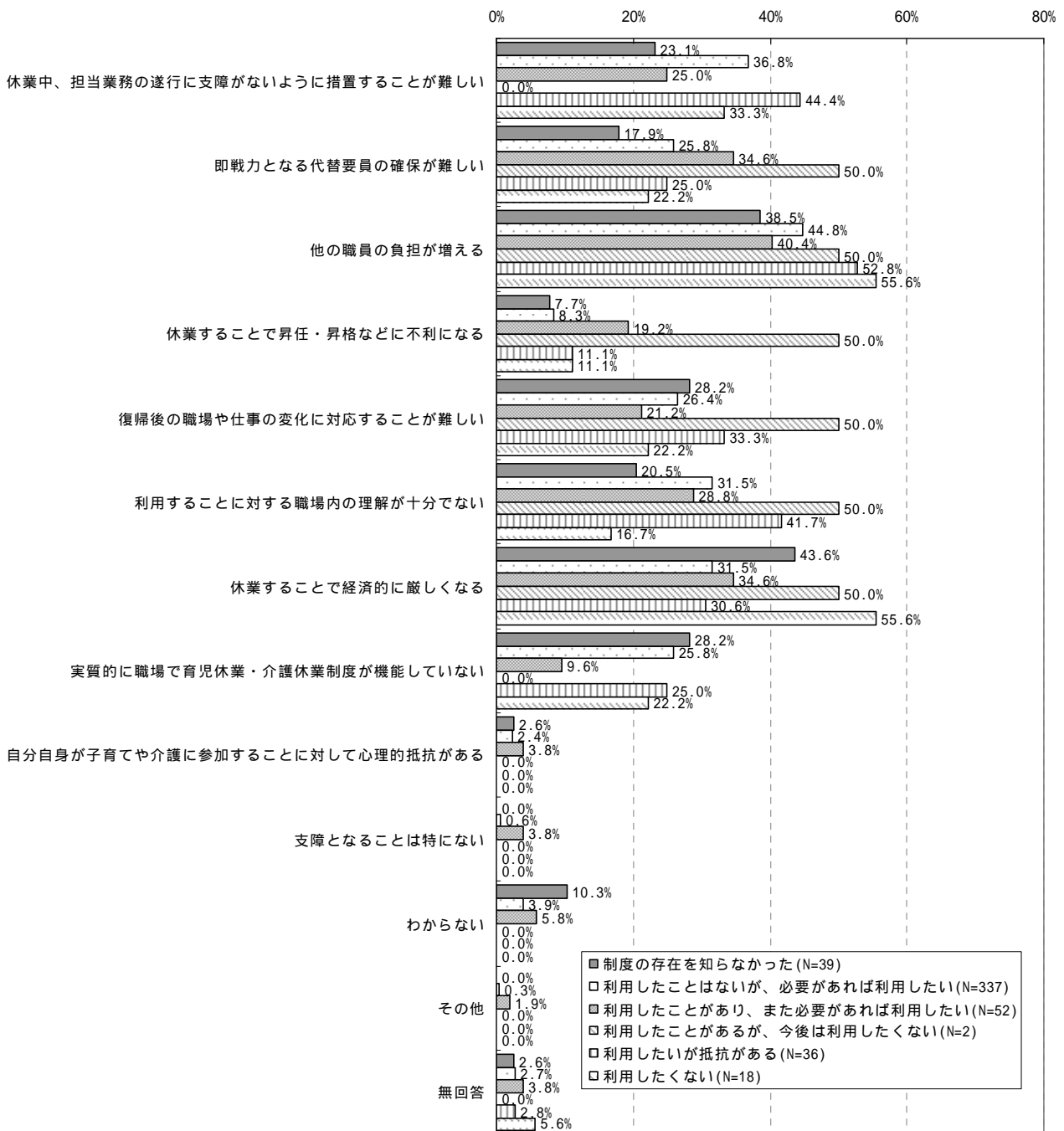
< 制度利用の希望と利用上の障害について >

育児休業制度、介護休業制度について、利用希望がない人や利用に抵抗を感じる人が障害と感じていることを把握するため、問 16 と問 17 のクロス集計を行った。

育児休業制度

育児休業制度について、“利用したいが抵抗がある”という人が障害と感じていることは、「他の職員の負担が増える」(52.8%) や「休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい」(44.4%) 「利用することに対する職場内の理解が十分でない」(41.7%) との回答が多くなっている。“利用したくない”という人では、「他の職員の負担が増える」及び「休業することで経済的に厳しくなる」(55.6%) との回答が多くなっている。

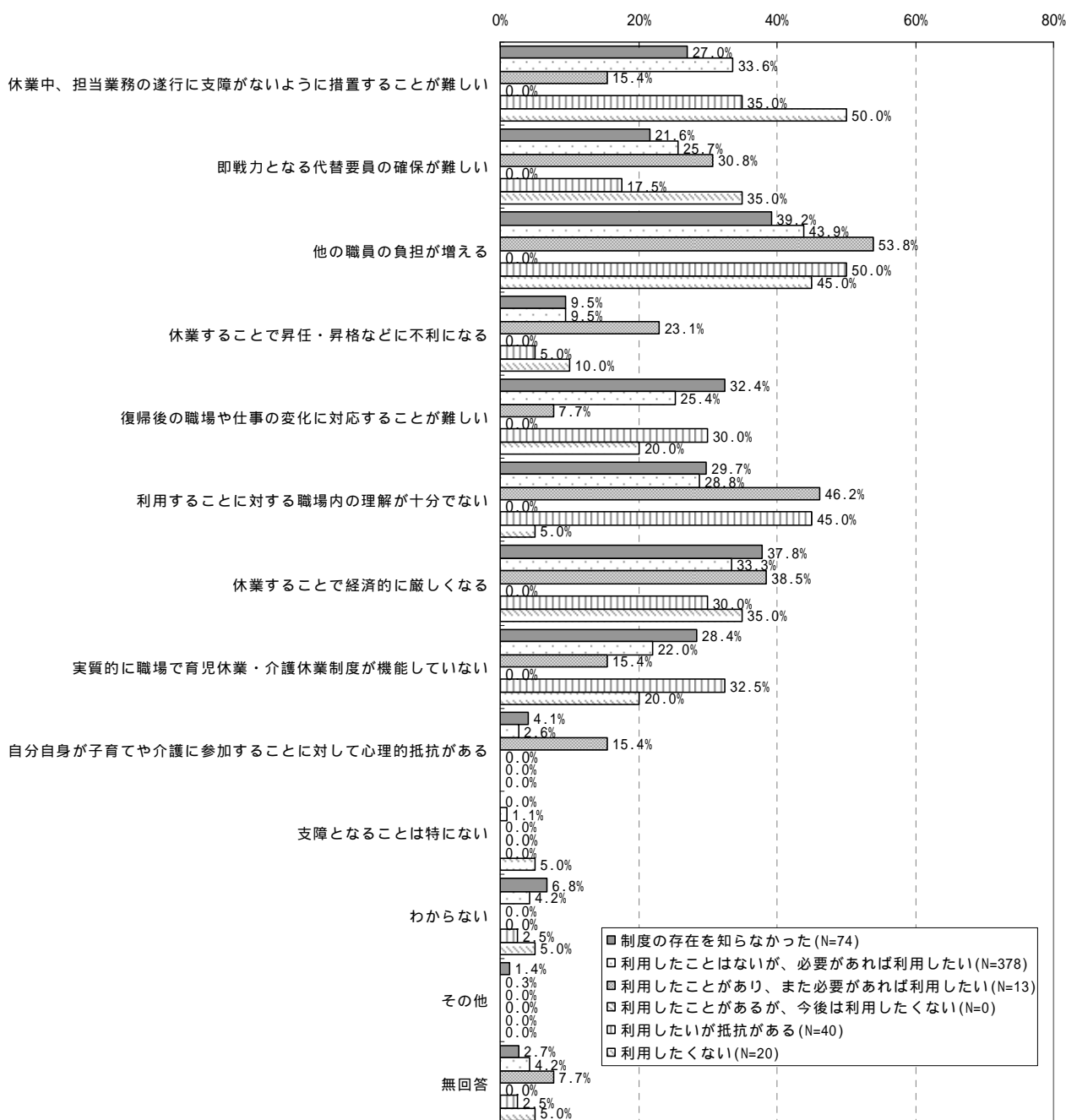
【 育児休業制度 制度利用の希望と利用上の障害について】



介護休業制度

介護休業制度について、“利用したいが抵抗がある”という人が障害に感じていることは、「他の職員の負担が増える」(50.0%)や「利用することに対する職場内の理解が十分でない」(45.0%)との回答が多くなっている。“利用したくない”という人では、「休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい」(50.0%)や「他の職員の負担が増える」(45.0%)との回答が多くなっている。

【 介護休業制度 制度利用の希望と利用上の障害について】

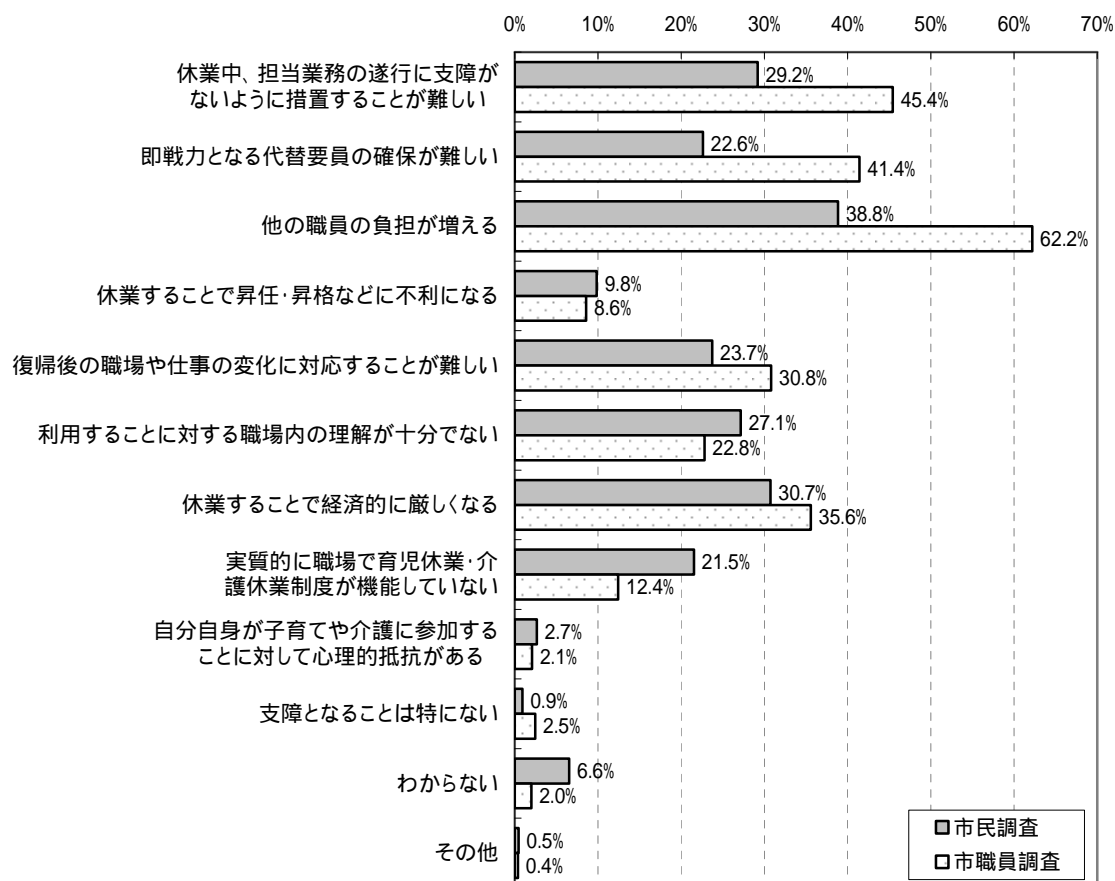


【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに育児休業・介護休業制度を利用する上で、障害となることについては、「他の職員の負担が増える」が最も多くなっているものの、市民では38.8%に対し市職員では62.2%と1.5倍の割合を占めている。

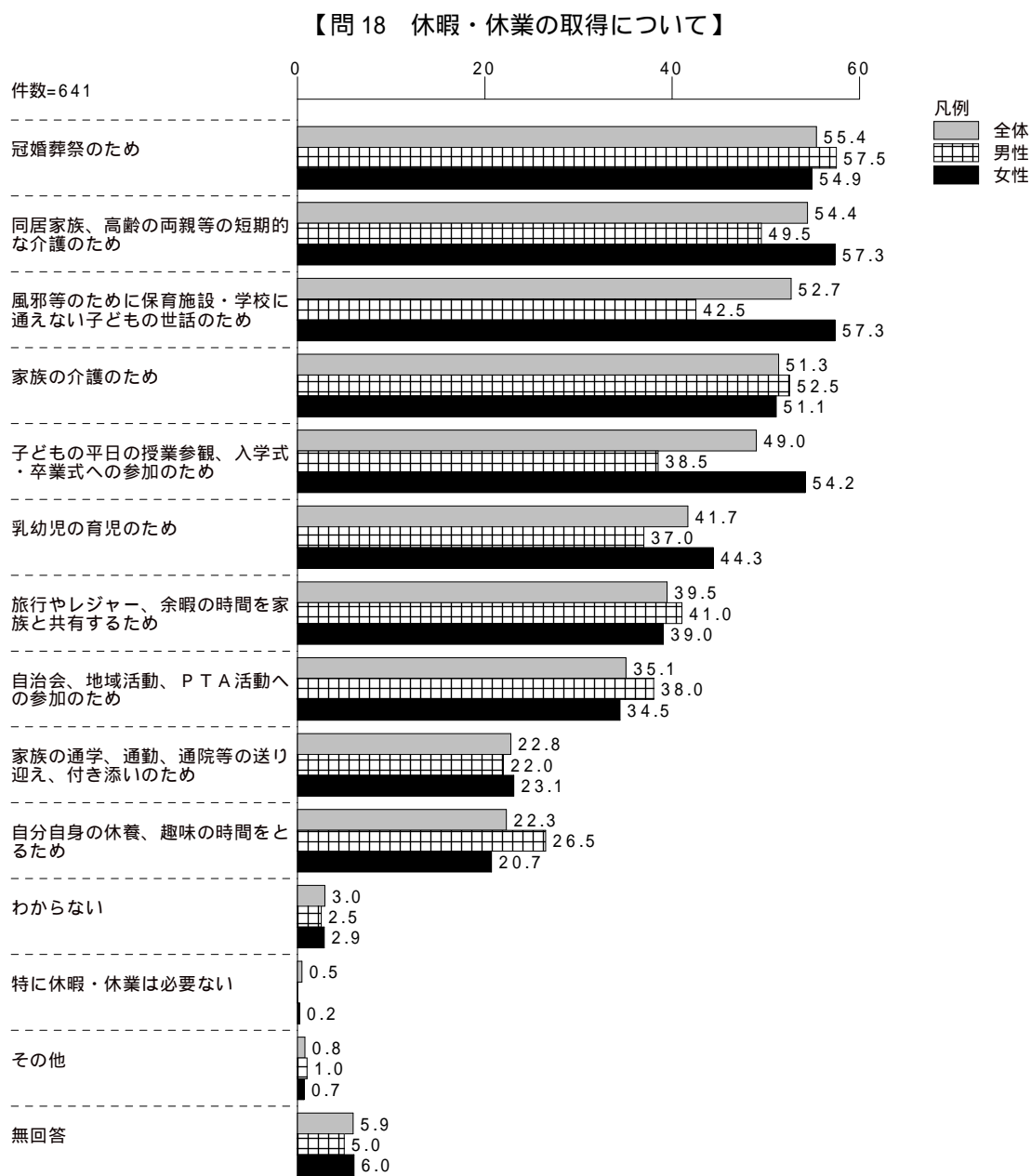
また、全体的に市職員の回答率が高く、制度の利用には障害があると感じている人が多いことが分かる。



問 18 職業をもっている場合、有給休暇や育児・介護休業制度があっても、実際には休暇・休業を取得しにくいのが実状です。あなたは、家庭・家族をもっている労働者がどのようなときに休暇・休業を取得する、取得できるのが望ましいと思いますか。【 はいいくつでも】

家庭・家族をもっている労働者がどのようなときに休暇・休業を取得する、取得できるのが望ましいかについて、「冠婚葬祭のため」(55.4%)や「同居家族、高齢の両親等の短期的な介護のため」(54.4%)、「風邪等のために保育施設・学校に通えない子どもの世話のため」(52.7%)、「家族の介護のため」(51.3%)が50%を超えている。次いで「子どもの平日の授業参観、入学式・卒業式への参加のため」(49.0%)、「乳幼児の育児のため」(41.7%)、「旅行やレジャー、余暇の時間を家族と共有するため」(39.5%)、「自治会、地域活動、PTA活動への参加のため」(35.1%)などが続く。

性別にみると、女性ではとくに“子どもの世話”や“介護”に関する回答率が男性に比べて高くなっている。



職業別にみると、雇用者（正社員）では「子どもの平日の授業参観、入学式・卒業式への参加のため」との回答が65.0%と多く、パートタイム・アルバイト・派遣などや家族従業者では「風邪等のために保育施設・学校に通えない子どもの世話のため」との回答が50%で多くなっている。

【問 18 職業別 休暇・休業の取得について】

区 分	1 番目に回答が多かったもの	2 番目	3 番目
自営業主 (N=101)	同居家族、高齢の両親等の 短期的な介護のため (47.5%)	冠婚葬祭のため(43.6%)	家族の介護のため(38.6%)
家族従業者 (N=54)	同居家族、高齢の両親等の 短期的な介護のため (51.9%)	冠婚葬祭のため(48.1%) 風邪等のために保育施設・学校に通えない子どもの世話のため(48.1%)	
雇用者(正社員) (N=163)	冠婚葬祭のため (66.3%)	同居家族、高齢の両親等の短期的な介護のため(65.0%) 子どもの平日の授業参観、入学式・卒業式への参加のため (65.0%)	
パートタイム・アルバイ ト・派遣など (N=95)	冠婚葬祭のため (62.1%)	同居家族、高齢の両親等の短期的な介護のため(52.6%) 風邪等のために保育施設・学校に通えない子どもの世話のため(52.6%)	

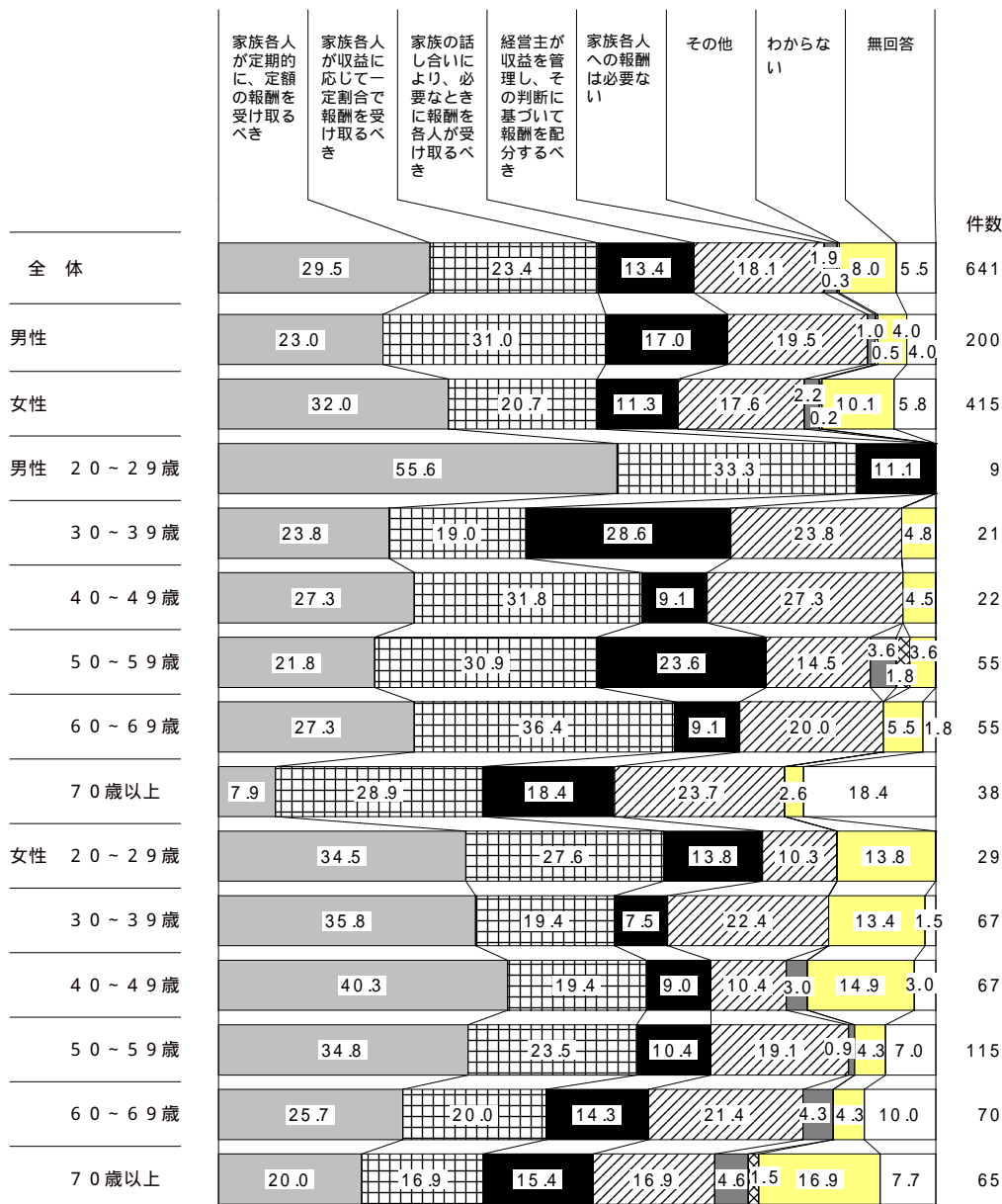
問 19 第一次産業を家族で経営する場合において、その仕事に従事している家族各人は報酬（給与等）をどのように受け取るべきとお考えになりますか。第一次産業に従事していない方も、仮にご自分が第一次産業を家族経営しているとしたら、どのようにお考えになるか、お答えください。 【は1つ】

第一次産業を家族で経営する場合に家族各人の報酬の受け取り方について、「家族各人が定期的に、定額の報酬を受け取るべき」が 29.5%で最も多く、「家族各人が収益に応じて一定割合で報酬を受け取るべき」23.4%、「経営主が収益を管理し、その判断に基づいて報酬を配分するべき」18.1%、「家族の話し合いにより、必要なときに報酬を各人が受け取るべき」13.4%となっている。

性別で見ると、男性では「家族各人が収益に応じて一定割合で報酬を受け取るべき」との回答が 31.0%で最も多く、女性では「家族各人が定期的に、定額の報酬を受け取るべき」との回答が 32.0%で最も多くなっている。

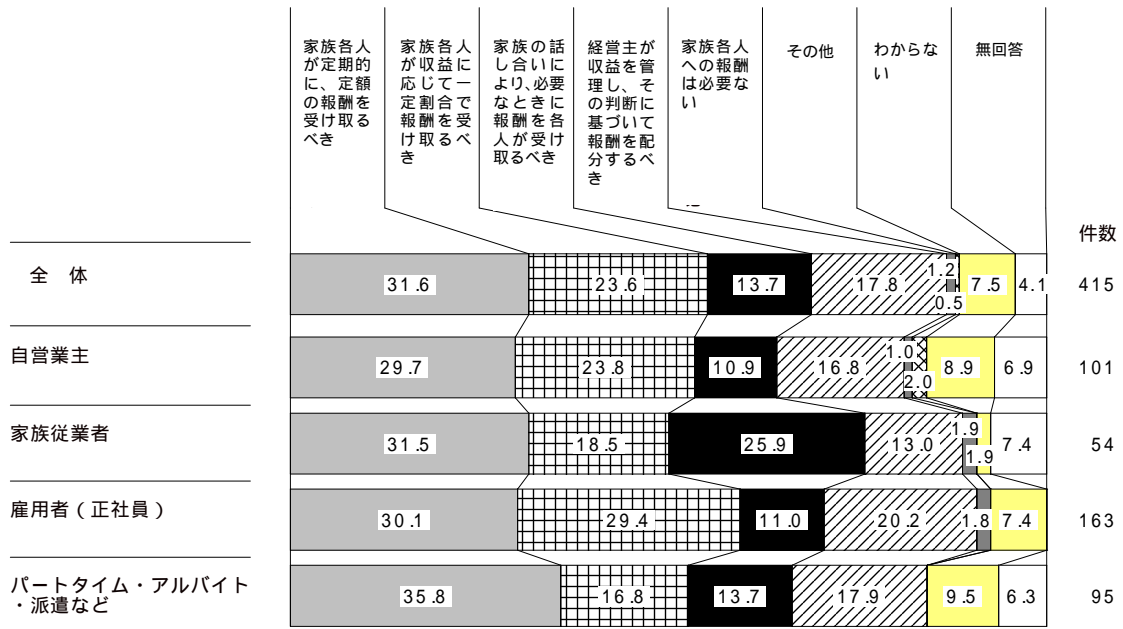
性・年齢別で見ると、女性ではすべての年齢層で「家族各人が定期的に、定額の報酬を受け取るべき」の回答率が最も高くなっている。男性では女性に比べそれぞれに意見が分かれる傾向がある。

【問 19 家族経営の報酬について】



職業別でみると、いずれの職業も「家族各人が定期的に、定額の報酬を受け取るべき」との回答率が最も高くなっている。家族従業者では、「家族の話し合いにより、必要なときに報酬を各人が受け取るべき」の回答率が他の職業に比べて高くなっている。

【問 19 職業別 家族経営の報酬について】



< 農林漁業従事者の意見 >

農林漁業従事者（配偶者も含む）についてみると、「家族各人が定期的に、定額の報酬を受け取るべき」の回答率が最も高くなっている。「家族の話し合いにより、必要なときに報酬を各人が受け取るべき」の回答率は他の職業に比べて高くなっている。

【問 19 農林漁業従事者 家族経営の報酬について】

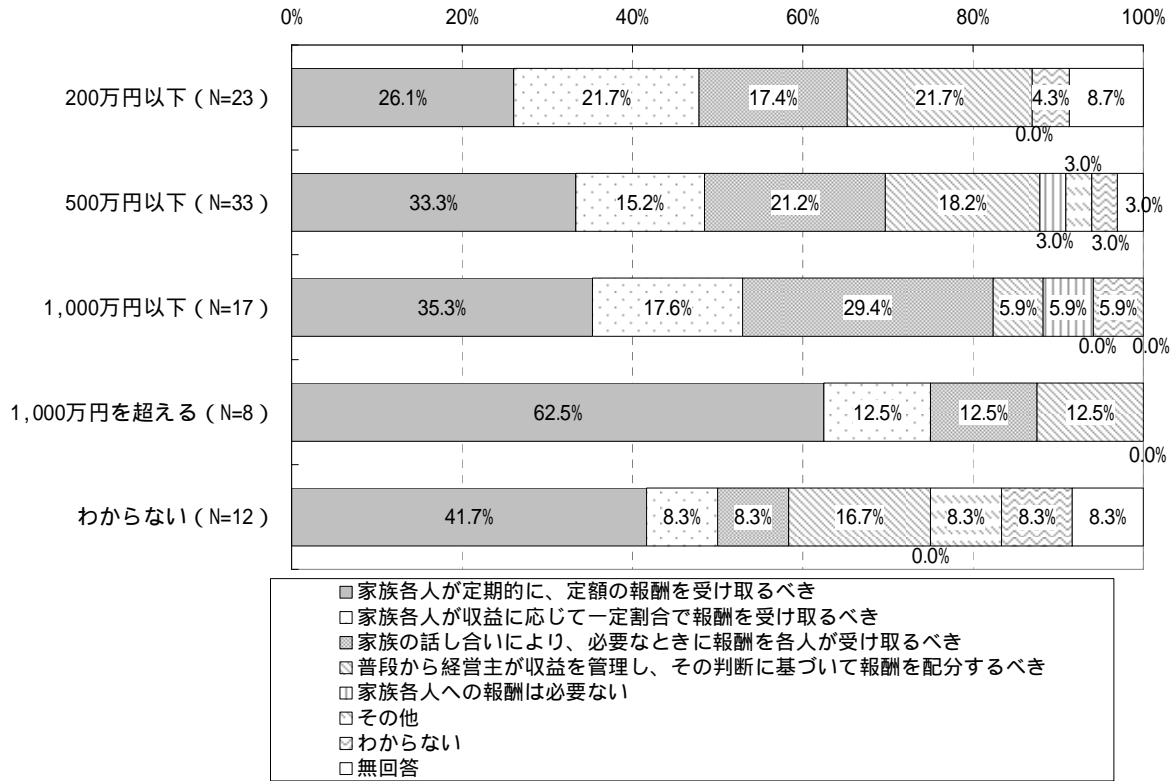


- 家族各人が定期的に、定額の報酬を受け取るべき
- 家族各人が収益に応じて一定割合で報酬を受け取るべき
- 家族の話し合いにより、必要なときに報酬を各人が受け取るべき
- 普段から経営主が収益を管理し、その判断に基づいて報酬を配分するべき
- 家族各人への報酬は必要ない
- その他
- わからない
- 無回答

< 農林漁業従事者の意見 >

農林漁業従事者の年収別にみると、いずれも「家族各人が定期的に、定額の報酬を受け取るべき」との回答率が最も高くなっている。

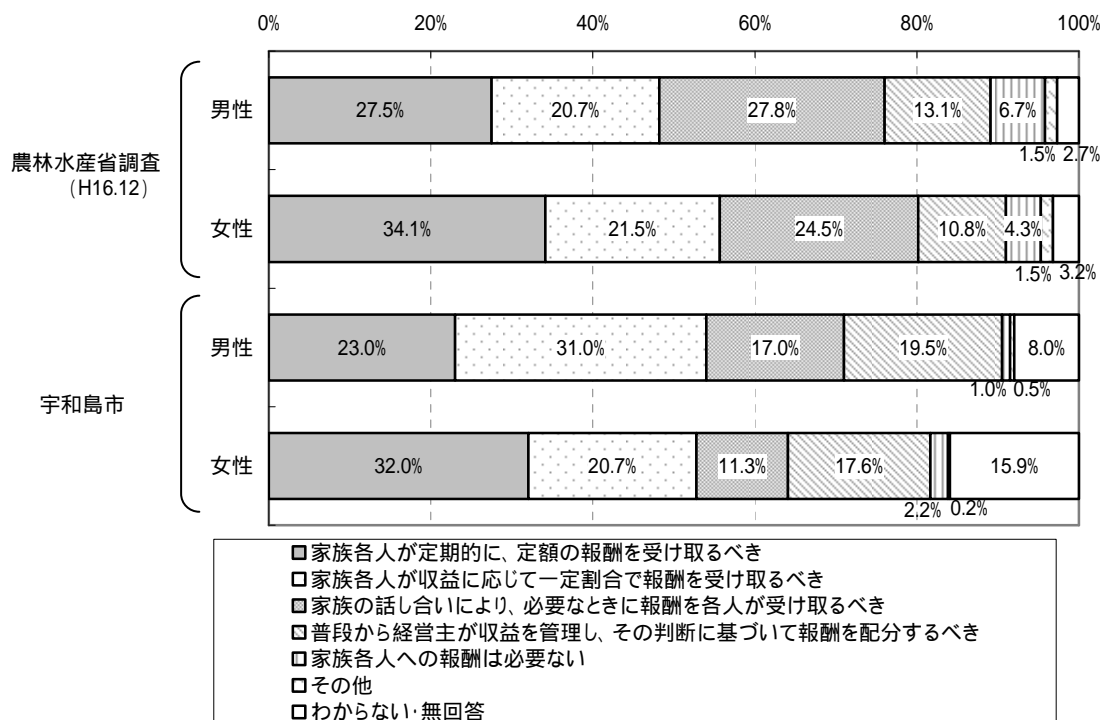
【問 19 農林漁業従事者の年収別 家族経営の報酬について】



【参考】

農林水産省調査（H16.12実施）結果比較

農林水産省調査結果と比較してみると、女性ではともに「家族各人が定期的に、定額の報酬を受け取るべき」が最も多く、男性では農林水産省調査では「家族の話し合いにより、必要なときに報酬を各人が受け取るべき」が多いのに対し、宇和島市では「家族各人が収益に応じて一定割合で報酬を受け取るべき」が最も多くなっている。

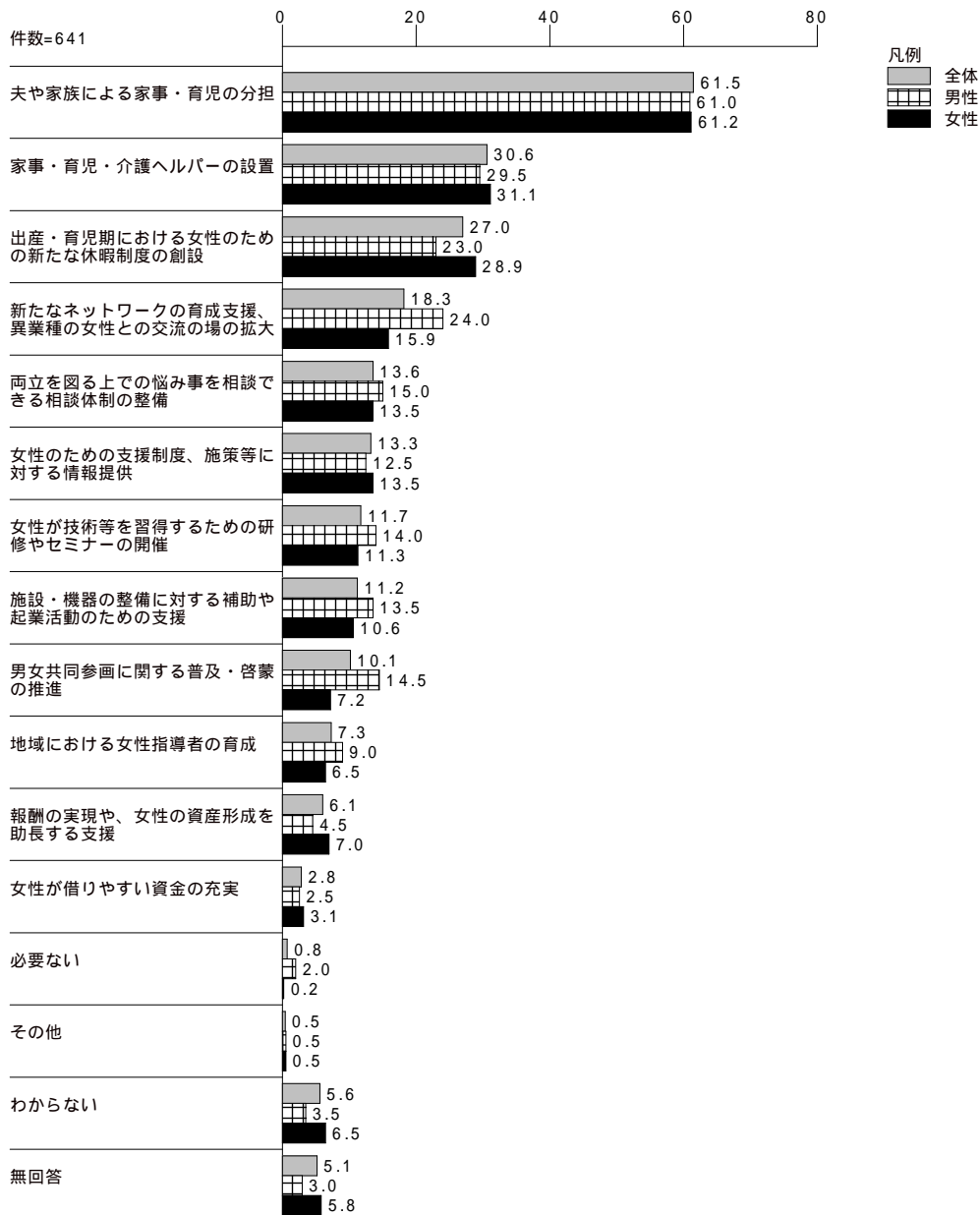


問 20 農山漁村において、女性は仕事の重要な担い手であると同時に、家事や家族の世話なども同時にこなしている現状があると考えられます。女性が男性と共にいきいきと活動する社会（男女共同参画社会）を形成する上で、農山漁村の女性に対するどのような支援、施策が重要だとお考えになりますか。 【は3つ以内】

農山漁村の女性に対する支援、施策で重要なことについて、「夫や家族による家事・育児の分担」が61.5%と最も多く、次いで「家事・育児・介護ヘルパーの設置」(30.6%)、「出産・育児期における女性のための新たな休暇制度の創設」(27.0%)、「新たなネットワークの育児支援、異業種の女性との交流の場の拡大」(18.3%)、「両立を図る上での悩み事を相談できる相談体制の整備」(13.6%)、「女性のための支援制度、施策等に対する情報提供」(13.3%)の順となっている。

性別でみると、男性では「新たなネットワークの育成支援、異業種の女性との交流の場の拡大」や「男女共同参画に関する普及・啓蒙の推進」の回答率が女性の回答率を上回っている。女性では、「出産・育児期における女性のための新たな休暇制度の創設」について男性に比べ回答率が高くなっている。

【問 20 農山漁村の女性に対する支援、施策で重要なこと】



地域別にみると、いずれの地域も「夫や家族による家事・育児の分担」との回答が最も多く、「家事・育児・介護ヘルパーの設置」「出産・育児期における女性のための新たな休暇制度の創設」が上位回答となっている。

【問 20 居住地別 農山漁村の女性に対する支援、施策で重要なこと】

区 分	1 番目に回答が多かったもの	2 番目	3 番目
旧宇和島市 (N=397)	夫や家族による家事・育児の分担(60.2%)	家事・育児・介護ヘルパーの設置(33.0%)	出産・育児期における女性のための新たな休暇制度の創設(30.0%)
旧津島町 (N=71)	夫や家族による家事・育児の分担(60.6%)	家事・育児・介護ヘルパーの設置(33.8%)	出産・育児期における女性のための新たな休暇制度の創設(21.2%)
旧三間町 (N=44)	夫や家族による家事・育児の分担(70.5%)	家事・育児・介護ヘルパーの設置(20.5%) 出産・育児期における女性のための新たな休暇制度の創設(20.5%)	
旧吉田町 (N=104)	夫や家族による家事・育児の分担(62.5%)	家事・育児・介護ヘルパーの設置(24.0%)	出産・育児期における女性のための新たな休暇制度の創設(23.9%)

職業別にみても、いずれの職業も「夫や家族による家事・育児の分担」との回答が最も多く、「家事・育児・介護ヘルパーの設置」についても、どの職業でも上位回答となっている。

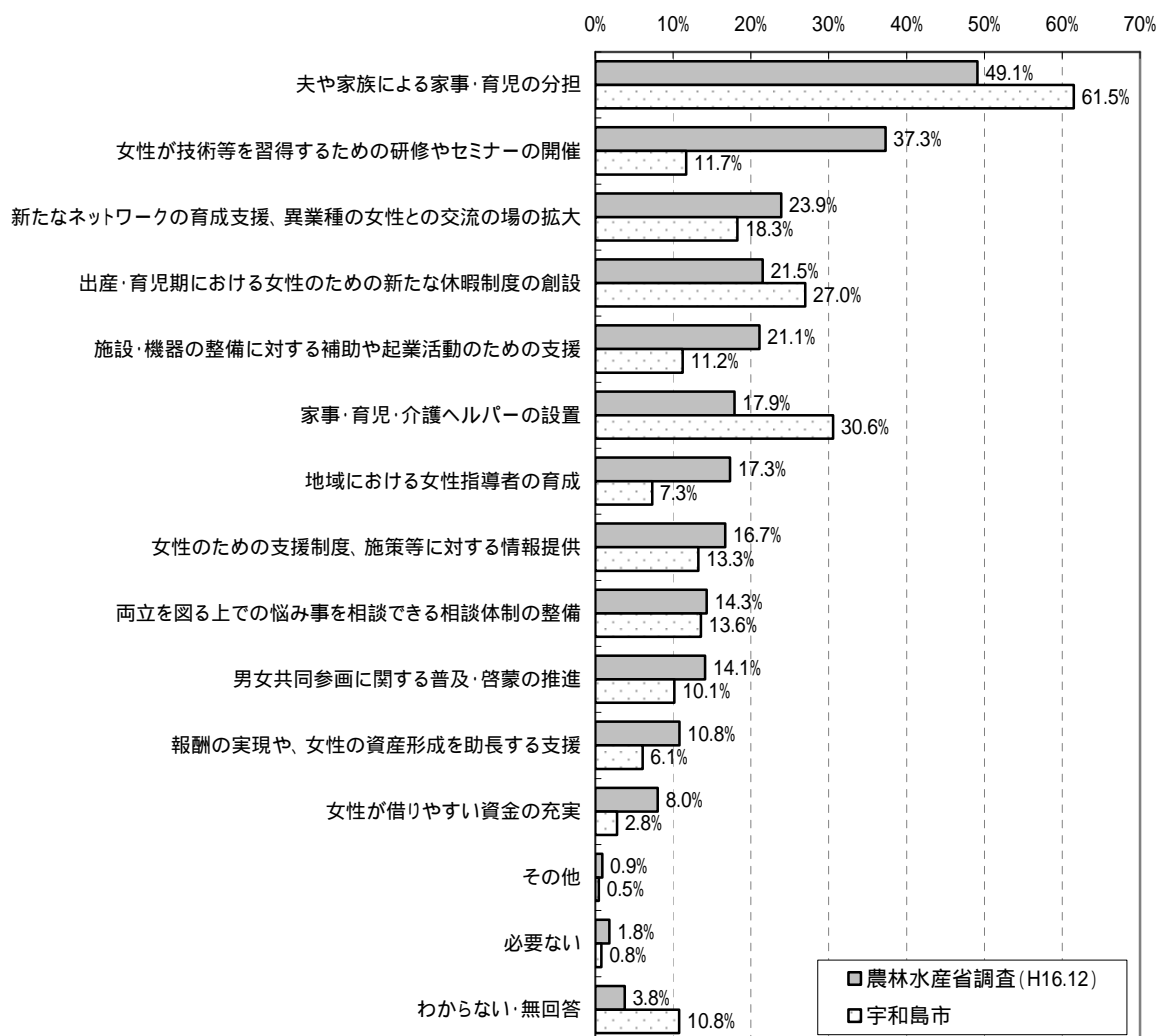
【問 20 職業別 農山漁村の女性に対する支援、施策で重要なこと】

区 分	1 番目に回答が多かったもの	2 番目	3 番目
自営業主 (N=101)	夫や家族による家事・育児の分担(60.4%)	家事・育児・介護ヘルパーの設置(29.7%)	新たなネットワークの育成支援、異業種の女性との交流の場の拡大(22.8%)
家族従業者 (N=54)	夫や家族による家事・育児の分担(72.2%)	出産・育児期における女性のための新たな休暇制度の創設(27.8%)	家事・育児・介護ヘルパーの設置(22.2%)
雇用者(正社員) (N=163)	夫や家族による家事・育児の分担(71.8%)	家事・育児・介護ヘルパーの設置(35.0%)	出産・育児期における女性のための新たな休暇制度の創設(31.3%)
パートタイム・アルバイト・派遣など (N=95)	夫や家族による家事・育児の分担(54.7%)	家事・育児・介護ヘルパーの設置(29.5%)	新たなネットワークの育成支援、異業種の女性との交流の場の拡大(24.2%)

【参考】

農林水産省調査（H16.12実施）結果比較

農林水産省調査結果と比較してみると、ともに「夫や家族による家事・育児の分担」（農水省：49.1%、宇和島市：61.5%）が最も多くなっている。次いで農林水産省調査では「女性が技術等を習得するための研修やセミナーの開催」（37.3%）、「新たなネットワークの育成支援、異業種の女性との交流の場の拡大」（23.9%）となっているのに対し、宇和島市では「家事・育児・介護ヘルパーの設置」（30.6%）、「出産・育児期における女性のための新たな休暇制度の創設」（27.0%）の順となっている。

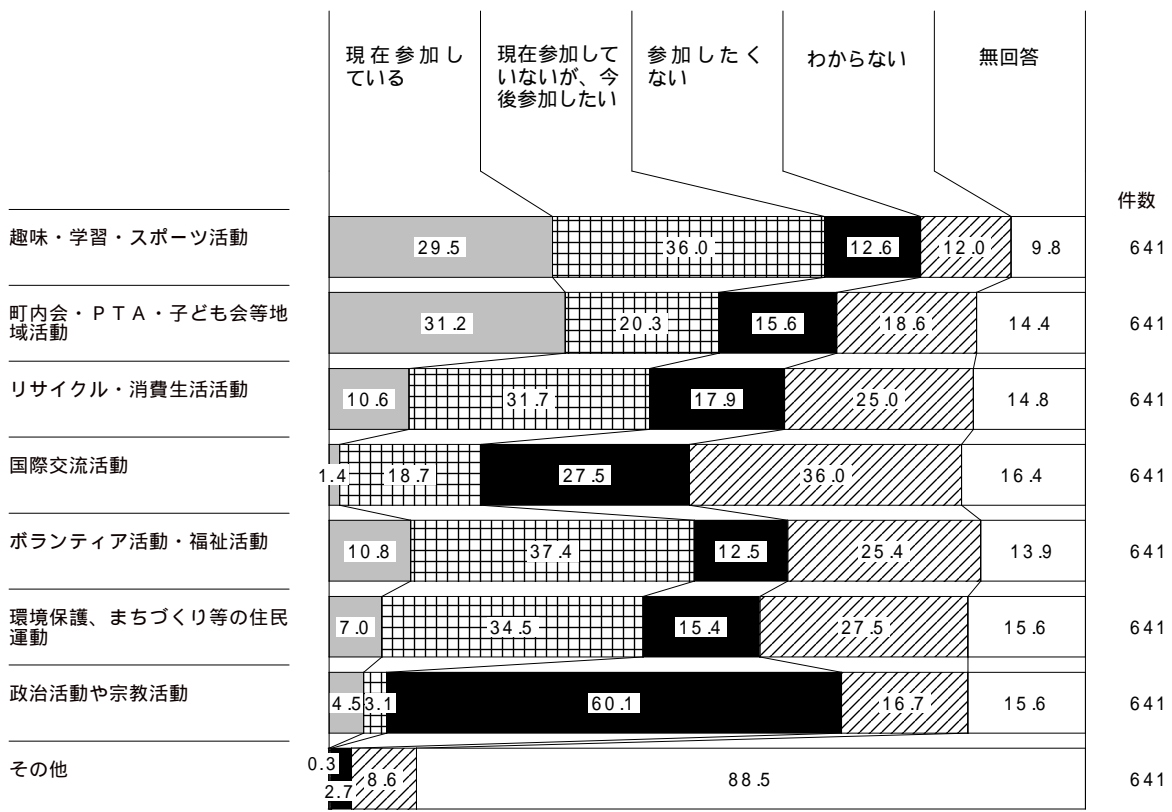


4. 地域活動への参加について

問 21 あなたは、次のような活動に参加していますか。また、今後参加したい活動はありますか。 【 はそれぞれ1つ】

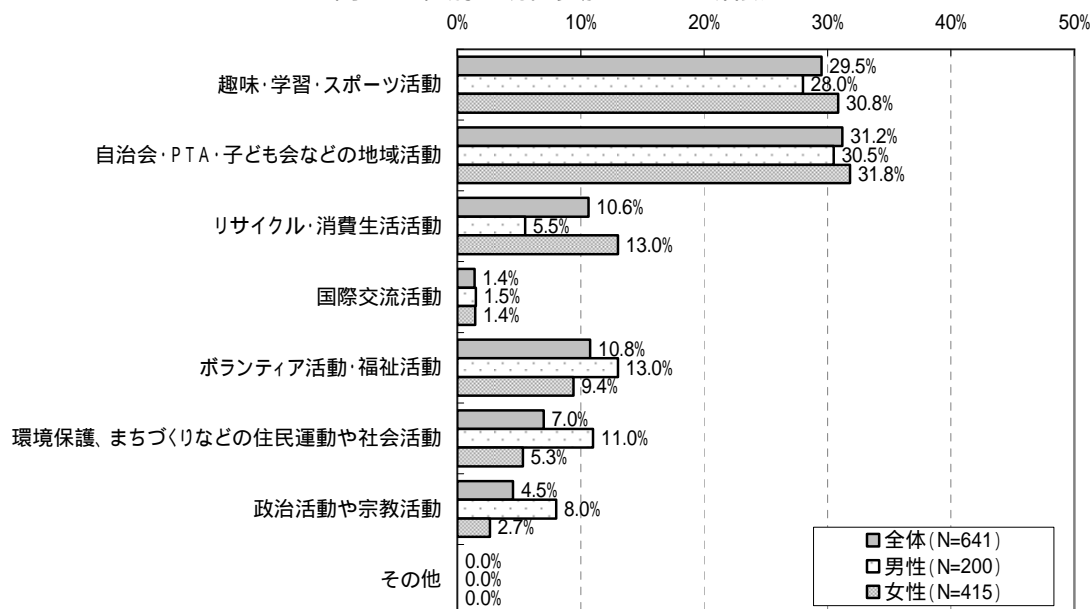
地域活動への参加について、“趣味・学習・スポーツ活動”、“町内会・PTA・子ども会等地域活動”では「現在参加している」の回答率が約30%で他の活動に比べて高くなっている。“政治活動や宗教活動”では「参加したくない」が60%あり、“国際交流活動”は「わからない」が36.0%となっている。“リサイクル・消費生活活動”“ボランティア活動・福祉活動”“環境保護、まちづくり等の住民運動や社会活動”では、「現在参加していないが、今後参加したい」の回答率が最も高く30%を超えている。

【問 21 地域活動への参加について】



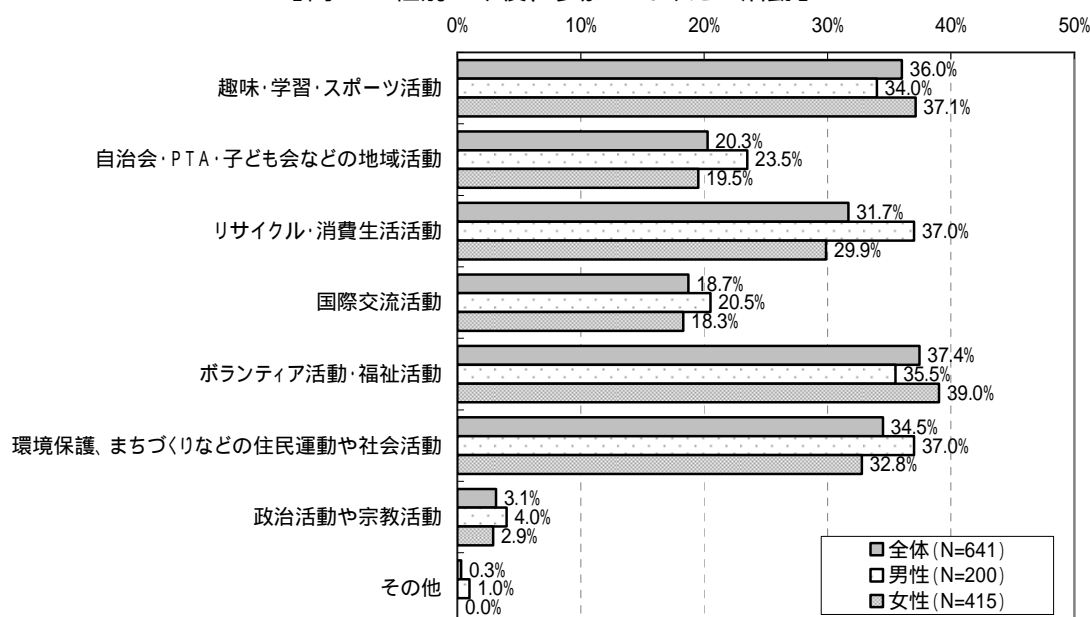
現在参加している地域活動について性別にみると、“趣味・学習・スポーツ活動”、“町内会・PTA・子ども会等地域活動”では男性・女性ともに約3割と参加率が高く、大きな違いはみられない。“リサイクル・消費生活活動”では、男性が5.5%に対し女性が13.0%と倍以上と参加率が高い。一方、その他の“ボランティア活動・福祉活動”“環境保護、まちづくり等の住民運動や社会活動”“政治活動や宗教活動”では男性の参加率が女性の参加率を上回っている。

【問 21 性別 現在参加している活動】



今後、参加してみたい地域活動について性別にみると、女性では“ボランティア活動・福祉活動”が39.0%と最も多く、次いで“趣味・学習・スポーツ活動”(37.1%)となっているのに対し、男性では“リサイクル・消費生活活動”“環境保護、まちづくり等の住民運動や社会活動”が37.0%と最も多くなっている。全体的に、女性に比べて男性の方が地域活動への参加意欲が高いことがわかる。

【問 21 性別 今後、参加してみたい活動】

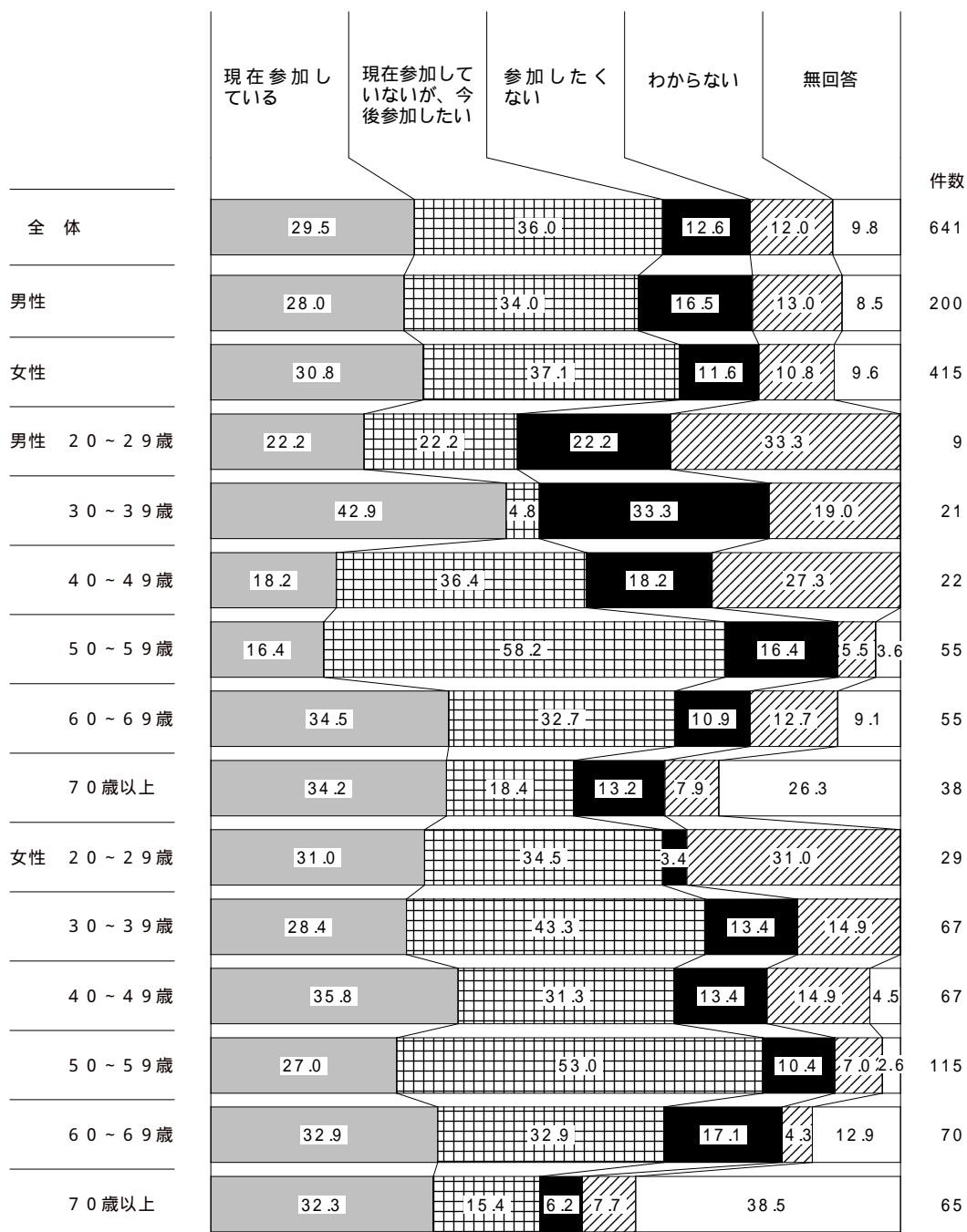


(1) 趣味・学習・スポーツ活動

“趣味・学習・スポーツ活動”について、性別にみると、「参加したくない」が男性で16.5%と女性に比べてやや高くなっているが、あまり大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、男性の30代で「現在参加している」と「参加したくない」の両方の回答率が他の年齢層に比べて高くなっている。女性では、すべての年齢層で「現在参加している」の回答率が約30%ある。

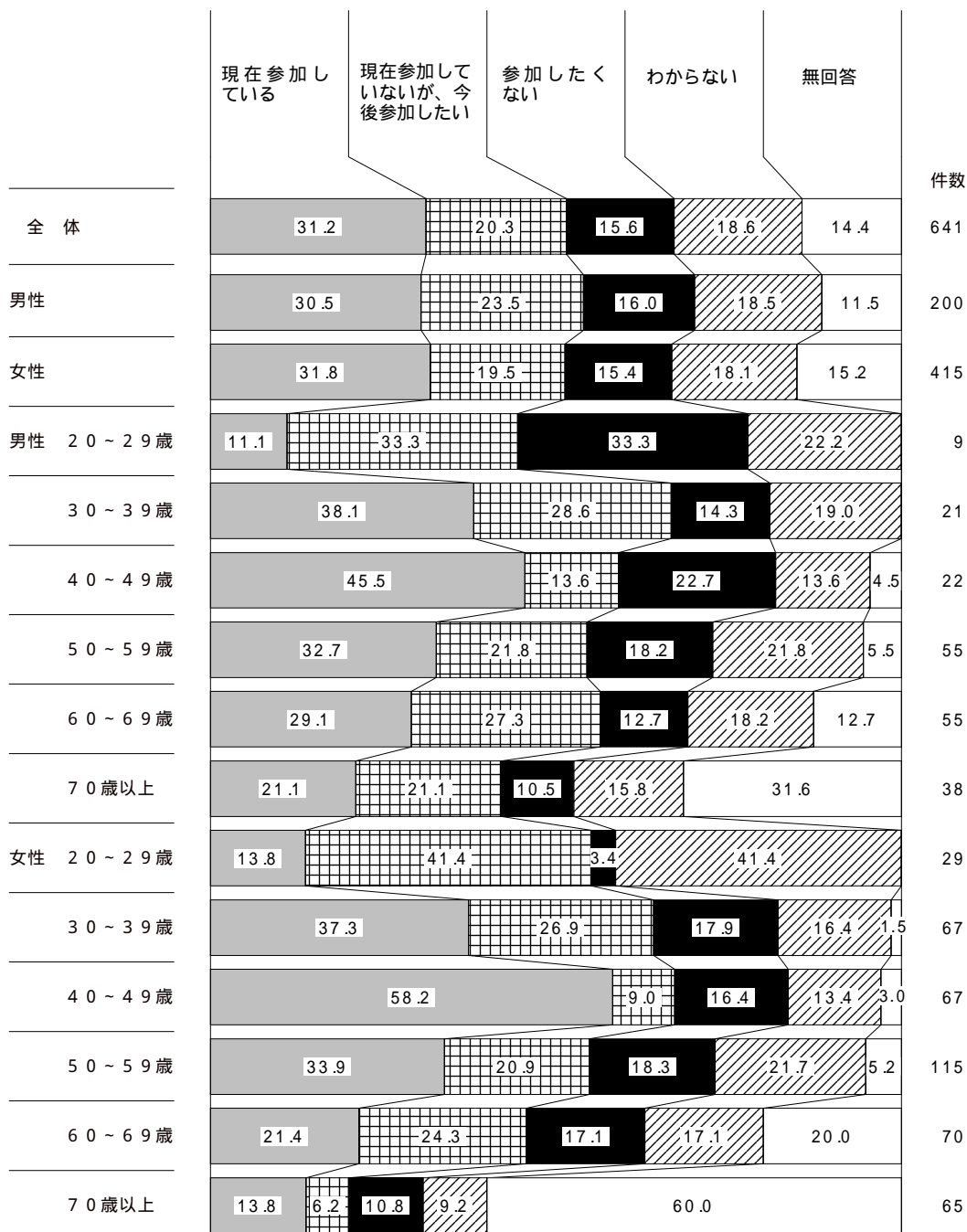
【問21(1) 趣味・学習・スポーツ活動】



(2) 町内会・PTA・子ども会など地域活動

“町内会・PTA・子ども会など地域活動”について、性別にみると、「現在参加していないが、今後参加したい」が男性で23.5%と女性に比べてやや高くなっているが、あまり大きな違いはみられない。性・年齢別でみると、男女とも40代で「現在参加している」との回答率が最も高くなっている。

【問21(2) 町内会・PTA・子ども会など地域活動】

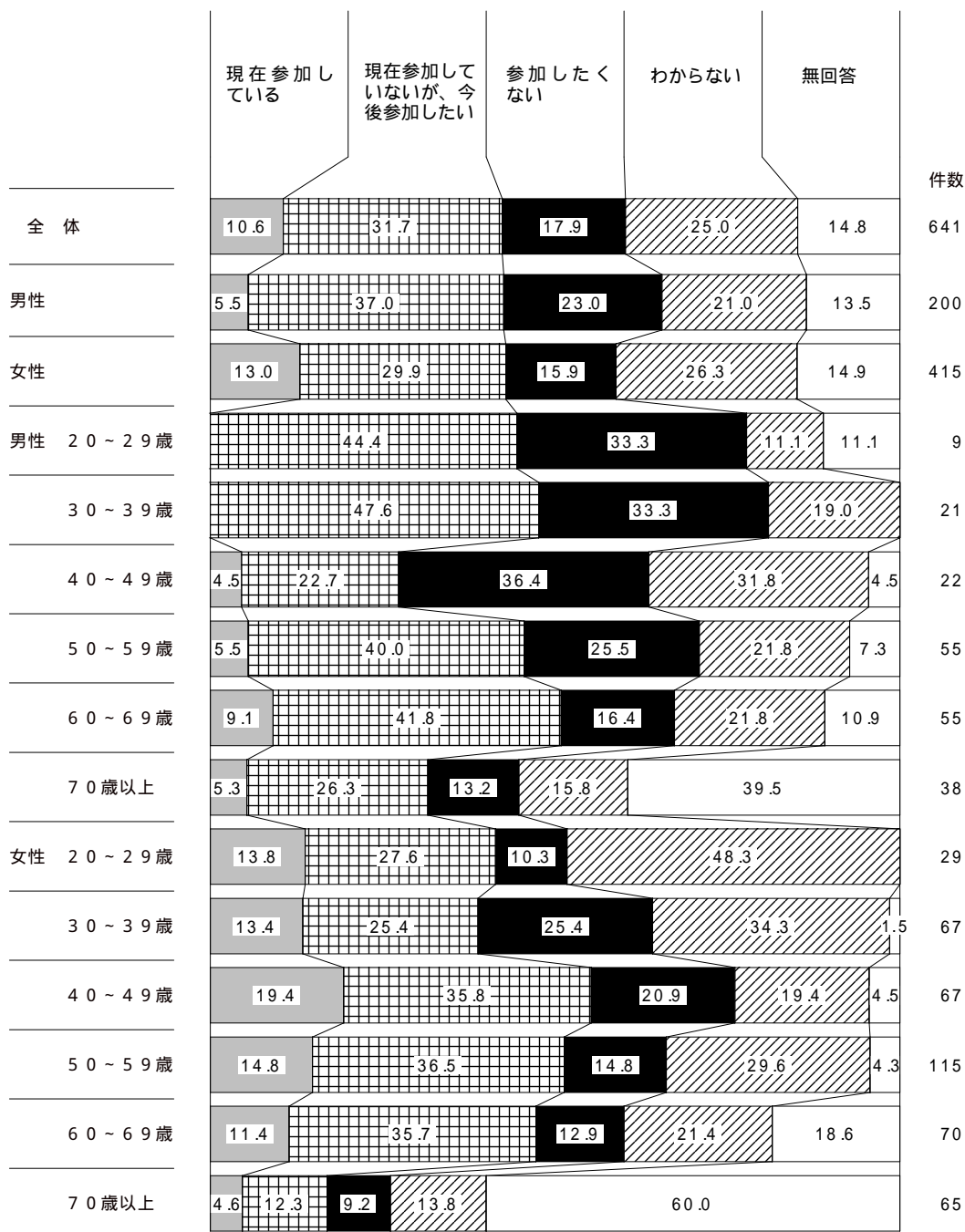


(3) リサイクル・消費生活活動

“リサイクル・消費生活活動”について、性別にみると、「現在参加している」が女性で13.0%、男性で5.5%と女性の回答率が高くなっている。反対に、「参加したくない」は男性の回答率が女性を上回っている。

性・年齢別でみると、70代を除きすべての年齢層で「現在参加している」との回答率は女性が男性を上回っている。

【問 21(3) リサイクル・消費生活活動】

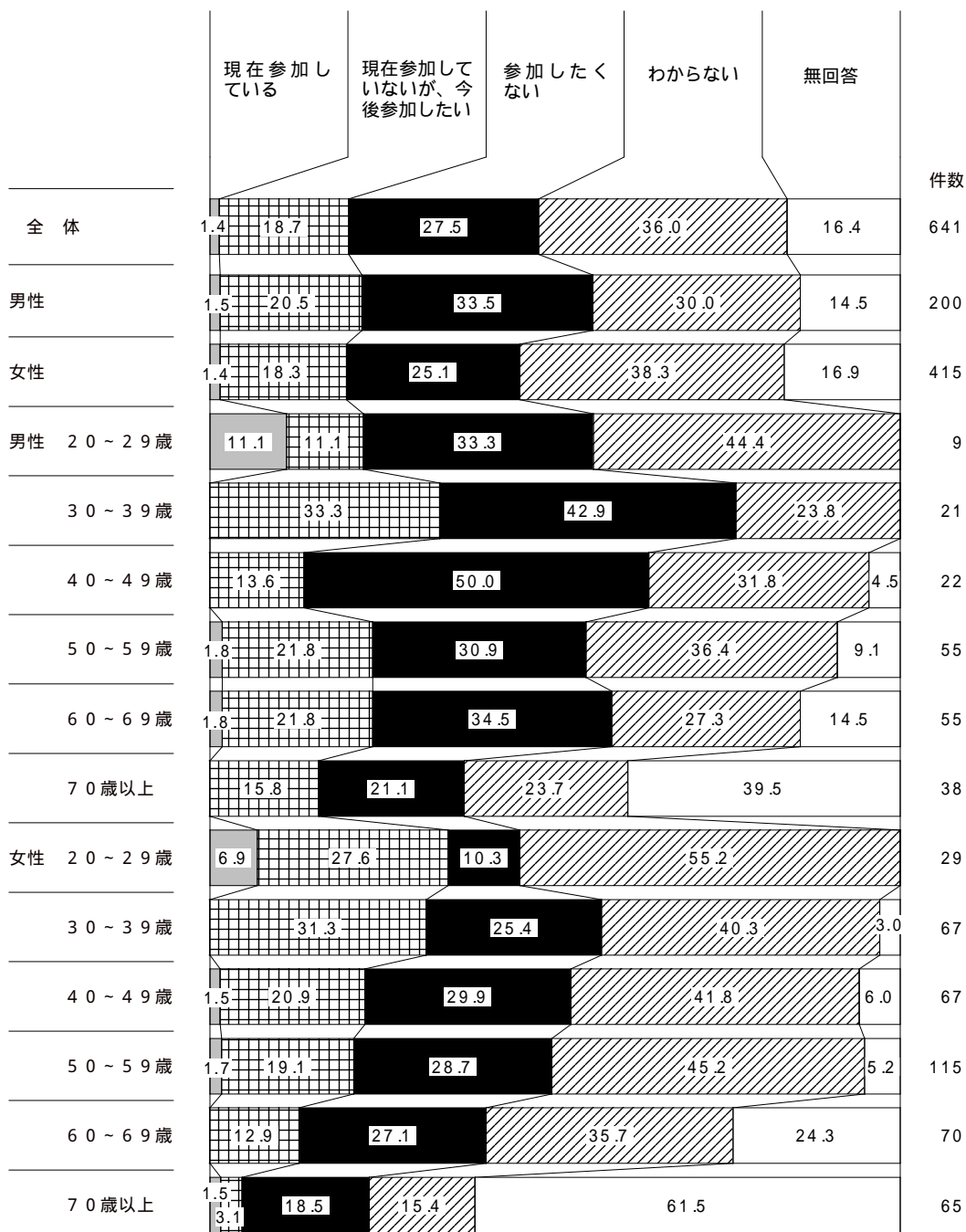


(4) 国際交流活動

“国際交流活動”について、性別にみると、男女とも「わからない」や「参加したくない」との回答が多くなっている。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢層で「現在参加している」が少なく、「わからない」や「参加したくない」との回答が多くなっている。男女とも30代では「現在参加していないが、今後参加したい」の回答率が約30%で、他の年齢層に比べて高くなっている。

【問 21(4) 国際交流活動】

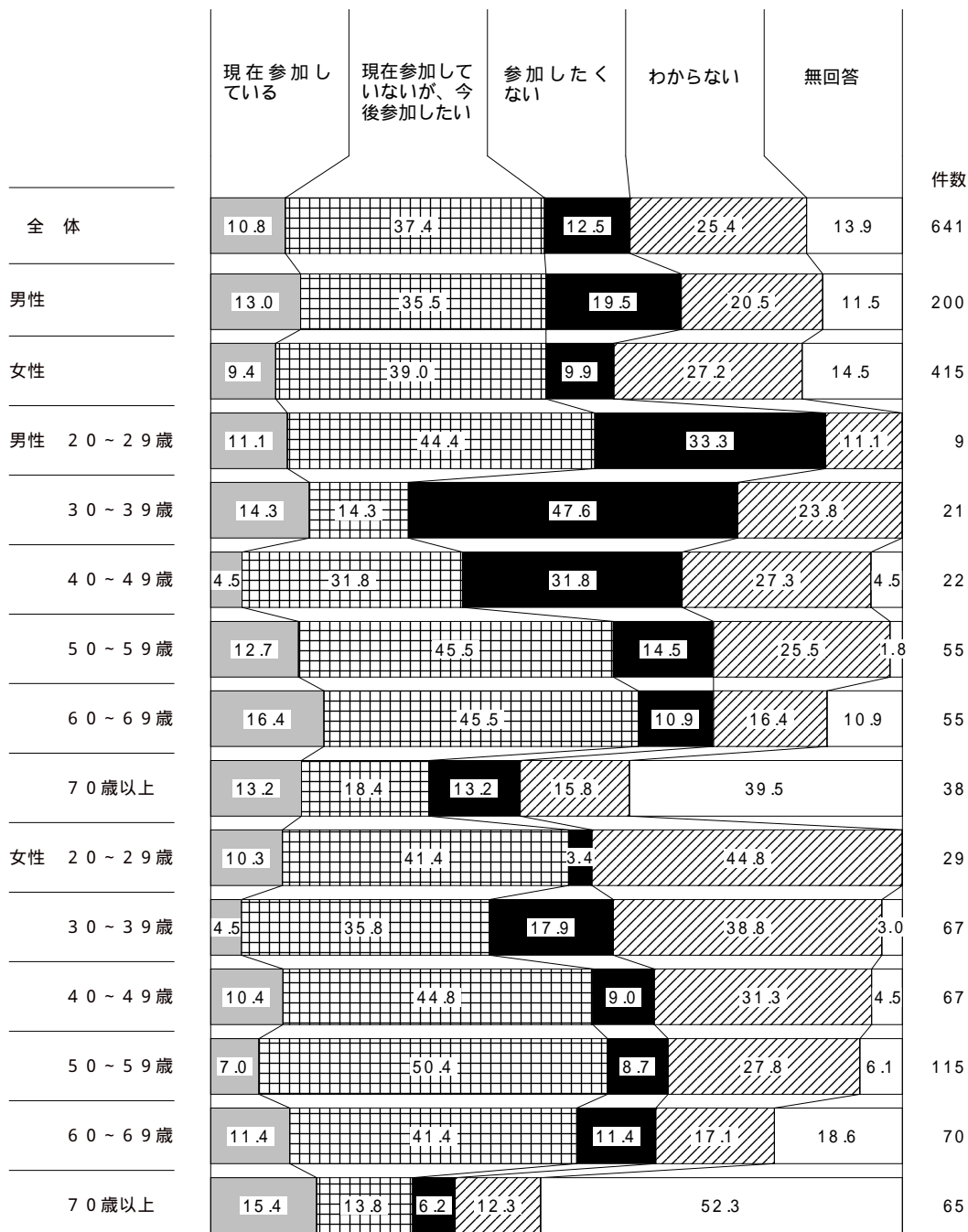


(5) ボランティア活動・福祉活動

“ボランティア活動・福祉活動”について、性別にみると、「参加したくない」の回答率が男性で19.5%あり女性に比べて高くなっている。

性・年齢別でみると、20代から40代の若い世代の男性では「参加したくない」の回答率が50代以上の男性に比べて高くなっている。また、50代と60代の男性、40代から60代の女性では、「現在参加していないが、今後参加したい」の回答率が40%を超え最も高くなっている。

【問21(5) ボランティア活動・福祉活動】

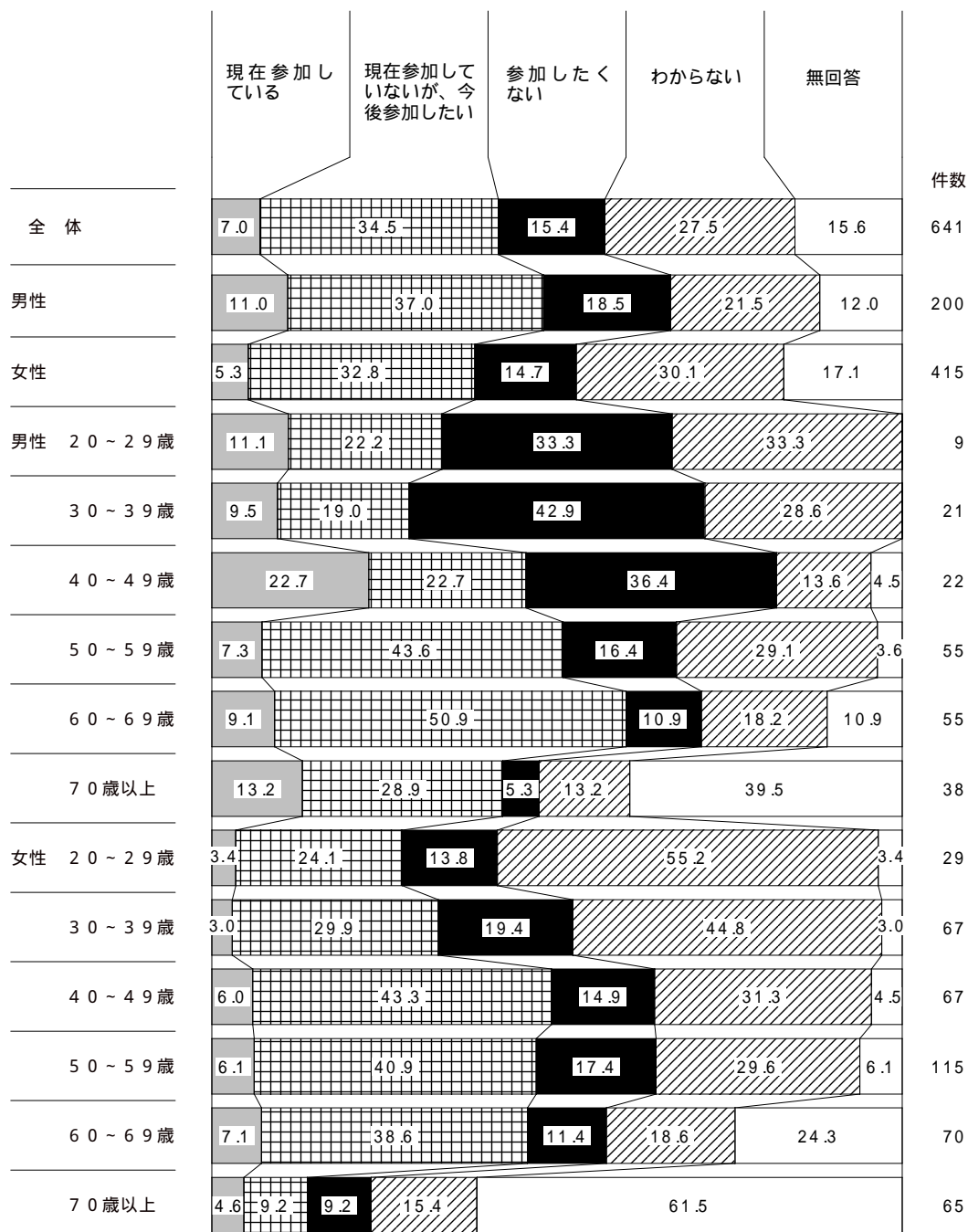


(6) 環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動

“環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動”について、性別で見ると、「現在参加している」の回答率が男性 11.0%、女性 5.3%と男性が女性をやや上回っている。

性・年齢別で見ると、すべての年齢層で、「現在参加している」の回答率は男性が女性を上回っている。一方、20代から40代の若い世代の男性では、「参加したくない」の回答率が30%を超えて高くなっている。

【問 21(6) 環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動】



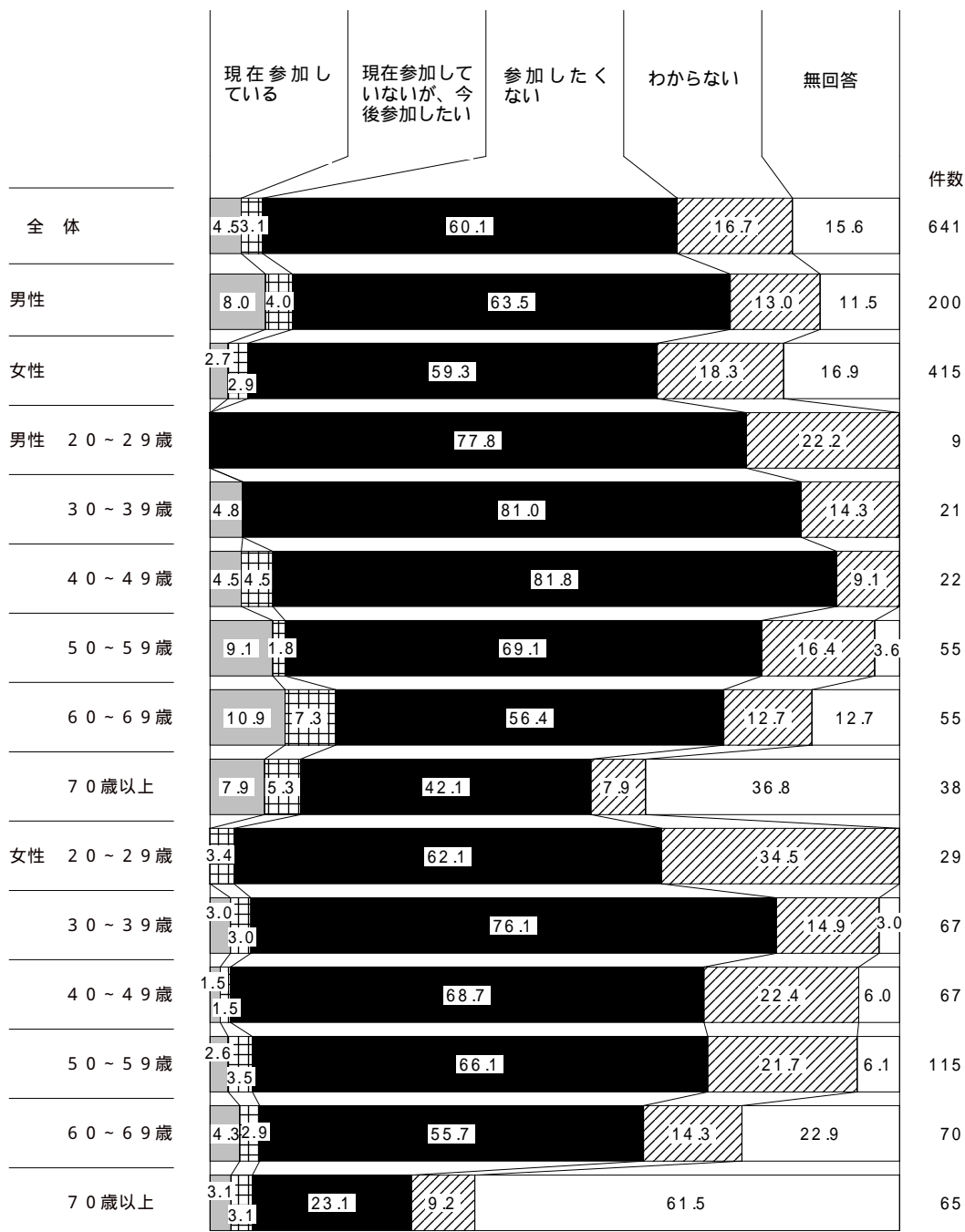
(7) 政治活動や宗教活動

“政治活動や宗教活動”について、性別で見ると、男女とも「参加したくない」が約60%で最も多くなっている。

性・年齢別で見ると、すべての年齢層で「参加したくない」の回答率が最も高くなっている。

「現在参加している」の回答率は、男性が女性を上回っている。

【問21(7) 政治活動や宗教活動】



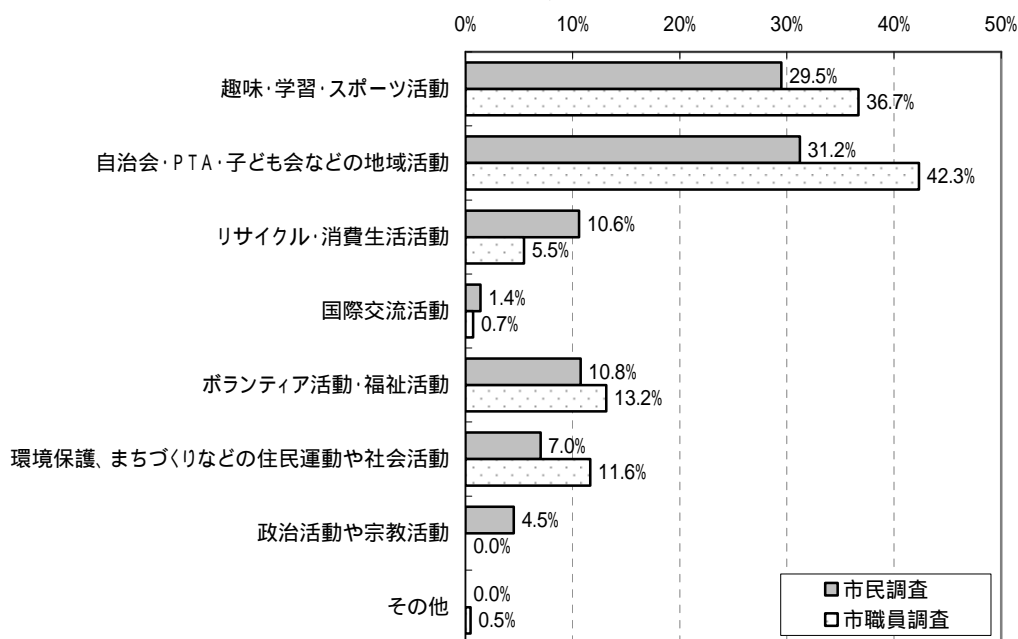
【参考】

宇和島市職員調査（H19.08 実施）結果比較

（１）現在参加している活動

市職員調査結果と比較してみると、現在参加している活動についてはともに「自治会・PTA・子ども会などの地域活動」（市民：31.2%、市職員：42.3%）が最も多く、次いで「趣味・学習・スポーツ活動」（市民：29.5%、市職員：36.7%）となっている。

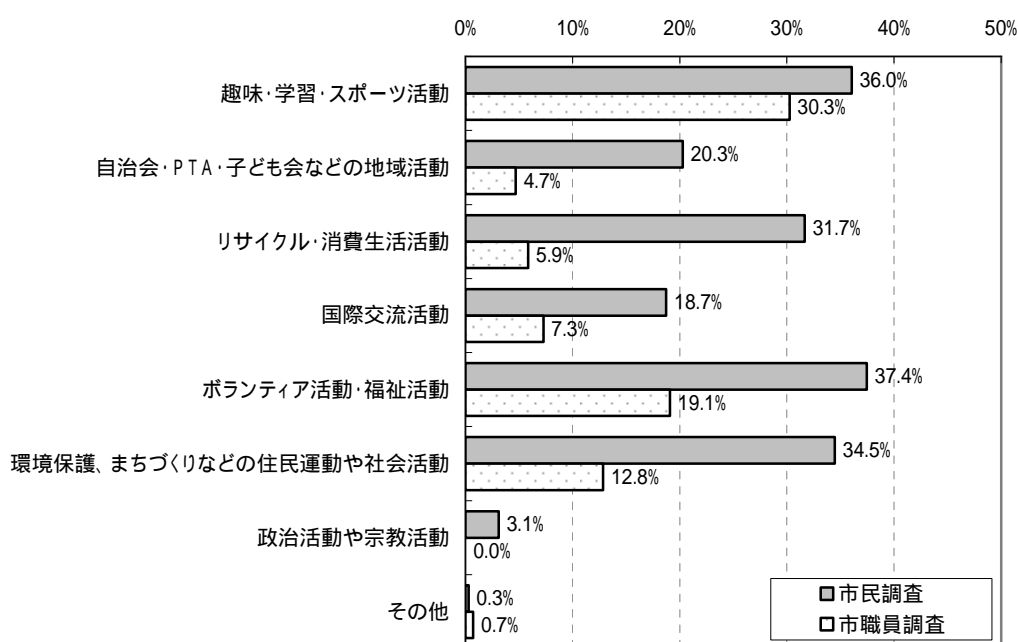
また、全体的に市民に比べ市職員の回答率が高く、地域活動等への参加率が高いことが分かる。



（２）今後参加したい活動

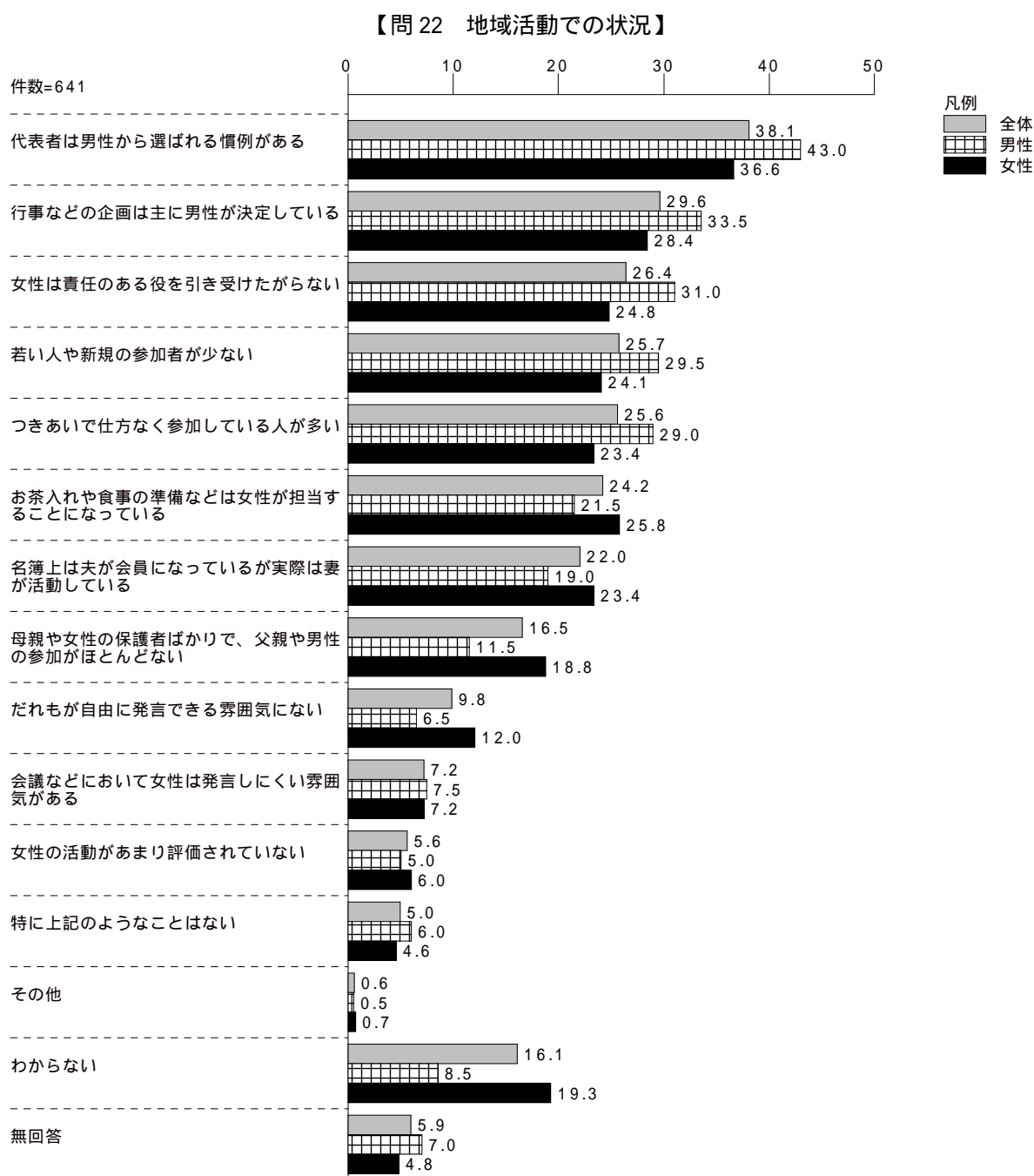
市職員調査結果と比較してみると、今後参加したい活動についてはともに「趣味・学習・スポーツ活動」（市民：36.0%、市職員：30.3%）が最も多くなっている。

また、全体的に市職員に比べ市民の回答率が高く、地域活動等への参加意欲が高いことが分かる。



問 22 あなたの住んでいる地域の活動（自治会、PTAなど）で、現在次のようなことがありますか。 【はいくつでも】

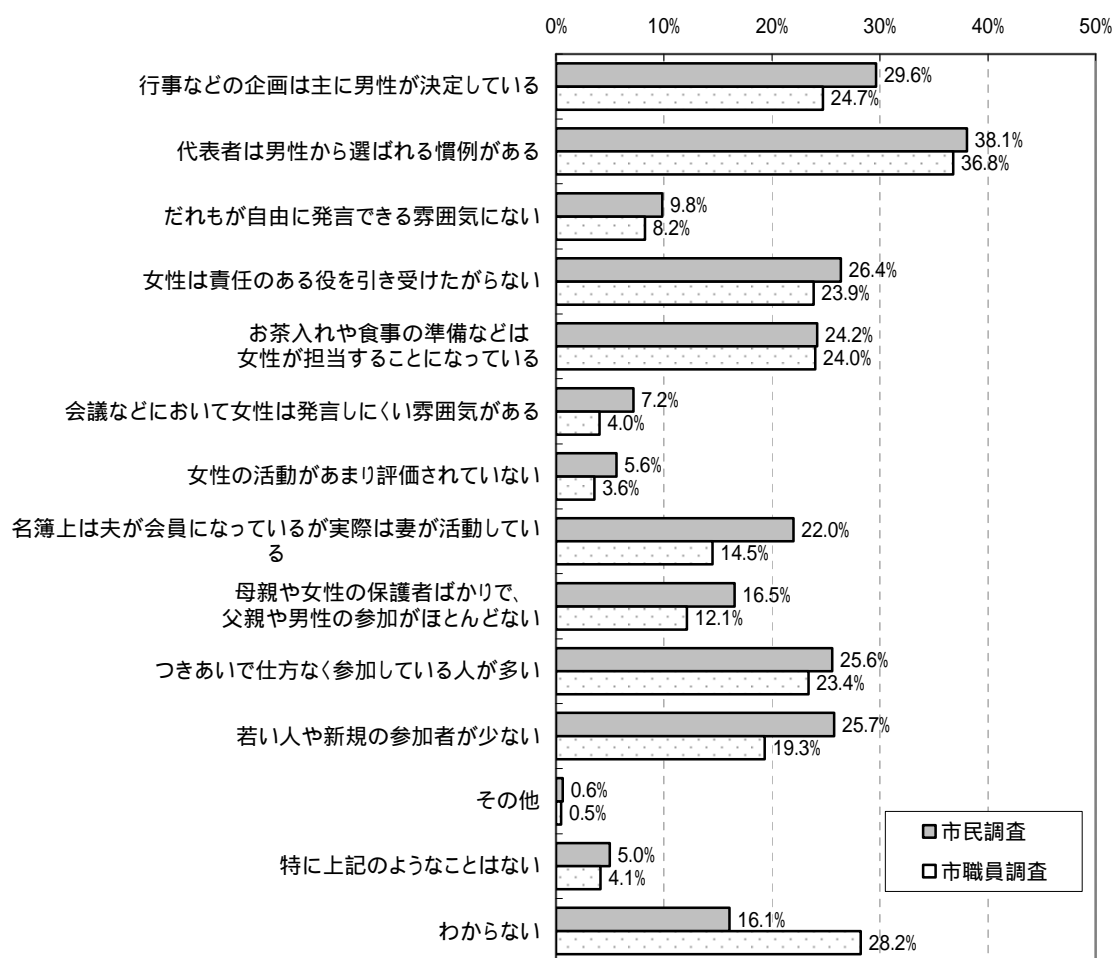
地域の活動について、「代表者は男性から選ばれる慣例がある」が38.1%で最も多く、次いで「行事などの企画は主に男性が決定している」(29.6%)、「女性は責任のある役を引き受けたがらない」(26.4%)、「若い人や新規の参加者が少ない」(25.7%)、「付き合いで仕方なく参加している人が多い」(25.6%)、「お茶入れや食事の準備などは女性が担当することになっている」(24.2%)、「名簿上は夫が会員になっているが、実際は妻が活動している」(22.0%)の順となっている。



【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「代表者は男性から選ばれる慣例がある」（市民：38.1%、市職員：36.8%）が最も多く、次いで「行事などの企画は主に男性が決定している」、「女性は責任のある役を引き受けたがらない」、「若い人や新規の参加者が少ない」、「付き合いで仕方なく参加している人が多い」、「お茶入れや食事の準備などは女性が担当することになっている」、「名簿上は夫が会員になっているが、実際は妻が活動している」などの回答が多く、市民調査結果と市職員調査結果で大きな違いはみられない。

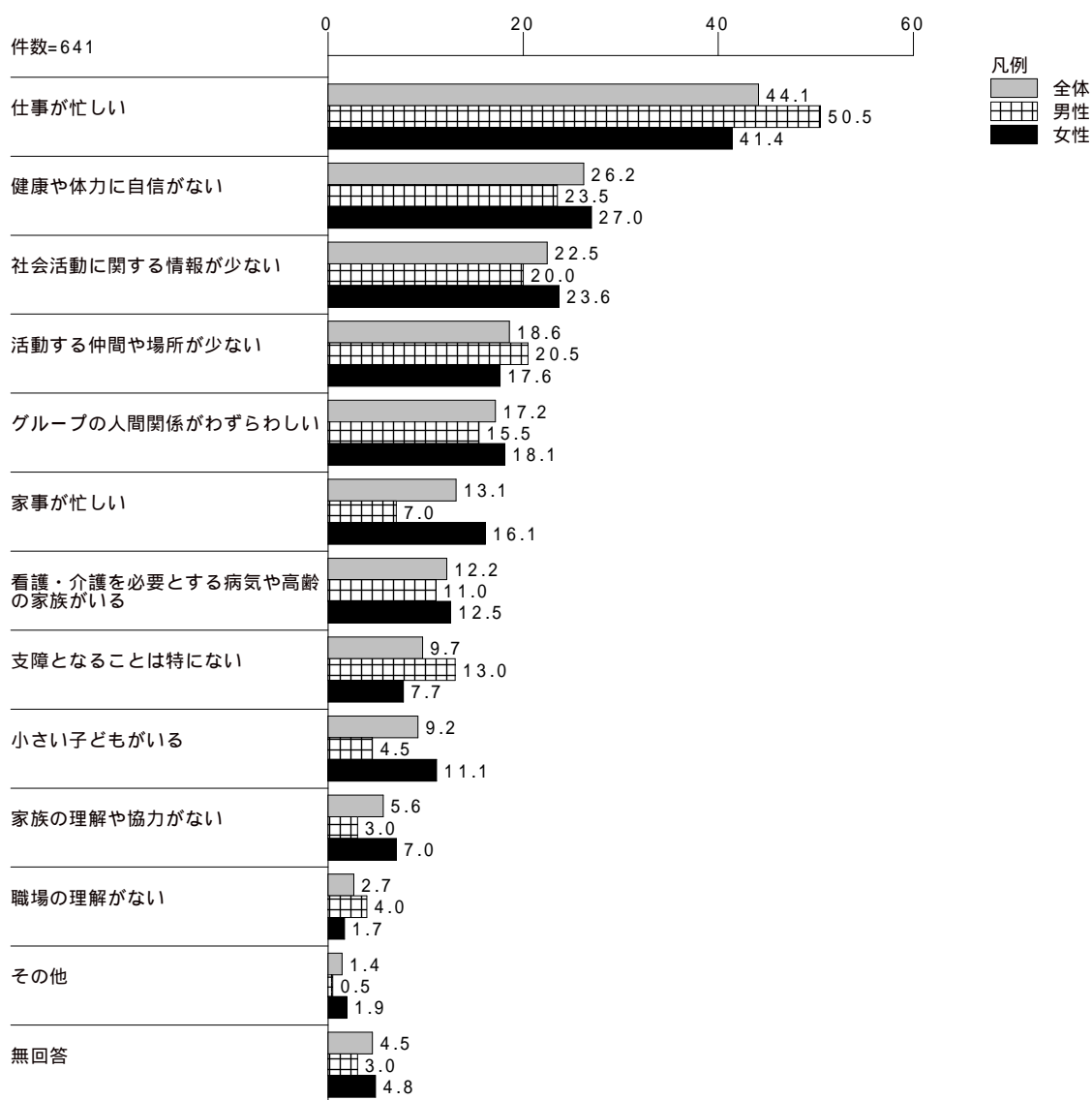


問 23 あなたが社会活動に参加しようとする上で、支障となることはどのようなことですか。

社会活動に参加する上で、支障となることについて、「仕事が忙しい」が44.1%で最も多く、次いで「健康や体力に自信がない」(26.2%)、「社会活動に関する情報が少ない」(22.5%)、「活動する仲間や場所が少ない」(18.6%)、「グループの人間関係がわずらわしい」(17.2%)、「家事が忙しい」(13.1%)、「看護・介護を必要とする病気や高齢の家族がいる」(12.2%)の順となっている。

性別でみると、「仕事が忙しい」の回答率が男性では50%を超えている。女性ではとくに「家事が忙しい」や「小さい子どもがいる」について、男性の回答率に比べて高くなっている。

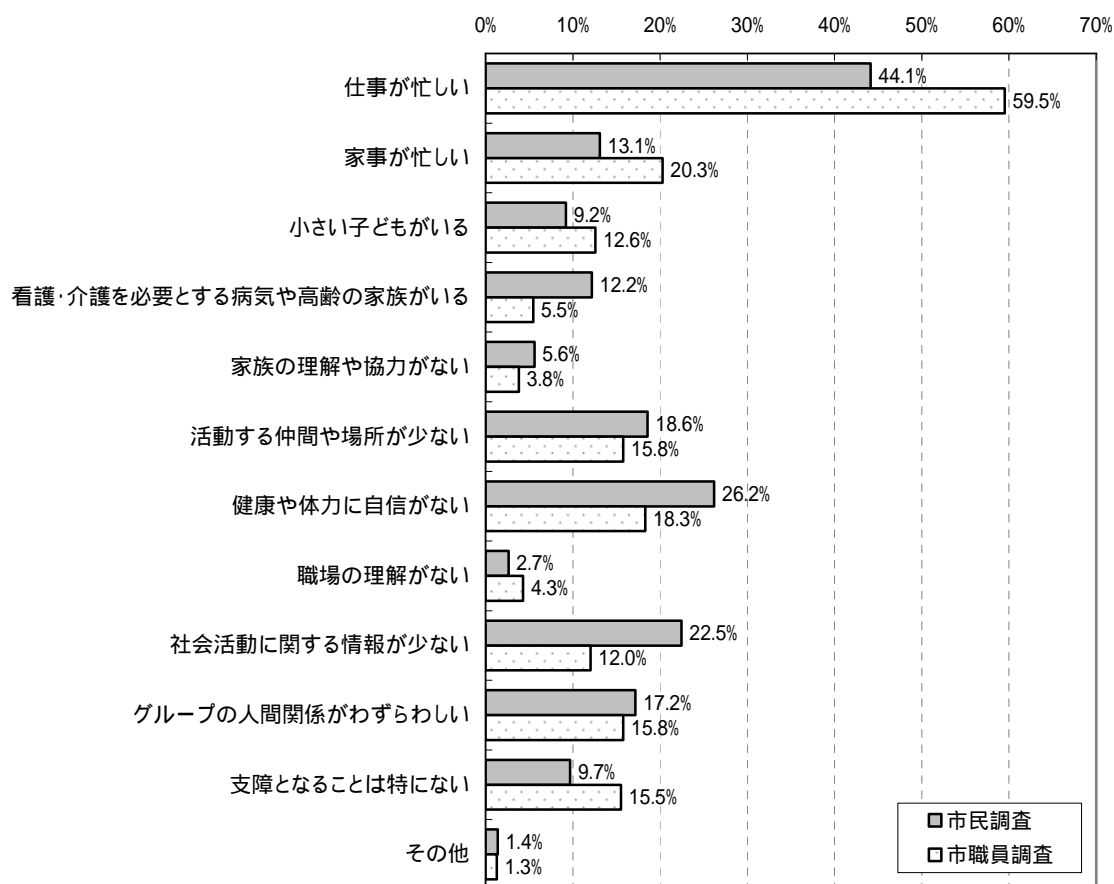
【問 23 社会活動に参加する上で支障となること】



【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「仕事が忙しい」（市民：44.1%、市職員：59.5%）が最も多く、次いで「健康や体力に自信がない」、「社会活動に関する情報が少ない」、「活動する仲間や場所が少ない」、「グループの人間関係がわずらわしい」、「家事が忙しい」などの回答が多くなっており、市民調査結果と市職員調査結果で大きな違いはみられない。



5. 男女の役割分担意識や家庭における男女共同参画について

問 24 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのようにお考えですか。

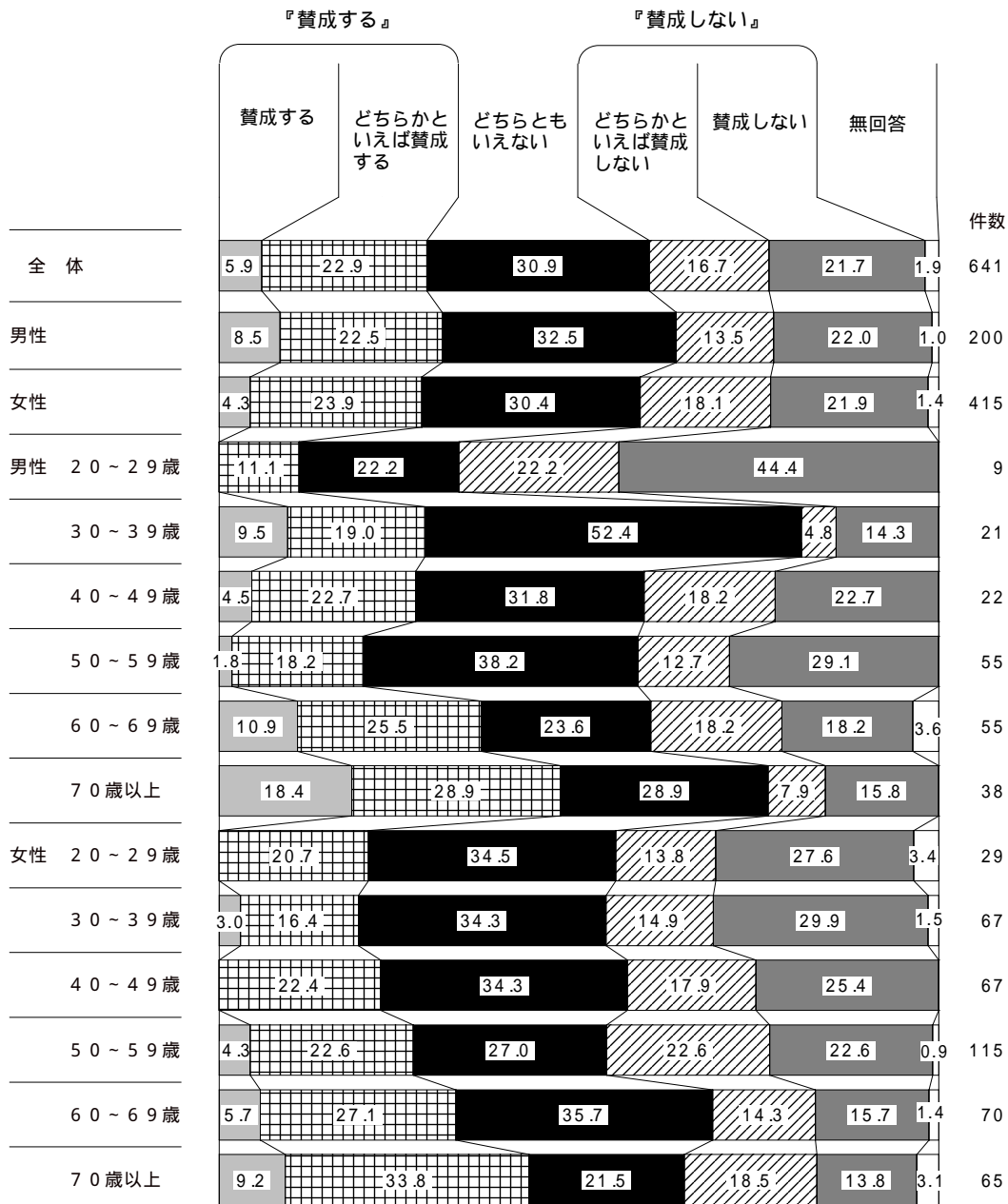
【 は1つ】

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、『賛成する』（「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた割合）が28.8%、『賛成しない』（「どちらかといえば賛成しない」と「賛成しない」を合わせた割合）が38.4%、「どちらともいえない」が30.9%で、『賛成しない』が最も多くなっている。

性別で見ると、『賛成しない』の回答率が男性35.5%、女性40.0%と、男女とも最も高くなっている。

性年齢別で見ると、30代の男性では「どちらともいえない」が50%を超えている。40代から60代の男性では『賛成しない』が『賛成する』の回答率を上回っている。女性では、20代から50代で『賛成しない』が『賛成する』を上回っている。また、女性では年齢が上がるにつれて『賛成する』の回答率が高くなる傾向がある。

【問 24 「男は仕事、女は家庭」という考え方について】



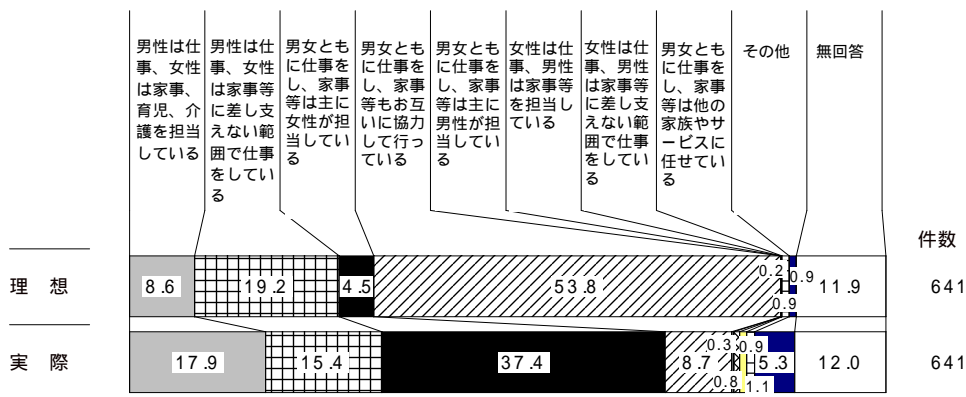
問 25 家庭での役割分担について、(1)あなたが理想とする役割分担と、(2)実際の役割分担はどのようになっていますか。

(1)理想 と(2)実際 のそれぞれについて下の中から選んで番号を記入してください。
【選択は1つずつ】

家庭での理想の役割分担について、「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」が53.8%で最も多く、「男性は仕事、女性は家事などに差し支えない範囲で仕事をしている」(19.2%)、「男性は仕事、女性は家事、育児、介護を担当している」(8.6%)、「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」(4.5%)の順となっている。

家庭での実際の役割分担について、「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」が37.4%で最も多く、「男性は仕事、女性は家事、育児、介護を担当している」(17.9%)、「男性は仕事、女性は家事などに差し支えない範囲で仕事をしている」(15.4%)、「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」(8.7%)の順となっている。

【問 25 家庭での役割分担】



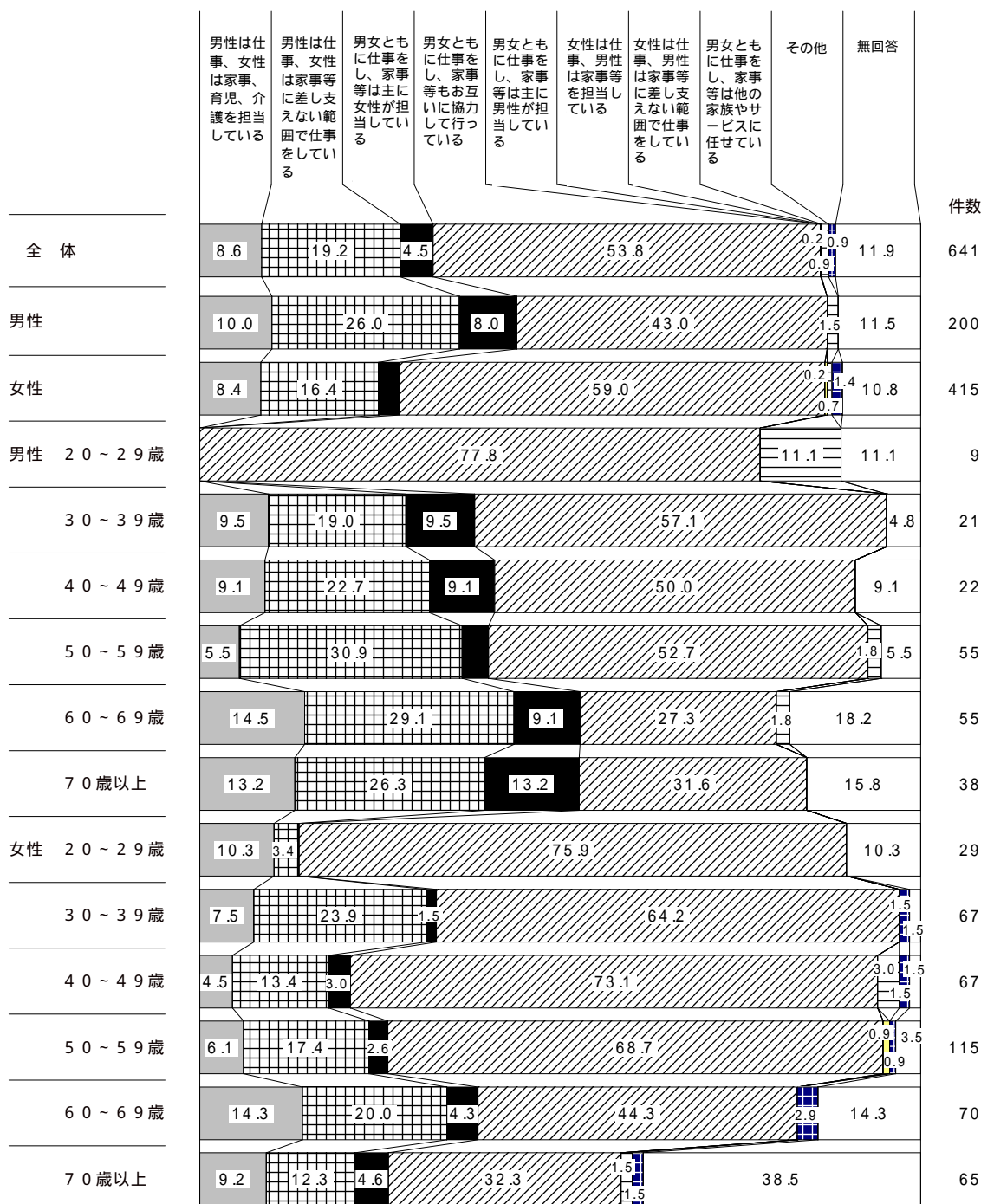
(1) 理想

家庭での理想の役割分担について、性別で見ると、「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」の回答率が、男女差はあるものの男性 43.0%、女性 59.0%で最も高くなっている。

また、「男性は仕事、女性は家事等に差し支えない範囲で仕事をしている」の回答率は、男性 26.0%、女性 16.4%で、男性が女性を 9.6 ポイント上回っている。

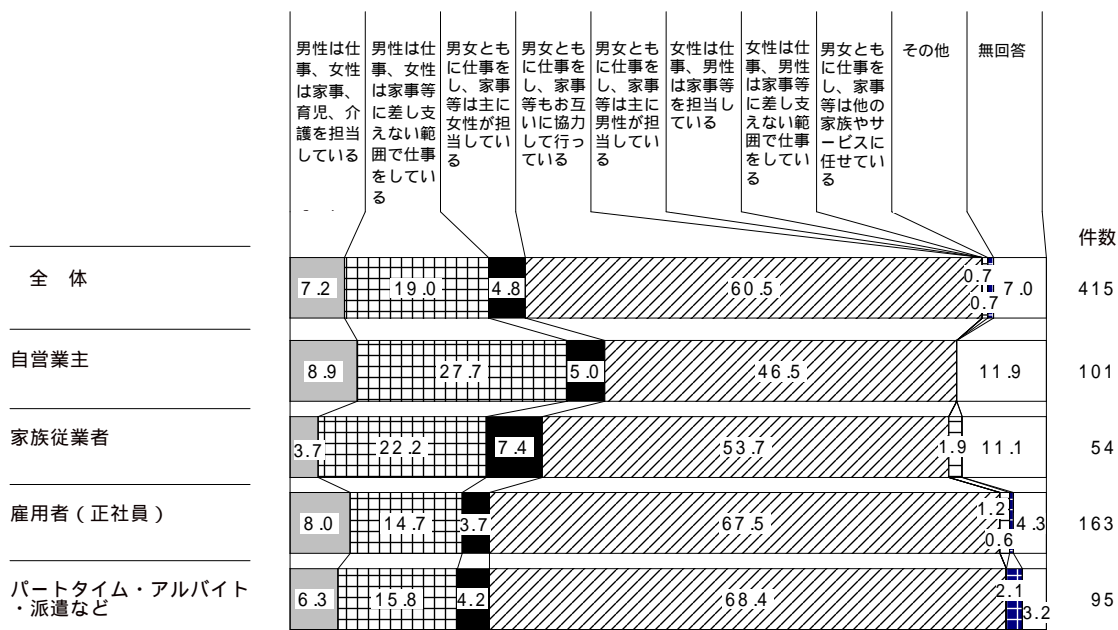
性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢層で「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」の回答率が最も高くなっている。

【問 25(1) 家庭での役割分担 理想】



職業別でみると、すべての職業で「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」の回答率が最も高くなっている。雇用者（正社員）やパート・アルバイト・派遣などでは約70%になっている。自営業者や家族従業者では、「男性は仕事、女性は家事等に差し支えない範囲で仕事をしている」との回答率が20%を超え、雇用者（正社員）やパート・アルバイト・派遣などに比べて高くなっている。

【問 25(1) 職業別 家庭での役割分担 理想】

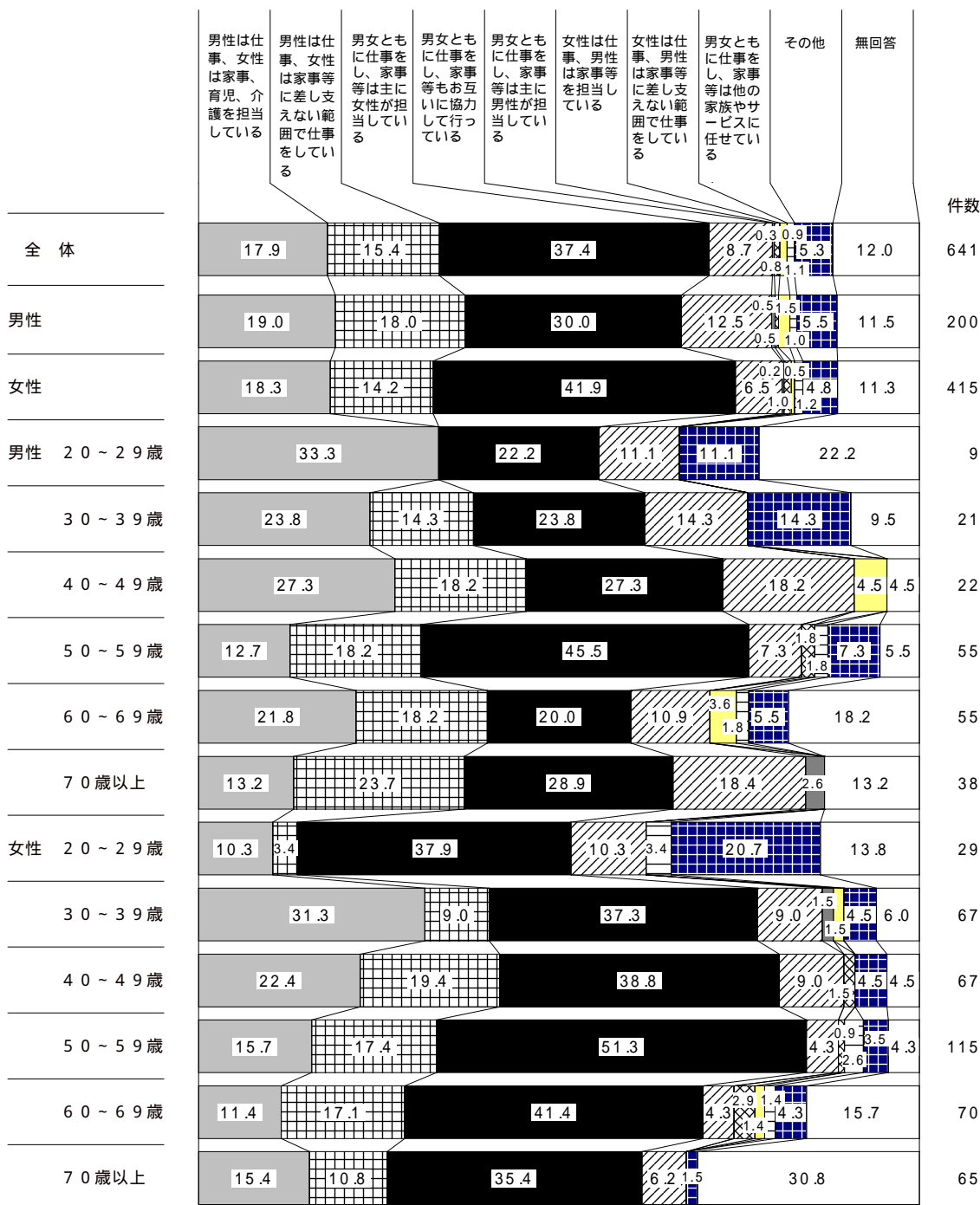


(2) 実際

家庭での実際の役割分担について、性別で見ると、「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」の回答率が、男性 30.0%、女性 41.9%で最も高くなっている。

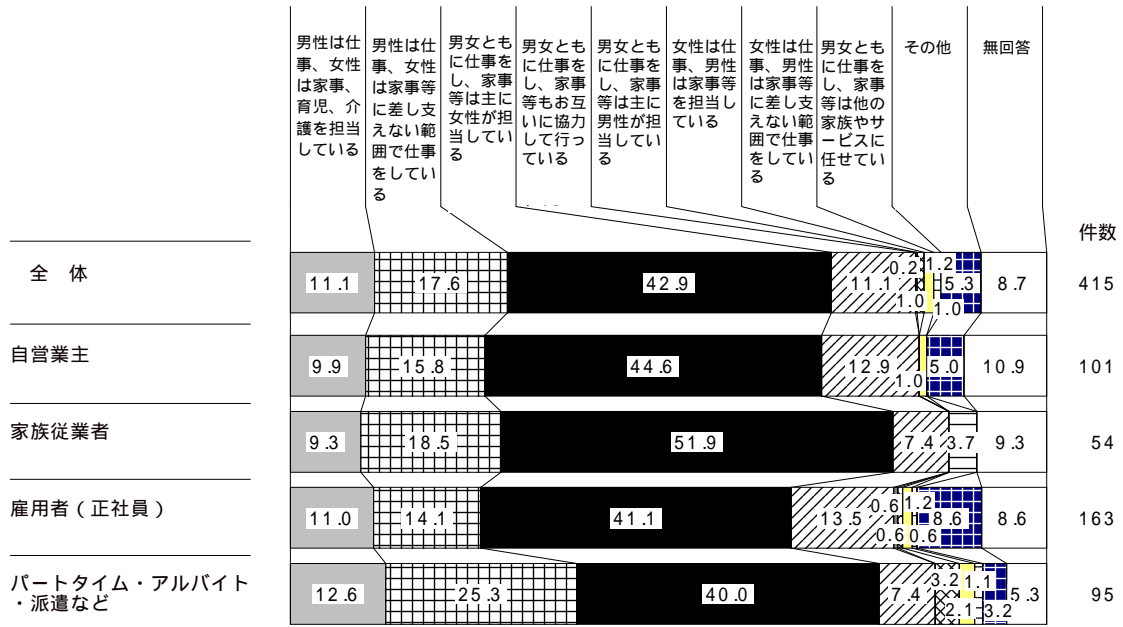
性・年齢別で見ると、20代と60代の男性を除き「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」の回答率が最も高くなっている。女性では、「男性は仕事、女性は家事、育児、介護を担当している」の回答率について、30代が最も高くなっている。

【問 25(2) 家庭での役割分担 実際】



職業別でみると、すべての職業で「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」の回答率が最も高く、家族従業者では 50% を超えている。「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」の回答率は、家族従業者やパート・アルバイト・派遣などに比べ、自営業主や雇用者（正社員）の方が高い傾向がある。

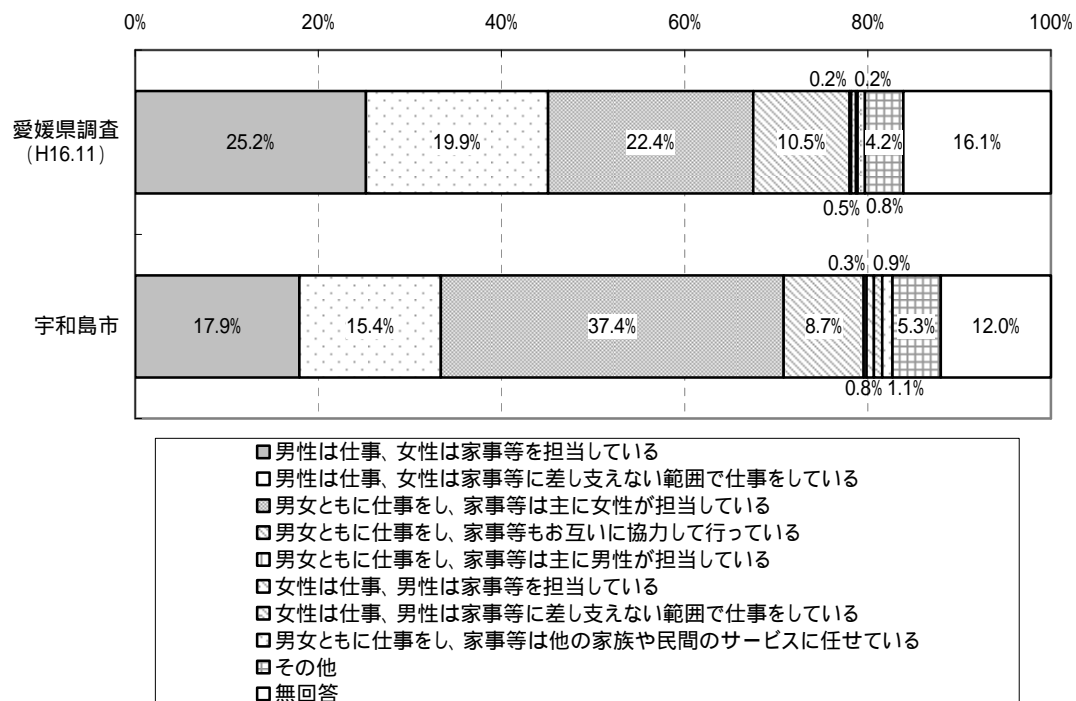
【問 25(2) 職業別 家庭での役割分担 実際】



【参考】

愛媛県調査（H16.11実施）結果比較

愛媛県調査結果と比較してみると、家庭での実際の役割分担について、愛媛県では「男性は仕事、女性は家事等を担当している」が25.2%と最も多く、宇和島市の17.9%を7.3ポイント上回っている。一方、宇和島市では「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」が、37.4%で最も多く、愛媛県の22.4%を15.0ポイント上回る結果となっている。

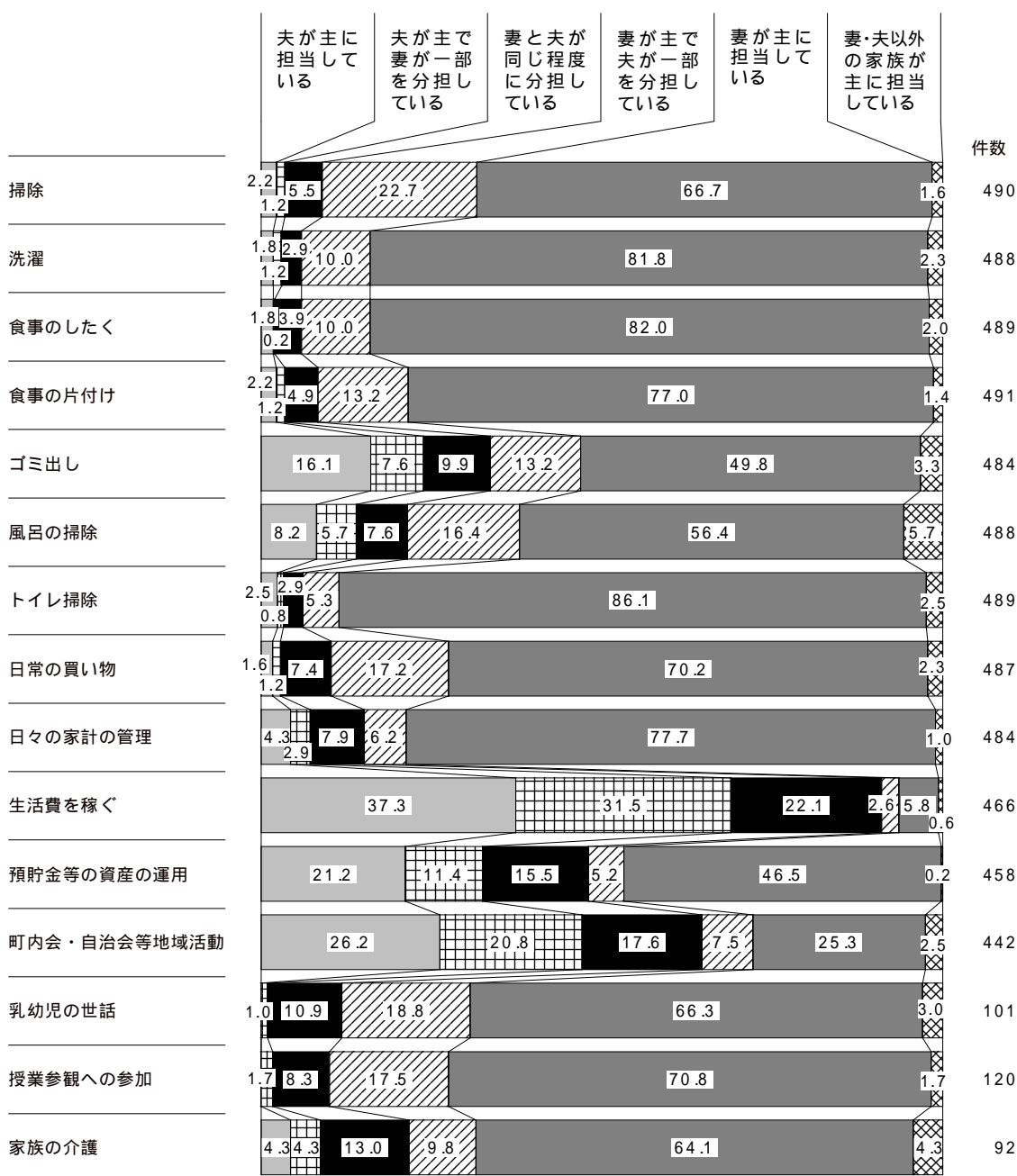


現在、結婚（事実婚を含む）されている方・パートナーのいる方におたずねします。

問 26 あなたの家庭では、次の（１）～（１５）のような仕事をどのように分担していますか。
 （１３）～（１５）が必要となるような家族がいない場合は、「該当しない」を選んでください。
 【それぞれ１つずつ選択】

家庭での家事等の役割分担について、「掃除」「洗濯」「食事のしたく」「食事の片付け」「風呂の掃除」「トイレ掃除」「日常の買い物」「日々の家計の管理」「乳幼児の世話」「授業参観への参加」「家族の介護」について「妻が主に担当している」との回答率が50%を超えており、「洗濯」「食事のしたく」「トイレ掃除」は80%を超えている。一方、「生活費を稼ぐ」については、「主に夫が担当している」との回答率が37.3%で、最も高くなっている。

【問 26 家庭での家事等の役割分担】



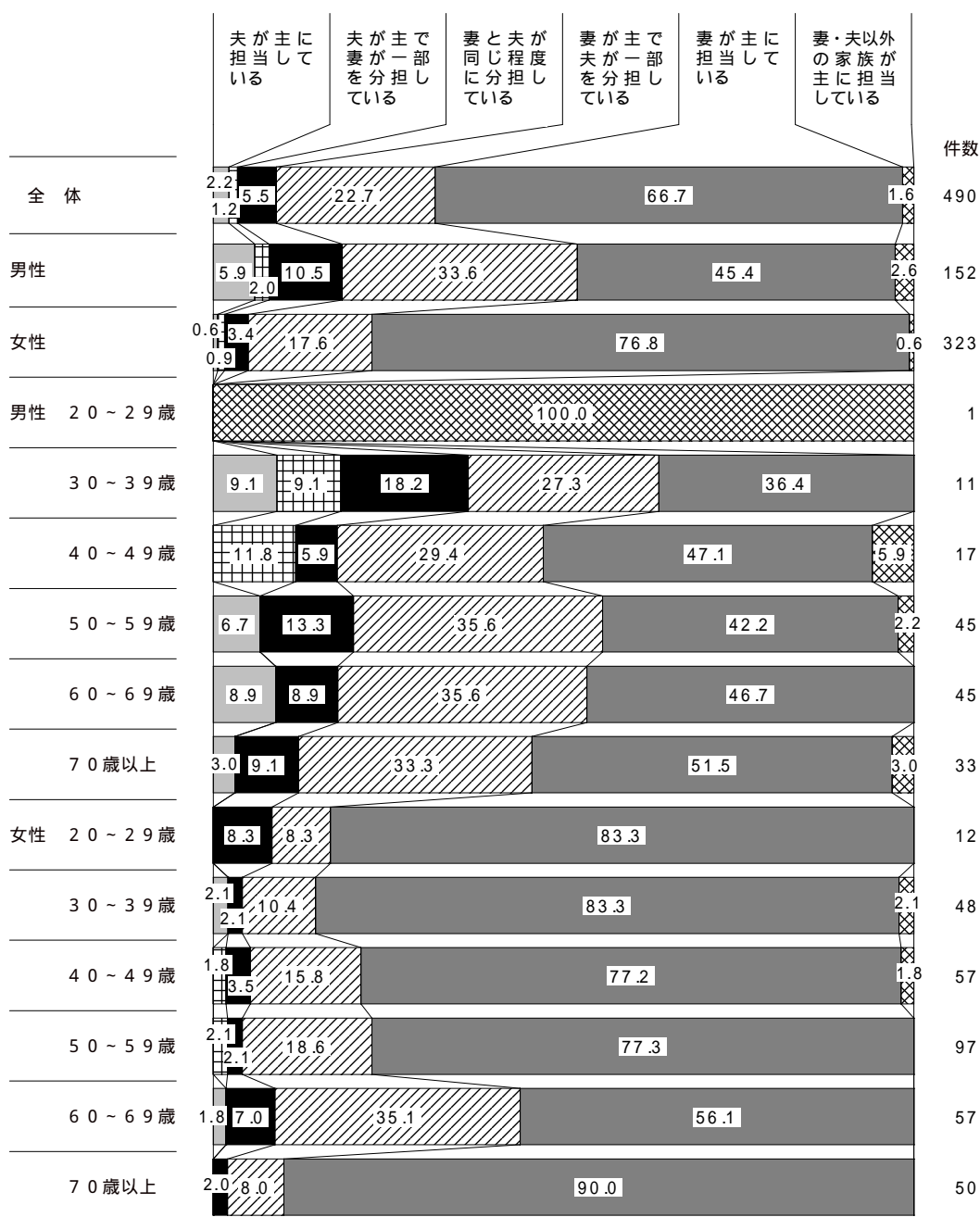
集計は無回答と「該当なし」を除く

(1) 掃除

掃除について、性別で見ると、「妻が主で夫が一部を分担している」が男性 33.6%、女性 17.6%、「妻が主に担当している」が男性 45.4%、女性 76.8%となっており、男女による違いが大きい。しかし、妻が主に担当しているということにはかわりない。

性・年齢別で見ると、30代以上ではすべて「妻が主で夫が一部を分担している」の回答率について男性が女性を上回り、「妻が主に担当している」の回答率は女性が男性を上回っている。60代の女性では、「妻が主で夫が一部を分担している」の回答率が他の年齢層に比べて高くなっている。

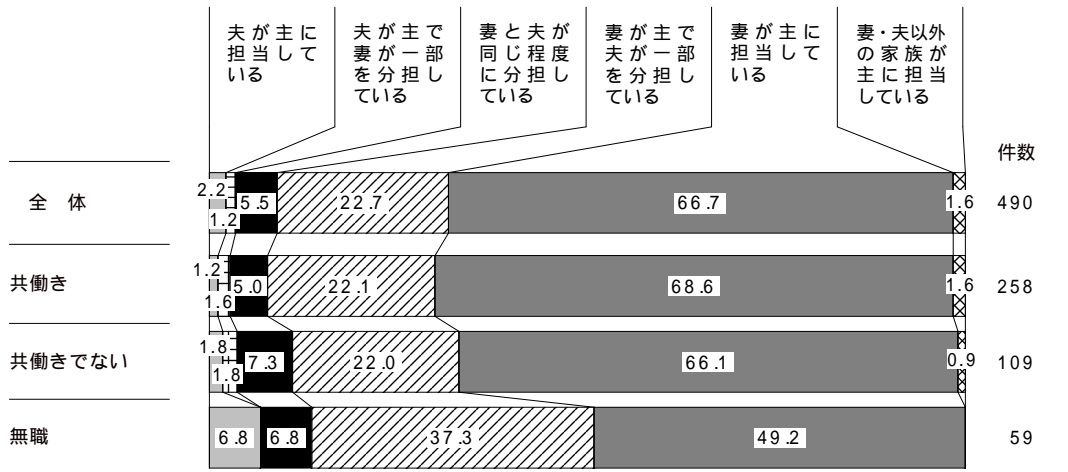
【問 26(1) 家庭での家事等の役割分担 掃除】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、「共働き」、「共働きでない」にかかわらず「妻が主に担当している」の回答率が65%を超えて最も高くなっている。

【問 26(1) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 掃除】



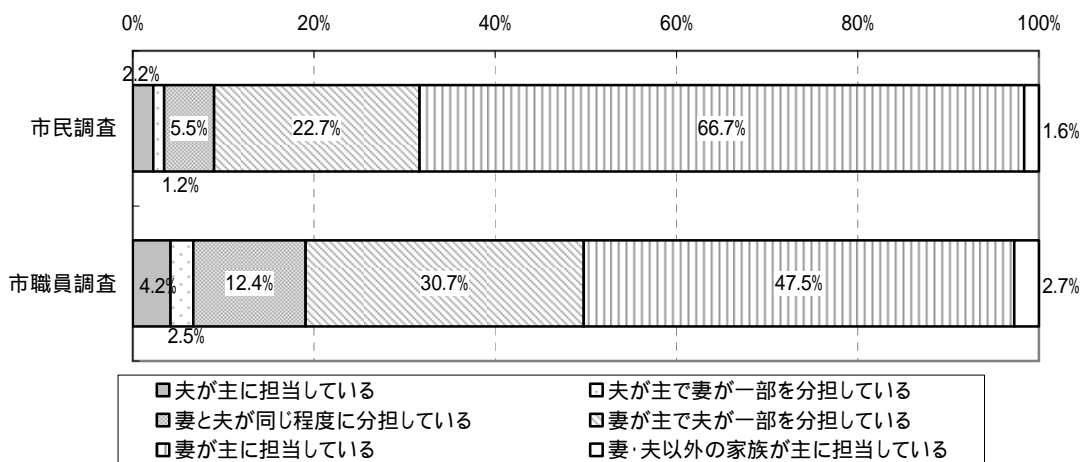
集計は無回答と「該当なし」を除く

【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「妻が主に担当している」が最も多くなっているものの、市職員では47.5%に対し市民では66.7%と違いが大きい。しかし、「妻が主で夫が一部を分担している」を含めると市民では89.4%、市職員では78.2%と大半の家庭で妻が主に担当しているということにはかわりない。

一方で「妻と夫が同じ程度に分担している」の回答は市民では5.5%に対し、市職員では12.4%と2倍以上の割合を占めている。



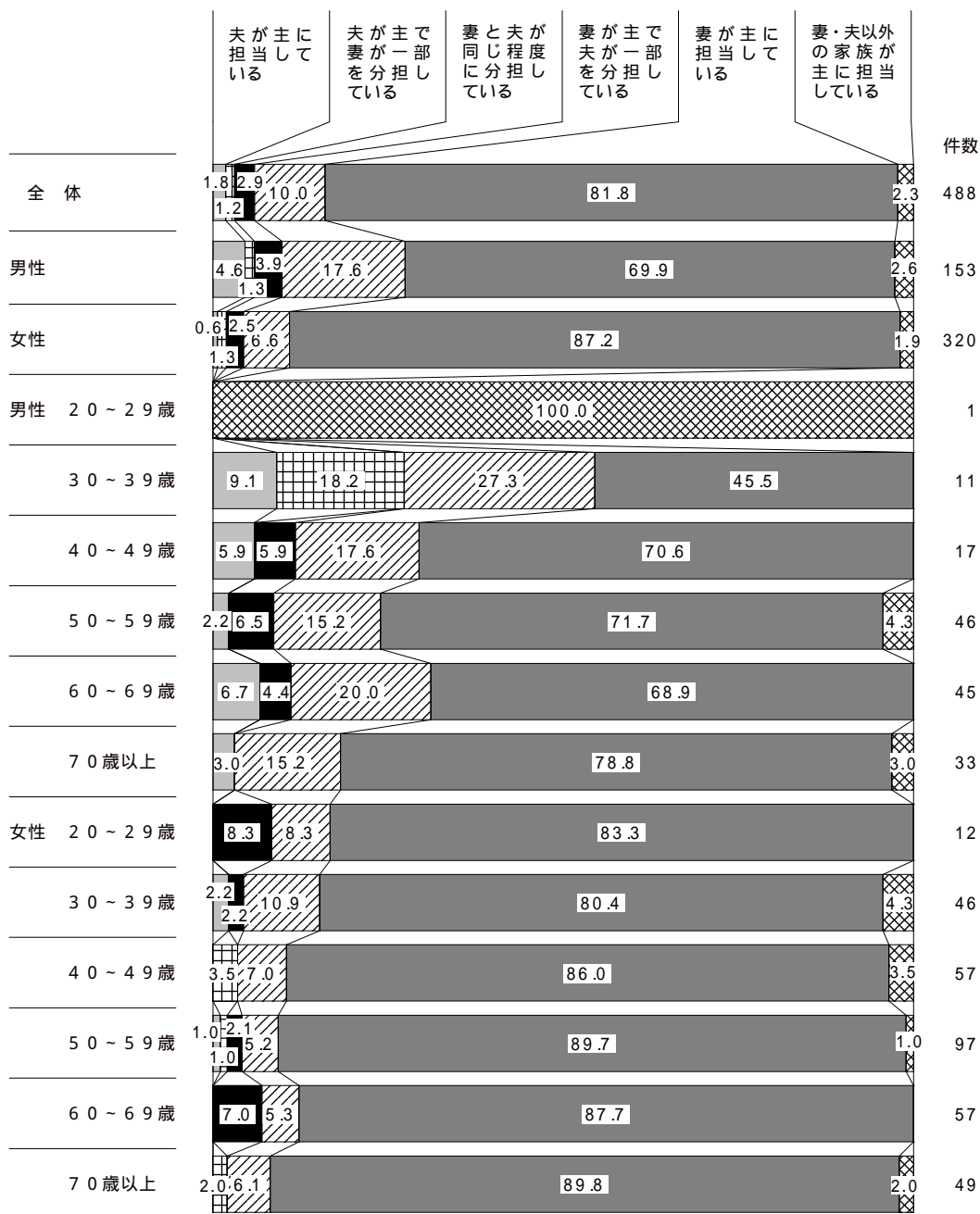
集計は無回答と「該当なし」を除く

(2) 洗濯

洗濯について、性別で見ると、「妻が主で夫が一部を分担している」が男性 17.6%、女性 6.6%、「妻が主に担当している」が男性 69.9%、女性 87.2%となっており、男女による違いがある。しかし、妻が主に担当しているということにはかわりない。

性・年齢別で見ると、男性の 20 代を除き「妻が主に担当している」の回答率が最も高くなっている。40 代以上の女性では約 90%にのぼっている。

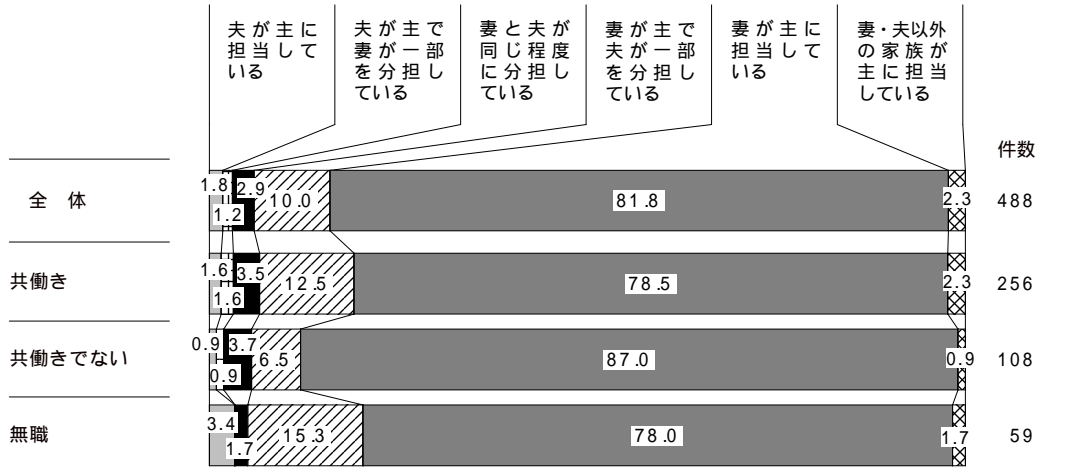
【問 26(2) 家庭での家事等の役割分担 洗濯】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、いずれも「妻が主に担当している」の回答率が75%を超えて最も高くなっている。

【問 26(2) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 洗濯】



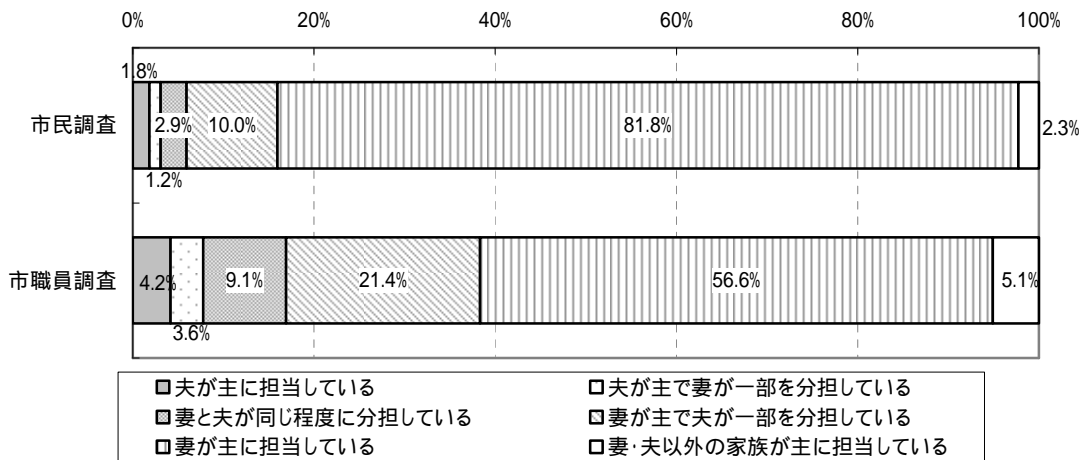
集計は無回答と「該当なし」を除く

【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「妻が主に担当している」が最も多くなっているものの、市職員では56.6%に対し市民では81.8%と違いが大きい。「妻が主で夫が一部を分担している」を含めると市民では91.8%、市職員では78.0%と大半の家庭で妻が主に担当しているということにはかわりない。

一方で「妻と夫が同じ程度に分担している」の回答は市民では2.9%に対し、市職員では9.1%と大きく上回っている。



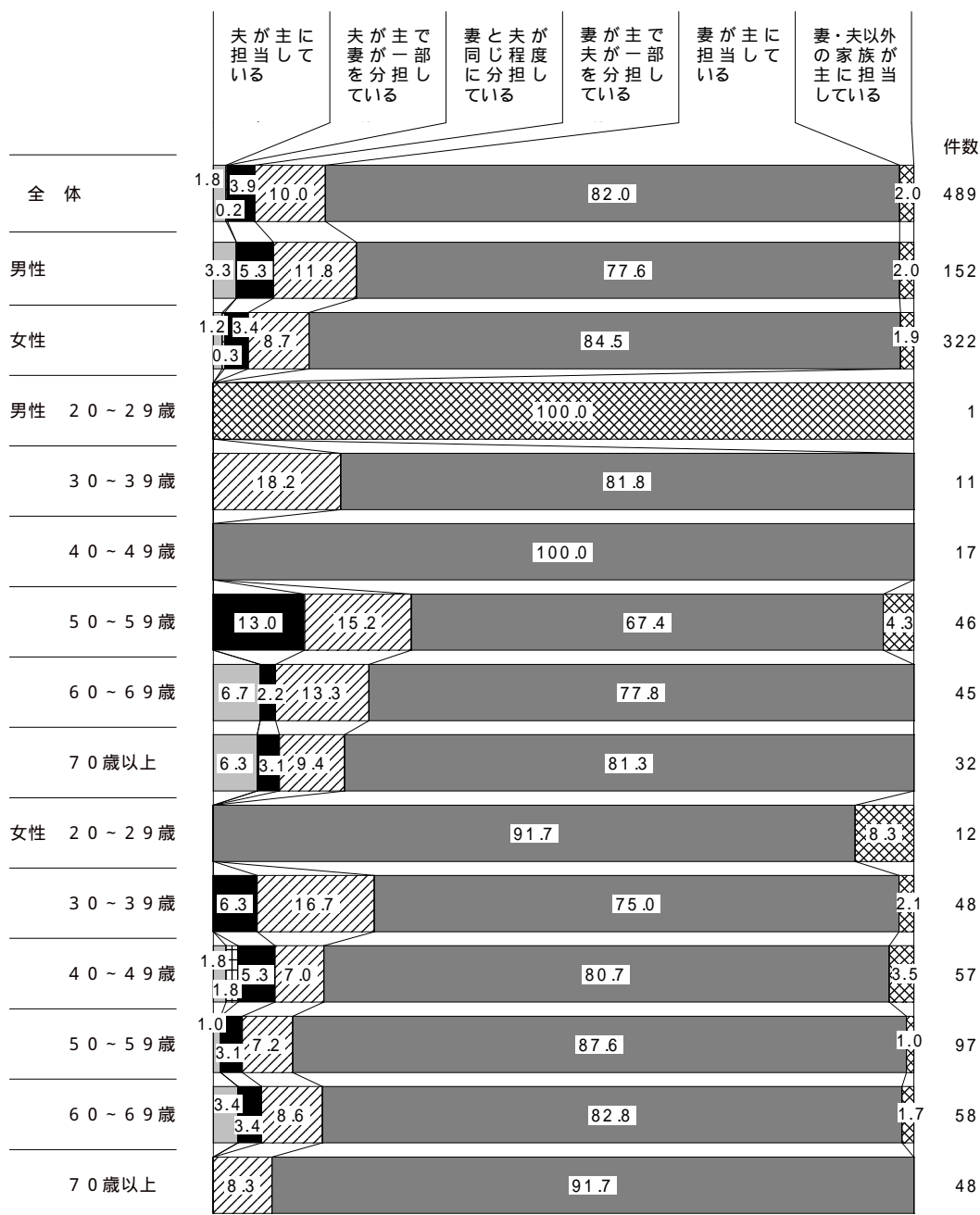
集計は無回答と「該当なし」を除く

(3) 食事のしたく

食事のしたくについて、性別で見ると、「妻が主に担当している」が男性 77.6%、女性 84.5%となっている。

性・年齢別で見ると、男性の 20 代を除き「妻が主に担当している」の回答率が最も高くなっている。

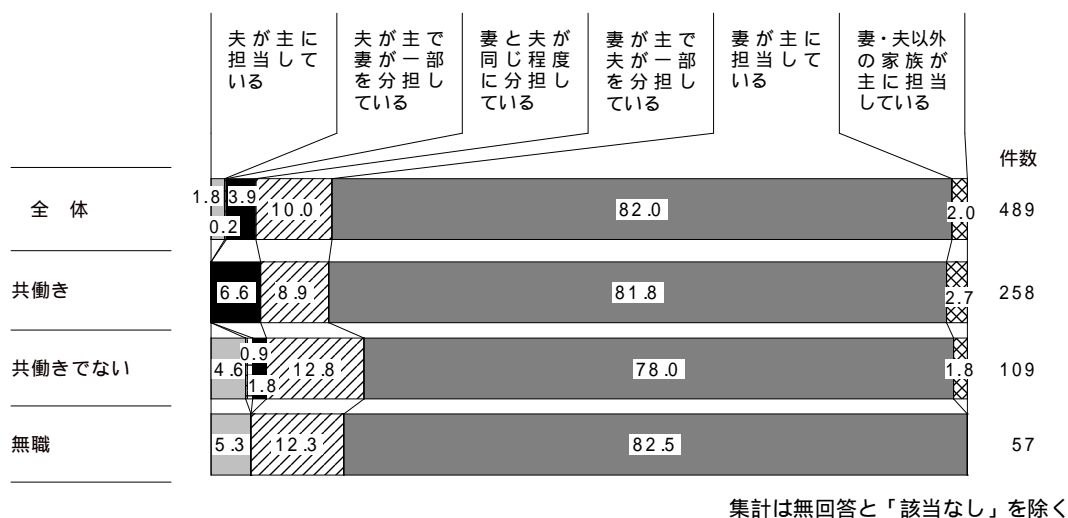
【問 26(3) 家庭での家事等の役割分担 食事のしたく】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、いずれも「妻が主に担当している」の回答率が約80%で最も高くなっている。

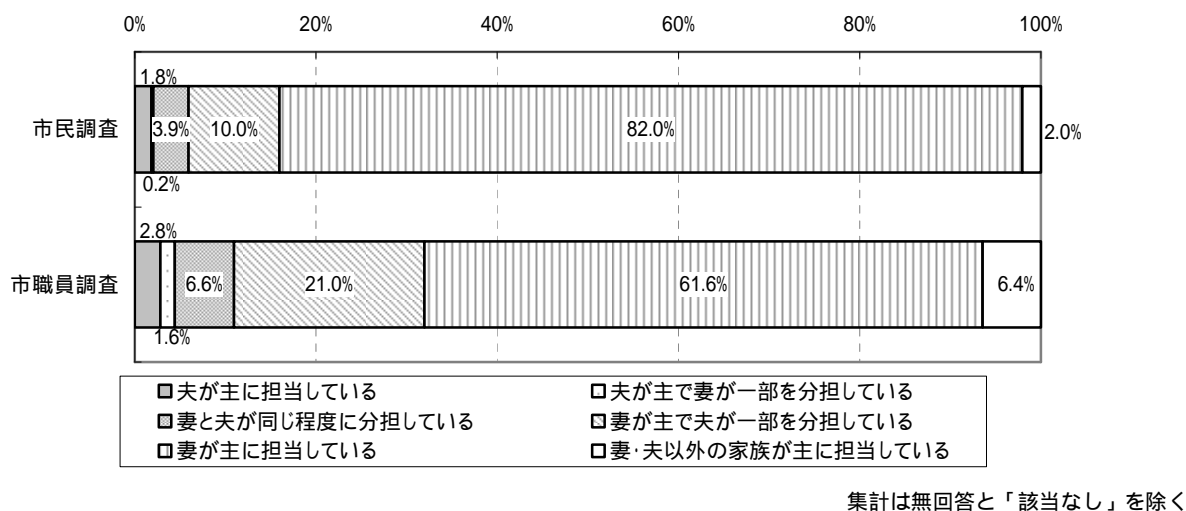
【問 26(3) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 食事のしたく】



【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「妻が主に担当している」が最も多くなっているものの、市職員では61.6%に対し市民では82.0%と違いが大きい。「妻が主で夫が一部を分担している」を含めると市民では92.0%、市職員では82.6%と大半の家庭で妻が主に担当しているということにはかわりない。

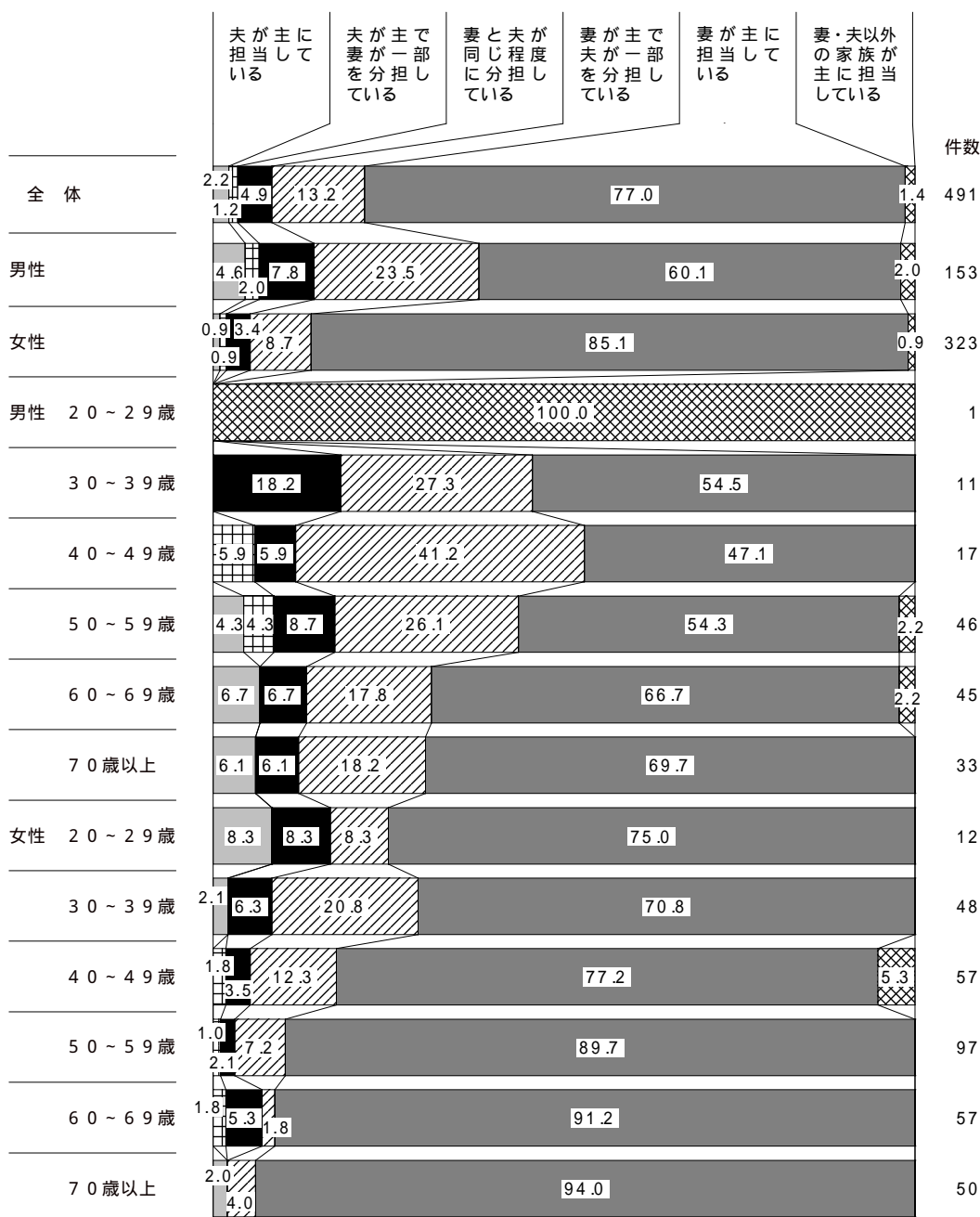


(4) 食事の片付け

食事の片付けについて、性別で見ると、「妻が主で夫が一部を分担している」が男性 23.5%、女性 8.7%、「妻が主に担当している」が男性 60.1%、女性 85.1%となっており、男女による大きな違いがある。しかし、妻が主に担当しているということにはかわりない。

性・年齢別で見ると、男性の 20 代を除き「妻が主に担当している」の回答率が最も高くなっている。男女とも年齢が上がるにつれて「妻が主で夫が一部を分担している」の回答率が低くなる傾向がある。

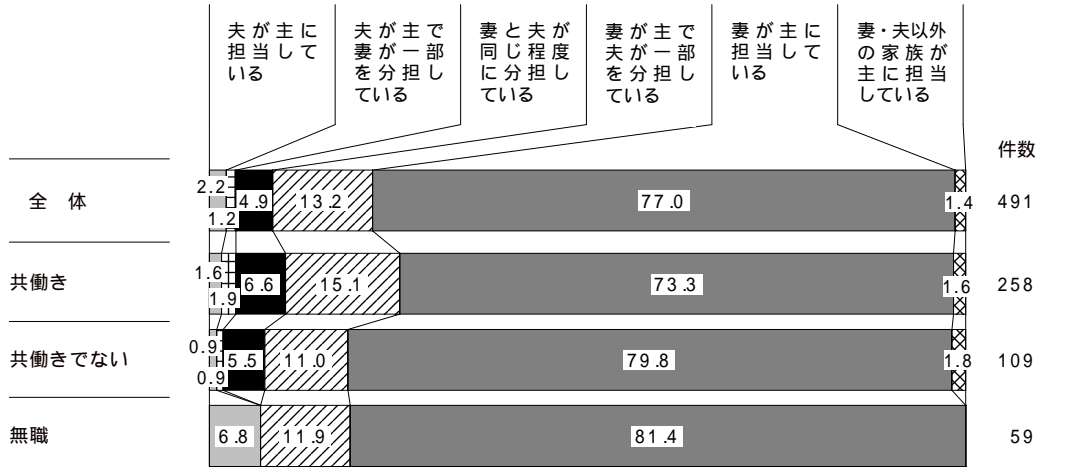
【問 26(4) 家庭での家事等の役割分担 食事の片付け】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、いずれも「妻が主に担当している」の回答率が70%を超えて最も高くなっている。

【問 26(4) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 食事の片付け】



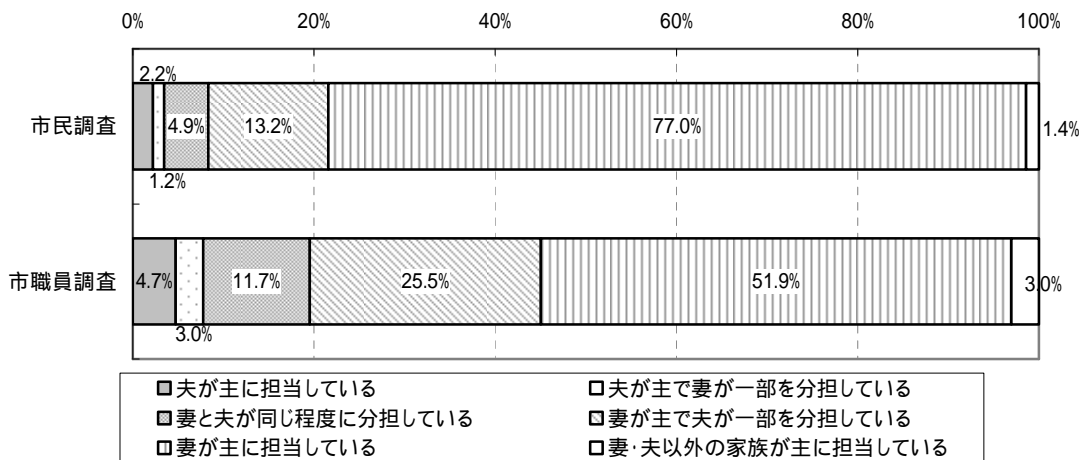
集計は無回答と「該当なし」を除く

【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「妻が主に担当している」が最も多くなっているものの、市職員では51.9%に対し市民では77.0%と違いが大きい。「妻が主で夫が一部を分担している」を含めると市民では90.2%、市職員では77.4%と大半の家庭で妻が主に担当しているということにはかわりない。

一方で「妻と夫が同じ程度に分担している」の回答は市民では4.9%に対し、市職員では11.7%と2倍以上を占める割合となっている。



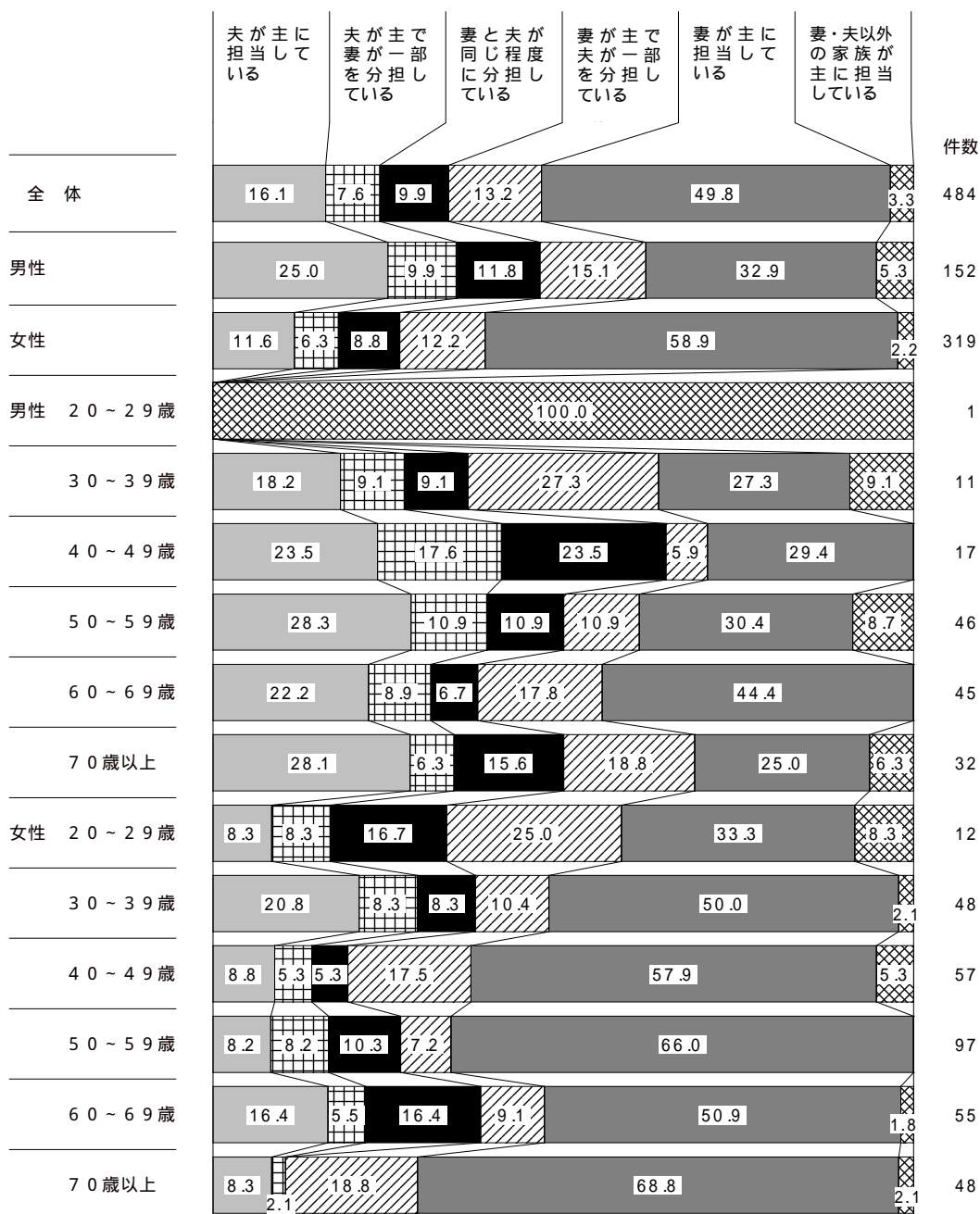
集計は無回答と「該当なし」を除く

(5) ごみ出し

ごみ出しについて、性別で見ると、「夫が主に担当している」が男性 25.0%、女性 11.6%、「妻が主に担当している」が男性 32.9%、女性 58.9%となっている。

性・年齢別で見ると、すべての年齢層で「妻が主に担当している」の回答率について女性が男性を上回っている。また、30代以上の男性で「夫が主に担当している」の回答率が20~30%となっている。

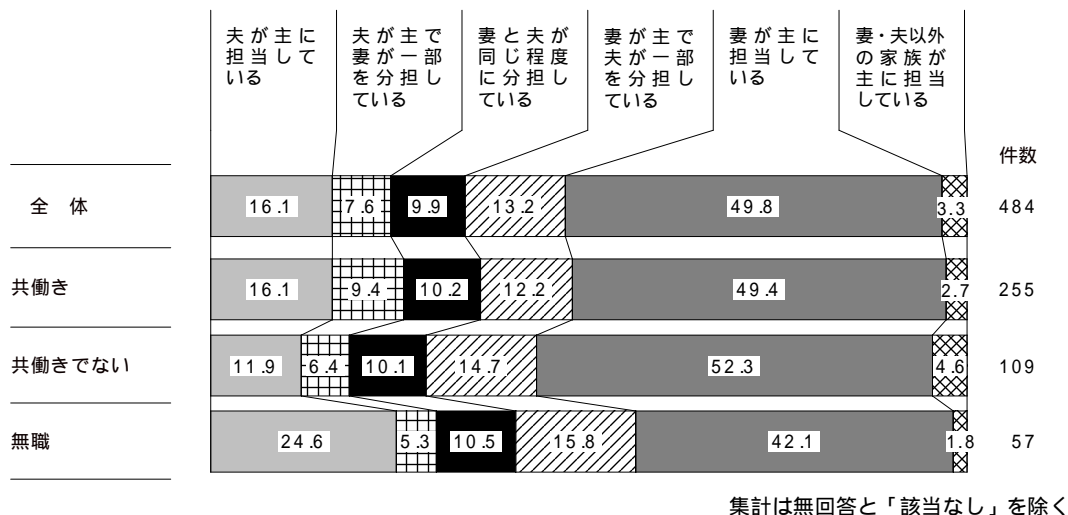
【問 26(5) 家庭での家事等の役割分担 ごみ出し】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、「共働き」、「共働きでない」場合とも「妻が主に担当している」の回答率が約50%となっている。

【問 26(5) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 ごみ出し】



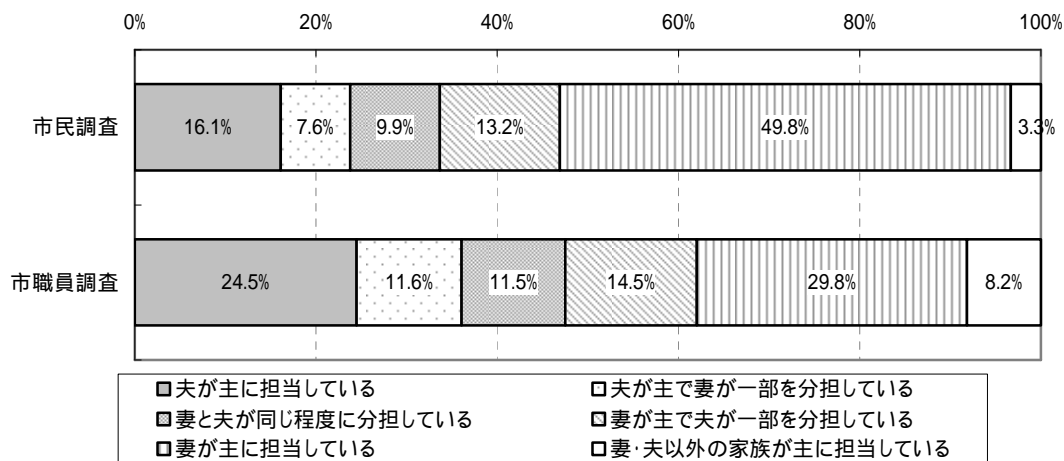
集計は無回答と「該当なし」を除く

【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「妻が主に担当している」が最も多くなっているものの、市職員では29.8%に対し、市民では49.8%と大半を占めている。

一方で「夫が主に担当している」の回答は市民では16.1%に対し、市職員では24.5%と8.4ポイント上回っている。



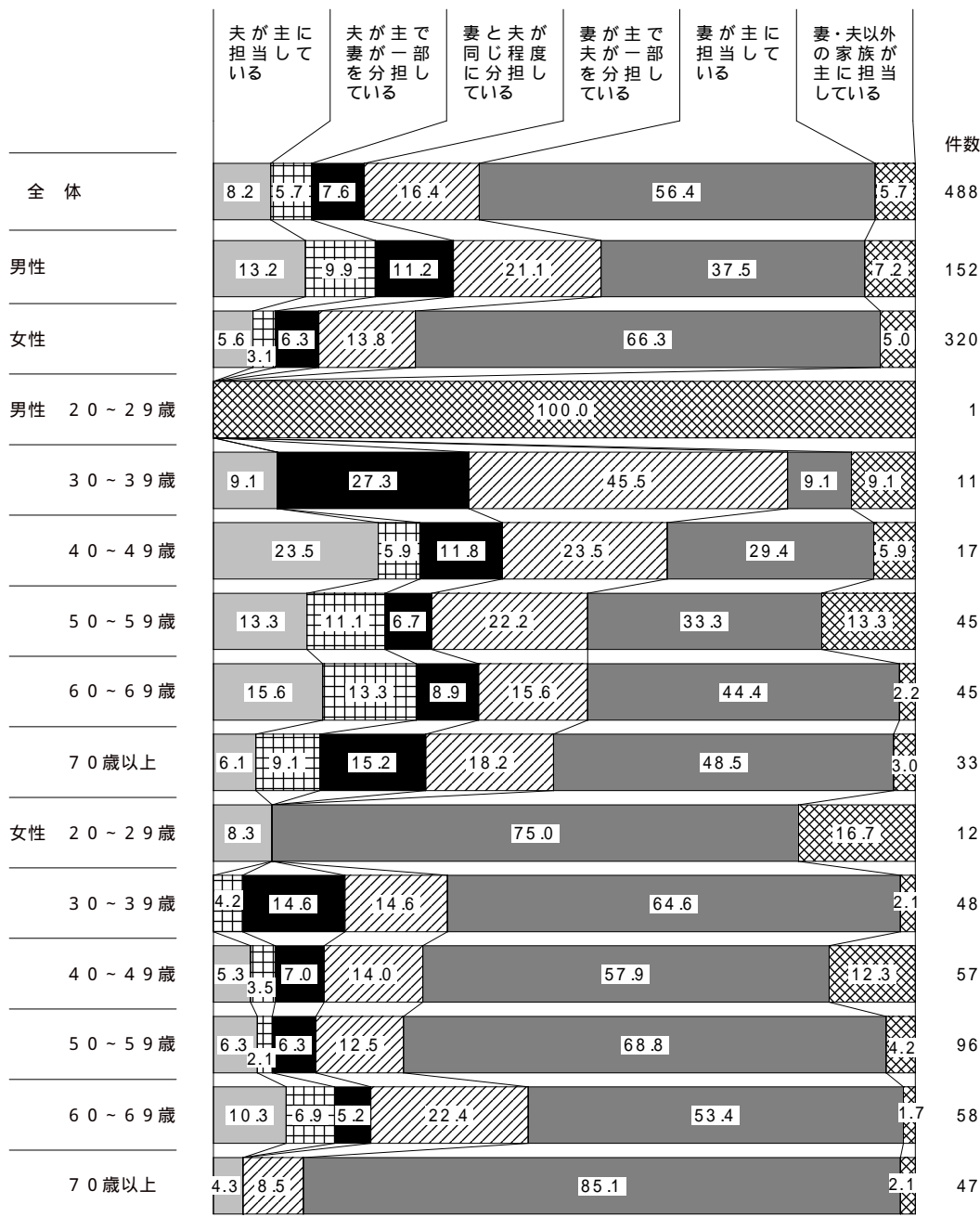
集計は無回答と「該当なし」を除く

(6) 風呂の掃除

風呂の掃除について、性別で見ると、「夫が主に担当している」が男性 13.2%、女性 5.6%、「妻が主に担当している」が男性 37.5%、女性 66.3%となっており、男女による違いがある。

性・年齢別で見ると、すべての年齢層で「妻が主に担当している」の回答率について女性が男性を上回っている。また、30代以上の男性では「妻が主で夫が一部を担当している」「妻が主に担当している」を合わせた回答率は50%を超えており、妻が主に担っている割合が高くなっている。

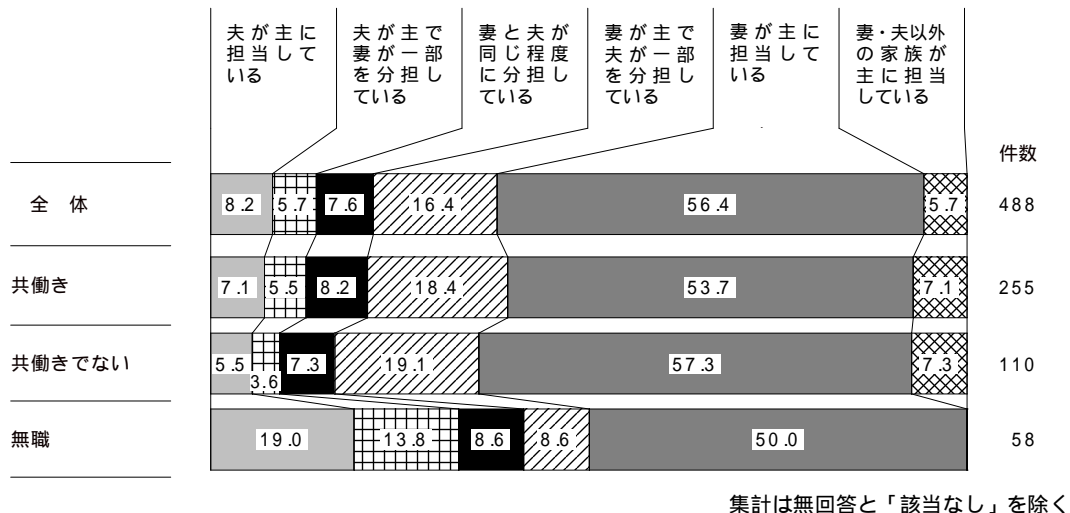
【問 26(6) 家庭での家事等の役割分担 風呂の掃除】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、「共働き」、「共働きでない」場合とも「妻が主に担当している」の回答率が50%を超えている。

【問 26(6) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 風呂の掃除】



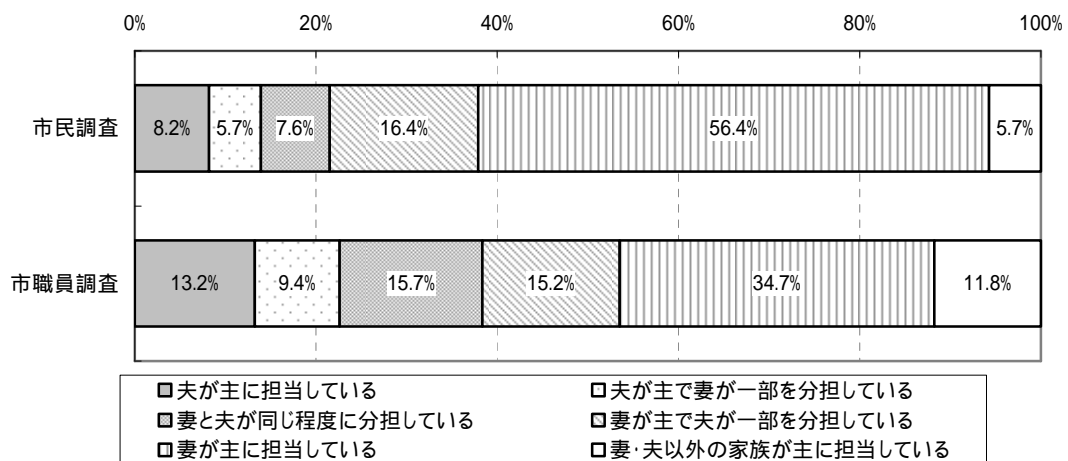
集計は無回答と「該当なし」を除く

【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「妻が主に担当している」が最も多くなっているものの、市職員では34.7%に対し、市民では56.4%と大半を占めている。

一方で「夫が主に担当している」の回答は市民では8.2%に対し、市職員では13.2%と5.0ポイント上回っており、「夫が主で妻が一部を分担している」を含めると市民で13.9%に対し、市職員では22.6%と8.7ポイント上回る結果となっている。



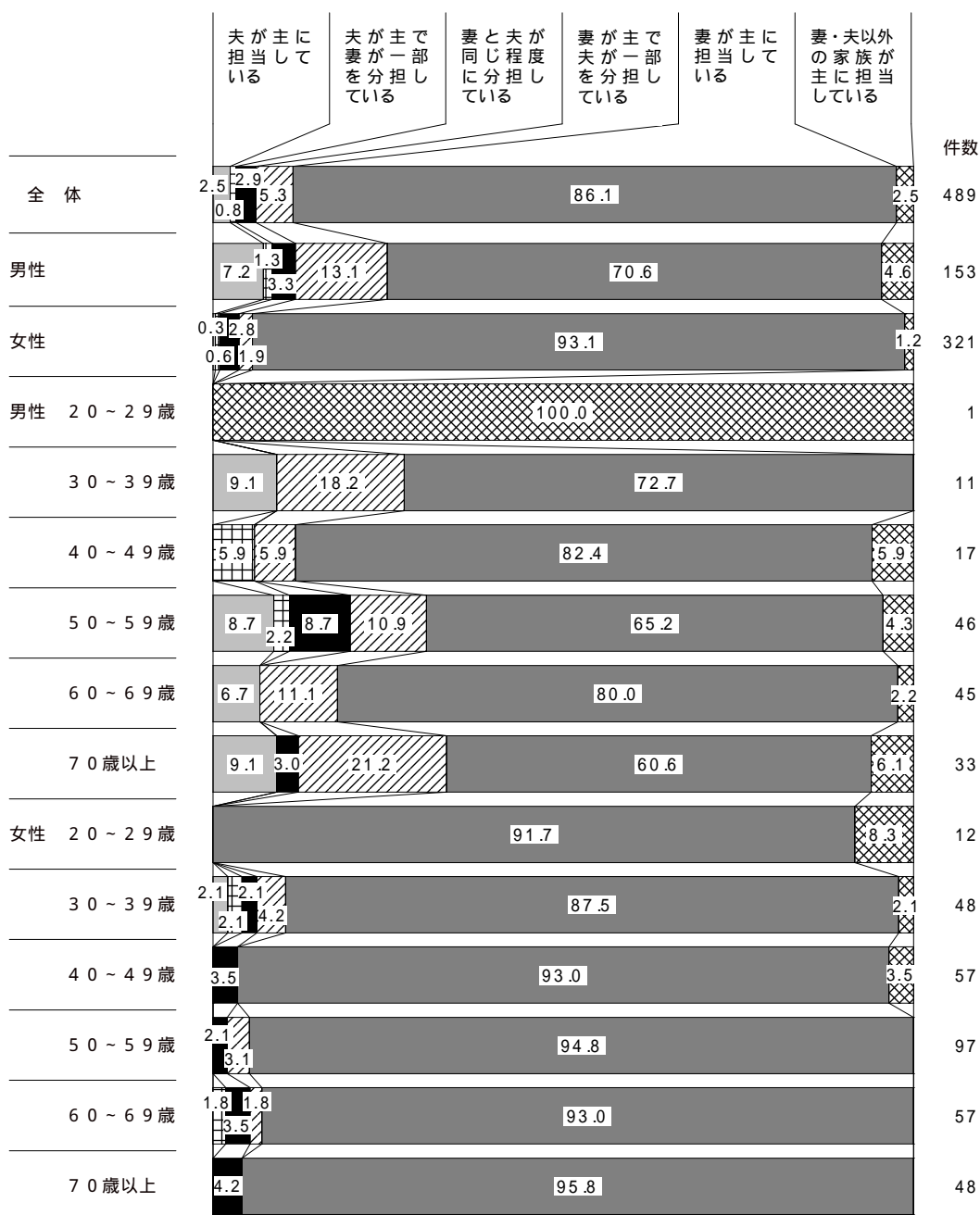
集計は無回答と「該当なし」を除く

(7) トイレ掃除

トイレ掃除について、性別で見ると、「妻が主に担当している」が男性70.6%、女性93.1%と多くなっている。

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢層で「妻が主に担当している」の回答率が高く、女性ではほとんど90%を超えている。

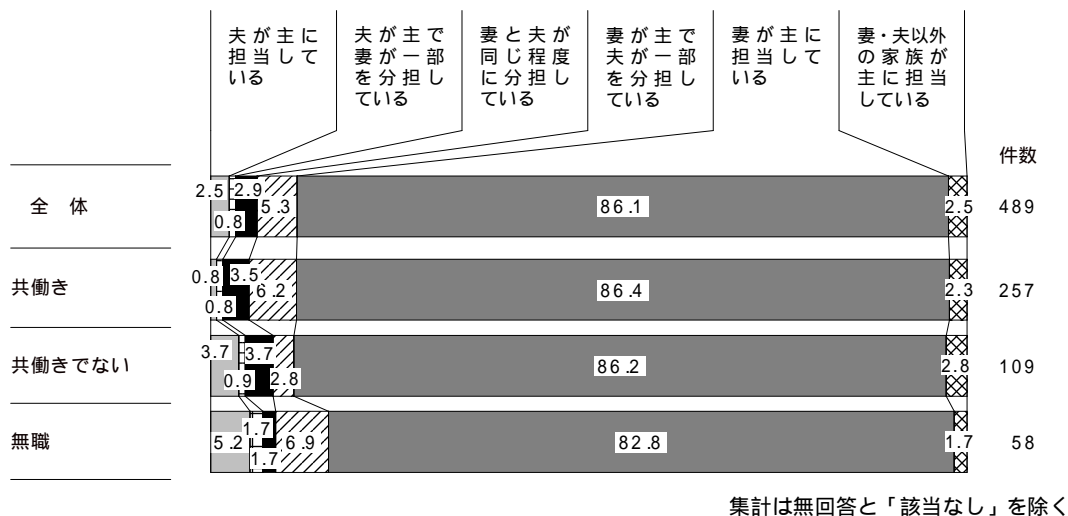
【問26(7) 家庭での家事等の役割分担 トイレ掃除】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、いずれも「妻が主に担当している」の回答率が85%を超えている。

【問 26(7) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 トイレ掃除】

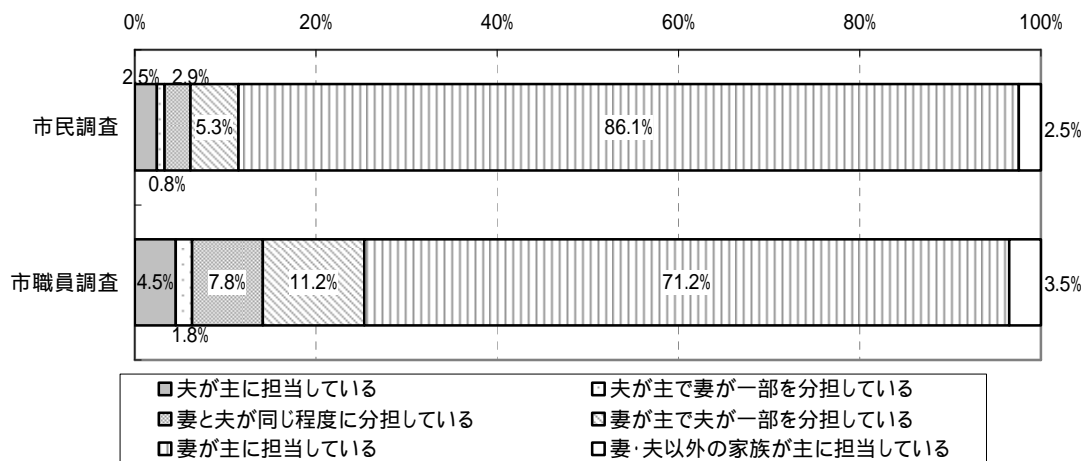


【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「妻が主に担当している」が最も多く、市民では86.1%、市職員では71.2%になっている。

一方で「妻と夫が同じ程度に分担している」の回答は、市民では2.9%に対し、市職員では7.8%と大きく上回る結果となっている。

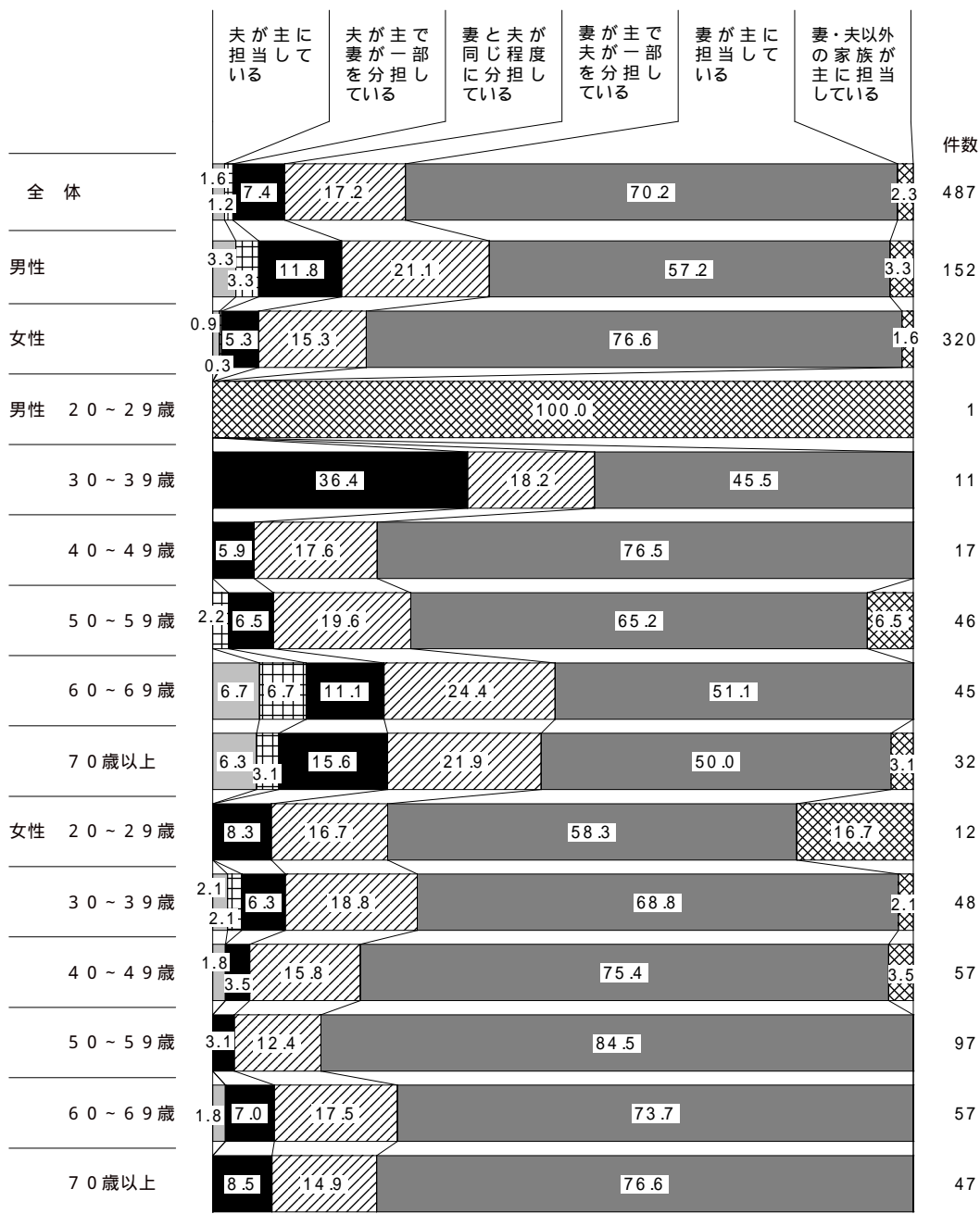


(8) 日常の買い物

日常の買い物について、性別で見ると、「妻が主に担当している」が男性 57.2%、女性 76.6%と多くなっている。

性・年齢別で見ると、20代の男性を除きすべての年齢層で「妻が主に担当している」の回答率について女性が男性を上回っている。また、30代の男性では「妻と夫が同じ程度に分担している」の回答率が 36.4%で他の年齢層に比べて高い傾向がある。

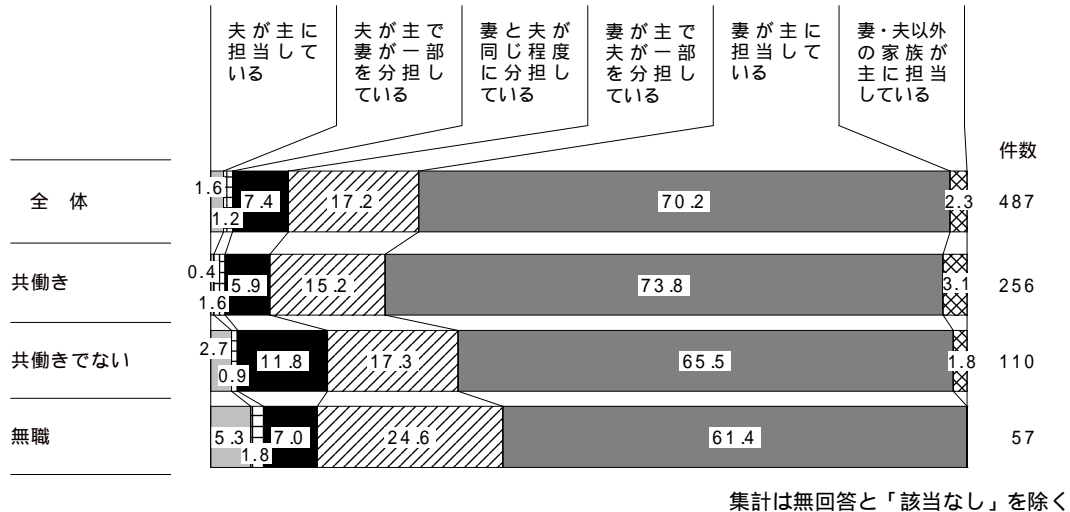
【問 26(8) 家庭での家事等の役割分担 日常の買い物】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、“共働き”、“共働きでない”にかかわらず「妻が主に担当している」の回答率が最も高くなっている。

【問 26(8) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 日常の買い物】



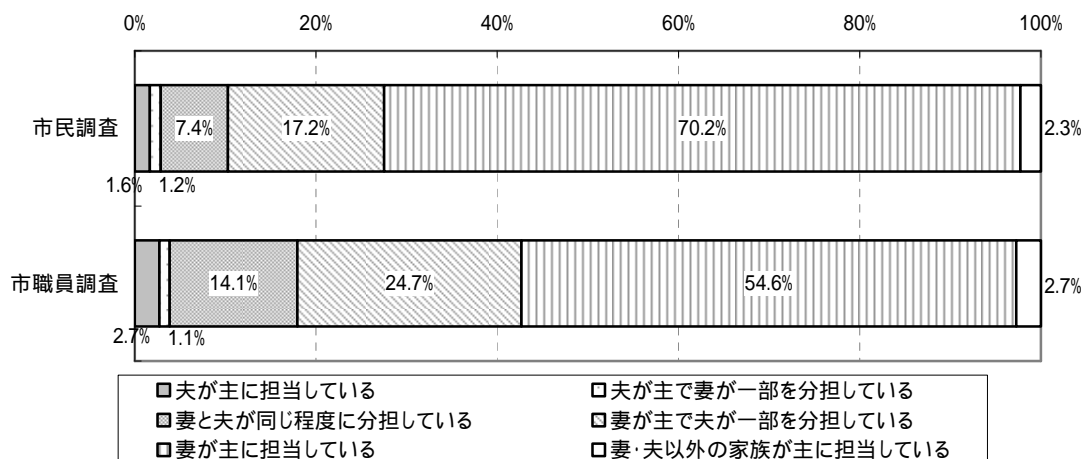
集計は無回答と「該当なし」を除く

【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「妻が主に担当している」が最も多くなっているものの、市職員では54.6%に対し市民では70.2%と違いが大きい。しかし、「妻が主で夫が一部を分担している」を含めると市民では87.4%、市職員では79.3%と大半の家庭で妻が主に担当しているということにはかわりない。

一方で「妻と夫が同じ程度に分担している」の回答は市民では7.4%に対し、市職員では14.1%と約2倍の割合を占めている。



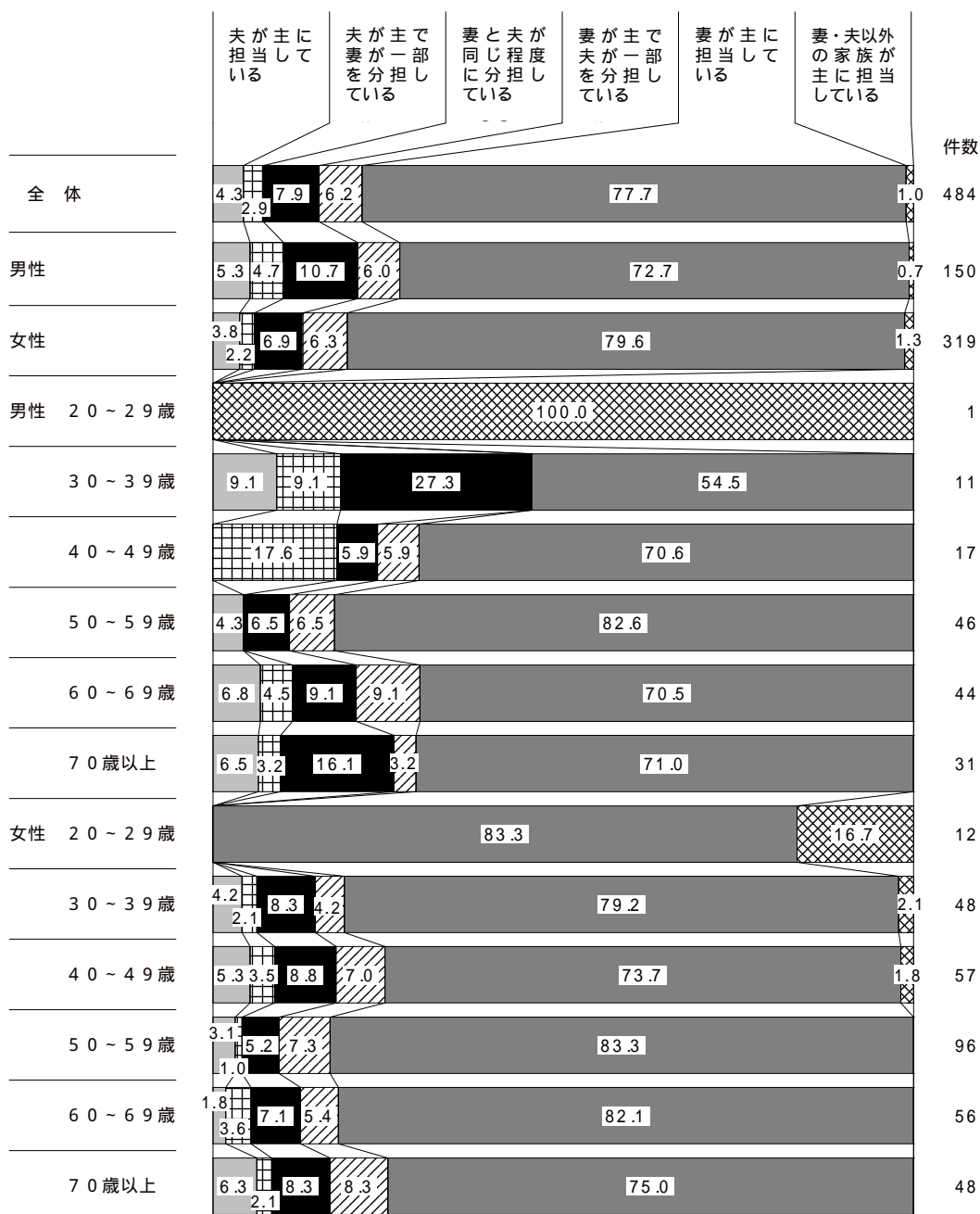
集計は無回答と「該当なし」を除く

(9) 日々の家計の管理

日々の家計の管理について、性別で見ると、「妻が主に担当している」が男性 72.7%、女性 79.6%と70%を超えて多くなっている。

性・年齢別で見ると、20代、30代の男性を除き「妻が主に担当している」の回答率が70%を超えている。

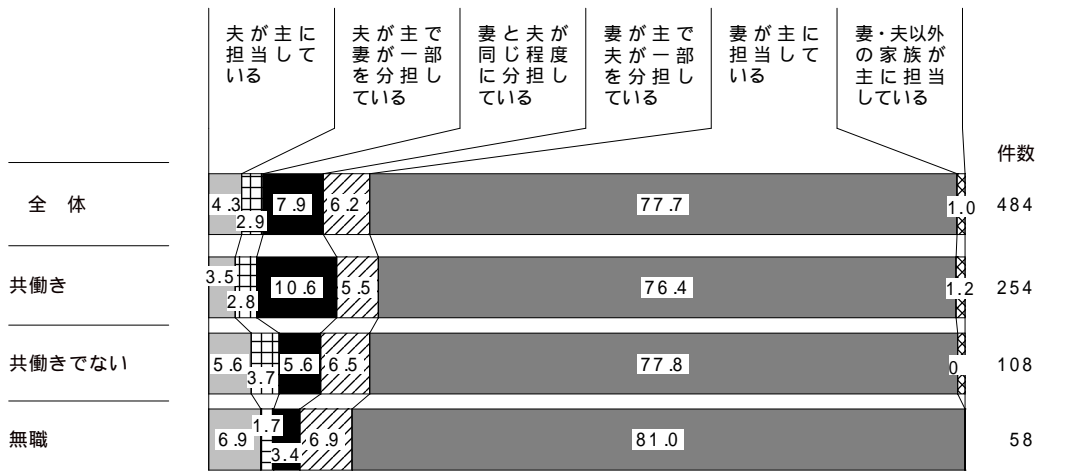
【問 26(9) 家庭での家事等の役割分担 日々の家計の管理】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、いずれも「妻が主に担当している」の回答率が75%を超えて最も高くなっている。

【問 26(9) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 日々の家計の管理】



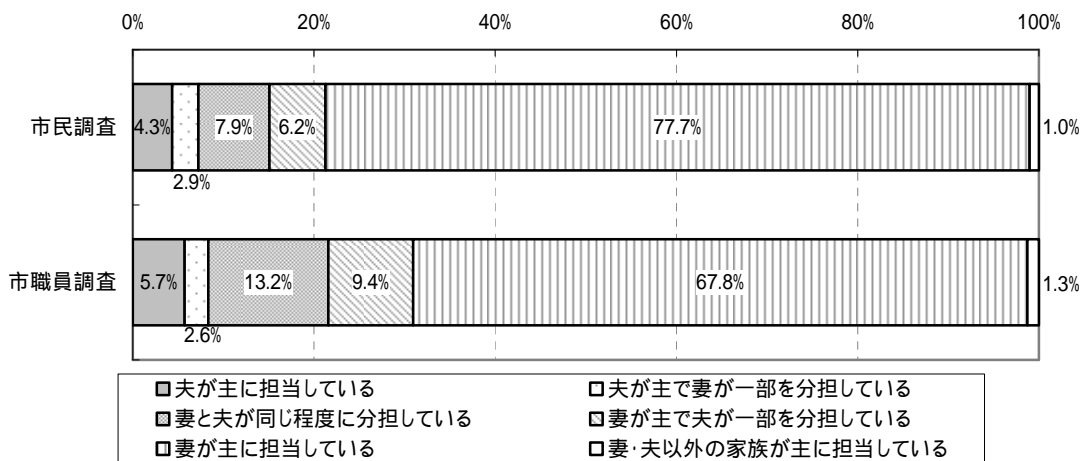
集計は無回答と「該当なし」を除く

【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「妻が主に担当している」が最も多く、市民で77.7%、市職員で67.8%と、大半の家庭で妻が主に担当していることがわかる。

一方で「妻と夫が同じ程度に分担している」の回答は市民では7.9%に対し、市職員では13.2%と2倍近くの割合を占めている。



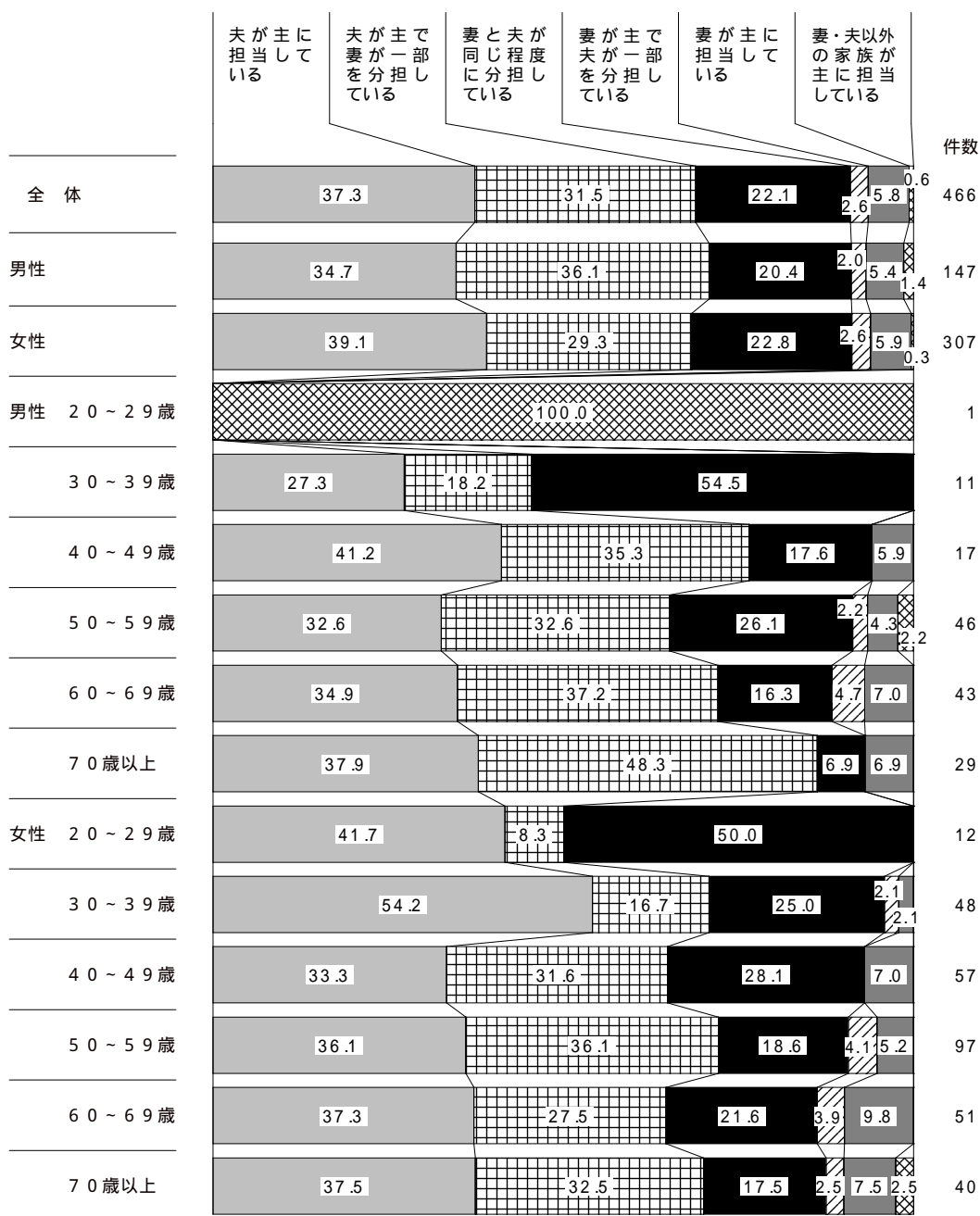
集計は無回答と「該当なし」を除く

(10) 生活費を稼ぐ

生活費を稼ぐについて、性別で見ると、「夫が主に担当している」が男性 34.7%、女性 39.1%、「夫が主で妻が一部を負担している」が男性 36.1%、女性 29.3%、「妻と夫が同じ程度に分担している」が男性 20.4%、女性 22.8%とあまり大きな違いはみられない。

性・年齢別で見ると、40代以上では男女とも「夫が主に担当している」「夫が主で妻が一部を担当している」という“夫が主”の回答率が高くなっている。30代の女性では、「夫が主に担当している」の回答率が50%を超え、他の年齢層に比べて高くなっている。また、30代の男性や20代の女性では「妻と夫が同じ程度に分担している」の回答率が高い傾向がある。

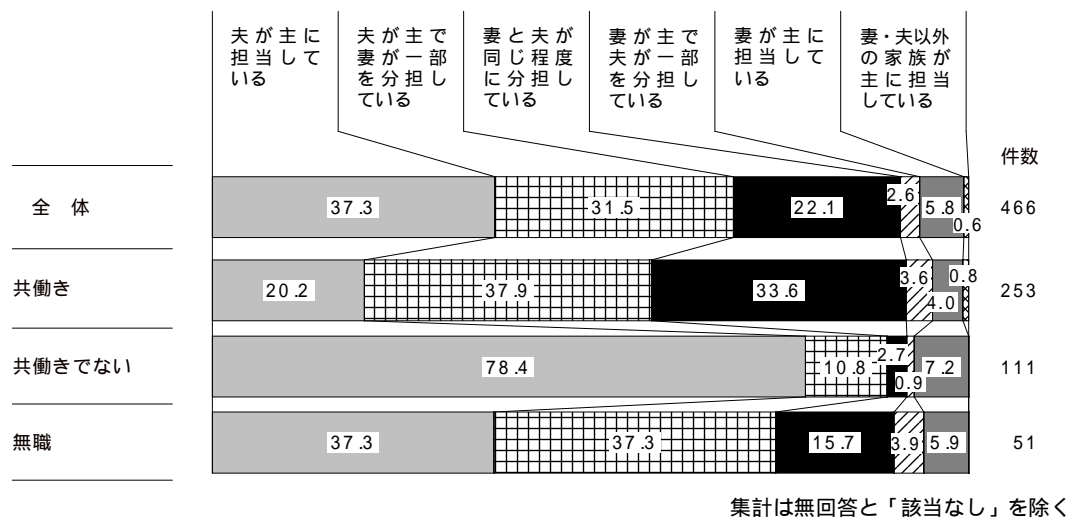
【問 26(10) 家庭での家事等の役割分担 生活費を稼ぐ】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、“共働き”では「夫が主で妻が一部を分担している」または「妻と夫が同じ程度に分担している」の回答率が高く、“共働きでない”場合は「夫が主に担当している」の回答率が高い。

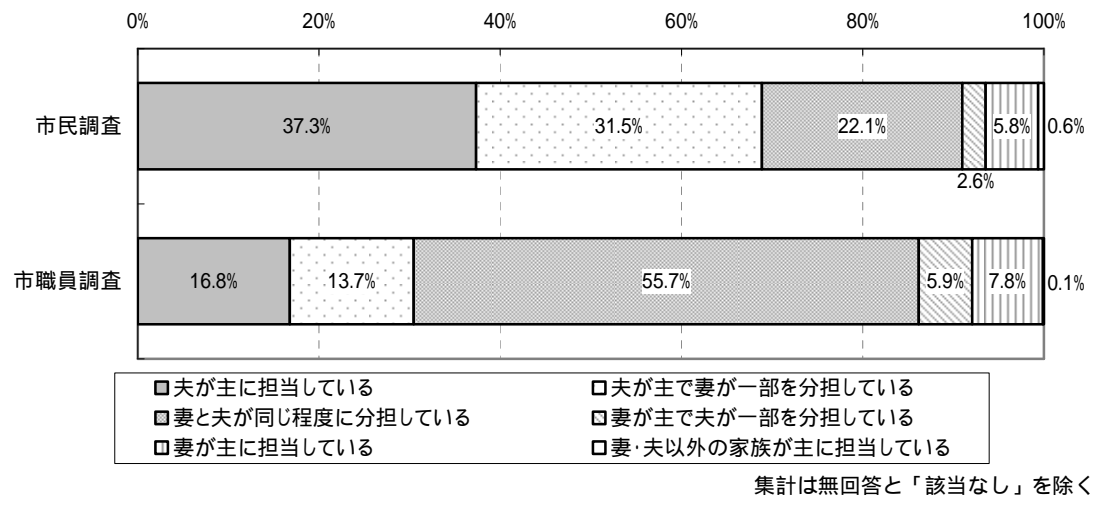
【問 26(10) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 生活費を稼ぐ】



【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、市民では「夫が主に担当している」が37.3%と最も多く、市職員の16.8%を20.5ポイント上回っている。市職員では「妻と夫が同じ程度に分担している」が55.7%と最も多く、市民の22.1%を32.6ポイント上回っている。

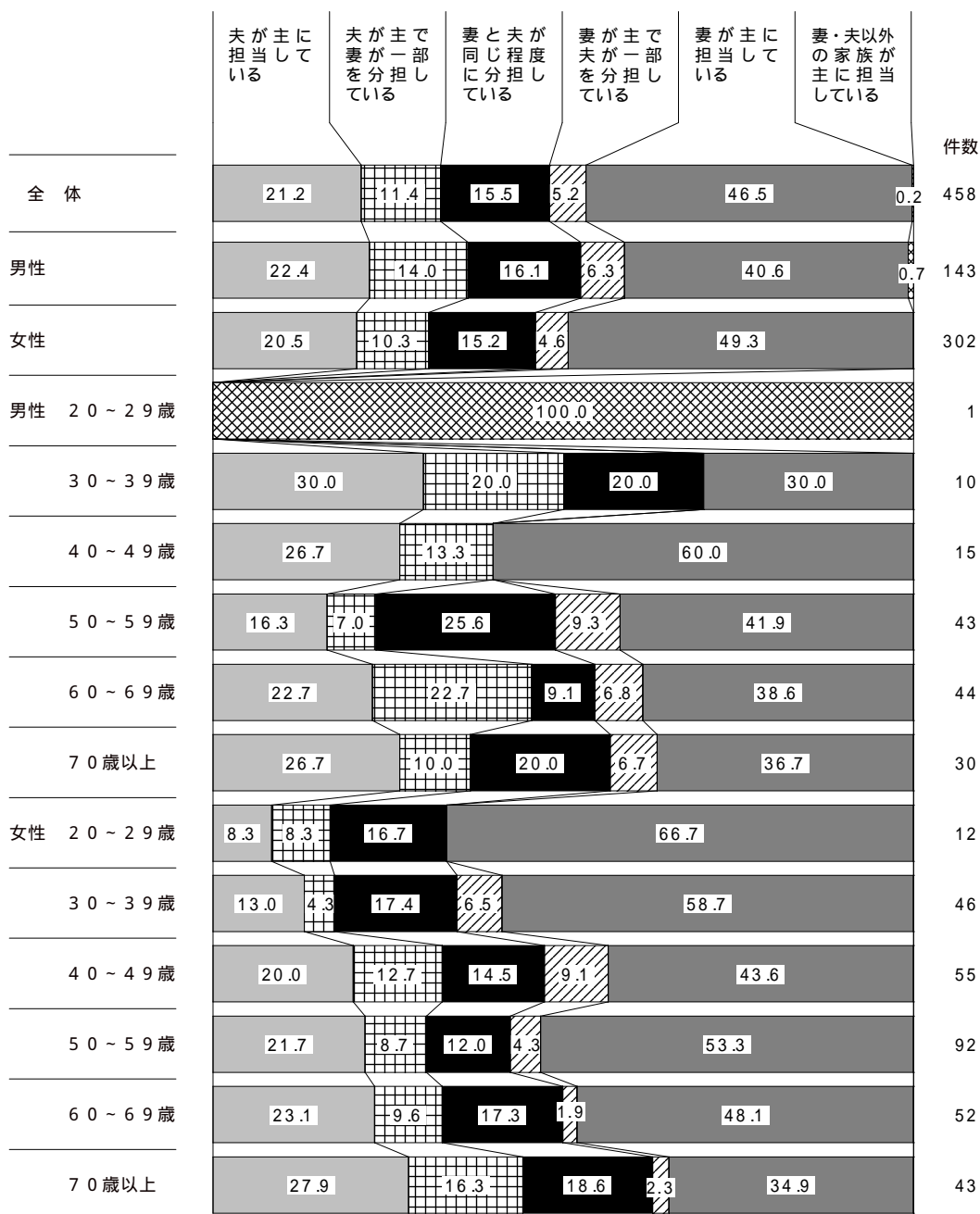


(11) 預貯金等の資産の運用

預貯金等の資産の運用について、性別で見ると、「夫が主に担当している」が男性22.4%、女性20.5%、「夫が主で妻が一部を分担している」男性14.0%、女性10.3%、「妻と夫が同じ程度に分担している」が男性16.1%、女性15.2%とあまり大きな違いはみられない。

性・年齢別で見ると、女性では、年齢が上がるにつれて「夫が主に担当している」の回答率が高くなる傾向がある。

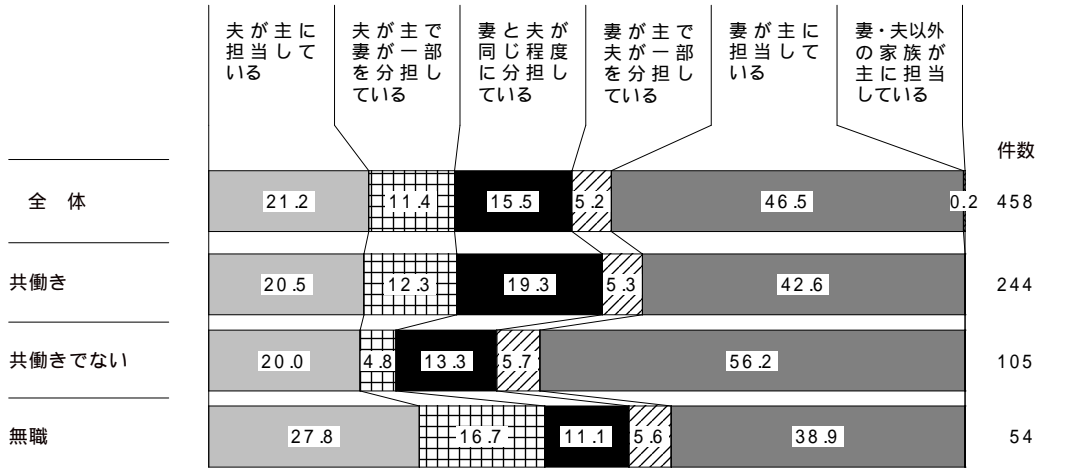
【問 26(11) 家庭での家事等の役割分担 預貯金等の資産の運用】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、「共働き」、「共働きでない」にかかわらず、「妻が主に担当している」の回答率が最も高くなっている。

【問 26(11) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 預貯金等の資産の運用】



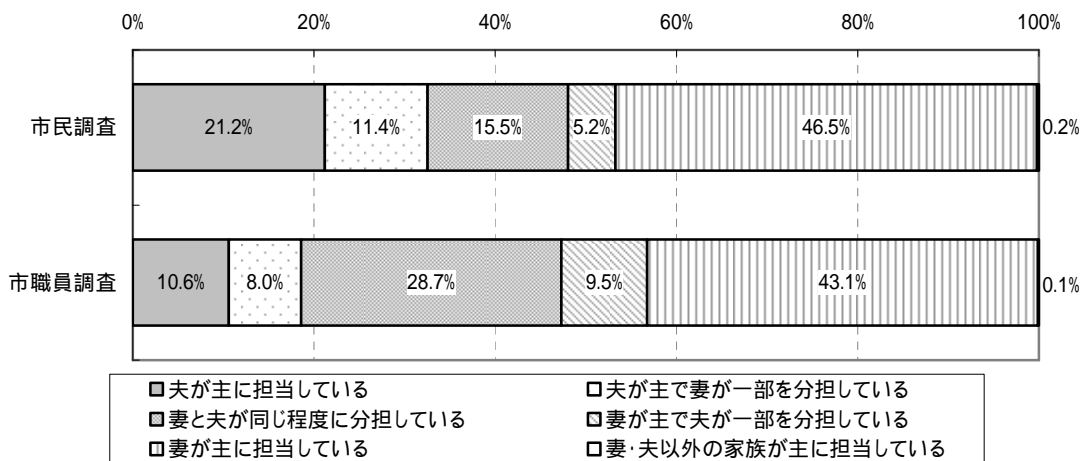
集計は無回答と「該当なし」を除く

【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「妻が主に担当している」が最も多く、市民で 46.5%、市職員で 43.1%と半数近くを占めている。

一方で「妻と夫が同じ程度に分担している」の回答は市民で 15.5%に対し、市職員では 28.7%と 2 倍近くの割合を占めている。



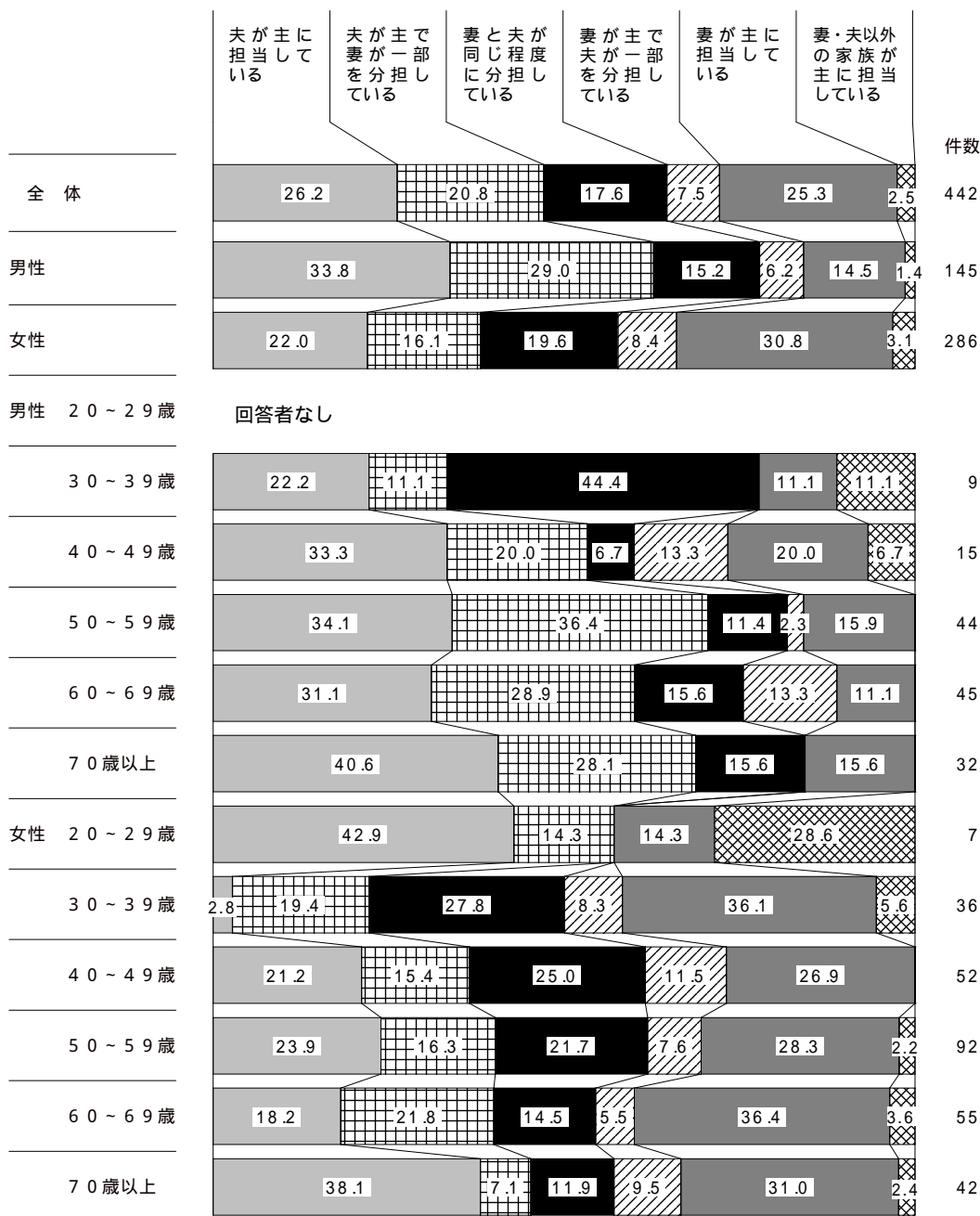
集計は無回答と「該当なし」を除く

(12) 町内会・自治会等地域活動

町内会・自治会等地域活動について、性別で見ると、「夫が主に担当している」が男性 33.8%、女性 22.0%、「妻が主に担当している」が男性 14.5%、女性 30.8%で男女による違いがみられる。

性・年齢別で見ると、男女とも年齢の高いほうが「夫が主に担当している」の回答率が高い傾向がある。また、30代以上では“夫が主”の回答率は男性の方が女性に比べて高くなっている。

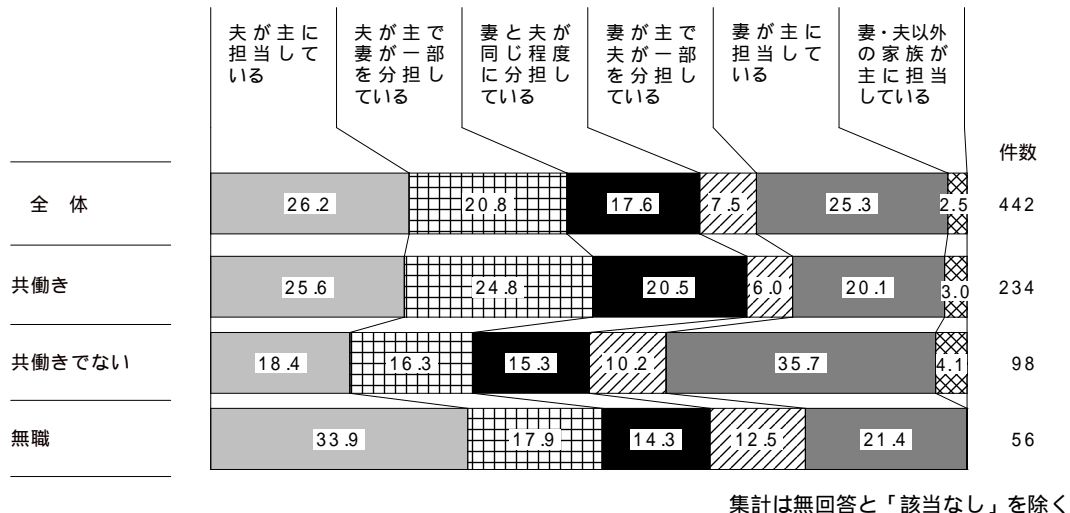
【問 26(12) 家庭での家事等の役割分担 町内会・自治会等地域活動】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、“共働き”や“無職”では、“夫が主”(「夫が主に担当している」と「夫が主で妻が一部を分担している」を合わせた割合)の回答率が約50%となっている。

【問 26(12) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 町内会・自治会等地域活動】



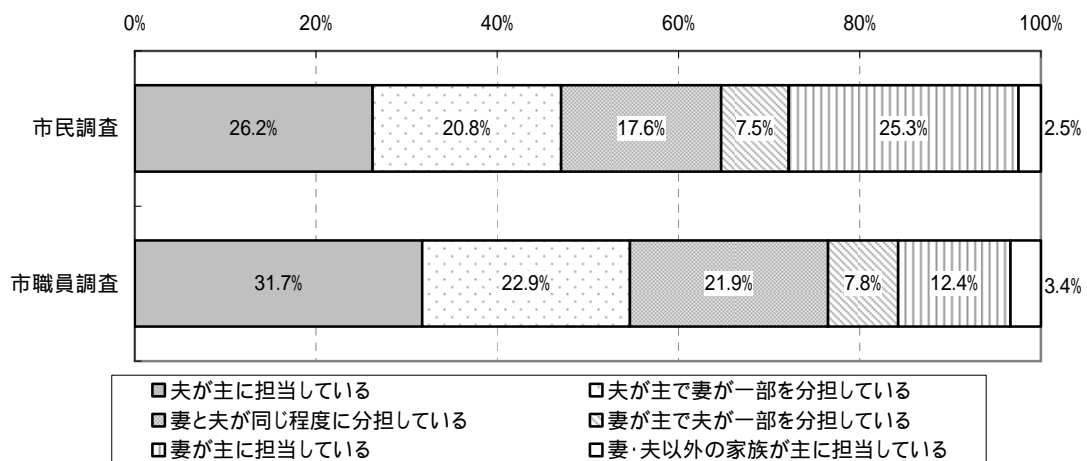
集計は無回答と「該当なし」を除く

【参考】

宇和島市職員調査 (H19.08 実施) 結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「夫が主に担当している」が最も多く、市民で 26.2%、市職員で 31.7%となっている。

一方で「妻が主に担当している」の回答は市職員で 12.4%に対し、市民では 25.3%と 2 倍以上の割合を占めている。

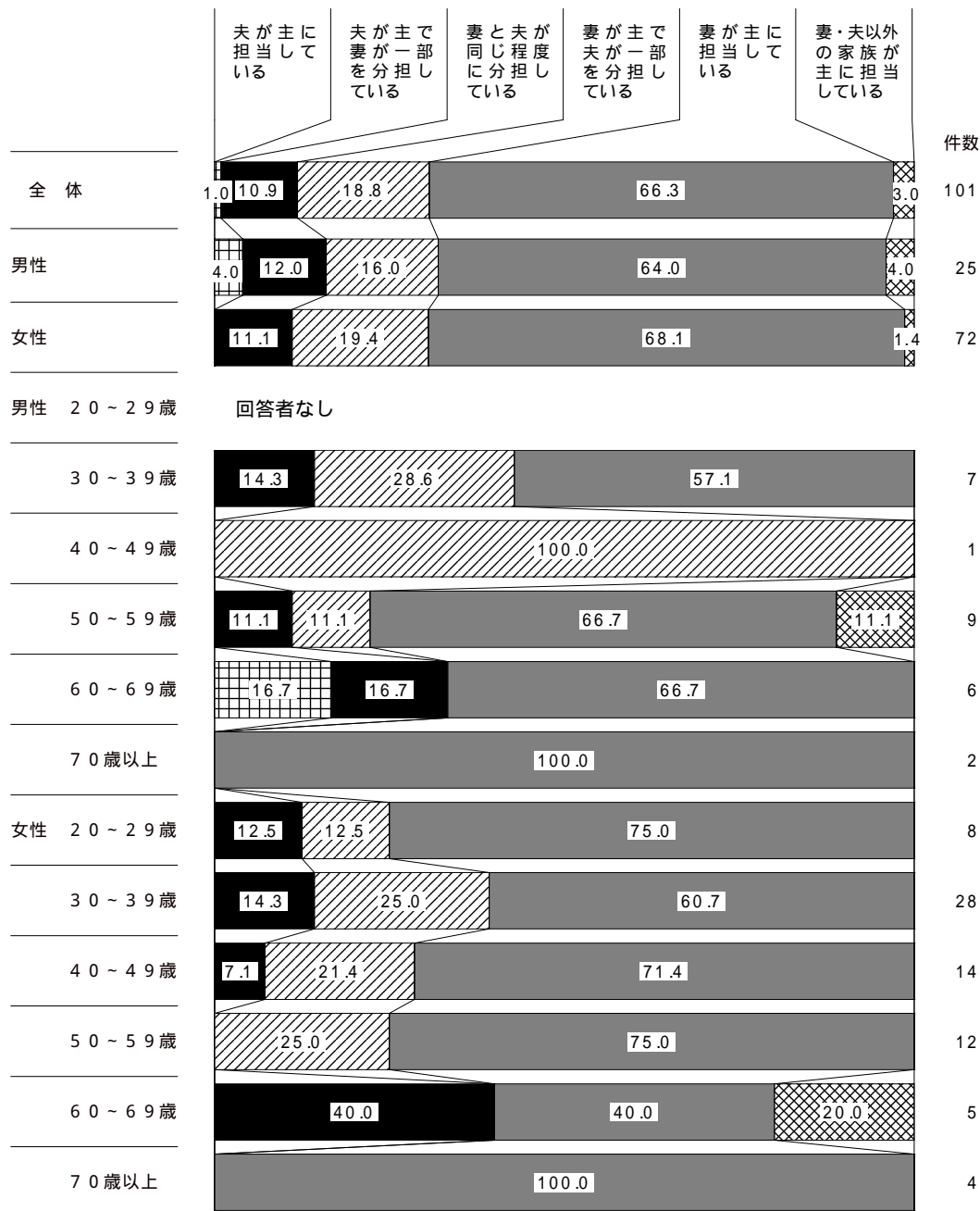


集計は無回答と「該当なし」を除く

(13) 乳幼児の世話（乳幼児のいる場合）

乳幼児の世話について、男女とも「妻が主に担当している」が60%を超えている。

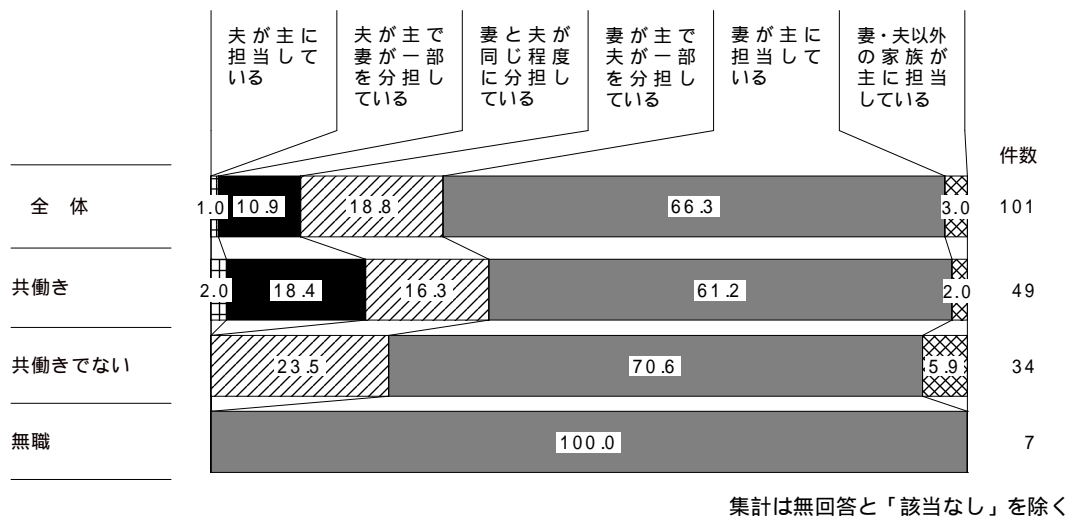
【問 26(13) 家庭での家事等の役割分担 乳幼児の世話（乳幼児のいる場合）】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、いずれも「妻が主に担当している」の回答率が高くなっている。

【問 26(13) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 乳幼児の世話（乳幼児のいる場合）】

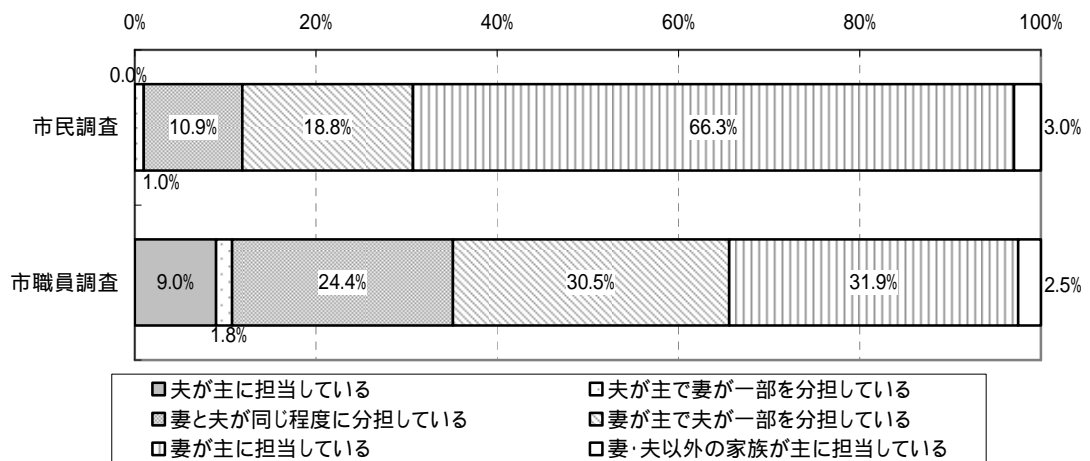


【参考】

宇和島市職員調査（H19.08 実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「妻が主に担当している」が最も多くなっているものの、市職員では 31.9% に対し市民では 66.3% と違いが大きい。「妻が主で夫が一部を分担している」を含めると市職員の 62.4% に対し、市民では 85.1% と大半の家庭で妻が主に担当していることがわかる。

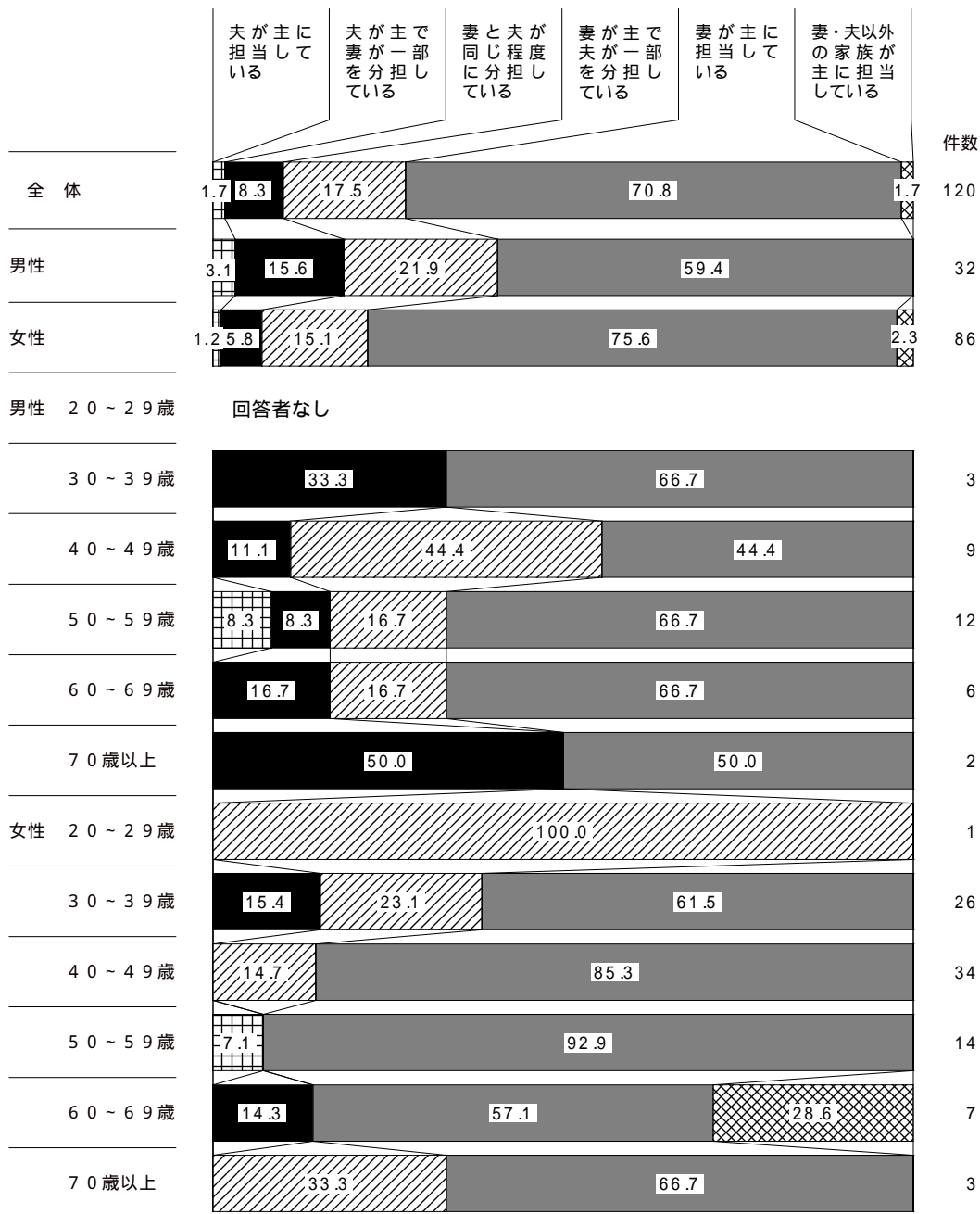
一方で「妻と夫が同じ程度に分担している」の回答は市民では 10.9% に対し、市職員では 24.4% と 2 倍以上の割合を占めている。



(14) 授業参観への参加（小中学生のいる場合）

授業参観への参加について、「妻が主に担当している」の回答率が男女とも最も高くなっている。

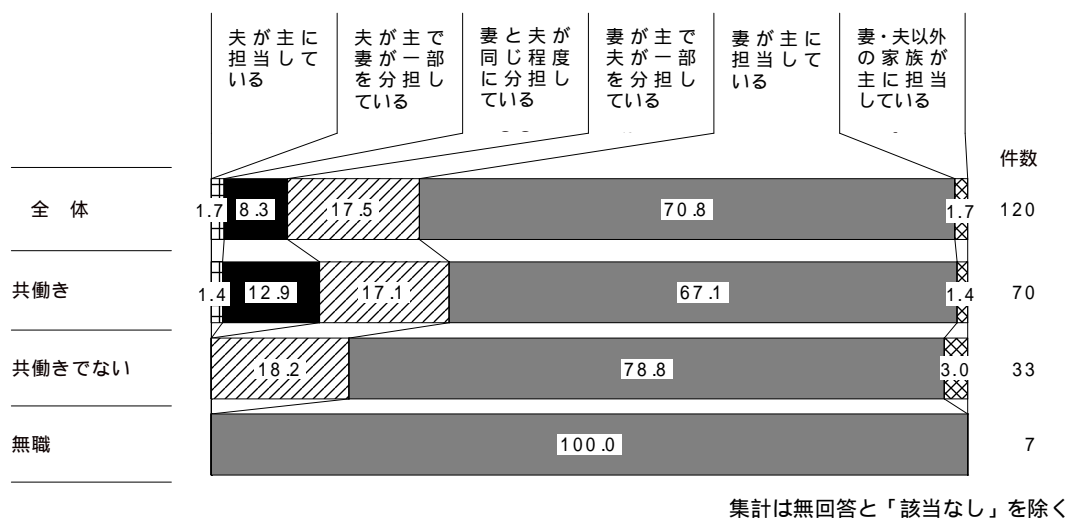
【問 26(14) 家庭での家事等の役割分担 授業参観への参加（小中学生のいる場合）】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、いずれも「妻が主に担当している」の回答率が高くなっている。

【問 26(14) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 授業参観への参加（小中学生のいる場合）】

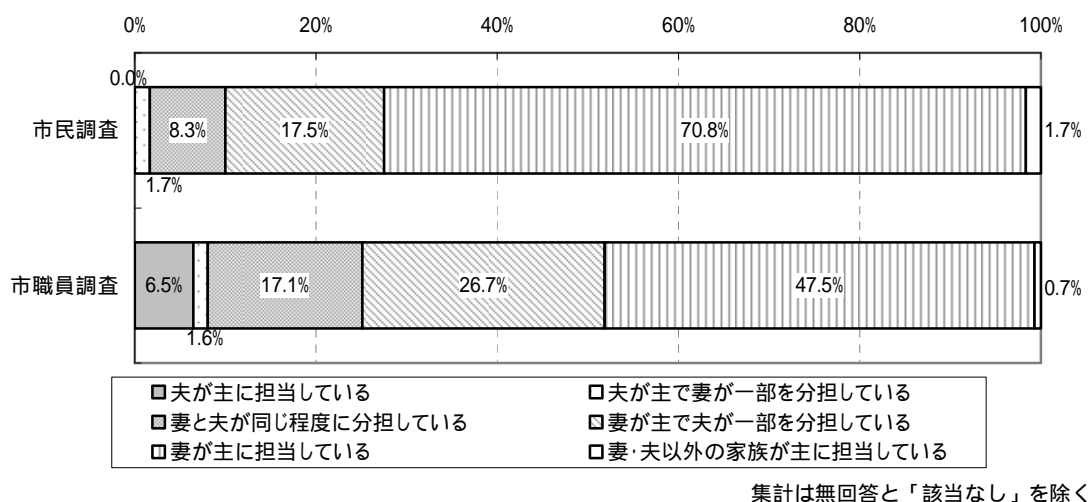


【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「妻が主に担当している」が最も多くなっているものの、市職員では47.5%に対し市民では70.8%と違いが大きい。しかし、「妻が主で夫が一部を分担している」を含めると市民では88.3%、市職員では74.2%と大半の家庭で妻が主に担当していることにはかわりない。

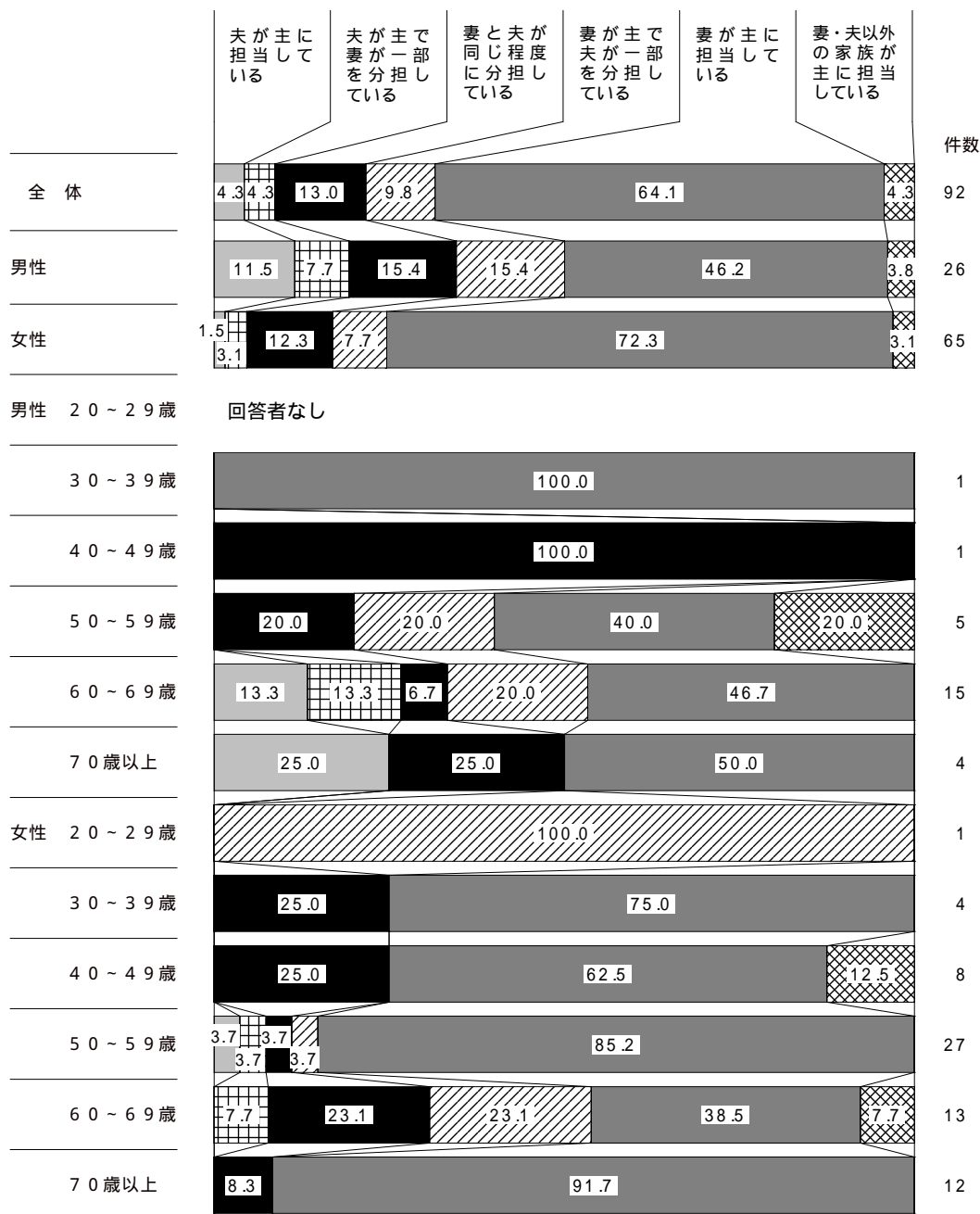
一方で「妻と夫が同じ程度に分担している」の回答は市民では8.3%に対し、市職員では17.1%と約2倍の割合を占めている。



(15) 家族の介護（要介護者のいる場合）

家族の介護について、男女とも「妻が主に担当している」の回答率が最も高くなっている。

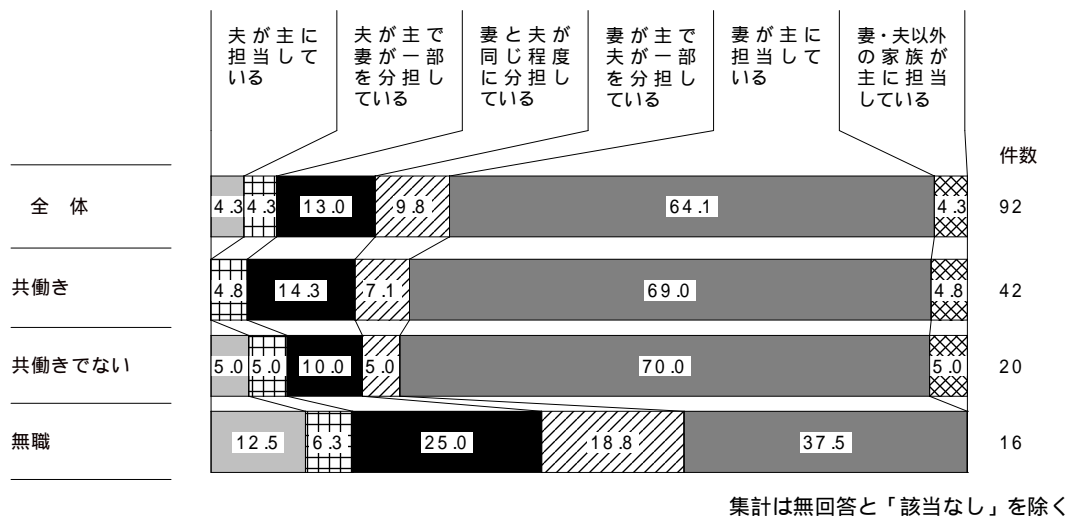
【問 26(15) 家庭での家事等の役割分担 家族の介護（要介護者のいる場合）】



集計は無回答と「該当なし」を除く

就労状況別でみると、いずれも「妻が主に担当している」の回答率が約70%となっている。

【問 26(15) 就労状況別 家庭での家事等の役割分担 家族の介護（要介護者のいる場合）】

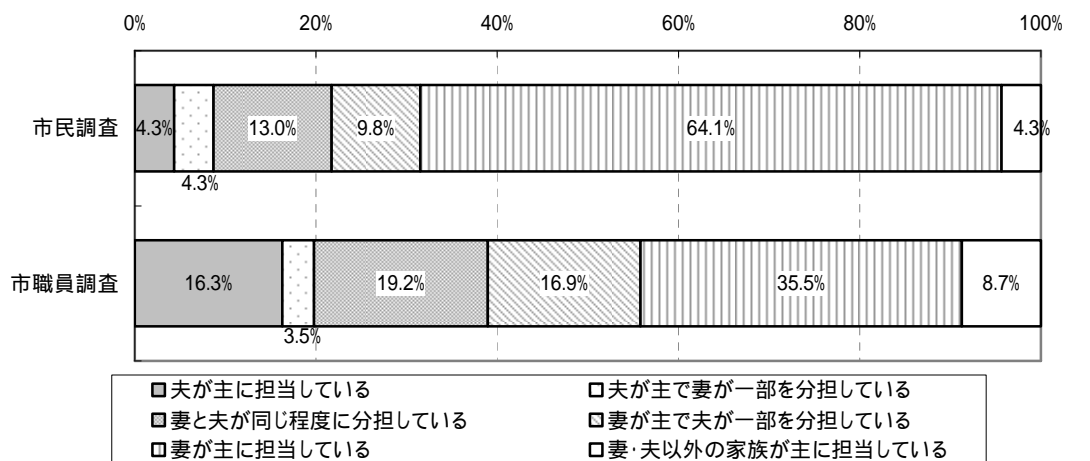


【参考】

宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「妻が主に担当している」が最も多くなっているものの、市職員では35.5%に対し市民では64.1%と違いが大きい。しかし、「妻が主で夫が一部を分担している」を含めると市民では73.9%、市職員で52.4%と大半の家庭で妻が主に担当していることにはかわりない。

一方で「夫が主に担当している」の回答は市民では4.3%に対し、市職員では16.3%と12.0ポイント上回っている。

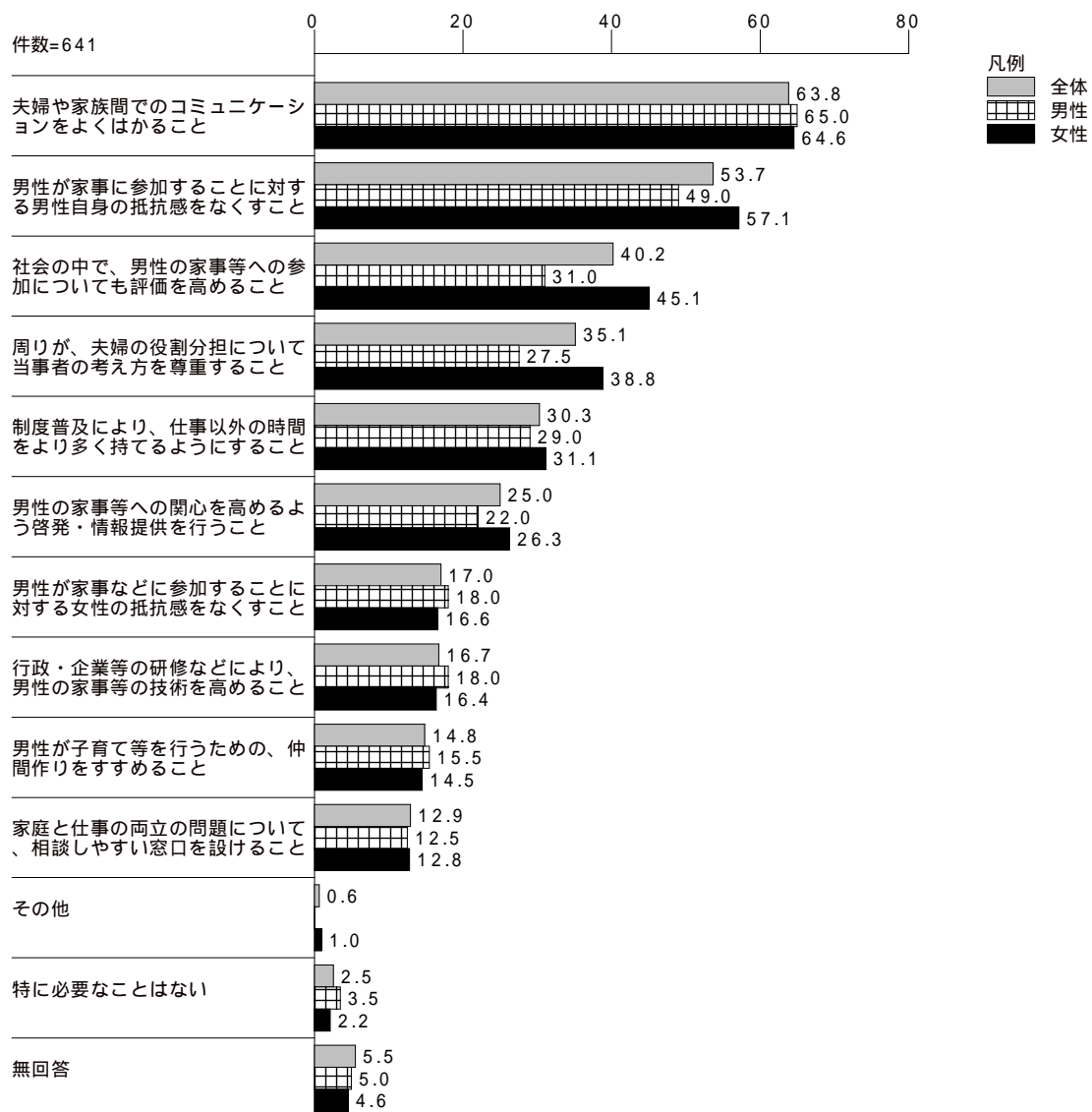


問 27 今後、男女が共に家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。 【はいくつでも】

男女が共に家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が63.8%で最も多く、次いで「男性が家事に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(53.7%)、「社会の中で、男性の家事等への参加についても評価を高めること」(40.2%)、「周りが、夫婦の役割分担について当事者の考え方を尊重すること」(35.1%)、「制度普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(30.3%)、「男性の家事等への関心を高めるよう啓発・情報提供を行うこと」(25.0%)の順となっている。

性別でみると、女性ではとくに「男性が家事に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」や「社会の中で、男性の家事等への参加についても評価を高めること」、「周りが、夫婦の役割分担について当事者の考え方を尊重すること」などで、男性の回答率を大きく上回っている。

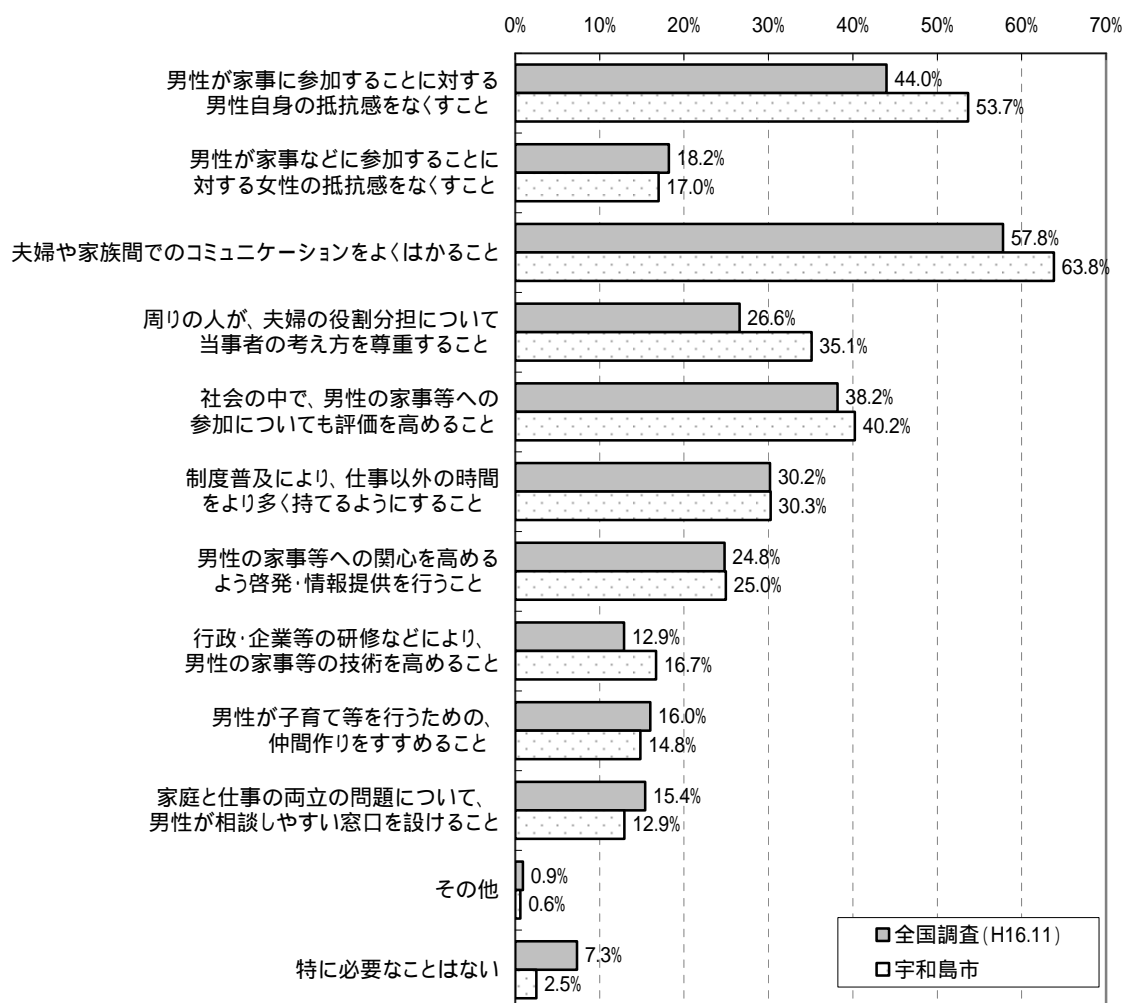
【問 27 男女が共に家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと】



【参考】

全国調査（H16.11実施）結果比較

全国調査結果と比較してみると、ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」（全国：57.8%、宇和島市：63.8%）が最も多く、次いで「男性が家事に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「社会の中で、男性の家事等への参加についても評価を高めること」などの回答が多くなっており、あまり大きな違いはみられない。



6. 男女共同参画社会の実現について

問 28 あなたは、宇和島市における市政に市民の意見が反映されていると思いますか。

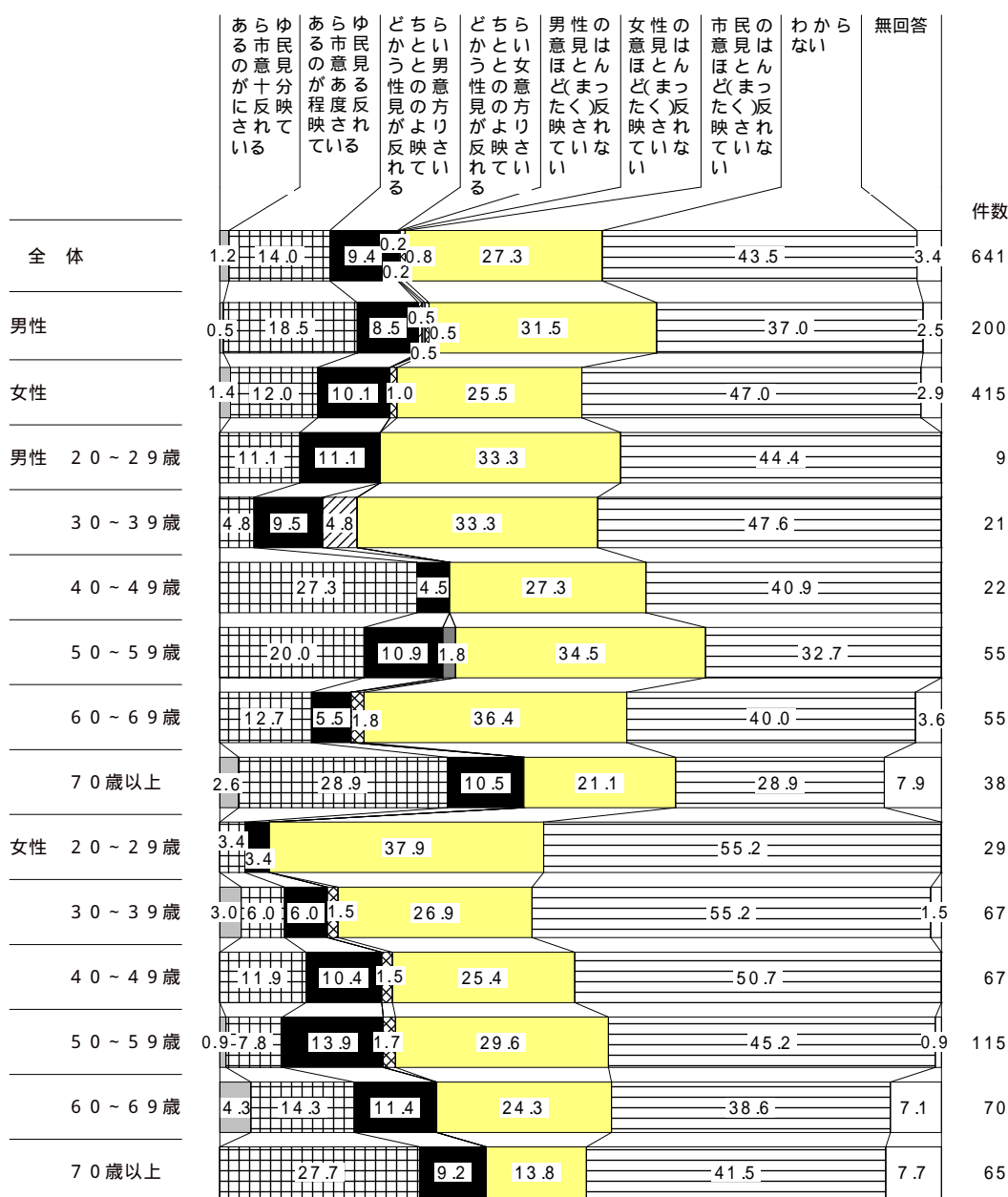
【 は1つ】

市政へ市民の意見が反映されているかについて、「市民の意見はほとんど(まったく)反映されていない」が 27.3%、「あらゆる市民の意見がある程度反映されている」が 14.0%、「どちらかというとな性の意見の方がより反映されている」が 9.4%となっている。「わからない」との回答が最も多く 40%を超えている。

性別で見ると、回答の傾向にあまり大きな違いはみられない。

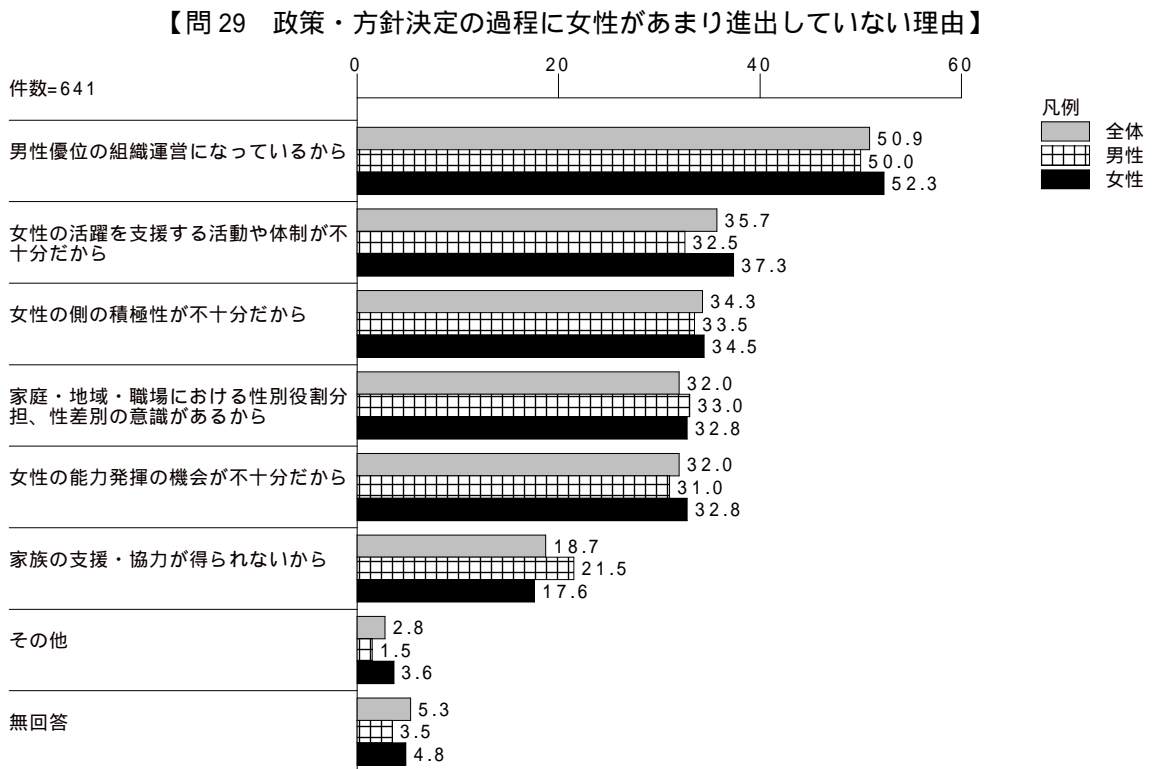
性・年齢別で見ると、40代、50代の男性と70代では、「あらゆる市民の意見がある程度反映されている」の回答率が20%を超え、他の年齢層に比べて高くなっている。また、50代の男性を除き「わからない」との回答率が最も高くなっている。

【問 28 市民意見の反映】



問 29 あなたは、宇和島市において、政策・方針決定の過程に女性があまり進出していない理由は何だと思いませんか。 【 は3つ以内】

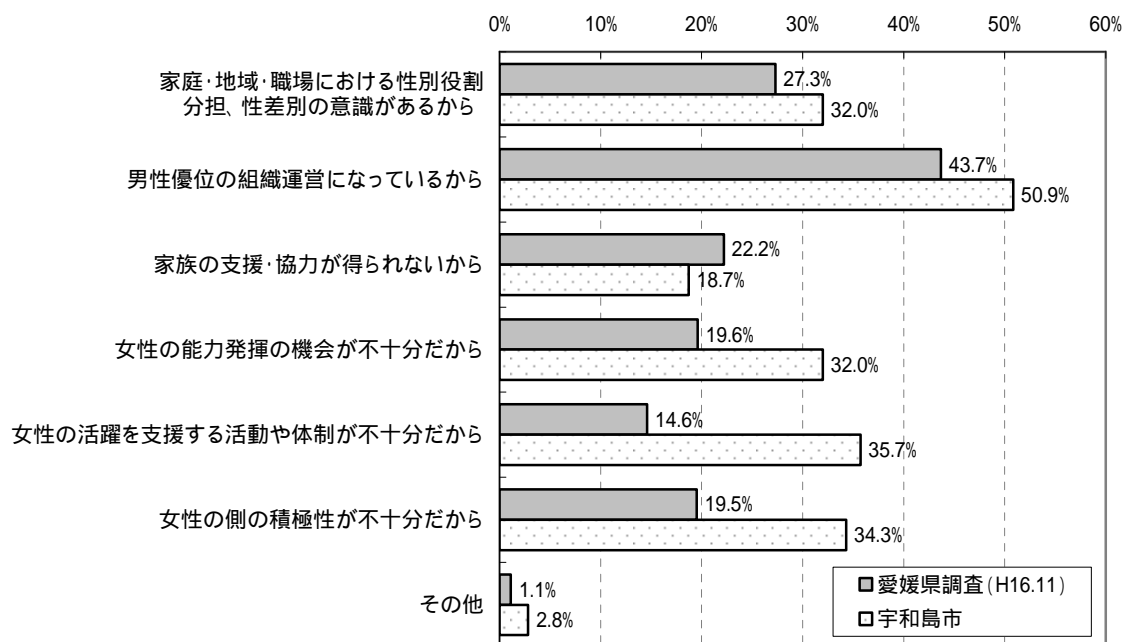
政策・方針決定の過程に女性があまり進出していない理由について、「男性優位の組織運営になっているから」が50.9%で最も多く、次いで「女性の活躍を支援する活動や体制が不十分だから」(35.7%)、「女性の側の積極性が不十分だから」(34.3%)、「家庭・地域・職場における性別役割分担、性差別の意識があるから」(32.0%)、「女性の能力発揮の機会が不十分だから」(32.0%)、「家族の支援・協力が得られないから」(18.7%)の順となっている。



【参考】

愛媛県調査（H16.11実施）結果比較

愛媛県調査結果と比較してみると、ともに「男性優位の組織運営になっているから」（愛媛県：43.7%、宇和島市：50.9%）が最も多くなっている。次いで、愛媛県では「家庭・地域・職場における性別役割分担、性差別の意識があるから」が多いのに対し、宇和島市では「女性の活躍を支援する活動や体制が不十分だから」が多くなっている。



問 30 男女の人権が尊重され、男女が対等なパートナーとして責任を分かち合い、個性や能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」を実現していくために、あなたは、国や市などの行政が今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。【 は3つ以内】

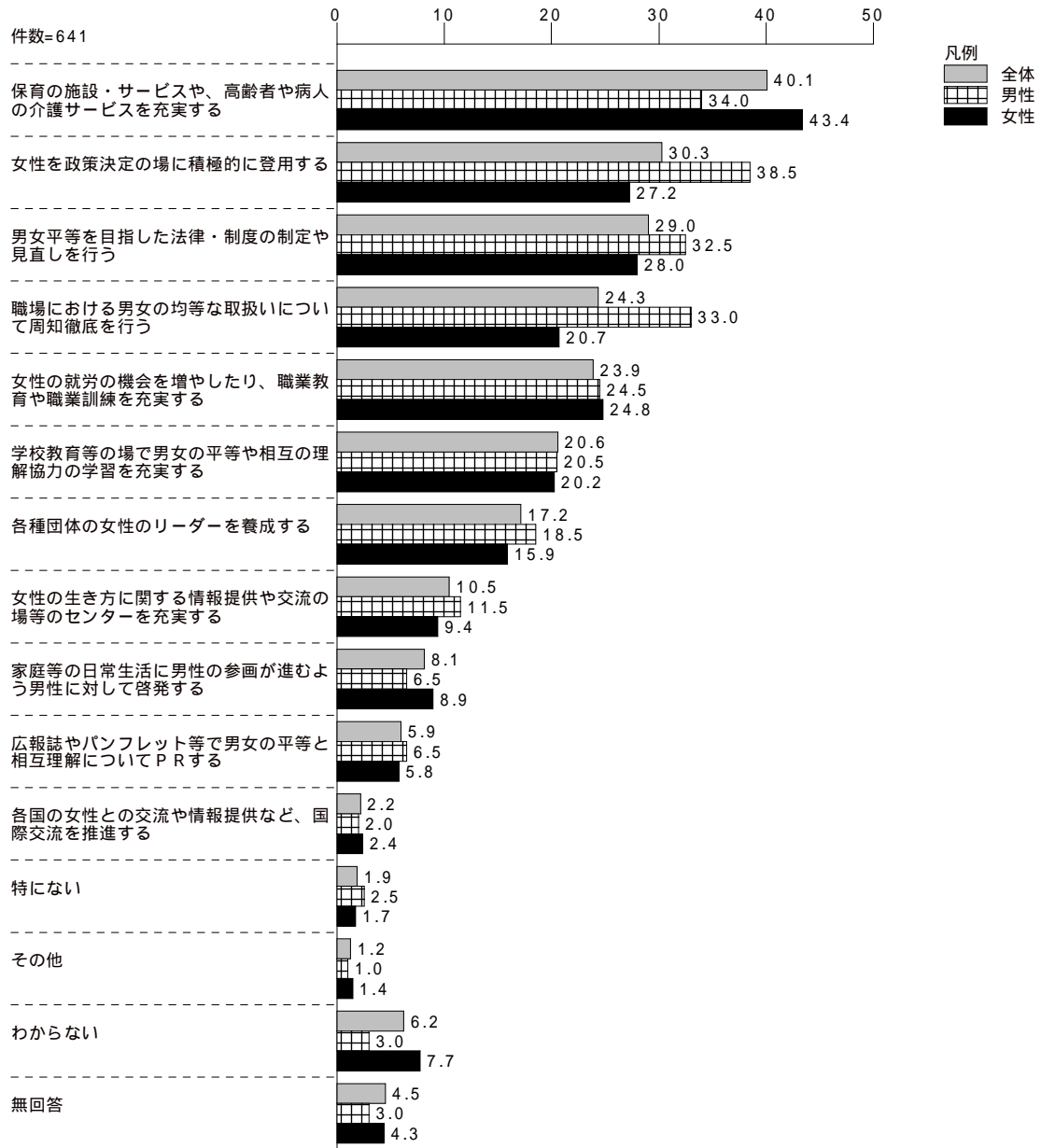
「男女共同参画社会」を実現していくために行政が今後力を入れていくべきことについて、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する」が40.1%で最も多く、次いで「女性を政策決定の場に積極的に登用する」(30.3%)、「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」(29.0%)、「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う」(24.3%)、「女性の就労の機会を増やしたり、職業教育や職業訓練を充実する」(23.9%)、「学校教育等の場で男女の平等や相互の理解協力の学習を充実する」(20.6%)の順となっている。

性別でみると、男性ではとくに「女性を政策決定の場に積極的に登用する」(男性：38.5% 女性：27.2%)や「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う」(男性：33.0% 女性：20.7%)が女性の回答率を上回っている。また、女性では「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する」の回答率が43.4%で男性(34.0%)に比べて高くなっている。

性・年齢別でみると、女性ではすべての年齢層で「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する」の回答率が最も高くなっている。また、40代から60代の女性では「女性の就労の機会を増やしたり、職業教育や職業訓練を充実する」も回答率が高い。

男性では50代以上で「女性を政策決定の場に積極的に登用する」の回答率が高く、30代や40代、70歳以上では女性と同様に「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する」の回答率が高くなっている。

【問 30 国や市などの行政が今後どのようなことに力を入れていくべきか】



【問 30 性・年齢別 国や市などの行政が今後どのようなことに力を入れていくべきか】

区 分	1 番目に回答が多かったもの	2 番目	3 番目
男性 20～29 歳 (N=9)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う(44.4%) 女性を政策決定の場に積極的に登用する(44.4%)		女性の就労の機会を増やしたり、職業教育や職業訓練を充実する(33.3%)
30～39 歳 (N=21)	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う(42.9%)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する(38.1%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う(33.3%)
40～49 歳 (N=22)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する(45.5%)	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う(36.4%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う(31.8%)
50～59 歳 (N=55)	女性を政策決定の場に積極的に登用する(40.0%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う(36.4%)	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う(34.5%)
60～69 歳 (N=55)	女性を政策決定の場に積極的に登用する(38.2%)	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う(34.5%)	学校教育等の場で男女の平等や相互の理解協力の学習を充実する(32.7%)
70 歳以上 (N=38)	女性を政策決定の場に積極的に登用する(52.6%)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する(36.8%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う(28.9%)
女性 20～29 歳 (N=29)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する(51.7%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う(41.4%)	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う(34.5%)
30～39 歳 (N=67)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する(41.8%)	女性を政策決定の場に積極的に登用する(31.3%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う(29.9%)
40～49 歳 (N=67)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する(47.8%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う(34.3%)	女性の就労の機会を増やしたり、職業教育や職業訓練を充実する(26.9%)
50～59 歳 (N=115)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する(44.3%)	女性を政策決定の場に積極的に登用する(27.8%)	女性の就労の機会を増やしたり、職業教育や職業訓練を充実する(27.0%)
60～69 歳 (N=70)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する(41.4%)	女性の就労の機会を増やしたり、職業教育や職業訓練を充実する(31.4%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う(27.1%)
70 歳以上 (N=65)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する(38.5%)	女性を政策決定の場に積極的に登用する(32.3%)	各種団体の女性のリーダーを養成する(21.5%)

就労状況別でも、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する」の回答率が最も高くなっている。“共働きでない” 場合には、「女性の就労の機会を増やしたり、職業教育や職業訓練を充実する」の回答が3番目に多くなっている。

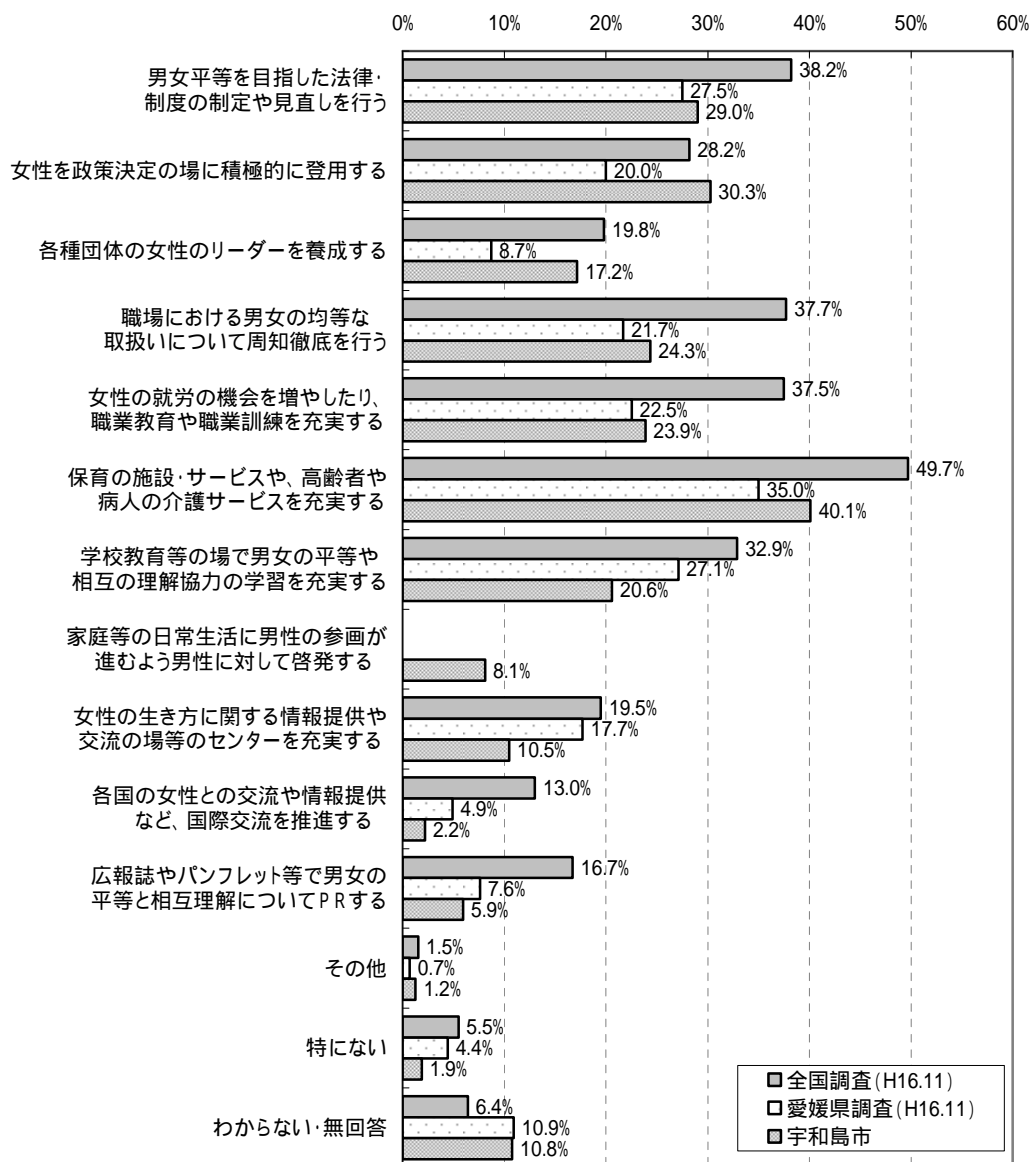
【問 30 就労状況別 国や市などの行政が今後どのようなことに力を入れていくべきか】

区 分	1 番目に回答が多かったもの	2 番目	3 番目
共働き (N=254)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する(40.2%)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う(28.3%)	女性を政策決定の場に積極的に登用する(28.0%)
共働きでない (N=107)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する(43.0%)	女性を政策決定の場に積極的に登用する(30.8%)	女性の就労の機会を増やしたり、職業教育や職業訓練を充実する(29.9%)
無 職 (N=54)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する(48.1%) 女性を政策決定の場に積極的に登用する(48.1%)		男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う(37.0%)

【参考】

全国調査（H16.11実施）および愛媛県調査（H16.11実施）結果比較

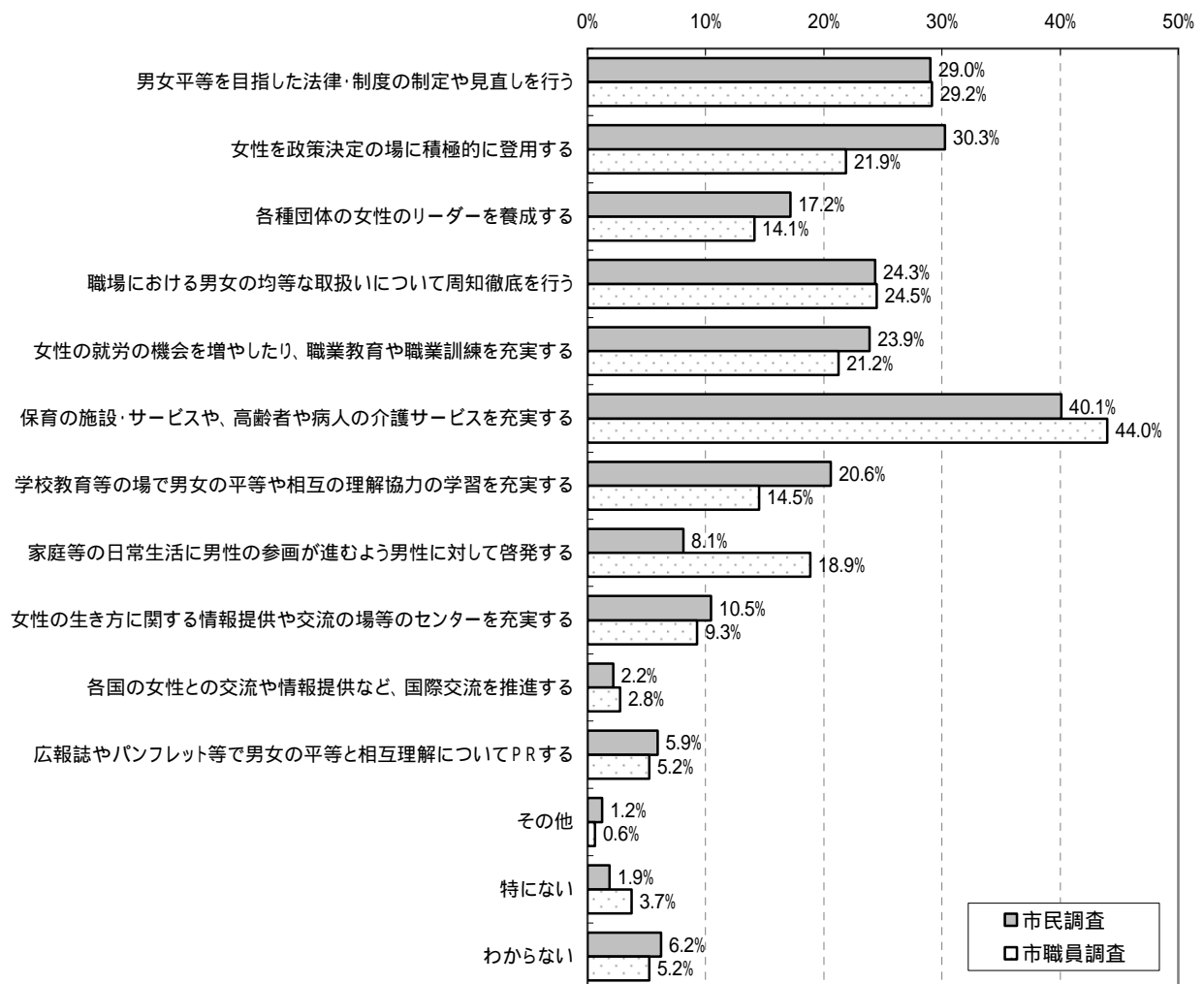
全国調査および愛媛県調査結果と比較してみると、ともに「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する」（全国：49.7%、愛媛県：35.0%、宇和島市：40.1%）が最も多くなっている。次いで、全国および愛媛県では「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」が多いのに対し、宇和島市では「女性を政策決定の場に積極的に登用する」が多くなっている。



宇和島市職員調査（H19.08実施）結果比較

市職員調査結果と比較してみると、ともに「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護サービスを充実する」(市民：40.1%、市職員：44.0%)が最も多くなっている。

「女性を政策決定の場に積極的に登用する」の回答が市職員で21.9%に対し、市民では30.3%と突出して回答率が高くなっている。反対に、「家庭等の日常生活に男性の参画が進むよう男性に対して啓発する」の回答が市民で8.1%に対して、市職員では18.9%と2倍以上の割合を占める結果となっている。



宇和島市男女共同参画社会に関する市民アンケート調査 自由意見とりまとめ

男女平等意識について

- ・ 男女平等とか色々ありますが、それぞれにできる事とできない事があるので、お互い協力しながら考えるようにすれば良いかと思われます。..... (女性/30 歳代)
- ・ 肩肘はって、男女共同をする必要はないのではと思います。それぞれができること、得意分野を活かし助け合い、より良い社会になるよう協力しあえるのが望ましいと思います。..... (女性/40 歳代)
- ・ 結構、男女共同参画型の社会に近づいているとは思っている。しかし、まだまだ先進国と比べると遅れていると思えるので、努力していきたい。..... (男性/20 歳代)
- ・ 男・女で適材適所があって良いと思う。参画を称え、家庭をにおいて働く女性のもとでどれだけ情のある子孫が育つのだろうかと考えてしまう。やはり女の持つ感性を生かした子育てを、心豊かな子育てをして欲しい。確かにOLは社会での活躍の場が限られていると感じる。宇和島市(都心でさえ)なら、なおのこと。それぞれの立場、男・女、夫・妻で理解しあい、思い合い、助け合って社会づくり国づくりはいかなもののでしょうか。ギスギス社会は今後、子ども達に継承されることになりかねません。何よりも、日本女性の良い姿(男性の男らしさと)は残したいと願います。..... (女性/40 歳代)
- ・ まだまだ知らない人が多いので、浸透させなくては!! (男性/50 歳代)
- ・ 男女は同権であっても同質ではないということをお互い協力し合っていけば良い。なお、男女の別なくそれぞれの個性、能力は尊重すべきだと思う。男のくせに、女のくせにという言葉が死語になるのが望ましい。..... (女性/70 歳以上)
- ・ 仕事で警察署にいった事があります。新人の警察官だったと思いますが、私にはかなり態度が悪かった。私の前に男性がいましたが、その方にはそうでもないように見えた。私が女性だからでしょうか?女性なのだから女性らしくとよく言われます。やめて欲しいと思う。個人として認めて欲しい。..... (女性/20 歳代)
- ・ 法律では男女平等といわれていますが、日本ではまだまだ意識がうすいです。特に男は古い考えだ!例えば一組の夫婦でも、一人の人間としてみない。女性が職場で仕事をする環境が増えているものの、女は誰の奥さんとしか見てもらえないのが現実(田舎ではそれが当たり前)だと思います。..... (男性/50 歳代)
- ・ 男女共同参画は当たり前、人として人間、人間として男・女は平等でなければならない。日々、社会的善をしてはじめて人、どの人生すばらしいものでなければならない。今後、日本国は多いにかかわってくると思う。犯罪は男・女とも真っ赤な赤恥。犯罪をせず、地域の子どもたちとともにコンタクトをとり、大いなる前進をすべき時がすでにきている。子どもは大人、なぜなら犯罪をあまり起こさない。大人は恥すべきである。今後の市政も男女共同参画その上に子どもも政治に関心をもっているならば、こういったものよりも分かりやすい質問にて子どもに問い、大いなる市政の繁栄に向けて前進すべきだと私は思う。過去の問題点、戦争はすべきでない。専守防衛のみだ。子どもたちの今後の未来展望に向けたこういった書類は今後も多めに市民のみなさまに情報として収集すべきだ。現在何が足りないか、子どもも交えて家庭内で家族会議を開き、大いに語り合い、家庭内で理解しあい、今後の宇和島市、市政に大いに反映すべきだと心から思います。..... (男性/50 歳代)

- ・理想と現実とは誰もが感じていると思うが、大変な思いをしても理想に近づけることは困難なことが多い。理想に近づけるように男女がお互いに努力しなければいけないが、物事には必ずといって良いほど、男性向な事柄・女性向な事柄があると思います。だから、何から何までというのはどうですかね？また、日本古来の男性社会にも良い所は多くあると思います。.....
.....(男性/60歳代)
- ・性別で区別されるのではなく、人間として持っている能力は認められるべきである。.....
.....(女性/30歳代)
- ・男女共同参画社会という言葉が使われだして久しいですが、まだまだ女性が活躍している場所は少ないように思います。寿退社、女性は結婚と同時に職を退き家庭に入ってしまう。それが大半だと思う。それゆえに、自分のやりたい事、自身の夢等も叶えにくいのが現実の姿ではないでしょうか。もちろん中には、何割かの人は自分の選んだ道を誇らしげに歩んでいる人もいますが、個性・能力を存分に発揮できる場、いや社会はまだまだ確立の域には達していないのではないのでしょうか。まだまだ偏見的なまなざし、言動を目にする機会が多々にあるようです。男だから、女だから・・・今の世の中この言葉は必要ないと思います。男がいて女がいる、女がいて男がいる。この世の中は男と女、共同参画社会、大いに結構な事ではないでしょうか。絆・繋がり・和、今の世の中に乏しいもののように思います。自分の選んだ道を笑顔で媚びることなく堂々と歩む人生、その扉を開く道筋を引く事こそが、今我々、いや生きている者への課題だと思います。.....(男性/50歳代)

家庭生活について

- ・男女の平等と言いつつも、根本的に男女には肉体的・精神的に違いがある。そこを十分踏まえた上で、論議されなければならないと常日頃考えている。福祉の面から一つ疑問に思っていることがある。母子家庭への支援はよく行われているようだが、現在、父子家庭への支援はどのようになっているのだろうか？男＝仕事という理念があって、子育てに苦慮し、支援も薄く、苦労している人もいるのではと思うときがある。私自身は女性であるが、女性の立場から社会を見て「女」であることにあぐらをかいていることも事実感じることがある。男の特性、女の特性それぞれを十分発揮し、お互いに支えあえるのが男女共同参画と思う。...(女性/50歳代)
- ・宇和島市はまだまだ保守的で男女が同じ舞台でというわけにはいかないようですが、まずは家庭内での地位、たとえ専業主婦であっても人権は尊重し対等な立場で生活して欲しいと思います。女性だから家事をするというのではなく、外で働いていないから家事ができるという考えで、共働きであれば両方ができることをして助け合う。職場に置いては、まだまだ男性優位のところが多いと思われます。男であれ女であれそれぞれの個性を活かし、能力を発揮し、また責任は分かち合う姿勢で臨んで欲しいと思います。市政については審議会等の委員に女性の登用を増やしてはいかがでしょう。.....(女性/50歳代)
- ・仕事内容は男女で違いがあるが、一日働いて帰ってきてからの女性の仕事はかなりある。ゴミ捨てや子ども達の宿題をみる等、少しでも良いので習慣付けてもらいたいと思う。当たり前前に女性がするという考え方の人が多いから、離婚率も上がるのだと思う。男の人も家族のために働いて給料は稼いでいるのだからという考えだけでなく、家での自分ができる役割をもっと考えて、参加してくれたら女性のイライラも減少するのではないかと思う。.....(女性/30歳代)

- ・人それぞれ考え方は異なるものだと思います。私自身は、もし自分の家庭を築くとしたらなるべく家族のために家事・子育て中心の生活をしたいと思っています。だからといって、『主婦だから社会活動に参加できない』という事だと問題だと思いますし、理解（主婦も立派なお仕事だ！と思うこと）も必要です。『男女によって』というよりも、『人それぞれ』合った仕事のできる社会というものが必要なのではないのでしょうか？女性だって仕事をバリバリこなしたい。男性だって家族のために主夫をしたい。互いのパートナーを見付け、それを理解できる社会ができると一番理想的と言えるのではないのでしょうか。生活する上で、共働きをしなければならぬ家庭もあるでしょう。まずは働きやすい職場環境と社会福祉の充実を図っていただきたいものです。それによって、子どもも安心して育てて（育て）ゆけるのではないのでしょうか。.....（女性/20歳代）
- ・女性を社会へ進出させることはとても理想的である。平等がどのようなことを意図するのか？個人個人の特性を活かせることが平等ということになると思う。子どものいる女性が我が子を他人に預けてまで仕事する必要は無い。子どもにとって母親がいかに大切であるか考えるべきだ。子どもが親の手を必要としなくなった後、女性がどんどん社会へ出て欲しい。収入のある仕事だけが立派なのか。家事の価値をもっと知ってほしい。男性・女性とも、男性を仕事に送り出す思いやりも必要である。収入の無い主婦でも堂々と生きていきたいものだ。我が夫はただ今求職中であるが、仕事が無い。求人がないのだ。働かなくてはならないのに、宇和島では働けないのであろうか。.....（女性/50歳代）
- ・今の時代、私が結婚したときから38年経っていますが、家庭においても主人が協力してくれて、現在は主人が退職を迎えて私（妻）が働いていますが、主夫をしてきていますし、買い物も行ってくれ、ゴミ出しも少し協力してくれ、随分時代の流れ、マスコミ（テレビ等）等の影響もあり、男女共同参画社会は浸透してきていると思います。若い世代がもっともっと子育てや、仕事ができる社会になっていくことを希望いたしております。.....（女性/60歳代）
- ・私は農家に嫁ぎ仕事に明け暮れ、子どもは後で、あまり手をかけない時代でしたので大変でした。あれこれ色々やってのけることで、身体はぼろぼろでした。だからこそ、男女共同参画、夫婦の役割分担が必要です。でも、明治生まれの義父母があつてこそ、色々学ばせてもらったことに対しては感謝しています。.....（女性/70歳以上）

子育て・教育について

- ・男女共同参画はすぐに効果の出るものではないと思う。小さいうちから教育して、10年、20年、30年後の効果を目指していかないといけないと思う。また大人に対しても同じだと思う。「小さなことから少しずつ！」.....（女性/30歳代）
- ・女は子育てが一番大事だと思います。働いて金を取り、良い生活や贅沢をするより家で子どもをしっかりと育てて欲しいものです。子どもができれば女でなく親になってもらいたい。今の世の中、ただ金・金と子どもをしつける事をせず、勤めたがっていますが、子どものしつけができない者が社会に出て何をやってもダメだと思います。愛情をもって良い子を育てる事を子育ての間は仕事として欲しいものです。それにはもっと、男の人は強く、女には優しい心になってもらいたい。男女共同参画も良いことですがあまり出しゃばらず、男は女性の意見を良く聞く耳を持つように。男はいばるのではなく、強くなって欲しいものです。.....（女性/60歳代）

- ・ あらためて自分自身の周りを考える機会となりました。掛け声ばかりでは実情の変化が望めないと思います。人権教育のように時間をかけて、幼児期からの教育が大切と思われます。.....
.....(女性/50歳代)
- ・ 女性の再就職と言われますが、子どもにとって母親のそばにいてあげた方が良い年齢まではそばにいてあげたいと思っている母親が多いです。就職している母親もそう思っています。生活が金銭的に厳しくても、頑張って4～5歳になるまで子どものそばにいる母親への支援をもっと充実させてください。.....(女性/30歳代)

就業について

- ・ 男女雇用機会均等法が制定されて昔ほど男女差別は無くなったとは言え、宇和島市のような中途半端な町においてはまだまだ女性の能力は公平に評価されていないと思います。女性ならではの感性を活かし、活躍の場を広げるような力が色々な意味で今ほど社会から必要とされている時はないでしょう。そういう女性を職場の人財とするためにも、ワークライフバランスについて考えていくことが重要であると思います。また、私の場合でもそうであるように、年齢制限が重視されているため、社会復帰が(このことに関しては男性も同じ)できません。女性を活かす社会の仕組み、制度の作り方を再検討していただきたいと願います。...(女性/50歳代)
- ・ 女性の保護ばかり力を入れているが(出産後職場復帰、育児休暇、PTAへの参加のための休暇など)男性はその分の職場でのカバーをしなければならない(給料は同じ)。当たり前のように休み、転勤もせず(男性とその家族は転勤も受け入れる)、負担は家族をもつ男性ばかりにふりかかる。その部分の働く女性の意識改革も必要となる。.....(女性/40歳代)
- ・ 宇和島地区は農林水産業が主産業であり、一般的な男女共同参画の理想では就業上できないと思う。地区にあった男女共同参画の施策が必要ではないか。現場では労働は男性、生産物の加工・販売等は女性。.....(男性/60歳代)
- ・ 男女共同参画についての考え方は年齢によって随分差があり、若いご夫婦等はよく協力して、仕事・育児・家事をこなしている家庭が多いと思う。しかし、どの家庭も就労時間はかなり厳しく、両親が共働きの場合、親の帰宅が9時～10時といった家庭も少なくない。祖父母その他の応援があるところは良いが、子どもだけで留守番をしているところもあり、社会が育児期間だけでも就労時間に余裕のある生活ができるような制度があれば良いと思う。.....
.....(女性/70歳以上)
- ・ 今勤めている会社には女性の役職はほぼ皆無です。役員に女性を加える際も、男性役員は口をそろえて「意味が無い」と、特に50～60代以上の男性には期待する方がバカなのだと感じました。男性には昇給・出世するために上司が仕事や資格を考慮しているのに対し、女子職員に対しては放置同然。重要なのは何%女性が役職につくかではなく、頭の中に男尊女卑をすりこまれた役員・上司が変わる、もしくは替わること(特に50代以上男女共に)。いまだ女性にお茶当番を当たり前させている男性職員を見て、新採たちも悪影響を受けることは必須です。昨年、将来役員等になる可能性のある現在平職員を選抜した研修があった際も、女性は0名。第三者が各企業等にこういった面を強制的になおす権利を与えるなどの対策を講じていかないと、このままでは田舎に就職する女性、結婚・出産する女性はますます減少してしまうのではないのでしょうか。.....(女性/30歳代)

- ・ アンケートが、女性に対してのことが多いように思いました。現在の社会的な問題点を考えてみると、すぐに切れる子どもや成人が多くなっているように思います。やはり小さい頃に他人（保育所等）の手で育てているから寂しい気持ちが多く愛情に飢えているのではないのでしょうか？女性も家事を軽く考えないで、プロ意識を持ってすれば子育ても楽しくなり、一人の大切な人間を育てるとすれば主婦も立派な職業だと思います。女性蔑視＝無職（主婦）と考えるのではなく、男性にしかできないこと、女性にしかできないこともあって良いのではないのでしょうか？要はプロ意識をいかに持つかだと思います。自分自身の考えがあって行動するのであれば、アンケートにあるように外に出て働くことだけが良いとは思いません。...（女性/50歳代）
- ・ このようなアンケートを出した時点で、男女共同参画はなされていないと思う。企業によっては、育児休暇はおろか産休などもないのが実情である。いくら資格を取得しても就職先がないということもよくあることである。経験者優遇なども多い。企業誘致などをして企業を増やし、働く機会をもっと増やして欲しいと思う。合併してもメリットもないのに、合併すると無駄が多い。このアンケートも無駄だと思う。セミナーとかを開いた方が良いのではないかな？.....
.....（女性/40歳代）
- ・ いつまでも格差が広がっていく一方であり、給料は減り、仕事時間だけが増えていく。パートタイムの者に対しても「奉仕」という無給の仕事をせざるをえない状況にある。人権も大切だが、人間の尊厳、普通の生活を営む権利が侵害されていることの方が問題じゃないのかと思う。男女平等とか差別せざるをえない状況、要因を作っているのは各個人の考え方によるところが大きいにして、先に述べた危機的状況にある地方と都市部の格差をどうにかしない限り働ける者、働けない者で区別されるのは必然である。はっきり言ってきれいごとでは現場は全く変わらないし、変えられない。.....（男性/20歳代）

法律・制度に対する要望

- ・ 男女雇用機会均等法に罰則を設けて欲しい。地方ではパートの方が優遇されているというケースもあるし、都会とは別枠で考えて欲しい。.....（性別不明/40歳代）

施策・サービスの要望

- ・ 女は子どもを出産するので、それにより社会活動に制約を受けるが、この制約を解消する手段を講じなければ共同参画は不十分に終わると思う。.....（男性/70歳以上）
- ・ 家庭内での育児・家事・介護等の負担が主に女性にある中で、女性の社会への参加は困難である。また、介護は家庭でしようという政府の方針は現状では女性の社会進出に逆行している。また、介護のためには働かなければならないが、家庭介護もしないと・・・では、生活が成り立たない。介護・育児を政策的に充実させる方が先。.....（女性/40歳代）
- ・ 子育てや介護など、まだまだ女性の割合が多いと思う。パンフレットや講座で分かりやすく、男性や地域に知らせると良いのではと思う。.....（女性/40歳代）
- ・ 男女共同グループ活動（高齢者男女共同活動）をする。.....（女性/70歳以上）
- ・ 家事仕事のほとんどを女性がしており、その上パートタイムでも忙しくて疲れている女性が私の職場にはたくさんいます。パート時給の見直しや、短い時間で働ける職場があれば良いなと思います。.....（女性/40歳代）

- ・ 子どもが小さい時に母親教室がありましたが、父親教室は無かったです。父親も育児に参加できるシステムがあれば、もっと育児になじめると思われます。それと、保育園は定数が決まっ
ていて、働いている母親には優しくないです。預ける所が無かったです。10年以上も改善さ
れてないです。託児所のある企業も珍しいくらいでしたが、そういう企業が増えてくれれば良
いと思います。市や町でも支援してもらえば助かります。.....(女性/40歳代)
- ・ 母子家庭のように、父子のサービスをもっときちんとして欲しい(母子手当など)。男親が子
どもを引き取った時に、今の宇和島市では生活ができない。.....(男性/30歳代)
- ・ 女性は育児休暇を取得する割合が増えてきていると思うが、男性もとれるようになると子ども
の出生率も上がると思う。中央から地方に普及するのを待つのではなく、地方から仕掛けられ
ればと思う。.....(女性/30歳代)
- ・ 女性が働ける職場、男性が働ける職場、両方ともに少なすぎる、男性がもっと育児休暇をとり
やすくしないとダメ。どっちにしても宇和島市は日本一給料が安くて、物価が高い。だから両
方とも働かなくてはいけないけど、家事・育児は女性が主になっている。女性は仕事・育児・
家事で大変。でも給料は宇和島安い。男性も手伝えるべき。.....(女性/30歳代)
- ・ 女性の一層の社会参画を希望し、そのための支援を惜しまないようにすべきだと考えます。...
.....(男性/70歳以上)

行政について

- ・ 男女共同参画だけではないが、市政により多くの市民の意見を反映させるということは市民に
行政サイドから聞くことだけではないと思う。このアンケートについても、必要なことには間
違いないが、一方通行になってしまっただけである。分かっていることではあるが、このア
ンケートの数値等を施策に十分反映させることはもちろんのこと、その結果は全市民に返して
いく作業が必要だと思う。今まで数多くのこのような調査がなされてきたが、担当部局・行政
サイドの保管庫の中に保管されている気がしてならない。このような情報や施策はより多くの
市民が共有し、考え、創造していくものだと思う。色々な手法を通して市民にアピールし、市
民とともに歩む行政の実現を目指して欲しい。男女共同参画担当部局にその姿を期待するもの
です。.....(男性/60歳代)
- ・ 今後は皆で協力し、より良い宇和島市づくりに頑張ってくださいと思います。.....
.....(性別・年齢不明)
- ・ 宇和島市、または広域組合自体が平等でない社会を創っていながら(例：職員と臨時、嘱託と
のあらゆる面での格差)現状を解らずに、このようなアンケートはおかしいのではないでしょ
うか。.....(女性/40歳代)
- ・ 男女共同参画というより宇和島をもっと良くして欲しい。物価が高すぎてとても住み辛い。野
菜一つにしても数十円高い。これでは子どもにちゃんとした勉強をさせることもできない。も
っともっと住みやすい町にするため考えて欲しい。税金で働いている市役所にはかなり頭にき
ている。ちゃんと仕事してください。窓口に行っても対応は悪いは、しゃべってばかりで市民
をバカにしているようにしか思えない。税金を返せ。.....(女性/30歳代)
- ・ 市民の意見が上に届かないほうが良い、一分の人間の意見にふりまわされないことが大切、言
えない人の意見を引き出すとかが大切。.....(男性/60歳代)

- ・ 問29で報告の通り、女性委員及び議員の数が他の自治体に比べ比較にならないほど低い。せめて、県下の標準値まで届くよう、宇和島市でも女性地位の向上に努めてもらいたい。各種会合に対する参画を呼びかけ、積極的な方策を掲げられ、今後における施策を行ない、市の今後の行いを見守りたい。以上、希望いたします。.....(男性/60歳代)
- ・ このアンケート結果がきちんと活かされた政策を行って欲しいと願います。実際、何が改善され、何が改訂されたのか、日常生活をしている中で実感できません。最後に、年配の意見は反映され、若い人達の意見は軽視されがちな宇和島市は、もっと市民(年齢層の広い)の意見を取り入れるべきだと思います。.....(女性/30歳代)

アンケート

- ・ 男女共同参画についてのアンケート調査は良いと思いますが、それよりもこの費用を直接生活に響く、例えば災害や福祉のために使ったら良いのではと思います。予算が少ないと何もかも合併前よりゆとりのない有様です。少しでも有効に使ってはどうかと思います。参考にしていただけなら幸いです。.....(女性/60歳代)
- ・ 質問が多すぎると思います。.....(女性/70歳以上)
- ・ 昭和一桁生まれですし、男尊女卑の時代を生きてきた私どもにはアンケートの内容が分かりかねることばかりで、ろくにお答えできていません。申し訳ありません。.....(女性/70歳以上)
- ・ このアンケートに何の意味があるのか。反映されていない市政。紙の無駄使い。これも税金を使っただけのアンケートですね、そうであればもっと他の事で有意義な税金使用を行ってほしい。個人情報の扱いは大丈夫なのか？市の役所の人間にはもっとプライバシーの配慮をした行動をとってほしい。.....(女性/60歳代)
- ・ 返信用封筒が小さすぎる。.....(男性/30歳代)
- ・ 長すぎるアンケートにちょっとうざりました。.....(女性/50歳代)
- ・ 質問が理解できないものや、意味のないことなどありました。.....(女性/50歳代)
- ・ アンケートの目的がはっきりしない、回答をどのように生かすのかが分かりにくい。アンケートの項目数が多すぎる。読んで回答するのが面倒。.....(男性/60歳代)
- ・ 何のために使われるのですか？良い方向に向かうのでしょうか？二度としたくありません。必要ないと思います。.....(女性/50歳代)
- ・ 頭が少しずしくなった我々高齢者には、これぐらいのアンケートも大変な負担です。このようなアンケートは若い人に書いてもらうべきです。我々が10年位前だったら負担に感じなかったでしょう。このようなアンケートの答えは失礼かと思いましたがお許し下さい。.....
.....(男性/70歳以上)
- ・ 質問が漠然としていて、明確な答えとして選べるものが無い。全て、分からない中での判断です。事例を挙げて、これに対してどう思うとか、どう対処するか等で気持ちの一番近いものを・・・という選択ならしっかりできると思いました。.....(女性/40歳代)
- ・ 私は堅苦しい事はきらいですから、十分な意見ではありません。.....(男性/70歳以上)
- ・ 男女共同参画には賛同しますが、何かこのアンケートをまとめて進められるような気がしますが、もっと地域の特性というか産業別での参画形態を練っていった方が理解しやすく思います。すべての問いのアンケートでは産業形態の詰め方がよく分かりかねます。....(男性/60歳代)

その他

- ・ 男女共同参画の前に宇和島市の財政を立て直し、なるべく市民税を少なくしてください。合併後の市民税が高すぎる。.....(女性/50歳代)
- ・ いずれにしろ、結局は何をしたって変わらないと思う。.....(女性/30歳代)
- ・ 私は宇和島市になってから月広報を待って楽しみにしております。手を差し伸べて診察もしていただき心から感謝しております。長男に手を繋いで月に2回病院に行っています。敬老会にもよう出かけられませんが、73歳になりました。お陰さまで、毎日朝日を見てとても幸せだ。心からお礼を申し上げます。ますます宇和島市民の皆様とともにどうかよろしく願いいたします。学校の先生も一生懸命頑張っています。村の皆さんも、愛を育み助け合っております。テレビもあまり見ません。母の日にラジオを買ってもらってカセットで歌も聴けます。福祉課の皆様にも心からお礼申し上げます。.....(女性/70歳以上)
- ・ 色々書いたけど、消費税や介護の引かれるお金が大きいです。そして見直していただきたいこと、一生懸命働いているのに保護ももらっている人は私達のかけた年金より1ヶ月に倍もらっておられるとのこと、今まで楽に暮らした人、今になって見直してもらいたい。こんなこと市長さんをお願いします。本当に息子と暮らして市でもらい楽にしておられます。何故私達は80際になっても働くのでしょうか、当たり前のように。とにかく見直してください、年金から介護をたくさんとらないで下さい。目に見えてそうする人が多いです。...(女性/70歳以上)
- ・ 私は欲も得もない平凡な会社員で終わり、親から受け継いだ家屋があるが、古くなっても建て替えることもできない。息子が20歳の頃から精神障害(総合失調症)で希望無し。この男女共同参画調査には十分な答えができずごめんなさい。私の担当医は「あなたは運が悪かったと諦めてください」と言われている。今は薬漬け。親の言うことも聞き入れない閉鎖的な家庭でしかない。行政からの障害年金をもらっておりますが、いっこうに良くなりません。この難病をどうか世の中から撲滅してください。.....(男性/70歳以上)
- ・ 思い深ければ今は老いに身の病に勝てせず今を生きることのみ。生かされて助けられ励まされつつ感謝の念一途かな。.....(女性/60歳代)

宇和島市男女共同参画社会に関する市民アンケート

調査のお願い

日ごろから、市政の運営にご理解とご協力いただきまして誠にありがとうございます。

さて、宇和島市では、男女が互いに人権を尊重しつつ、性別にとらわれることなく、それぞれの個性や能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでいるところです。

このアンケートは、市民のみなさまに男女共同参画社会に対するお考えやご意見を伺い、今後の施策を検討するうえでの基礎的な資料とさせていただくことを目的に実施します。

ご回答いただく方は、市内にお住まいの20歳以上の方から、2,000人を無作為に選ばせていただきました。この用紙にはあなたのお名前を書いていただく必要はありません。また、お答えの内容は統計的に処理し、本調査の目的以外に利用することはありませんので、ご回答いただいた方にご迷惑をおかけすることは決してございません。

お忙しいところお手数をおかけしますが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成19年7月 宇和島市長 石橋 寛久

記入にあたってのお願い

1. このアンケートは個人を対象としていますので、あなたご自身の判断で記入してください。ご自身によるお答えが困難な場合は、ご家族等や代理人の方が代わりにお答えください。
2. 回答は、問1から順に、質問ごとに用意した回答の中から、あなたのお考えにあてはまる番号に印をつけてください。「その他」にあてはまる場合には、()内に具体的な内容を記入してください。
3. 質問によっては、ある条件に該当する方だけにご回答いただくものがありますが、その場合は説明がありますから、指示にしたがってお答えください。
4. 記入が終わりましたら、アンケート用紙を同封の返信用封筒に入れて、8月10日(金)までに切手を貼らずにご投函ください。(アンケート用紙、返信用封筒には、お名前、ご住所を書いていただく必要はありません。)
5. 調査に関するお問い合わせは下記までお願いします。

【問い合わせ先】 宇和島市 総務部 総務課 担当：松広・三好

〒798-8601 宇和島市曙町1番地

TEL:0895-24-1111(内線522)

男女平等に関する問題についておたずねします。

問1 あなたは、次の(1)～(8)の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたのお気持ちに最も近いものをそれぞれお答えください。

【 はそれぞれ1つずつ】

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇 されている	平等になっている	どちらかといえば 女性の方が優遇 されている	女性の方が非常に 優遇されている
(1) 家庭生活で	1	2	3	4	5
(2) 職場で	1	2	3	4	5
(3) 地域社会で	1	2	3	4	5
(4) 学校教育の場で	1	2	3	4	5
(5) 政治の場で	1	2	3	4	5
(6) 法律や制度の上で	1	2	3	4	5
(7) 社会通念・慣習・しきたりで	1	2	3	4	5
(8) 社会全体で	1	2	3	4	5

問1で、「男女平等になっていない」と感じている分野があった方におたずねします。

問2 男女間で不平等が生じる原因は、どこにあると思いますか。

【 は3つ以内】

<ol style="list-style-type: none"> 1 男女の生まれつきの身体的・生理的な差 2 これまでにつくられてきた男女の能力・適性のちがい 3 男女の役割についての固定観念 4 社会の慣習やしきたり 5 法律や制度上の差 6 職業生活面での有利・不利 7 女性の自覚や理解の不足 8 男性の自覚や理解の不足 9 売買取春、風俗産業、女性の裸体を扱うマスコミ・メディアなど、女性を商品化する風潮 10 その他() 11 わからない

問3 あなたは、自分の子どもに対してどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。子どもが男の子の場合と女の子の場合の両方を想定して、それぞれについてお答えください。
(子どものいない方や、既に子どもが社会人になっている方は、仮にこれから教育を受ける子どもがいるとしてお考えください。)

【 はそれぞれ1つずつ】

	高校まで	専門学校まで	短大・高等 専門学校まで	4 年 制 大 学 ま で	大 学 院 ま で	子 ど も 次 第
(1) 男の子の場合	1	2	3	4	5	6
(2) 女の子の場合	1	2	3	4	5	6

問3で男の子の場合と女の子の場合で希望が異なっていた方におたずねします。

問4 男女で受けさせたい教育の程度が異なっている理由について、あなたのお気持ちに近いものをお選びください。

【 は2つ以内】

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 高学歴の方が就職しやすいから 2 それ以上の教育は必要ないから 3 高い学校教育を受けるより、家業を継いでほしいから 4 本人の希望どおり教育を受けさせてやりたいから 5 男女ともに同じ程度の教育を受けさせるには費用がかかりすぎるから 6 それ以上の教育は無理だから 7 学校で教育を受けるよりも早く就職する方が本人のためだから 8 ある程度まで教育を受けたら、家で家事をするべきだから 9 その他 () |
|---|

問5 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが最も必要だと思いますか。

【 は1つ】

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 法律や制度の上での見直しを行い、男女差別につながるものを改めること 2 性別に基づくさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること 3 女性自身が経済力や知識・技術を身に付けるなど、積極的に力の向上をはかること 4 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること 5 国や地方公共団体、企業等の重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること 6 わからない 7 その他 () |
|---|

男女の人権に関する問題についておたずねします。

問6 メディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。

【 は2つ以内】

- 1 性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ
- 2 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている
- 3 女性に対する犯罪を助長するおそれがある
- 4 そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない
- 5 男性のイメージや女性のイメージについて偏った表現をしている
- 6 特に問題はない
- 7 その他()
- 8 わからない

問7 最近、配偶者間や恋人同士などの親しい男女の間で、身体的・心理的・経済的な暴力（ドメスティック・バイオレンス）が問題となっています。

(1) あなたは、次にあげるような行為を配偶者・恋人からされた、あるいはあなたが、配偶者・恋人に対して行ったことがありますか。次の項目ごとにお答えください。

(2) それで、暴力にあたりとお考えになるかどうかについても、お答えください。

< 回答例 >

	(1)				(2)		
	自分がしたことがある	相手からされたことがある	したこともされたこともどちらもある	どちらもない	暴力になると思う どんな場合でも	暴力にあたる場合もあ らない場合もあると思 う	暴力にはあたら ない
(1)では、ア～セのそれぞれの行為について は1つずつ							
(2)では、ア～セのそれぞれの行為について ~ のうち、あなたの考えに一致するもの1つに							
ア 命の危険を感じるほどの暴力	1	2	3	4	5	6	7
イ 医師の治療が必要となるほどの暴力	1	2	3	4	5	6	7
ウ 医師の治療が必要とならない程度の暴力	1	2	3	4	5	6	7

次ページの回答表にご記入ください →

(1)では は1つずつ (2)ではア～セのそれぞれの行為について ~ のうち、あなたの考えに一致するもの1つに	(1)				(2)		
	自分がしたことがある	ある 相手からされたことがある	どちらもある したこともされたことも どちらもある	どちらもない	暴力になると思う どんな場合でも	暴力にあたる場合もあ らない場合もあると思う	暴力にはあたら ない
ア 命の危険を感じるほどの暴力	1	2	3	4	5	6	7
イ 医師の治療が必要となるほどの暴力	1	2	3	4	5	6	7
ウ 医師の治療が必要とならない程度の暴力	1	2	3	4	5	6	7
エ いやがっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4	5	6	7
オ 避妊に協力しない	1	2	3	4	5	6	7
カ 大声でどなる	1	2	3	4	5	6	7
キ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をする	1	2	3	4	5	6	7
ク 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「死ね」などとののしる	1	2	3	4	5	6	7
ケ 「安月給」や「甲斐性なし」などとののしる	1	2	3	4	5	6	7
コ 交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する	1	2	3	4	5	6	7
サ 社会活動や就職などを許さない	1	2	3	4	5	6	7
シ 生活費を渡さない	1	2	3	4	5	6	7
ス 食事の支度をしてくれない	1	2	3	4	5	6	7
セ 何を言っても、無視し続ける	1	2	3	4	5	6	7

問7の「ア」～「セ」のうち、あなたが暴力と思う行為について「されたことがある」と答えた方におたずねします

問8 あなたは、これまでに問7であげたような配偶者・パートナーからの行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

【 はいくつでも】

1	警察に連絡・相談した	
2	人権擁護委員に相談した（法務局、地方法務局の人権相談窓口を含む）	
3	配偶者暴力相談支援センター（県女性総合センター、婦人相談所）、婦人相談員に相談した	
4	その他の公的な機関に相談した	
5	民間の機関（弁護士会など）に相談した	
6	医師・カウンセラーに相談した	
7	家族や親戚に相談した	
8	友人・知人に相談した	
9	その他（	）
10	誰（どこ）にも相談しなかった（理由：	）

問9 セクシュアル・ハラスメント（異性間・同性間での性的いやがらせ）についてお聞きします。

（1）あなたの周囲のセクシュアル・ハラスメントに対する問題意識はどうですか。

【 は1つ】

1	問題意識は、十分浸透している
2	問題意識は、少しずつ浸透してきている
3	問題意識は、あまり浸透していない
4	問題意識はない
5	わからない

配偶者暴力相談支援センター

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図るための業務を行う施設で、都道府県が設置する婦人相談所その他の適切な施設です。愛媛県では、愛媛県女性総合センター（TEL：089-926-1644）、愛媛県婦人相談所（TEL:089-941-3490）において、一般相談・心理相談・夜間ダイヤル相談・弁護士相談等を実施しています。また、宇和島市では、宇和島市役所子育て支援課、宇和島地方局地域福祉課に婦人相談員や家庭相談員が配置され、婦人相談や家庭内の様々な相談を実施しています。

セクシュアル・ハラスメント

「相手の意に反した、性的な性質の言動を行い、それによって仕事などを遂行する上で一定の不利益を受けたり、それを繰り返したりすることによって就業環境や学業環境などを著しく悪化させること」をいい、今日では、男性から女性に対するものだけでなく、女性から男性へ、あるいは同性間での性的いやがらせも、セクシュアル・ハラスメントとみなされます。

セクシュアル・ハラスメントは、「**対価型セクハラ**（地位、立場、権限を利用してなされた意に反する性的な言動を拒否したことにより、言動の相手方が解雇や降格、不利益な配置転換、減給などの不利益を受けること）」と「**環境型セクハラ**（意に反する性的な言動によって、就労環境、学習環境が悪化したために、言動を受けた相手方の就業・学習意欲が低下した、あるいは業務に専念できないなど、能力の発揮に悪影響が生じること）」の2つに分類されます。

すべての場合に共通していることは、問題となった行為がそれを受けた側にとって、「意に反する性的な言動」であるということです。

(2) あなたが、セクシュアル・ハラスメントだと思うものはどれですか。

【 はいくつでも】

- | | |
|----|--|
| 1 | 地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること |
| 2 | さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること |
| 3 | 性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること |
| 4 | 性的な内容の電話をしたり、手紙、メール等を送ったりすること |
| 5 | 宴席で、お酌、デュエット、ダンスなどを強要すること |
| 6 | 結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと |
| 7 | 恋愛経験について執拗にたずねること |
| 8 | 性的魅力をアピールするような服装やふるまいを要求すること |
| 9 | 性別に着目した言葉で服装、髪型などについて賞賛すること |
| 10 | 目のやり場に困るような服装をすること |
| 11 | 周囲の人の目に付きやすい所に、ヌード写真やカレンダーを置いておくこと |
| 12 | 女性に対して「女の子」「おばさん」などと呼ぶこと |
| 13 | 女性に対して「女のくせに～」、男性に対して「男のくせに根性がない」などと言うこと |
| 14 | 男性を性風俗店にむりやり誘うこと |
| 15 | わからない |
| 16 | その他() |

問 10 今日、家庭内暴力、性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント等、女性に対する暴力が社会問題として注目されています。あなたは、女性に対する暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。

【 は3つ以内】

- | | |
|----|------------------------------------|
| 1 | 法律・制度の制定や見直しを行う |
| 2 | 犯罪の取締りを強化する |
| 3 | 捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする |
| 4 | 被害女性を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる |
| 5 | 被害女性のための相談所や保護施設を整備する |
| 6 | 家庭における男女平等や性についての教育を充実させる |
| 7 | 学校における男女平等や性についての教育を充実させる |
| 8 | メディアが倫理規定を強化する |
| 9 | 過激な内容のビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する |
| 10 | ドメスティック・バイオレンス(DV)被害者に対する支援体制を強化する |
| 11 | その他 |
| 12 | 特に対策の必要はない |
| 13 | わからない |

就労や職業生活についておたずねします

問 11 あなたは、一般的に女性が職業をもつことについて、どのようにお考えですか。

【 は1つ】

- 1 女性は、職業をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 5 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 6 その他 ()

これまでに、離職したことがある方におたずねします。

問 12 あなたが離職した理由は何ですか。

【 はいくつでも】

- 1 経済的に働く必要がなくなったため
- 2 他の仕事をするため
- 3 定年による退職のため
- 4 勤め先の都合
- 5 希望どおりの仕事ではなかったため
- 6 希望どおりの労働条件ではなかったため
- 7 家事や子育てに専念したかったため
- 8 家事や子育てとの両立が困難だったため
- 9 高齢者や病気の家族の介護のため
- 10 健康や体力に自信がなかったため
- 11 職場内に結婚や出産による退職慣行があったため
- 12 配偶者の転勤のため
- 13 高齢のため
- 14 家族が望まないため
- 15 仕事を持たない方が自由だと思ったため
- 16 特に理由はない
- 17 その他 ()

学生を除く、すべての方におたずねします。

問 13 あなたは、今後のご自身の就業についてどのようにお考えですか。あなたのお考えに最も近いものをお選びください。

【 は1つ】

- 1 現在の仕事を続けたい
- 2 より高い報酬・待遇を受けられる会社・職場に移りたい
- 3 勤務時間に自分の事情や希望が反映される会社・職場に移りたい
- 4 自分の希望する職種に転職したい
- 5 自分自身の事業・会社を起業したい
- 6 チャンスがあれば、ぜひ現在のパート、派遣、契約社員からフルタイムの正社員になりたい
- 7 自分の必要を満たした環境の職場（バリアフリー、介助人員など）があれば、働きたい
- 8 子どもが学齢期になってある程度手が離れたら、パートタイムや派遣労働などで短時間働きたい
- 9 子どもが学齢期になってある程度手が離れたら、フルタイムで働きたい
- 10 家族の介護・看護がひと段落したら再就職したい
- 11 自分の家族の状況に適した保育施設、介護施設等が見つければ、すぐに就職したい
- 12 いずれ働きたいとは思っているが、特に時期は決めていない
- 13 現在求職中である
- 14 経済的事情が許せば、仕事を辞めたい
- 15 仕事をもちたいとは思っていない
- 16 わからない
- 17 その他（)

これまでに、就労経験のある方におたずねします。

問 14 あなたの職場で、次のようなことがありましたか。

【 はいいくつでも】

- 1 女性は昇進・昇格が遅い、または望めない
- 2 賃金や昇給に男女差がある
- 3 社内研修や教育訓練、出張や視察などの機会に男女差がある
- 4 定年の年齢に男女差がある
- 5 女性が結婚や出産を期に退職する慣習がある
- 6 女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある
- 7 お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い
- 8 女性は補助的な仕事しかさせてもらえない
- 9 特に男女格差はない
- 10 その他（)

問 15 あなたは、働く意欲のある女性が働き続けたり、再就職したりするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【 はいくつでも】

- | | |
|----|---|
| 1 | 昇進・昇給・仕事内容などの職場での男女平等扱いの確保 |
| 2 | 労働時間の短縮 |
| 3 | 短時間勤務制度、在宅勤務やフレックスタイム（時差勤務）の普及 |
| 4 | 家族や配偶者の理解や同意 |
| 5 | 家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力 |
| 6 | 保育施設やサービス（一時保育、病児保育など）の充実 |
| 7 | 介護施設やサービス（デイサービス、配食サービスなど）の充実 |
| 8 | 育児・介護のための休暇・休業をとりやすい職場環境 |
| 9 | 女性自身の意欲・能力を高めること |
| 10 | 女性に対する起業支援 |
| 11 | 男の意識（「男は仕事、女は家庭」など）を変えること |
| 12 | 女の意識（「男は仕事、女は家庭」など）を変えること |
| 13 | 結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及 |
| 14 | 能力開発や技術習得のための講座・研修会の実施 |
| 15 | 求人・職業情報の積極的な提供 |
| 16 | 仕事や職場環境についての相談窓口の充実 |
| 17 | パートタイム労働者や派遣社員などの労働条件の改善 |
| 18 | わからない |
| 19 | その他（ ） |

問 16 あなたは、次にあげる制度を利用したことはありますか。また、今後利用したいと思いませんか。

【 はそれぞれ1つ】

	知らなかつた 制度の存在を	あれば利用したい ないが、必要が 利用したことは	あれば利用したい あり、また必要が 利用したことが	利用したくない あるが、今後は 利用したくない	利用したいが 抵抗がある	利用したくない
育児休業制度	1	2	3	4	5	6
介護休業制度	1	2	3	4	5	6

問 17 育児休業・介護休業制度を利用する上で、障害となることはどのようなことだと思いますか。

【 は3つ以内】

1	休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい
2	即戦力となる代替要員の確保が難しい
3	他の職員の負担が増える
4	休業することで昇任・昇格などに不利になる
5	復帰後の職場や仕事の変化に対応することが難しい
6	利用することに対する職場内の理解が十分でない
7	休業することで経済的に厳しくなる
8	実質的に職場で育児休業・介護休業制度が機能していない
9	自分自身が子育てや介護に参加することに対して心理的抵抗がある
10	支障となることは特にない
11	わからない
12	その他 ()

問 18 職業をもっている場合、有給休暇や育児・介護休業制度があっても、実際には休暇・休業を取得しにくいのが実状です。あなたは、家庭・家族をもっている労働者がどのようなときに休暇・休業を取得する、取得できるのが望ましいと思いますか。

【 はいくつでも】

1	旅行やレジャー、余暇の時間を家族と共有するため
2	自治会、地域活動、PTA活動への参加のため
3	家族の通学、通勤、通院等の送り迎え、付き添いのため
4	風邪等のために保育施設・学校に通えない乳幼児期、小学校低学年の子どもの世話のため
5	乳幼児の育児のため
6	同居家族、高齢の両親等の短期的な看護のため
7	冠婚葬祭のため
8	子どもの平日の授業参観、入学式・卒業式への参加のため
9	家族の介護のため
10	自分自身の休養、趣味の時間をとるため
11	特に休暇・休業は必要ない
12	わからない
13	その他 ()

問 19 第 1 次産業を家族で経営する場合において、その仕事に従事している家族各人は報酬（給与等）をどのように受け取るべきとお考えになりますか。第一次産業に従事していない方も、仮にご自分が第一次産業を家族経営しているとしたら、どのようにお考えになるか、お答えください。

【 は 1 つ】

- 1 家族各人が定期的（月給、四半期毎など）に、定額の報酬を受け取るべき
- 2 家族各人が収益に応じて一定割合で報酬を受け取るべき（収益分配）
- 3 家族の話し合いにより、必要なときに報酬を各人が受け取るべき
- 4 普段から経営主が収益を管理し、その判断に基づいて各人に報酬を配分するべき
- 5 家族各人への報酬は必要ない
- 6 その他（)
- 7 わからない

問 20 農山漁村において、女性は仕事の重要な担い手であると同時に、家事や家族の世話なども同時にこなしている現状があると考えられます。女性が男性と共にいきいきと活動する社会（男女共同参画社会）を形成する上で、農山漁村の女性に対するどのような支援、施策が重要だとお考えになりますか。

【 は 3 つ以内】

- 1 夫や家族による家事・育児の分担
- 2 女性が技術等を習得するための研修やセミナーの開催
- 3 女性の農業者や漁業者間などの新たなネットワークの育成支援や、異業種の女性との交流の場の拡大
- 4 出産・育児期における女性のための新たな休暇制度の創設
- 5 女性が農産・水産加工等を行うための施設・機器の整備に対する補助や起業活動のための支援
- 6 家事・育児・介護ヘルパーの設置
- 7 地域における女性指導者の育成
- 8 女性のための支援制度、施策等に対する情報提供
- 9 出産、子育てと農業・漁業等の経営との両立を図る上での悩み事を相談できる相談体制の整備
- 10 男女共同参画に関する普及・啓蒙の推進
- 11 研修や出資などに充てる経費を確保するための報酬の実現や、農地等の名義を含む女性の資産形成を助長する支援
- 12 女性が借りやすい資金の充実
- 13 その他（)
- 14 必要ない
- 15 わからない

地域活動への参加についておたずねします

問 21 あなたは、次のような活動に参加していますか。また、今後参加したい活動はありますか。

【 はそれぞれ1つ】

	現在参加している	現在参加していないが、今後参加したい	参加したくない	わからない
(1) 趣味・学習・スポーツ活動	1	2	3	4
(2) 町内会・PTA・子ども会など地域活動	1	2	3	4
(3) リサイクル・消費生活活動	1	2	3	4
(4) 国際交流活動	1	2	3	4
(5) ボランティア活動・福祉活動	1	2	3	4
(6) 環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動	1	2	3	4
(7) 政治活動や宗教活動	1	2	3	4
(8) その他 ()	1	2	3	4

問 22 あなたの住んでいる地域の活動（自治会、PTAなど）で、現在次のようなことがありますか。

【 はいいくつでも】

1	行事などの企画は主に男性が決定している
2	代表者は男性から選ばれる慣例がある
3	だれもが自由に発言できる雰囲気がない
4	女性は責任のある役を引き受けたがらない
5	お茶入れや食事の準備などは女性が担当することになっている
6	会議などにおいて女性は発言しにくい雰囲気がある
7	女性の活動があまり評価されていない
8	名簿上は夫が会員になっているが実際は妻が活動している
9	母親や女性の保護者ばかりで、父親や男性の保護者の参加がほとんどない
10	つきあいで仕方なく参加している人が多い
11	若い人や新規の参加者が少ない
12	その他 ()
13	特に上記のようなことはない
14	わからない

問23 あなたが社会活動に参加しようとする上で、支障となることはどのようなことですか。

【 はいくつでも】

- 1 仕事が忙しい
- 2 家事が忙しい
- 3 小さい子どもがいる
- 4 看護・介護を必要とする病気や高齢の家族がいる
- 5 家族の理解や協力が無い
- 6 活動する仲間や場所が少ない
- 7 健康や体力に自信が無い
- 8 職場の理解が無い
- 9 社会活動に関する情報が少ない
- 10 グループの人間関係がわずらわしい
- 11 支障となることは特にない
- 12 その他 ()

男女の役割分担意識や家庭における男女共同参画についておたずねします

問 24 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのようにお考えですか。

【 は1つ】

- | |
|-----------------|
| 1 賛成する |
| 2 どちらかといえば賛成する |
| 3 どちらともいえない |
| 4 どちらかといえば賛成しない |
| 5 賛成しない |

問 25 家庭での役割分担について、(1) あなたが理想とする役割分担と、(2) 実際の役割分担はどのようになっていますか。

(1) 理想 と (2) 実際 のそれぞれについて下の中から選んで番号を記入してください。

【選択は1つずつ】

- | |
|--|
| 1 男性は仕事、女性は家事、育児、介護（以下家事等と表現する）を担当している |
| 2 男性は仕事、女性は家事等に差し支えない範囲で仕事をしている |
| 3 男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している |
| 4 男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている |
| 5 男女ともに仕事をし、家事等は主に男性が担当している |
| 6 女性は仕事、男性は家事等を担当している |
| 7 女性は仕事、男性は家事等に差し支えない範囲で仕事をしている |
| 8 男女ともに仕事をし、家事等は他の家族や民間のサービスなどに任せている |
| 9 その他 |

(1) 理想		(2) 実際	
----------	--	----------	--

家庭での仕事（家事）

総務省のを行っている社会生活基本調査では、家事の内容の例として、炊事、食後の後片付け、掃除、ごみ捨て、洗濯、アイロンかけ、つくろいもの、ふとん干し、衣類の整理・片付け、家族の身の回りの世話、家計簿の記入、庭の草取り、銀行・市役所等の用事、車の手入れ、家具の修繕、通勤・通学者などの送迎を示しています。

現在、結婚（事実婚を含む）されている方・パートナーのいる方におたずねします。

問 26 あなたの家庭では、次の（１）～（１５）のような仕事をどのように分担していますか。（１３）～（１５）が必要となるような家族がいない場合は、「該当しない」を選んでください。

【それぞれ１つずつ選択】

	夫が主に担当している	夫が主で妻が一部を分担している	妻と夫が同じ程度に分担している	妻が主で夫が一部を分担している	妻が主に担当している	妻・夫以外の家族が主に担当している	該当しない
（１）掃除	1	2	3	4	5	6	7
（２）洗濯	1	2	3	4	5	6	7
（３）食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7
（４）食事の片付け	1	2	3	4	5	6	7
（５）ゴミ出し	1	2	3	4	5	6	7
（６）風呂の掃除	1	2	3	4	5	6	7
（７）トイレ掃除	1	2	3	4	5	6	7
（８）日常の買い物	1	2	3	4	5	6	7
（９）日々の家計の管理	1	2	3	4	5	6	7
（１０）生活費を稼ぐ	1	2	3	4	5	6	7
（１１）預貯金等の資産の運用	1	2	3	4	5	6	7
（１２）町内会・自治会等地域活動	1	2	3	4	5	6	7
（１３）乳幼児の世話（乳幼児のいる場合）	1	2	3	4	5	6	7
（１４）授業参観への参加（小中学生のいる場合）	1	2	3	4	5	6	7
（１５）家族の介護（要介護者のいる場合）	1	2	3	4	5	6	7

問 27 今後、男女が共に家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【 はいくつでも】

- 1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で、男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加についても、その評価を高めること
- 6 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 7 男性の家事、子育て、介護、地域活動への関心を高めるよう啓発・情報提供を行うこと
- 8 国・地方自治体、企業等の研修などにより、男性の家事、子育て、介護等の技術を高めること
- 9 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
- 10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 11 その他（ ）
- 12 特に必要なことはない

男女共同参画社会の実現についておたずねします

問 28 あなたは、宇和島市における市政に市民の意見が反映されていると思いますか。

【 は1つ】

- 1 あらゆる市民の意見が十分に反映されている
- 2 あらゆる市民の意見がある程度反映されている
- 3 どちらかというとな男性の意見の方がより反映されている
- 4 どちらかというとな女性の意見の方がより反映されている
- 5 男性の意見はほとんど（まったく）反映されていない
- 6 女性の意見はほとんど（まったく）反映されていない
- 7 市民の意見はほとんど（まったく）反映されていない
- 8 わからない

宇和島市においては、地方自治法 202 条の 3 に基づく審議会等で女性委員の占める割合は 22.1% (平成 19 年 4 月 1 日現在) であり、これは愛媛県の審議会等に占める女性委員の割合 38.9% (平成 19 年 1 月 1 日現在) と比べて、まだまだ低い状況にあります。また、宇和島市議会における女性議員数は、全議員数 30 名中 1 名と、1 割にもとどいていません。

市役所や民間企業の管理職に占める女性の割合もなかなか上昇が見られないのが現状です。

上記のような現状を踏まえて、次の問いにお答えください。

問 29 あなたは、宇和島市において、政策・方針決定の過程に女性があまり進出していない理由は何だと思えますか。

【 は 3 つ以内】

- 1 家庭・地域・職場における性別役割分担、性差別の意識があるから
- 2 男性優位の組織運営になっているから
- 3 家族の支援・協力が得られないから
- 4 女性の能力発揮の機会が不十分だから
- 5 女性の活躍を支援する活動や体制が不十分だから
- 6 女性の側の積極性が不十分だから
- 7 その他 ()

問 30 男女の人権が尊重され、男女が対等なパートナーとして責任を分かち合い、個性や能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」を実現していくために、あなたは、国や市などの行政が今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

【 は 3 つ以内】

- 1 男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う
- 2 女性を政策決定の場に積極的に登用する
- 3 各種団体の女性のリーダーを養成する
- 4 職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う
- 5 女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実したりする
- 6 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
- 7 学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
- 8 家庭や地域など日常生活に男性の参画が進むよう男性に対して啓発する
- 9 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実する
- 10 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する
- 11 広報誌やパンフレットなどで男女の平等と相互の理解や協力について PR する
- 12 その他 ()
- 13 特になし
- 14 わからない

最後に、あなたご自身のことについてお聞きします。

F 1 あなたの性別をお答えください。【 は1つ】

- 1 男性
- 2 女性

F 2 あなたの年齢をお答えください。【 は1つ】

- 1 20～29歳
- 2 30～39歳
- 3 40～49歳
- 4 50～59歳
- 5 60～69歳
- 6 70歳以上

F 3 あなたのお住まいをおたずねします。平成17年の1市3町の合併前の地域でお答えください。【 は1つ】

- 1 旧宇和島市
- 2 旧津島町
- 3 旧三間町
- 4 旧吉田町

F 4 あなたの最終学歴をおしえてください。【 は1つ】

- 1 中学卒業
- 2 高校卒業
- 3 短大・専門学校卒業
- 4 大学・大学院卒業
- 5 旧制中学卒業
- 6 短大・専門学校在学中
- 7 大学・大学院在学中
- 8 その他()

F 5 あなたは結婚していますか。【 は1つ】

- 1 既婚
- 2 死別・離別
- 3 未婚

F 6 あなたの世帯構成はどれですか。

【 は1つ】

1 自分ひとりだけの世帯（単身世帯）

2 夫婦(事実婚含む)のみの世帯

3 親と子の世帯

*ただし、「子」にあたる方に夫または妻がいる場合は、「4」に を付けてください。

4 親と子と孫の世帯

5 その他(具体的に:)

F 7 あなたが生計を共にしている世帯の昨年1年間の総収入(税込み)は、おおよそいくらでしたか。

【 は1つ】

1 200万円以下

2 200万円を超えて300万円以下

3 300万円を超えて400万円以下

4 400万円を超えて500万円以下

5 500万円を超えて700万円以下

6 700万円を超えて1,000万円以下

7 1,000万円を超えて1,500万円以下

8 1,500万円を超えて2,000万円以下

9 2,000万円を超える

10 わからない

F 8 あなたはお子さん(同居していない子も含む)がいらっしゃるでしょうか。また、一番下のお子さんは次の中のどの年代ですか。

【 は1つずつ】

1 子どもはいない

2 子どもがいる

下記の選択肢から
お選びください

1 1歳未満

2 1歳以上就学前

3 小学生

4 中学生

5 高校生

6 大学・大学院生(短大、専門学校を含む)

7 社会人

F 9 あなたのご職業・就労形態についておたずねします。下の 1～16 から該当する項目を選択してください。結婚されている方、それに相当する生活をされている方は、あなたの配偶者（パートナー）についてもお答えください。

【 はそれぞれ1つ】

あなたご自身	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">1. 職業をもっている</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">下記の選択肢からお選びください</div>			
	2. 職業をもっていない （家事専業・学生を含む）			
自営業主	家族従業者	雇用者（正社員）	パートタイム、 アルバイト、派遣など	
1 農林業	6 農林業	11 管理職	16 農林漁業	
2 漁業	7 漁業	12 専門技術職	17 商工サービス業	
3 商工サービス業	8 商工サービス業	13 事務職	18 製造業	
4 自由業	9 自由業	14 労務職	19 事務	
5 その他	10 その他	15 その他	20 その他	

配偶者（夫・妻）	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">1. 職業をもっている</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">下記の選択肢からお選びください</div>			
	2. 職業をもっていない （家事専業・学生を含む）			
自営業主	家族従業者	雇用者（正社員）	パートタイム、 アルバイト、派遣など	
1 農林業	6 農林業	11 管理職	16 農林漁業	
2 漁業	7 漁業	12 専門技術職	17 商工サービス業	
3 商工サービス業	8 商工サービス業	13 事務職	18 製造業	
4 自由業	9 自由業	14 労務職	19 事務	
5 その他	10 その他	15 その他	20 その他	

男女共同参画について、ご意見・ご要望がありましたら、お書きください。

Large empty box with horizontal dashed lines for writing responses.

調査はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。
同封の返信用封筒に入れて、8月10日(金)までに投函してください。